

# 中里見遺跡群

中里見中川遺跡  
中里見根岸遺跡  
中里見原遺跡  
上里見井ノ下遺跡

北陸新幹線建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第15集

《本文編》

2000

群馬県教育委員会  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日本鉄道建設公団



なか さと み い せき ぐん  
中里見遺跡群

中里見中川遺跡  
中里見根岸遺跡  
中里見原遺跡  
上里見井ノ下遺跡

北陸新幹線建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第15集

《本文編》

2000

群馬県教育委員会  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日本鉄道建設公団





# 序

上越新幹線と長野新幹線は東京駅～高崎駅間を供用し經由し、高崎市下小島町から分岐して長野駅まで行く「長野行き新幹線」は、平成9年10月1日に開業しました。同新幹線は、北陸新幹線建設工事の名称のもとに、群馬県では平成2年度から工事が着工されました。工事区域内には、23ヵ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されたため、その発掘調査が当事業団に委託されました。

当事業団では平成3年2月より平成7年9月にかけて、新幹線通過市町村の高崎市、箕郷町、榛名町、安中市において埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施しました。榛名町で確認された中里見中川・根岸・原遺跡・上里見井ノ下遺跡は、平成4年度から平成6年度にかけて発掘調査が行われた、この4遺跡の整理作業が終了し報告書を上梓したく存じます。

本報告書には、縄文時代の埋甕、土坑、包含層、弥生時代の水田跡、古墳1基、奈良～平安時代の住居跡、出土品資料が掲載されています。榛名町の歴史を明らかにする上で大いに活用できる報告書と思います。

発掘調査から調査報告書刊行に至るまで日本鉄道建設公団、群馬県教育委員会、榛名町教育委員会、地元関係者等には、大変お世話になりました。関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

平成12年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小野 宇 三 郎



## 例 言

1. 本書は北陸新幹線建設工事に伴い、記録保存のために発掘調査が実施された中里見中川・根岸・原・上里見井ノ下遺跡の発掘調査報告書である。
2. 遺跡の所在地は以下の地籍のとおりである。

中里見中川遺跡	群馬郡榛名町中里見字中川935-2・936・938・968・974・1000・1108
	同 根岸320-1・320-2/321・361・364・365
中里見根岸遺跡	同 根岸358-1～3・358-2・358-7～11・368-1・419-3・426-2
中里見原遺跡	同 根岸430・431-4・426-1・442
	同 原 506・508・509-1・509-2・510・513・526-1・526-3～6 527・528・529-1・529-2・531・531-1・535・536・ 537-1～5・538-1・538-3・538-5・539・540・541-1・ 541-2・549-1～3
上里見井ノ下遺跡	同中里見字井ノ下1173-2・1173-2・1178-1～5・1179-1・1180-1・ 1181-1～4・1185-1～3・1197・1197・1198-1・1198-2 同上里見字猪ノ下1149-2・1149-5・1151-1・1151-2・1171-7・1749-6 同上里見字猪ノ毛山2222-1・2222-2

尚、中里見根岸遺跡は発掘調査段階での事業名称が中里見専福寺古墳群遺跡であった。しかし、当該遺跡が周知の専福寺古墳群遺跡の範囲（立地上）含まれないため、遺跡名称を改めた。

3. 事業主体 日本鉄道建設公団
4. 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査期間 中里見中川遺跡 平成4年4月1日～平成4年11月30日（1次）  
平成5年3月5日～平成5年3月31日（2次）  
中里見根岸遺跡 平成6年4月21日～平成6年7月21日  
中里見原遺跡 平成4年4月1日～平成5年9月14日（1次）  
平成5年4月1日～平成6年3月31日（2次）  
平成6年2月7日～平成6年3月31日（3次）  
上里見井ノ下遺跡 平成5年2月1日～平成5年3月31日（1次）  
平成5年6月4日～平成5年6月15日（2次）  
平成6年4月1日～平成6年10月21日（3次）

### 6. 調査組織 事務担当

平成4年度	常務理事 邊見長雄	事務局長 近藤 功
	管理部長 佐藤 勉	調査研究部長 神保侑史
	調査研究第1課長 真下高幸	庶務課長 齊藤俊一
	主任 國定 均	笠原秀樹 須田朋子
	主 事 吉田有光	柳岡良宏 船津 茂 高橋定義
	非常勤嘱託 松下 登	土橋まり子

事務補助員 吉田恵子 吉田笑子 並木綾子 今井もと子 角田みづほ  
松井美智代 塩浦ひろみ 松下次男 富沢音二 浅見宣記 山本正可

調査担当

中里見中川遺跡（1次）

主任調査研究員 関根慎二 松田 猛 小林裕二

中里見中川遺跡（2次）

主任調査研究員 松井龍彦 木津博明 麻生敏隆

調査研究員 橋本 淳

中里見原遺跡（1次） 主任調査研究員 松井龍彦 木津博明 麻生敏隆

調査研究員 橋本 淳

上里見井ノ下遺跡（1次）

専門員 飯塚卓二

主任調査研究員 松井龍彦 木津博明 麻生敏隆

調査研究員 橋本 淳

平成5年度

常務理事 中村栄一 事務局長 近藤 功

管理部長 佐藤 勉 調査研究部長 神保信史

調査研究第1課長 真下高幸 庶務課長 斉藤俊一

係長代理 関定 均 笠原秀樹

主 任 須田朋子 吉田有光 柳岡良宏 主 事 船津 茂 高橋定義

非常勤嘱託 松下 登 土橋まり子

事務補助員 吉田恵子 吉田笑子 並木綾子 今井もと子 角田みづほ

松井美智代 塩浦ひろみ 角田正子 内山佳子 松下次男 浅見宣記

山本正可

調査担当

中里見原遺跡（2次）

主任調査研究員 木津博明 調査研究員 飯森康広 橋本 淳

上里見井ノ下遺跡（2次）

主任調査研究員 木津博明 調査研究員 飯森康広 橋本 淳

平成6年度

常務理事 中村栄一 事務局長 近藤 功

管理部長 佐藤 勉 調査研究部長 神保信史

調査研究第1課長 真下高幸 庶務課長 斉藤俊一

係長代理 関定 均 笠原秀樹

主 任 須田朋子 吉田有光 柳岡良宏

主 事 高橋定義

非常勤嘱託 土橋まり子 大沢友治

事務補助員 吉田恵子 吉田笑子 並木綾子 今井もと子 角田みづほ

松井美智代 杉山ひろみ（旧姓：塩浦） 角田正子 内山佳子 星野美智子

羽鳥京子 菅原淑子 松下次男 浅見宣記 山本正可

調査担当

中里見根岸遺跡

専門員 木津博明 調査研究員 飯森康広 追川佳子

中里見原遺跡（3次）

専門員 木津博明 調査研究員 飯森康広 追川佳子

上里見井ノ下遺跡（3次）

専門員 木津博明 調査研究員 飯森康広 追川佳子

発掘調査作業員（平成4～6年度）

前橋市 大塚みつゑ 川端キヨ子 岩田四郎 小畑清七 河西三明 小林延寿

近藤俊男 田村友一郎 藤田光夫 小野里イワ

群馬町 駒形邦子 斉藤八重子

榛名町 大前希世子 滝沢喜代造 中里見友江 山口登志江 中島宗一 白井精一

鈴木春美

高崎市 小野木年江 桜井敬一 桜井貞子 角田トリ 中澤貞子 畑村正一 茂木典子

安田越子 関 京子 竹内雅子 戸田千鶴子 鬼形敏美 牧野マサ江 新井菊江

柄沢マサ子 柄沢春江 岡村ワク

安中市 岡田早百合 須藤利夫 須藤はるの 多胡梅子 多胡かつ子 多胡末子

多胡光子 多胡好江 横塚せう 戸塚里子 曾我 功 曾我みつ子 湯本志づ子

多胡わぐり

吉井町 青木いせ 新井幸子 飯塚 房 今井 好 浦野千代子 江原まさ子

大木みさ子 工藤きみよ 小林愛子 小林きよ子 志賀シゲ子 島田八千代

高橋春代 田中みき子 櫻島静子 野口節郎 三ヶ島二郎 森 基司 湯浅 登

湯浅安代 若林さく子 若林トヨ子 岩佐つる江 宇田川珠美

富岡市 神宮永次朗 神宮百代 宮下 勇 宮下浜子 小井土幸太郎 大岡弥生

吉田美津子 高橋仁太郎 黒沢富久子 中條好子 金田キヨ子 黒沢高三郎

甘楽町 浅香春造 飯塚静枝 山田タケ 飯間 操 飯塚君子 中野初次郎 田村カメ

桜井康弘 黒沢利次 大野かつ子

下仁田 桜井ふみ子 桜井昭太郎 田村仁平

7. 整理主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

8. 整理期間 平成9年4月1日～平成12年3月31日

9. 整理組織 事務担当

平成9年度	常務理事	菅野 清	事務局長	原田恒弘
	調査研究第1部長	赤山容造	調査研究第2部長	神保侑史
	管理部長	渡辺 健	調査研究第1課長	平野進一
	総務課長	小淵 淳	総務係長	笠原秀樹
	経理係長	井上 剛	係長代理	須田朋子
	主任	吉田有光 柳岡良宏	主 事	宮崎忠司
	嘱託員	大澤友治 土橋まり子		

事務補助員 吉田恵子 並木綾子 今井とも子 吉田笑子 内山佳子 星野美智子  
羽鳥京子 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり 安藤友美 狩野真子  
松下次男 浅見宣記 吉田 茂 若田 誠

整理担当 調査研究員 追川佳子

遺物写真撮影 専門員 佐藤元彦

整理補助員 萩原鈴代 金子加代 猪野熊洋子 小沼恵子 内山由紀子 加藤和子

整理嘱託員 長沼久美子

整理補助員 高橋真樹子 岩淵節子 南雲富子 光安文子 富沢スミ江 小菅優子

小材浩一 茂木範子 萩原妙子 田中富子 田中のふ子 長岡和恵

木暮紀子 安藤三枝子 島村玲子 若海美奈子 南雲繁子 高橋美穂子

小保方香里

平成10年度 常務理事・事務局長・調査研究第1部長 赤山容造

調査研究第2部長 神保脩史 管理部長 渡辺 健

調査研究第1課長 平野進一 総務課長 坂本敏夫

総務係長 笠原秀樹 経理係長 小山建夫

係長代理 須田朋子 主 任 吉田有光 柳岡良宏

主 任 宮崎忠司 嘱 託 員 大澤友治 土橋まり子

事務補助員 吉田恵子 並木綾子 今井とも子 吉田笑子 内山佳子 佐藤美佐子

本間久美子 北原かおり 本地友美 狩野真子 松下次男 浅見宣記

吉田 茂 若田 誠

整理担当 調査研究員 追川佳子

遺物写真撮影 専門員 佐藤元彦

整理嘱託員 浅井良子

整理補助員 岩淵節子 萩原鈴代 小久保トシ子 猪野熊洋子 木原幸子 小沼恵子

佐藤美代子 光安文子 千代谷和子 富沢スミ江 小菅優子 小材浩一

高橋真樹子 田中のふ子 高橋初美 田中富子 長岡和恵 安藤三枝子

丸橋富美子 南雲繁子 高橋美穂子 鶴岡真希子 柳沢有里子

平成11年度 常務理事・事務局長 赤山容造 調査研究第1部長 神保脩史

調査研究第2部長 水田 稔 管理部長 住谷 進

調査研究第3課長 小山友孝 総務課長 坂本敏夫

総務係長 笠原秀樹 経理係長 小山建夫

係長代理 須田朋子 吉田有光 主 任 柳岡良宏

主 事 片岡徳雄 嘱 託 員 大澤友治 土橋まり子

事務補助員 吉田恵子 並木綾子 今井とも子 吉田笑子 内山佳子 佐藤美佐子

本間久美子 北原かおり 狩野真子 松下次男 浅見宣記 吉田 茂

若田 誠

整理担当 専門員 木津博明

遺物写真撮影 専門員 佐藤元彦

整理補助員 岩淵節子 小久保トシ子 猪野熊洋子 木原幸子 酒井史恵  
 佐藤美代子 光安文字 富沢スミ江 小菅優子 小材浩一  
 高橋真樹子 田中信子 高橋初美 田中富子 長岡和恵 安藤三枝子  
 丸橋富美子 南雲繁子 高橋美穂子 鶴岡真希子 柳沢有里子  
 阿部由美子 長岡和恵 中橋民子 串渕すみ江 高橋順子

10. 記録保存図発掘調査に伴う遺構等の記録図は1/20の縮尺を基本として作図したが、遺構種により一部1/10・1/40・1/60・1/100の縮尺で作図した。

記録保存原因の作図の一部は有限会社コスモ・技研設計測量株式会社に委託し、株式会社スカイサーペー社の協力を得た。

11. 記録写真発掘調査中に伴う写真撮影は発掘調査担当者が撮影したが、空中写真撮影は有限会社青高館・技研設計測量株式会社に委託し、株式会社スカイサーペー社の協力を得た。

12. 分析・委託

石材同定 飯島静男 (群馬地質研究会)

地質調査・テフラ同定・植物珪酸体分析・花粉分析 株式会社 古環境研究所

樹種同定 株式会社 パレオ・ラボ

遺構・遺物トレース 技研設計測量株式会社

13. 発掘調査及び本書を作成するにあたり、及び以下の方々に御指導・御鞭撻を戴いた。記して感謝の意を表したい。(敬称略)

大川 清・吉岡康暢・須田 勉・池上 悟・酒井清治・本澤慎輔・似内啓介・大金宜亮・橋本澄朗  
 中山 晋・上野修一・田熊清彦・芹澤清八・大橋泰夫・田代 隆・津野 仁・市橋一郎・大澤伸啓  
 足立加代・河野一也・新保昌弘・上野川 勝・高橋一夫・村田健二・井上尚明・伴野和信・昼間 孝  
 赤熊浩一・木戸春夫・栗島義明・渡辺 一・佐々木幹雄・荒川正夫・阿久津 久・瀬谷昌良・鈴木素行  
 服部敬史・有吉重蔵・雪田 孝・上敷領 久・荒井健治・塚原二郎・石田広美・糸原 清・山路直充  
 駒田利治・服部久美子・田崎通雅・遠藤政孝・松尾宜方・齋木秀雄・小林康幸・増田 修・中島直樹  
 前原 豊・宮田 毅・大塚昌彦・瀧野 巧・

14. 本書の執筆は以下のとおりである。

中川遺跡を中川佳子、他を木津博明があたった。

15. 本遺跡の記録図・記録写真・出土遺物は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が管理し、群馬県埋蔵調査センターに保管してある。

## 凡 例

1. 本書で使用した地形図は、国土地理院発行1:25,000「三ノ倉」「高崎」。榛名町発行白図1:2,500を編集した。
2. 遺物観察表中「度目」「度目・量目」は、度が長さを示し、量は重量を示している。又、( ) は推定値・復元値を示す。
3. 遺物観察表中の「色調」は、『標準土色帳』農林省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所色表監修 1976を使用して記載した。
4. 古代の土器種に就いて、原則として轆轤使用の製品を須恵器、非轆轤使用の製品を土師器等として扱った。
5. 古代土器の器種で、高台の付く物を埴、高台の付かないものを坏、口径に比較して器高の低いものを皿とした。その他、通有慣用的に使用している名称を用いた。
6. 各図版中に用いた表現方法等に付いては、第2分冊の巻頭に「凡例」として載せた。
7. 本遺跡の出土遺物の注記は、「ゴム印」に依り行い、ゴム印が押捺出来ない遺物に就いては、アクリル系塗料等を用いて行った。注記は「 」以下に各遺構名称等、必要記載事項を簡略させた状態で記した。



総目次

章 節	項 目	頁 数	章 節	項 目	頁 数	
1 経過	1 調査に至る経緯	1	5 中里見橋岸遺跡	1 調査の概要		
	1 1 調査に至る経緯	1		1 試掘調査	37	
	2 発掘調査事業と整理事業			2 本調査	37	
	1 試掘調査	1		2 発見された遺構・遺物		
	2 本調査	2		1 発見された遺構・遺物の概要	38	
	3 整理事業	3		2 住居跡	38~39	
	2 遺跡位置	1 遺跡立地			3 殿治伊	39
		1 自然環境		3~4	4 縄文時代晩期包舎層	39
		2 歴史的環境			5 根岸・中川遺跡出土の須恵器類	39~40
		1 歴史的環境		5~6		
2 周辺遺跡	6~10	6 中里見 遺跡	1 発掘調査			
3 調査方法と整理方法	1 発掘調査			1 調査の経過	53	
	1 調査坑とグリッド		11	2 試掘調査	53~54	
2 基本土層	11		3 本調査の概要	54		
3 遺構同定	12		2 発見された遺構・遺物			
4 遺構写真記録	12		1 発見された遺構に就いて	54~61		
2 整理方法	1 遺物台帳		12	2 出土遺物に就いて	61	
	2 遺物実録		12	7 上里見井ノ下遺跡	1 発掘調査	
4 中里見中川遺跡	1 発掘調査				1 遺跡名称に就いて	139
	1 試掘調査		15		2 試掘調査の概要	139
	2 本調査	15	3 本調査の概要		139~140	
	2 各区の概要		2 発見された遺構・遺物			
1 1区の概要	15	1 1区で発見された遺構・遺物の概要				
2 2区の概要	15	2 2区で発見された遺構・遺物の概要				
3 3区の概要	15~16	3 3区で発見された遺構・遺物の概要				
4 4区の概要	16	8 まとめ	1 出土遺物について			
5 5区の概要	16		1 出土瓦に就いて	159~160		
6 6区の概要	16		2 黒書土層	160		
7 7区の概要	16		3 「秋間堅壁」に就いて	163~167		
3 発見された遺構・遺物に就いて	1 1区の近世・近代遺構・遺物	16~17	2 中里見遺跡群に就いて			
	2 2区の概要中近世の遺構・遺物	17	1 里見高寺と中里見遺跡群	169		
	3 2区の古墳時代の遺構・遺物	17	9 理科学分析	1 理科学分析にあたって		
	4 2区の弥生時代の遺構・遺物	17~18		1 理科学分析と発掘調査事業	169	
	5 3区の奈良・平安時代の遺構・遺物	18~19		2 理科学分析と整理事業	169	
	6 4区の概要中近世の遺構・遺物	19		2 動物遺存体		
	7 4区の奈良・平安時代の遺構・遺物	20		1 中里見原遺跡出土の獣骨・獣骨観察について	170~220	
	8 4区の縄文時代以前の遺構・遺物	20		2 中里見原遺跡出土の人骨について	221~221	
	9 5区の中近世の遺構・遺物	20~22		3 上里見井ノ下遺跡出土の人骨について	231~234	
	10 5区の奈良・平安時代の遺構・遺物	22~23		3 植物遺存体		
	11 4区・5区・6区・7区・8区・9区・10区・11区・12区・13区・14区・15区	23		1 中里見中川遺跡出土の樺実同定	235~237	
	12 6区・7区・8区・9区・10区・11区・12区・13区・14区・15区	23		2 中里見中川遺跡出土木材の樹種同定	238~251	
	13 6区・7区・8区・9区・10区・11区・12区・13区・14区・15区	23	3 中里見遺跡群における植物種検体(プラント・オブバル)分析	252~282		
	14 7区・8区・9区・10区・11区・12区・13区・14区・15区	23	4 中里見遺跡群における花粉分析	263~269		
	15 7区・8区・9区・10区・11区・12区・13区・14区・15区	23	4 地質・テフラ・木炭の分析			
5 中里見橋岸遺跡	1 調査の概要		1 中里見遺跡群の地質とテフラ	270~280		
	1 試掘調査	37	3 中里見中川遺跡の放射性炭素年代測定	280~281		
	2 本調査	37	4 木炭の発熱量分析	281		
	2 発見された遺構・遺物		5 鉄分析			
	1 発見された遺構・遺物の概要	38	1 遺物の形状とその組成からみた中里見遺跡群における鉄関連生産活動について	282~318		
	2 住居跡	38~39	2 中里見遺跡群鉄生産関連遺跡出土の岩石学的検討	318~323		
	3 殿治伊	39				
	4 縄文時代晩期包舎層	39				
	5 根岸・中川遺跡出土の須恵器類	39~40				

中里見中川遺跡 対 照 目 次

項 目	本 文 編		図 版 編		本文編	写 真 図 版 編	
	関連記載	註 元	遺構図版	遺物図版	遺物観察表	遺構写真	遺物写真
1 区							
1 区畠跡	16		4	11	25		
2 区							
2 区集石土坑	17		4・7	11	25・26	9~11	160
2 区第1・2号不明遺構	17		4・6	11	26	11	
第1面下・2~3面礎群	17・18		12		26	11・12	
第3面水田跡	18		9			11・12	
第4面	18		14				
2 区西第2面	18		15				
2 区2面下(西3面)	18		16	18~20	26		
2 区2面下最下層(西4面)	18		17				
2 区西1面(拡張区)	18		18				
2 区西第2面礎群(拡張区)	18		18			13	
As-B下水田跡	18	24	23			13	
横石遺構	19	25	24・25	25	27	13・14	23
3 区							
第1号溝状遺構	19		26				
第1号土坑	19	25	26				
4 区							
第1号溝状遺構	19		29~32	30~32	27・28	14	23・28・29
As-B下の溝状遺構	19		27~29	33	28	14	
第2号溝状遺構	19		27~29	34	28		23
第3号溝状遺構	20		27~29	34	28	15	23・29・30
第4号溝状遺構	20		27~29	35	28	15	23・29・30
第5号溝状遺構	20		27~29			15	23・30
第6号溝状遺構	20		27~29				
西テラス	20		27~29				30
立木痕	20		35・36				
土坑群	20	24・25		36	28		
5 区							
土坑群	20		45				
As-B下水田跡	20		37・38				
第4号住居跡	20・21	24	46	46~48	29・30	16	23~25・30
第5号住居跡	20・21	24	49	50	30	16・17	25・31
第6号住居跡	20・21	24	51	51	30	17	31・32
第7号住居跡	20・21	24	52	52	30	17	32
第8号住居跡	20・21	24	52	52~57	30~32	17	32
製鉄遺構(精錬小鍛冶・小鍛冶)	20・21					17	32~34
第1・2号炉跡	21・22		60	59・61~64	32	18・19	
第5号炉跡	21・22	24	59				34~42
第6号炉跡	21・22		59				
第7号炉跡	21・22		59				
As-C下水田跡	21・22					20	
As-C下黒色土下の遺構	21・22	24				20	
第1号溝状遺構	20		39	40~45	29		
第2号溝状遺構	21・22		36・39				
第3号溝状遺構	21・22						
第4号溝状遺構	22						
倒木痕	23						
落ち込み	23						
6 区							
第1号溝状遺構号溝状遺構	23		65				
第1号住居跡	23	24	66	66・67	32	21	42
第2号住居跡	23	24	68	68・69		21	42
第3号住居跡	23	24	72	72・73	33		
土坑群	23	25	65			21	
第2・3号溝状遺構	23		70				
第3面植物遺存体	23		71				
第4面植物遺存体	23		71				
7 区	23						
第1号溝状遺構	23		74			22	
縄文時代の遺物	23		74	75	33	22	

中里見根岸遺跡 対 照 目 次

項 目	本 文 編		図 版 編		本文編	写 真 図 版 編	
	関連記載	講 元	遺構図版	遺物図版	遺物観察表	遺構写真	遺物写真
As-B 下水田跡		41	82			43	
第1号溝状遺構		41	81・83	83	42	43	
第2号溝状遺構		41	81			43	
第3号溝状遺構		41	81			44	
第1号住居跡	38	41	83・84	83~85	42	44・45	48
第2号住居跡	38	41	87		42	45	49
第3号住居跡	38	41	88	88・90	42~43	45・46	49・50
土坑		41	91~93		94	43・44	46
第1号跡 (小鍛冶遺構)	39	41	93	95	45	46	50・51
縄文時代晩期の包含層	39	41	96	97~107	45~49	47	51~56

中里見原遺跡 対 照 目 次

項 目	本 文 編		図 版 編		本文編	写 真 図 版 編	
	関連記載	講 元	遺構図版	遺物図版	遺物観察表	遺構写真	遺物写真
第1号住居跡	56	62	111	111~113	72	62	100
第2号住居跡	56	62	114	115・117	72・73	62	100・101
第3号住居跡	56	62	114	118	73	62	101・160
第4号住居跡		62	119	118~120	73・74	63	101・102
第5号住居跡	56	62	121	121・122	74	63	102
第6号住居跡		62	123	123~127	74・75	63・64	103・104
第7号住居跡		62	128	127	75	64	
第8号住居跡	55	62	128・129	129・130	75	64	104・105
第9号住居跡	55	63	131	130・132	75~76	65	105
第10号住居跡	55・56	63	133・134	134~137	76	65	105・106
第11号住居跡	55・56	63	140~143	140~141 144~156	77~80	65・66	107~112
第12号住居跡	55・56	63	157	158~161	81・82	66・97	113・114
第13号住居跡	55	63	133・134	137~139	76・77	65	106・107
第14号住居跡	55	63	162	162~164	82	67	114・115
第15号住居跡		64	165	165~166	82	67	115
第16号住居跡	55・56	64	167~170	166・170・ 171	83・84	68	115~117
第17号住居跡	55・56	64	177	177~183	84・85	69	117~119
第18号住居跡	55・56	64	184	184~187	85・86	69	119・120
第19号住居跡	55・56	64	188	188~190	86	69	120・121
第20号住居跡	56	65	191	191~192	86・87	70	121
第21号住居跡	56	65	192	192	87	70	121
第22号住居跡	56	65	193~195	193~197	87・88	70・71	121・122
第23号住居跡	55	65	198	198~201	88	71	122・123
第24号住居跡	55	65	202	203	89	71	123・124
第25号住居跡	55・56	65	204	204・205	89	72	124
第26号住居跡		65	205・207	205・206	89・90	72	124
第27号住居跡	56	66	208・210	208・209	90	72・73	124・125
第28号住居跡		66	208・210			72・73	
第29号住居跡		66	210	210	90	73	125
第30号住居跡		66	211	211	90・91	73	125
第31号住居跡	56	66	212	211~214	91	73・74	125・126
第32号住居跡	56	66	215	215~218	91・92	74	126~128
第33号住居跡	56	66	219	218・219	92	75	127・128
第34号住居跡		66・67	220			75	
第35号住居跡		67	220			76	
第36号住居跡	56	67	220	220~222	92・93	76	128・129
第37号住居跡	56	67	223	222・223	93	77	129
第38号住居跡		67	224	224・225	93・94	77	129
第39号住居跡	56	67	226	226	94	77・78	129・130
第40号住居跡		66	208・210・210	209	90	72・78	125
第41号住居跡			207	221・222			
第42号住居跡		67	220			76	
第43号住居跡		67	220	222	93	76	
第44号住居跡	56	67	227	227	94	78	130
第45号住居跡	56	67	228	228・229	94・95	79	130・131
第46号住居跡		66	208・510			78	
第47号住居跡		67・68	229	229	95	79	131
第48号住居跡	56	68	231	231	95	79・80	131

第49号住居跡	56	68	232	232~236	95・96	80	131~134
第50号住居跡	56	68	236・237	236~240	96	80・81	133~136
第51号住居跡		68	241	241~243	96・97	81	136
第52号住居跡		68	243・244	243	97	81	136
第53号住居跡		68	245	244~248	97・98	82	137~139
第54号住居跡	56	68	248・249	248~250	98	82	139
第55号住居跡	56		251	250~253	98・99	82・83	139・140
第56号住居跡		69	251	253・254	99	82・83	140・141
第57号住居跡		69	248・249	250	98	82	
第1号竪穴状遺構		69	附図6	附図6		84・88	
第2号竪穴状遺構	56・57	69	255・256	255・256	99・100	84	142
第3号竪穴状遺構	56・57	69	257	256~261	100・101	84	142・143
第4号竪穴状遺構		69	262	262	101	85	142・143
第1号竪立柱礎物跡	57	69	263	263	101	86	144
第2号竪立柱礎物跡	57	69	264	264	101	86・88	144
第3号竪立柱礎物跡	57	69	256	265	101	86	142
第4号竪立柱礎物跡	57	69	266	266	101	86	144
第5号竪立柱礎物跡	57	69・70	268・269	266	101	86	144
第6号竪立柱礎物跡	57	70	267		101	86	144
第7号竪立柱礎物跡	57	70	270・271	271	101	86	144
第1号基礎建物跡	57・58	70	272・273	273~275	102・103	87	142 144~146
櫛列跡	58	70	附図6・276	277	103	88	145・146
第1号道跡	58	70	附図7	277	103・104	89	145
第2号道跡	58	70	附図8・278			90	
第3号道跡	58・59	70	278~280			91	
第4号道跡		70				91	
第1号土壇基	59	70	281	281	104	92・93	146・160
第2号土壇基		70	282	282		92	
第3号土壇基		70	282	282	104	92	146
第4号土壇基		70	282	282	104	92	146
第5号土壇基		70	283	282	104	92	145
第1号古墳	59・60	70	附図5 285・286	287・290	105	94・95	147・148
東斜面石組み遺構	60	70	291	292	105	93	
土坑		70	附図3	304・311	109~117		
第145号土坑	60	70	292	292	105		149
第166号土坑	60	70	293	293	106	96	149
第198号土坑	60	70	293	293・294	106	96	149
第205号土坑	60	70	294	294・295	106	96	149
第213号土坑	60	70	295	295	106		149
第318号土坑	60	70	296	295・296	106	97	149
第737号土坑	60	70	296	296・297	107	97	150
第747号土坑	60	70	297	297	107		150
第748号土坑	60	70	297	297・298	107	97	150
第765号土坑	60	70	298		107		
第965号土坑	60	71	298	298	107		150
第795号土坑	60	71	298	298	107		
第819号土坑	60	71	300	300	108		150
第824号土坑	60	71	301	301	108		150
第872号土坑	60	71	301	301	108		150
第874号土坑	60	71	301	301	108	98	151
第875号土坑	60	71	301		108		
第985号土坑	60	71	303		108		
第986号土坑	60	71	303		108		
第987号土坑	60	71	303		108		
第988号土坑	60	71	303		108		
第991号土坑	60	71	303	303	108		
第992号土坑	60	71	303		108		
第993号土坑	60	71	303	303	108	98	
第994号土坑	60	71	303	303	108		
第995号土坑	60	71	303	303	108		
第996号土坑	60	71	303	303	109		
第982号土坑	60	71	304				
第983号土坑	60	71	304				
Aa-B 被覆土坑	60	71	312				
北東斜面土坑群	60	71	313	314	117	85	

窓穴状落ち込み	61	71	315				
井戸状遺構	61	71	316	316	118	99	
風倒木跡			316			99	
遺物集中出土部			317				

上里見井ノ下遺跡 対 照 目 次

項 目	本 文 編		図 版 編		本文編 遺物観察表	写真 遺構写真	図 版 編 遺物写真
	関連記載	諸 元	遺構図版	遺物図版			
溝状遺構			附図 4・350				
第1号溝状遺構		144	360			162	
第2号溝状遺構		144				165	
第3号溝状遺構		144	360			165	
第4号溝状遺構		144					
第5号溝状遺構		144					
第6号溝状遺構		144					
屋敷跡	140		附図 9・361	362~364	146	163・164	160・175
2区第1号溝状遺構			365				
2区第2号溝状遺構			366		146		
2区第3号溝状遺構			366			172	
第3号溝状遺構	142		367				
第1号墓		144	383			169	
第2号墓		144	383			170	
第3号墓		144	383	387	152・153	170	160
第4号墓		144	383	384	148・149	170	160
第5号墓		144	383	384	149	170	160
第6号墓		144	383	385	149・150	170	160
第7号墓		144	383	385	150	170	160
第8号墓		144	383	385	150	170	160
第9号墓		144	383	386	150・151	170	160
第10号墓		144	383	386	151		160
第11号墓		144	383	386	151		
第12号墓		144	367	386	151	172	160
第13号墓		144	367	386	151	172	160
第14号墓		144	367		152	172	160
第1号住居跡	141		368	368	146	166	175
第2号住居跡	141		368	368	147	166	
第3号住居跡	142		369	369~373	147	173	175・176
第1号掘立柱建物跡	141	144					
第1号炭窯	141	144	374			166	
第2号炭窯	141	144	376・377	375・378	147・148	167・168	177
第3号炭窯	141	144	378			168	
第4号炭窯	141	144	379			168	
第6号炭窯	141	144	380			169	
第7号炭窯	141	144	380			169	
第8号炭窯	141・142	144	381	382	148	173	177
土圍まり	142		389	390~392	153	174	
3区2面土坑群	142		393			169	
第1号土坑		144	394				
第2号土坑							
第3号土坑							
第4号土坑		145	395				
第5号土坑							
第6号土坑		145	395				
第7号土坑		145	395				
第8号土坑		145	395				
第9号土坑		145					
第10号土坑		145	395				
第11号土坑		145	395				
第12号土坑		145	395	395	153		177
第13号土坑		145	397				
第14号土坑		145	397			174	
第15号土坑		145	397			174	
第16号土坑		145	396			174	
第17号土坑		145	396			174	
第18号土坑		145	396			174	
第19号土坑		145	396			174	
第20号土坑		145	396				

第21号土坑		145	396				
第22号土坑		145	396				
第23号土坑		145	396				
第24号土坑		145	396				
第25号土坑		145	394				
第26号土坑		145	394				
第27号土坑		145	397				
第28号土坑		145	397			174	
第29号土坑		145	394				
第30号土坑		145	394				
第31号土坑		145	394				
第32号土坑		145	397			174	
第1号埋裏		145	397	397	153	165	177
1区低地出土遺物	141			398・399	153	165	

附図目次	
附図 1	中里見遺跡群全体図 (1:1,000)
附図 2	中里見中川・中里見根岸遺跡全体図 (1:500)
附図 3	中里見原遺跡全体図 (1:400)
附図 4	上里見井ノ下遺跡全体図 (1:400)
附図 5	中里見原遺跡第1号古墳実測図 (1:100)
附図 6	中里見原遺跡柵列跡実測図 (1:80)
附図 7	中里見原遺跡第1号道跡実測図 (1:250)
附図 8	中里見原遺跡第2号道跡実測図 (1:100)
附図 9	上里見井ノ下遺跡屋敷跡実測図 (1:170)

## 発掘調査報告書抄録

ふりがな	なかさとみいせきぐん なかさとみなかがわ・なかさとみねぎし・なかさとみはら・かみさとみいのげ						
書名	中里見遺跡群 中里見中川遺跡・中里見根岸遺跡・中里見原遺跡・上里見井ノ下遺跡						
副書	北陸新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第15集						
シリーズ名	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書						
シリーズ番号	第271集						
編集者	追川佳子・木津博明						
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団						
所在地	377-8555 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784番地2号 電話027(52)2511						
発行年月日	平成12年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド 市町村 遺跡番号		北 緯 東 経	調査期間	調査面積	調査原因
中里見遺跡群 中里見中川遺跡 ・中里見根岸遺跡 ・中里見原遺跡 ・上里見井ノ下遺跡	群馬県群馬郡極名町大字上里見井ノ下・大字中里見井ノ下・原・根岸・中川			36°21'57" 36°22'14" 138°54' 138°54'36"			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項		
	生産	縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良時代 平安時代 江戸時代 弥生時代 平安時代	晩期終末他包含層 再葬墓・包含層 古墳 寺院跡・住居跡・土坑・道跡 寺院跡・住居跡・土坑・道跡 道跡・溝状遺構・土墳墓 水田跡(?) 水田跡(As-B下)・製鉄関連遺構	深鉢片・石器等 壺 古式土師器 瓦・須恵器・土師器 須恵器・土師器・鉄器 陶磁器・軟質陶器・鉄器	中里見中川遺跡では、As-B下水田跡、10世紀の製鉄遺構を伴う集落跡、弥生時代の水田跡等が発見されている。 中里見根岸遺跡では、As-B下水田跡、同下層に10世紀の住居跡・溝状遺構・土坑が発見されている。更に下層からは縄文時代晩期終末の包含層が確認され、多量の土器類が発見された。中里見原遺跡では、里見廃寺の北端部分が発見された。遺構は基壇・掘立柱建物群・道跡が主要な構成遺構で、このほか8世紀～10世紀の住居跡・鍛冶遺構が発見されている。この他、古式土師器を伴う方墳が発見されている。弥生時代中期の土器片のやや多く出土している。 上里見井ノ下遺跡では、8世紀～9世紀の炭窯跡が6基発見されている。秋間丘陵跡では縄文時代の土坑が発見されている。		





## 第1章 経 過

### 第1節 調査に至る経緯

#### 第1項 調査に至る経緯

昭和44年(1969)5月30日「全国新幹線鉄道構想」が閣議決定された。北陸新幹線は、昭和61年(1986)8月29日工事実施計画追加認可申請がされ、平成元年(1989)1月17日に着手等決定、同年8月2日に起工式が挙行され、平成9年(1997)に開業された。

この間、平成元年4月、第18回冬季オリンピック大会の開催場所が長野にIOCで決定された。平成10年(1998)開催される第18回冬季オリンピック長野大会は、昭和47年(1972)第11回冬季オリンピック札幌大会開催以来、我が国3回目のオリンピック開催決定に国内中が沸き立った。この長野オリンピックの開催は、内陸部への交通アクセスが大きな課題の一つに惹起し、予てより成案となっていた北陸新幹線の工事実施計画の竣工自体が急務になった。

こ群馬県は、北陸新幹線の経由地であるため、北陸新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査も、開業以前の試験走行期間以前に工事竣工という、工事期間自体も極めて短期間であること等から、更なる急務となった。

そして、北陸新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査が、平成3年2月4日から開始されてより3年次目迎えた平成4年4月1日、群馬県榛名町上里見・中里見地区(以下「里見地区」)でも発掘調査が開始された。当該の里見地区は、高崎起点距離13.260km～14.220kmの0.980km区間の調査対象面積20,905m<sup>2</sup>を測り調査体制は2班が投入された。

しかし調査は、平成3年3月31日付けで里見交差地の地権者会との団体調印がされてから、用地取得という経過と、発掘調査開始までの時間も短期間であったため、なかなか順調に運ばず、部分的に後行する箇所も生じ、困難な調査体制も強いられたが、平成6年3月31日で調査は終了した。

### 第2節 発掘調査事業と整理事業

#### 第1項 試掘調査

里見地区の発掘調査は、本調査と並行し試掘調査も実施し、試掘調査は中里見中川・根岸・原遺跡、上里見井ノ下遺跡(以下、「中・上里見」は省略)の全遺跡で実施した。

中川遺跡では、本調査と並行する試掘調査と、本調査に先行する双方の試掘調査が実施された。先行試掘調査では、低位段丘面から中位段丘面の試掘調査が平成4年1月8日から同24日まで実施された。この試掘調査では中位段丘面遺構の存在が確認されたが、低位段丘面での遺構の確認は出来なかった。また、本調査時の試掘調査は、同年5月11日から5日間をもちかけて実施し、以降の埋没する所見が得られたので本調査を実施した(1区)。

根岸遺跡では、平成5年6月13日、用地の解決次第に試掘調査を実施した。根岸遺跡の場合は、国道406号線の通過する傍らでの調査のため、層厚が相当見込まれる客土層の層厚確認の目的もあり試掘調査を実施したが、安全対策を講じないと試掘調査も実施が限界な状態の客土層が確認された。

原遺跡では、起点距離14.700～14.765km区間が当初予定の調査対象区から除外されていたため、平成5年5月8日に試掘調査を実施し、遺構が確認されたため対象部全面の表土層を除去し、本調査に移行した。

井ノ下遺跡では、解決をしている用地部分で、調査対象外部分の地形が遺跡の存在を推定させるに足りる地形であったため、調整の結果、平成5年1月25日から5日間で試掘調査を実施した。

里見地区の発掘調査は、前述したように、用地解決と調査着手までの時間が短時間であったこと等、全体に準備不十分な状態が続いている間に調査を終了させた。

## 第1章 経 過

### 第2項 本 調 査

平成4年4月1日より、中川・原岡遺跡が2班の調査体制が生まれ、中里見地区の発掘調査が着手になった(調査地点の経過は図-1を参照された)。

中川遺跡では、2区より調査が開始された。東西と北側が道路に阻まれての調査であった。この調査の間に1区の試掘調査を実施している。各調査区は、諸般の事情により順次実施できず、用地解決を待って実施になったが、その間の手戻り等も必然的に生じていたが、平成5年3月31日に発掘調査は終了した。

根岸遺跡は、平成6年4月1日から発掘調査を着手した。比較的調査対象範囲が狭いが、宅地造成のための客土層が3mを越えていたのと、国道406号線が調査区を跨ぐ様に通過してため、調査は危険な状態であった。

調査は、古代面(As-B下水田面と集落面)2面、縄文面及び遺物包含層の発掘調査であった。古代面は5月9日から着手し、縄文面は6月15日より着手した。7月21日に埋め戻しを完了した。

原岡遺跡は、平成4年4月1日より調査可能な箇所から表土掘削を開始した。しかし、用地は虫食い状態に近い状態であったため、諸事にリスクは大きかった。また、調査着手が叶わない場合は、中川・根岸・井ノ遺跡、下芝五反田III・IV遺跡、高浜広神・民部遺跡、神戸岩下遺跡をはじめ、諸々の遺跡の試掘調査を実施する状態であった。最終的には、平成6年2月16日から東側斜面部の調査に着手し同年3月31日に調査を終了させ、原岡遺跡の発掘調査は完了した。

井ノ下遺跡は、前述の試掘調査後速やかに本調査に移行した。調査着手は平成5年1月29日より1区から調査を開始し、同年3月31日に同区を終了させた。ほぼ1年後の平成6年3月15日、3区に着手し次年度に継続し4月20日に終了させた。そして、同年10月3日から2区を着手し、同月20日埋戻しを終了させ完了した。

中里見地区の調査は転職の明け暮れであったが、足掛け2年半に亘る調査を終了させた。

各調査箇所の進行状況・着手順位は図1(右図)を参照して戴きたい。



図1 調査経過図 (1:5,000)

### 第3項 整理事業

北陸新幹線に伴う整理事業は、平成6年度から平成11年度までの6年間に亘る事業である。

当該の中里見地区の整理事業は平成9年度から3ヵ年計画で着手した。対象とする遺跡は、前述してきた中里見中川・根岸（泉福寺古墳群）・原・上里見井ノ下遺跡の4遺跡である。

整理は中里見中川遺跡から着手した。中川遺跡は、発掘調査の延べ面積に比較すると遺物量は少なかった。これは、発掘調査で出土した遺構が水田跡が多かったことに依る。しかし、根岸遺跡寄りの調査区からは、製鉄関係の遺構の出土があり、鉄滓・炉体等の遺物が多く、特に炉体部品は炉体復元可能な量と質があったため、予想を上回る時間を費やす結果であった。また、土器類では内黒製品の多さも予想外な状況であった。

一方、遺構図面は、遺物類に並行させて集成・編集・修正を行い平成9年度を費やした。

根岸・原・井ノ下遺跡の遺物は平成9年度の後半期程より接合・復元を着手した。原遺跡は平安時代の堅穴住居跡が多く出土していることと、秋間古窯跡群に至近という位置関係、里見庵寺の寺院地に推定されることから出土遺物種類・量共に非常に多かった。これらの土器類の復元終了後写真撮影を実施し、撮影終了後実測に着手した。実測は平成10年度に継続し、この間に、写真図版の作成を開始している。平成10年度は実測と写真図版の継続、文字原稿の入力、実測図の修正等諸々の作業にあたった。

この平成9・10年度は、4遺跡の出土遺物の実測等の作業が目まぐるしく入れ替わる状態であった。

平成11年度は原・根岸・井ノ下遺跡の図面修正と遺物実測図の修正を中心に、4遺跡のレイアウト・トレース・遺物観察・本文等の執筆、版下作成等、入札に向けての作業が主体となった。

なお、北陸新幹線建設工事にかかわる発掘調査遺跡の「記念展」は平成10年度に実施した。この「記念展」に係る作業も該当年度に実施している。

## 第2章 遺跡位置

### 第1節 遺跡立地

#### 第1項 自然環境

中里見地区は行政上群馬郡榛名町大字中里見になる。この榛名町は、烏川により南北に分断され、北側は榛名山からの町域が裾野に向かい扇状に開き、南側は秋間丘陵の稜線に界された東西に細長く烏川に沿って広がっている。この烏川の南側に広がる部分が里見地区である。明治22年4村合併により新制された旧里見村の町域が該当する。

当該地域は、新第三紀の地層が形成する秋間丘陵、烏川対岸の第四紀の火山活動によりほぼ形成された榛名山、烏川河川宮力により形成された沖積地・河岸段丘等が長年の侵食を受けたことにより地形が形成されている。北陸新幹線の経路にあたり発掘調査された当該遺跡群は、正にこれらにより形成された地質の上を横断する状態である。

烏川が形成した河岸段丘は図2・3に示した様に、低・中・高位の3面に大きく分かれる。これは、烏川の流路変化に原因するであろうが、どのような変遷を辿ったかは定かではない。図2には推定される流路の流定痕跡を辿って示してある。

図-2は地形区分を示した。烏川対岸に榛名山の南西麓端。里見地区では、低位面・中位面（侵食の度合いにより鳥状に認められる）・高位面・秋間丘陵である。この間を烏川・春日松原堰水路・向井川・里見川が平行する状態で流下している。そして、これらの河川は上述の地形を明瞭に区分ける状態でもある。

図-2は等高線から見た旧流路の痕跡を示した。この現況地形は、山間部から平野部に向かい開析する中間的な地形状態である。そして、この地点で榛名山山中から発した滑川が烏川に合流する。このため、山間部の水量が一度に押し寄せる地点でもあり、当該地域の烏川兩岸の崖線は切り立った状況である。

勾配率では、中室田室田第1水源宮谷戸ポンプ場



図2 遺跡地周辺地形図(榛名町役場発行白図の等高線)(1:10,000)

と立志橋間1.4km比高差16mで1.142%。立志橋と中河原橋間3.35km比高差45mで1.34%。中河原橋と長野塚頭首口間2.7km比高差27mで1%で僅かながら、上里見から下里見間の高倍率が強い。立志橋周辺で合流する滑川は、江戸村橋と立志橋間1.5km比高差50mで3.3%と非常に急流であることが窺える。

里見地区、とりわけ中里見から下里見にかけては低位の河岸段丘が発達している。この河岸段丘の生成過程にはこれら河川営力によるところが大きい。

中里見地区の烏川上流域の中位段丘面は、烏川本流の侵食と離水後の小河川の開析により形成されたことが窺える。だが、この烏川の侵食を引き起こす要因として、前述の滑川の合流という要素が強く感じられる。これは、中里見地区の上流域中位段丘面は、滑川の合流地点の対岸に当り、流路延長部分に中里見地区の北西部分の顕著に侵食された中位段丘面が位置する関係が窺われるからである。

原遺跡が立地する高位段丘面は、秋間丘陵に平行する状態で北西から南東方向に大凡3.2kmに亘り延

びている。この段丘面は北側を烏川に、南側を里見川に浸食された状態であるが、里見川が全ての浸食を行ったとも思われず、烏川の一時的な変流乃至分岐した流路に因る所産とも思われる。この地形の生成原因が後者の場合は、当該の地形分類は段丘ではなく地塁帯としての分類になる。しかし現状では、当該の上位河岸段丘を地塁帯としては認識されていない。

秋間丘陵の北面側には井ノ下遺跡が立地する。この秋間丘陵の北面側は、多数の支谷が認められ、自然侵食により斜面の下半と上半では勾配に違いが認められ、下半部が約度程に対して上半部は約度程で急激に立ち上がる2面構成になっている。秋間丘陵は新第三紀の地質からなっている。この新第三紀層は県内平野部と山地の間の丘陵地帯に広く馬蹄形状に分布し、各地に粘土層を賦存させている。この粘土層は、秋間丘陵・観音山丘陵に分布する垂炭層(上部板鼻層)の上下に賦存している。秋間古窯跡群・栗附古窯跡群の開窯の最大の背景になっている。

## 第2節 歴史的環境

### 第1項 歴史的背景

この里見地区は、明治22年(1889)3月4日に「群馬県令第十九号郡町村区域名称改定」により新制した里見村の村域である。里見村は、新制直前の上里見村・中里見村・下里見村・上大島村の合併による新制である。しかし、昭和30年1月31日、旧里見村と旧室田町と合併により新制された「榛名町」により里見村は廃村となっている。

近世の当該地区は上記の上里見村・塚崎村・中里見村・下里見村であったが、明治5年(1872)に塚崎村と中里見村は合併し中里見村になり、明治22年の合併までの間、中里見村として行政の末端を担っていた。

一方、里見地区は新田荘を立荘させた新田義重の嫡男里見義俊(図3参照)の本貫地であり、新田義貞の生誕地として地元での広報活動も盛んである。

新田義重は新田荘を立荘後、東山道経路の要地「山名」の掌握を目的に、「山名」の有力氏族との婚姻関係により二男義範に「山名氏」を名乗らせている。そして、「里見氏」の場合も同様に、東山道の裏側にあたる当該地を掌握のために「里見」の有力氏族との婚姻関係を結び、嫡男義俊に「里見氏」を名乗らせている。平清盛政権を相当意識しての結果の反映と考えられる。また、義重四男世良田(得川)義季は利根流域に、五男額戸経義はやはり東山道の山田郡境に對面田氏(藤姓)に備えている。だが、額戸氏は相統が無く氏経(経義二男)は「長岡氏」を称しており、所領が額戸郷から長岡郷(石塩郷)に移ったことが窺える。この「額戸氏」の本貫地は太田市強戸地区と考えられ、周辺の太田市鳥山地区・大鶴地区には里見義成(二代)嫡男義基(三代)の庶流義義(義成二男)は「大鶴氏」を時成(義成三男)は「鳥山氏」それぞれ配置している。

この様に、里見氏は新田一族のなかでも新田荘発展の一翼を担った氏族であって、本貫地がこの里見地区であることは歴史的意義は大きい。

翻って戦国時代から近世初期には、前述の上・中・下里見(三里見)は、長野・里見氏の支配下であったことが「上野国郡村誌」(以下「郡村誌」)に記され、上里見村は天正18年(1590)～文禄3年(1594)には「既ニシテ里見讃岐采地ナリ」と記し、中里見村では「天正十八年徳川氏里見右衛門佐ニ里見村賜フト云ウ(後略)」と記し、下里見村では、「文和三年(1354)ヨリ群馬郡箕輪城主長野氏及里見兵庫頭、同兵尉等此地ヲ領スト云ウ、(中略)同十八年(天正)里見右衛門佐領地トナル(後略)」と記されている。この中の「長野氏」は鎌倉時代は御家人の家柄で、室町時代になると上州一揆の筆頭に挙げられている。

戦国期の里見氏は、天文24年(1555)、仁田山里見宗義(河内)・義宗兄弟が長野政業を頼り里見郷に戻り、義宗が里見で帰農することにより今日の命脈になっている。永禄元年(1558)「上野国群馬郡箕輪城主長野信濃守在原家政家臣録」には「里見兵左衛門・里見久右衛門」の名前が見られる。上杉輝虎は永禄8年(1565)6月・11月に「里見太郎」「里見入道」宛に文書を発給している。この両者は義堯(安房里見氏)と考えられている。

また、中里見の光明寺は治安三年(1023)に明慶により開基(「光明寺代」による)(「光明寺縁起」では「治安年中」とされている。また、「光明寺縁起」では、開山は延暦年間に最澄により「広濟院広楽院」がおかれたとしている。開山・開基は縁起の記述のため確実性に乏しいが、里見義俊(二代)に就いて、「(前略)嘉祿二年(1169)十一月五日逝、三十四才、中里見村阿弥陀院光明寺に葬る(後略)」とも記している。里見氏の菩提寺としての寺格である。

この光明寺の創建時期は未だ不分明としても、里見亮寺・中里見原遺跡の寺院遺跡の存在から類推すれば、里見亮寺遺跡と「光明寺縁起」の記述との間に何らかの因果関係又は反映とすることも出来る。

元より、里見氏は平安時代後半頃には富豪層としての存在乃至は有力氏族であったことが確実視出来るなら、前代に氏寺の建立も想像に易い。

## 第2章 遺跡位置

### 第2項 周辺遺跡

本項では、周辺遺跡からの当該遺跡群の位置づけを行ってみたい。しかし、棒名山町は詳細な遺跡分布調査がされていないため、具体的な状況はまだ不明としか言い得ないのが、ここでは図3に示した遺跡を中心に進めてみたい。

当該遺跡群は、烏川低位面の中川遺跡、同中位面の根岸遺跡、同高位面の原遺跡。里見川挟む井ノ下遺跡に分かれている。棒名町での烏川低位面での発掘調査は今回の調査が初見である。今回の調査を契機に、民間開発に原因する低位面での調査が町教育委員会により実施され、As-B下水田跡が広域に発見されている(根岸II遺跡)。旧烏川流路の低地部を割る向井川流域広がるのが予想される。当該中里見根岸遺跡で発見されているAs-B下水田跡は、最も谷頭側に当る部分であろう。

中里見中川・根岸遺跡の北西側には、烏川と向井川の浸食により形成された、泉福寺を擁する舌状の低台地がある。この台地には泉福寺古墳群・塚崎の砦跡がある。現在では、2基の古墳が残るが、他は消滅している。古墳出土物の一部(金環5・勾玉5・丸玉4)は文献1に紹介されている(上毛古墳総覧里見村56号の出土物か)。

塚崎の砦跡は、痕跡も認められない位の状況で宅地化している。中里見中川・根岸遺跡で出土している中世遺物は、この砦跡に係ることが推定される。

中里見原遺跡を擁する台地は、字名「原」で全面が覆われる。この台地上を可能な限り表面採集を実施した。採集できた範囲は台地上全面に及び、奈良・平安時代が主体を成すのと少量ではあったが、縄文・弥生式時が採集されている。また、古墳時代の土師器類も採集されているが、詳細な時期判断し得る資料は無かった。このことから、原遺跡の範囲は、図3に図示した赤色網点部分、台地全面としておきたい。台地上では、特に隣地当る、里見庵寺遺跡では、多量の瓦が採集されている。この瓦の採集できる範囲は、里見庵寺遺跡の周知部分から、100m南東まで位であった。

この「原遺跡」(台地全面を指す)は、当遺跡により大体の概要は把握できるものの、実際の面積は約255,000㎡(1700m×150m)に及んでいる。調査は極一部にしか過ぎず、まだまだ実態解明に至れない。この原地区では従前より地元の土地所有者等により、土器等が採集されており、一部が文献1に紹介されている。台地端部の郷見神社(Na40)の裏には、郷見神社裏古墳(上毛古墳総覧里見村41号)(Na40)1基が台地上では残存している(前方後円墳)が、上毛古墳総覧には台地上には14基が記載されている。

この郷見神社裏古墳を過る様に「原往還」は台地上を縦走していたと考えられる。現在では旧状も見影も無いが、アスファルトで舗装された町道「神山 岩下線」となっている。この「原往還」は地元では「草津道」としても呼称されている。上流側は上里見神山地区に至り、下流側は、中原の道標(側面には「元禄6」の年号が彫られている)(図版6-5・7-1)(元禄年間に建てられたと推定されている)を経由して八幡堂園を通過(現在は堂園の整備により消滅している。)し若田方面に向かっているが、この先は判然としないが、和田宿(高崎)から発していたと考えられる。

これとは別に台地下、現国道406号線に平行する草津道が知られている。国道406号線は、その前身中野県道が明治28年(1895)に開通している。この開通以前は向井川流域沿いから光明寺(図版8-2)・泉福寺・東光寺(図版8-3)の夫々の門前を経て現上里見十字路の、旧里見宿に至る道筋である。旧里見村役場は、この草津道の傍らで、泉福寺の前面に置かれていた。

この上里見の十字路から、原地区に上る路傍には、やはり道標(Na7)が建てられている。この部分は、秋間(安中市)地区(雉ヶ尾峠越え)と下室田に向かう「辻」に当る部分である。

この双方の草津道は、河川沿いの平坦ルート、増水時の丘陵上のコースに分かれるが、孰れにしろ、双方には個別の意義があったことは確実であるが、現在では、新古・表裏(控え)の区別は付け難い。

表1 遺跡名称一覧表(1)

	遺跡名称	出典	旧村名	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	鎌倉	室町	江戸	調査
1	中里見原遺跡	本書		●	●	●	●	●				第3回赤色銅鏡の鑑別
2	中里見原遺跡						●	●				昭和56年度町教委調査
3	見原遺跡	文獻1					●	●				『考古学年報』1954
4	中里見原遺跡	文獻1		●	●	●	●	●	●	●		
5	見原寺	『川原遺久治2』					●	●				
6	藤生遺(見原遺)	文獻1							●?			
7	上里見の遺構	文獻1									●	
8	中里見井ノ下遺跡						●?	●				群馬県教育委員会
9	雲尾根A遺跡							●				群馬県教育委員会
10	中原の遺構										●	『元禄六』巻録
11	下芝石反田遺跡	(北陸新幹線)			●	●	●					現代語報告書第230・250集
12	下芝天神遺跡	?					●	●	●			?
13	下芝上田屋遺跡	?					●	●	●			?
14	新田山天神前遺跡	?	●	●			●	●	●	●		?
15	白川奉地遺跡	?	●	●								?
16	白川御塚遺跡	?		●	●			●	●	●		?
17	白岩橋久保遺跡	?		●	●		●	●	●	●		?
18	白岩民部遺跡	?	●	●			●	●			●	?
19	高沢広神遺跡	?		●	●		●	●	●	●		?
20	高沢内原遺跡	?		●	●		●	●	●	●		?
21	三ツ子のゆり遺跡	?	●	●								?
22	柳戸宮山遺跡	?					●	●	●			?
23	柳戸前下遺跡	?					●	●	●	●		?
24	中里見中川遺跡	?		●	●		●	●	●	●		?
25	中里見橋原遺跡	?		●	●		●	●	●	●		?
26	中里見原遺跡	?		●	●		●	●	●	●		?
27	上里見井ノ下遺跡	?		●	●		●	●	●	●		?
28	中秋園中本ノ谷津1遺跡	?								●		?
29	中秋園中品遺跡	?						●				?
30	東上秋園福戸遺跡	?									●	?
31	東上秋園長山遺跡	?									●	?
32	東上秋園清水遺跡	?						●				?
33	本光寺	『川原遺久治1』									●	
34	森間寺・高塚寺古墳群	文獻1		●	●	●	●			●	●	
	塚崎の野跡									●	●	
35	光明寺	文獻1						●?	●	●	●	
36	龍岡神社	『川原遺久治1』					●?	●?	●?	●?	●	
37	多胡神社										●	
38	長年寺	?								●	●	
39	藤名神社									●?	●	
40	藤見神社	?						●?	●?	●?	●	
41	栗見塚跡	?									●	
42	廣行山僧兵寺	?									●	
43	藤名神社	?								●?	●	
44	藤名水戸神社	?								●?	●	
45	藤名石獅子神社	?								●?	●	
46	廣行山菩提寺	?								●	●	
47	藤名神社	?								●?	●	
48	旗摩神社	?								●?	●	
49	藤名神社	?								●?	●	
50	旗摩神社	?								●?	●	
51	白岩観音長者寺	?								●?	●	
52	戸藤名神社	?								●?	●	
553	長谷遺跡	群馬県遺跡台帳				●						以下『群馬県遺跡台帳』番号
577	屋敷田遺跡	?				●						
578	屋敷田遺跡	?		●								
580	六反田遺跡	?					●					
581	熊河遺跡	?				●						
582	屋敷田遺跡	?				●						
583	保古遺跡	?				●						
584	神塚敷田遺跡	?				●						
585	上野原遺跡	?				●						
586	◆草遺跡	?				●						

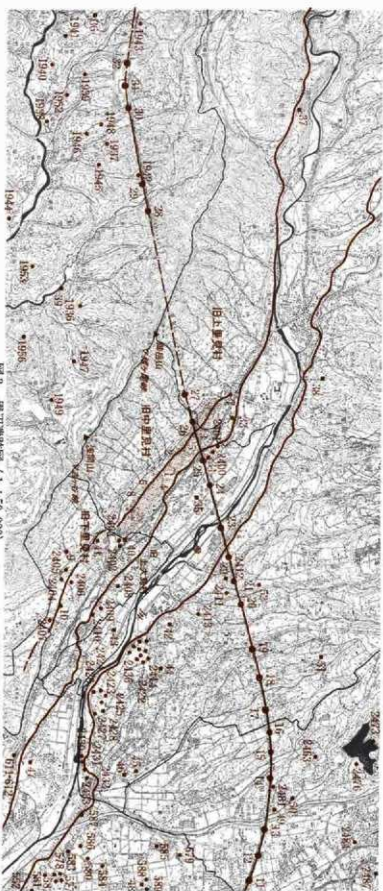


図3 周辺道路図 (1:50,000)



「群馬縣管内上新国全圖」より  
明治17年の郡界 (Sと1/100万)



日土郡内要図 (1:20万)



表2 遺跡名称一覧表(2)

	遺跡名称	出典	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	鎌倉	室町	江戸	備考
587	屋敷前遺跡	群馬県遺跡台帳				●						以下『群馬県遺跡台帳』番号
588	上野前遺跡	※				●						
589	大宇神遺跡	※				●						
611	剣崎遺跡	※			●							
612	西貝塚古墳	※				●						
679	井野原敷遺跡	※							●			
1936	万原原古墳	※				●						
1938	旧秋岡村15号墳	※				●						
1939	旧秋岡村5号墳	※				●						
1940	織貝塚古墳	※				●						
1941	二軒茶屋古墳	※				●						
1942	旧秋岡村7号墳	※				●						
1943	(地の入遺跡)	※				●						
1944	(中津原遺跡)	※				●						
1945	岩船遺跡	※						●				
1946	馬倉古墳	※							●?	●?		
1947	八重巻塚跡	※					●	●				
1948	(古塚)	※				●						
1949	(墳墓)	※							●?	●?		
1952	内田城跡	※							●			
1653	孔北寺城跡	※							●			
1956	辻城跡	※							●			
2400-1	専願寺古墳・塚崎古墳	※				●						
2402	諏訪山古墳	※				●						
2403	古城	※				●						
2404	南原古墳1号	※				●						
2405	南原古墳2号	※				●						
2406	南原古墳3号	※				●						
2407	下原古墳	※				●						
2408	(北村遺跡)	※				●						
2409	天神塚上古墳	※				●						
2410	天満宮古墳	※				●						
2411	御願塚古墳1号	※				●						
2412	御願塚古墳2号	※				●						
2413	伊勢船山古墳	※				●						
2414	塚中古墳1号	※				●						
2415	塚中古墳2号	※				●						
2416	塚中古墳3号	※				●						
2417	塚中古墳4号	※				●						
2418	塚中古墳5号	※				●						
2419	塚中古墳6号	※				●						
2420	塚中古墳7号	※				●						
2421	塚中古墳8号	※				●						
2422	塚中古墳53号	※				●						
2423	釣橋古墳	※				●						
2424	七曲古墳1号	※				●						
2425	七曲古墳2号	※				●						
2426	七曲古墳3号	※				●						
2427	七曲古墳4号	※				●						
2428	大塚古墳	※				●						
2429	じど塚古墳	※				●						
2430	天島塚古墳	※				●						
2431	稲野塚古墳1号	※				●						
2432	稲野塚古墳2号	※				●						
2433	稲野塚古墳3号	※				●						
2436	塚中古墳9号	※				●						
2463	(竹之内遺跡)	※		●								
2473	(中津原遺跡)	※		●								
2476	(十二次遺跡)	※			●							
2481	(後和田遺跡)	※				●						
2484	四ツ谷古墳	※				●						
2487	行人塚古墳	※				●						

●川原康久治「尾貫式内社上野国権名神社遺跡をめぐって―一藏殿寺の地誌を求めて―」『研究紀要9』財団法人群馬県歴史文化財調査事業団 平成2年

●川原康久治「上野における古瓦敷布地の移動」『研究紀要10』財団法人群馬県歴史文化財調査事業団 平成4年

## 第2章 遺跡位置

里見鹿寺遺跡はこの原往還の傍ら、当遺跡の東南200mに周知の瓦散布地が位置する。これまでに、多数の珠点中房単弁四葉文鏡瓦(秋間産)他・墨書「佛」等が川原喜久治により採集され紹介されている(文献6)。そして、瓦の濃密な散布部分には、径60cm程の礎石と考えられる扁平な礎が出土しており、瓦葺建物の存在は確実視される。鏡瓦と共に採集されている女瓦は、中里見原遺跡で出土している女瓦と同種の瓦で、一枚作りの(凹面模骨痕が認められる)「T字状綱印き」(縄は単軸絡条体)である。鏡瓦の類似意匠と共に、榛名山麓に広域に分布が認められる。その中核となる寺院が放光寺跡(山王鹿寺)である。所謂「山王-秋間系寺院」に属すると考えられる寺院跡である。詳細に就いては未だ明らかではない。

原地区では、かつて須恵器窯の発見が「考古学年報」(1954)で山崎義男氏により発表されている。「里見古窯跡群」の設定(文献7)の根拠になった典拠資料である。

川原喜久治氏は文献6の中で山崎氏の報文から大凡の地点を割り出されている。この地点が中里見原遺跡の調査区内に該当しているが、地番からの割り出しからのためか、調査では未確認であった。しかし、地番からは、隣接地であることは確実であるが、須恵器窯の存在を思わせる状況はなく、「里見村誌」に紹介されている写真等からは、住居跡の窺であることが判断される。

秋間丘陵を越える峠は、吉ヶ谷峠・雫が尾峠・風戸峠の3箇所である。このうち雫が尾峠の里見側の麓に当る上里見井ノ下遺跡周辺では、製鉄関連の中里見井ノ下遺跡(No.8)・堂尾根遺跡(No.9)等が知られている。上里見井ノ下遺跡では7基炭窯は発見されているものの、調査区内では、製鉄遺構の発見が無かったことから、周辺部での鉄生産に向けての生産であったことが推定される。

一方、井ノ下地区では、縄文時代の遺物の出土も知られている。文献1には、早期後半の石礫をはじめ小形の石器が紹介されている。秋間丘陵の豊かな食資源を求めての結果と考えられる。

秋間丘陵を越えると、東国最大級の秋間古窯跡が位置している。古代碓氷郡鮎馬郷に比定される地域である。

他方、烏川対岸には、本郷の場遺跡・同古墳群がやや下流域ながらも、盤居の痕跡を留め、県内では最も古式な単弁四葉文の鏡瓦が出土している。また、同一尾根上の高浜広神遺跡では、多数の号掘立柱建物跡を伴う平安時代の住居跡群(集落)が発見されている。両遺跡には時間差があるが、地域の拠点としての意義付けは可能であろう。烏川を隔てているが、里見地区との係りが重要視される。

碓氷郡内でも秋間丘陵により隔絶されるが如く突出した位置に当る当該地域は、南東側で片岡郡、烏川を隔て群馬郡と接する地勢関係にあり、これらの3郡を結ぶ要衝の地としての意義が前述した、里見氏と新田氏との姻戚関係に象徴されたのではないかと考えられる。今後の諸調査により、次第に古代里見地区の姿が浮かび上がることを切望したい。

### 註及び引用参考文献

註1. 出土した木炭の内、無作為に7点を抽出し、熱量検査を実施した(検査は、株式会社環境技研に委託し、「JIS M 8814・石炭類の発熱量測定法」により測定されている)。検査結果は、A: 4760・B: 4260・C: 4350・D: 4320・E: 4230・F: 4990・G: 4110(cal/g)(乾量)であった。

1. 『里見村誌』里見村誌編纂委員会 昭和35年(1960)
2. 『上野郡村誌10 碓氷郡』群馬県文化庁事業費助成 昭和59年(1984)
3. 『碓氷郡誌』群馬県碓氷郡役所 大正12年(1937)
4. 『群馬県安中市北部の新第三系』秋間団体研究グループ『地球科学』25巻5号 昭和46年(1971)
5. 『新田氏支流 里見氏 一峰山町里見氏の系譜と田跡』里見義成 平成元年(1988)
6. 川原喜久治 「上野における古瓦散布地の樺組」『研究紀要10』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 平成4年(1992)
7. 相模建設「II 群馬県内の古窯跡群の概観」『天台瓦窯跡調査』中之条町教育委員会 昭和57年(1982)

## 第3章 調査方法と整理方法

### 第1節 発掘調査

#### 第1項 調査杭とグリッド

##### グリッド

今回の調査で使用したグリッドは、下記の法則に従いいた。

平成2年、北陸新幹線建設工事が具体化し、当団による発掘調査が本格的に開始されるに至った。この北陸新幹線の走行路線域には2市2町にまたがり、埋蔵文化財の発掘調査が実施された。しかし北陸新幹線は、高崎駅を起点に北走後西走する経路を採っている。また、台地線路を縦走する行政界等の存在により、統一した仕様によるグリッドの設定が急務となった。さらに、長距離間・2市2町にまたがるという状況から、これらの悪条件を踏破するグリッド仕様が要求された。そして、仕様の完成により具体的な形として、一事業を団として初めて、統一されたグリッドにより調査が実施された。

##### 10kmグリッド・特大グリッド・「地域」

国土座標第IX系の原点を起点にして、10km単位の方眼により県下を網羅し、(県内は92の「地域」の設定出来る)特大なグリッドを設定されている。

この10kmグリッドの構想は、北陸新幹線の大区画(1kmグリッド)の設定の背景として作成されたが、これ自体今迄公表されていない。10kmグリッドの設定に当っては国土地理院発行1:20万・1:2.5万群馬県該当部を編集し、地上距離と地図上の距離を補正して図上で設定してある。

##### 1kmグリッド・「地区」・大グリッド・大区画

上述した10km方眼の「地域」中を、1km単位の方眼で1~100の「地区」を設定し、大区画=大グリッドの設定を行った。この大グリッドの原点は、10kmグリッドを更に十等分してあるので、座標値はkm単位の完全同士の交点が当たる。

##### 100mグリッド・「区」・中グリッド・中区画

上述1kmグリッドを更に十等分したグリッドが当

該である。則ち、100m単位の方眼で1~100の「区」を設定し、中区画=中グリッドの設定を行った。

この中グリッドの原点は、大グリッド同様に座標値では000m・△00mの交点が当たる。

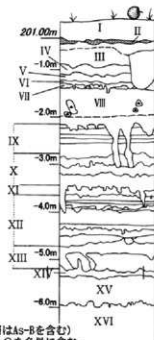
##### 5mグリッド・小区画

100mグリッドを更に20等分したのが最小単位のグリッドである。則ち、5mグリッドで1から200のグリッドの設定を行った。名称は交点からY軸に20単位、X軸に20単位とし、原点から西に向かいA~T、北側に1~20の名称を付し、「某区-A-1から某区-T-20」で表した。

#### 第2項 基本土層

中里見根岸・原遺跡・上里見井ノ下遺跡の基本土

層の層状は下図の通りであるが、遺跡により層厚は異なるものの、基本的な層序には地山以外に認められなかった。また中川遺跡は、各地区での土層が異なるため、中川遺跡第1図に示した。



- I層: 表土層  
 II層: As-B層  
 III層: 黒褐色土層(上層はAs-Bを含む)  
 粗粒~微粒As-Cを多量に含む。  
 本層の上面~層中が第1次遺構確認面  
 IV層: 黒色土層(通称=「C黒」)  
 粗粒~微粒As-Cを多量に含む。  
 V層: 暗褐色土層  
 細粒状軽石(As-C)少量含む。  
 VI層: 茶褐色土層  
 微粒の軽石を若干含む。  
 VII層: 褐色土層=ソフトローム層  
 VIII層: 黄褐色土層=ハードローム層  
 本層の上面が第2次遺構確認面  
 IX層群: As-Y層群 X III層: As-MP層  
 X層: As-OK2層群 X IV層: As-T含有層  
 XI層: As-SP含有層 X V層: 暗色帯  
 XII層: As-BP層群 X VI層: 白川火砕流

図4 基本土層図

### 第3項 遺構図化

発見された遺構は、1:40・1:20を基本として、1:10・1:50・1:60・1:100のそれぞれ縮尺により、使用目的に応じて遺構の図化を行った。

1:40・1:20の平面作図は当該調査での基幹である。1:40の作図は、当団仕様のA2版作図用紙の有効図化範囲に、200㎡=8ヶグリッド分を1単位として割り付けた。

又、1:20の作図も、当団仕様のA2版作図用紙の有効図化範囲に、50㎡=2ヶグリッド分を1単位として割り付けた。

但し、これら割付平面図には大形の個別遺構（住居跡・掘立柱建物跡等）は輪郭のみを記録し、それぞれの遺構平面図により記録を計った。

### 第4項 遺構写真記録

遺構写真記録は、調査班の編成により使用機材が異なった。

中川遺跡は、ブローニー判6×7サイズでiso400白黒ネガを撮影し、35ミリ判フィルムで白黒ネガ・カラーポジを撮影した。

根岸・原・井ノ下の3遺跡は、ブローニー判6×9のフィルムで、白黒ネガ・カラーポジの2種、35ミリ判フィルムで白黒ネガ・カラーポジ・カラーネガの3種を用いたが、専らにブローニー判の2種を用い、35ミリ判はサブとして撮影した。又、必要に応じてブローニー判6×9のフィルムのカラーネガでの撮影も実施した。このほか、委託業務にした、航空写真撮影は、4×5・ブローニー判6×6フィルムにより、白黒ネガ・カラーポジを使用している。フィルムの粒子はiso100以下の粒子状態のフィルムを使用した。

また、35mmカラーネガは調査の進行状況・遺構の調査状況等、メモ的に用いた。

## 第2節 整理方法

### 第1項 遺物台帳

発掘調査現場に於ける遺物の収納に際する標高値は各図中に記録した。この際に土器類・瓦類・石器

類・礎類等は、種別毎での番号付けは行わず、通し番号を夫々に付した。これらの遺物の註記は、番号収納した遺物とメモ写真と図面との照合を行い、この三者で確認が得られた遺物のみを註記を行った。

この番号収納した遺物は、収納時の番号・標高値・遺存状態・接合関係等を記録した「遺物元台帳」を作成した。また、この台帳には、実測対象になった遺物（1個体扱い）に限り「整理通番」を付した。

そして、遺物整理事業用に「遺物通番台帳」を作成し、整理事業に供じた。また、この「遺物通番」は青色のエナメル塗料で各個体に註記した。

掲載になった遺物に就いては、整理事業終了に向け、当団の「資料管理システム」に応じた台帳を作成した。この「遺物管理台帳」の登録番号を今回の当該報告では資料番号として各遺物に付した（凡例2参照）。

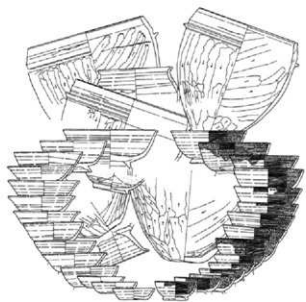
### 第2項 遺物実測

当該報告で掲載した遺物はそれぞれ実測図を作成した。実測に当たっては、細部に亘る観察と、表現仕様により実施し、図化の統一を図った。

図化当っては凡例にも掲げたが、中心線には三者を使い分けた（土器類）。直接実測可能な個体は「実線」を用い、回転させて器形を復元させた個体には「一点鎖線」を用い、破片を合成させ図上で復元し図化した場合には「破線」を用いた。

この実測対象に供じた選定基準は、出土状況が遺構に伴うと判断された状況（床面直上・床面直上層等）又は遺物の残存状態に主眼を置き、また、当該地区は秋間古窯跡群に至近の位置関係であることから、報告例の少ない類別・特徴的な個体を選定した。併せて、胎土観察で生産地が推定された個体に就いては、観察表中に表記した。

## 第4章 中里見中川遺跡



中里見中川第8号住居跡出土



## 第4章 中里見中川遺跡

### 第1節 調査の概要

#### 第1項 試掘調査

中里見中川遺跡の試掘調査は、本調査に先立ち平成4年1月6日より着手され、1週間にわたり実施された。この試掘調査の目的は、遺跡の内容確認と範囲の確定に主眼が置かれ、遺跡・遺構の状況を確認する目的で実施されたものである。

試掘調査は、烏川寄りの東端側から、本調査段階で呼称される1区までの路線区間で実施された。

試掘調査は、人力と重機を併用したトレンチ調査であった。トレンチは、路線に沿って東西方向に平行する3本設定された。この試掘調査の結果、本調査時に呼称される1区より東側では、遺構の存在が認められず、遺跡認定には至らなかった。そして、本調査時の2区では、ほぼ全面に畦畔を含む古墳時代の水田跡(As-C下水田跡)等を確認した。

#### 第2項 本調査

本遺跡の調査区は、道路や河川などにより便宜上、烏川よりから1・2・3・4・5・7・6区と呼称している。主として字中川地区が中心であるが、付図1・2に示したとおり小字界は、4区と5区の間であり、5区以西は次章で述べる中里見根岸遺跡と同様小字根岸である。本来の遺跡名称の在り方からすれば、中里見根岸遺跡の一部分とすべきである。

しかし、整理段階での必要以上の遺跡名称の変更は、余計な混乱を招くことが考えられたため、本報文では、調査段階の遺跡名称を優先し、5区以西についても中里見中川遺跡として扱う決定がされた。

当該遺跡の本調査は、平成4年4月1日から1カ年にわたり実施した。調査は、工事工程・用地等の事情から、2区→4区→1区→6区→5区→3区→7区の順に着手し、調査終了箇所から順次埋め戻しを行った。

調査担当は、1・2・4・5・6区を松田・関根・小林が担当し、3・7区を松井・木津・麻生・橋本

が担当した。(例言参照)

### 第2節 各区の概要

#### 第1項 1区の概要

本遺跡の東端、最も烏川寄りの調査区である。調査面は、近世以降と考えられる畠跡一面である。畠の耕作土より下位の土層については、調査記録が無く、不明である。

#### 第2項 2区の概要

2区の調査面は、「C下溝」と呼称する溝状遺構を境に東側と西側に分かれ、さらに西側は拡張調査部分(以下西側拡張区と呼称)とに分かれている。調査時の調査面は、東側が4面、西側が3面、西側拡張区2面である。

整理所見では、遺構面として確認できた調査面は東側で4面まで、西側では3面である。また、東側と西側および西側拡張区の土層断面の表記がまちまちで対応関係を復元することができなかった。このため、それぞれ別の面として扱い、記述も分けて後述する。

東側調査面では、中世と考えられる土坑群を中心とする遺構面、古墳時代水田跡1面、弥生時代以前の礫群の遺構面、時期不明の水田跡1面など4面が調査された。

また、西側調査面では、古墳時代以前と考えられる遺構面を3面調査しているが、これらの遺構面がどのような規模の元に調査されたか不明である。

さらに西側拡張区では、古墳時代の水田跡1面、弥生時代以前の礫群等が調査されている。

特筆すべき遺物としては、西側調査面で出土した鉄の柄と判断される木製品が上げられる。この鉄の柄は湧水対策の作業中に出土している。

#### 第3項 3区の概要

3区では、As-Bの純粋な堆積が見られ、この直下から水田跡が確認されている。同様にAs-B下の水田跡が確認されている5区と異なり、水田跡の下層から集落は確認されていない。しかし、平安時代の瓦片を含む積石遺構が完掘は出来ないまでも調査さ

れている。烏川低位段丘にあたる部分での出土であることから、集落とは別次元の遺構と考えられる。

#### 第4項 4区の概要

4区は、中近世とみられる溝状遺構、As-B下の自然流路と考えられる溝群、縄文時代の土坑群、その下位面で倒木痕の発見された4面の調査である。

遺跡内におけるAs-Bの堆積は、本調査区が最も厚く、また堆積時に自然流路とみられる溝群が存在していたなどを合わせ見て、谷地形になっていたと推定される。この溝群からは、加工痕が認められる丸太材、木皿が発見されていることから、当時の生活に関わった小河川と考えられる。

#### 第5項 5区の概要

5区では、平安時代以降の調査面、平安時代の水田跡(As-B下)面、平安時代の溝状遺構、製鉄遺構、住居跡などから成る調査面、As-C下水田跡面、As-C下水田以前の調査面の計5面が発見されている。

As-B下水田の耕作土下では、住居跡5軒、製鉄炉跡2基等が調査されている。

なお、この住居跡の遺構番号であるが、先行調査した6区と通番であるため、当区では、第4号住居跡からの報告となっている。

特筆すべきは、中里見遺跡群全体で組織的な生産が成されていたと考えられる製鉄関連の遺構が発見されたことである。

#### 第6項 6区の概要

当区では、As-Bの純層は確認されなかった。奈良平安時代の遺構は、As-Bを多量に含む・Ⅲ層上面で確認されている。

なお、当区内の遺構番号であるが、住居跡については、5区と通番を付されており、当区第1・2号住居跡が奈良平安時代のもの、当区第3号住居跡が縄文時代のもの、以下5区第6～8号住居跡となっている。土坑および溝状遺構については、当区独自のものである。

また、縄文時代晩期の遺物包含層等が調査されている。包含層の遺物は、ほとんどが同一個体とみられる細片化した土器片で、隣接する根岸遺跡出土の

遺物とも接合している。また、6区では縄文時代以前と見られる立木の跡が確認されている。

#### 第7項 7区の概要

7区では、平安時代以降と考えられる溝状遺構、土坑、縄文時代晩期の遺物包含層が調査されている。縄文時代晩期の包含層については、中里見根岸遺跡でも調査されており、双方は同一の土層からの出土と判断される。

### 第3節 発見された遺構・遺物に就いて

#### 第1項 1区の近世近代の遺構・遺物

##### 畠跡(第2・7区)

発見された「サク」は、25条で約400m<sup>2</sup>である。調査区内の西側に集中して発見されていることから、東側については後世の攪乱等で失われている可能性もある。調査日誌等の資料から1区内には、「昭和時代のゴミ層」が存在していたようである。これによる攪乱かもしれない。

サクの走行方向は、ほぼ北-15度-西を示す。長さは一定ではないが、ほとんどのサクが調査区外の南北方向に延びていくことから、10m以上のものと推定される。このサクより新しいとみられる掘り込み(第5・6号溝)が条直行する走行方向で見られる。また、調査区の西側では、サクに平行するかたちの溝状遺構(1・2号溝)が2条発見された。この溝状遺構は畠を区画しているとも考えられる。調査区東端の落ち込みは、前述のとおり、昭和時代のゴミ捨て場の可能性が高い。

サクの年代についてであるが、断面図からは、このサクが、洪水層により埋没し、以後復旧されていないこと。昭和時代のゴミ捨て場の層が、この洪水層より新しいことが読みとれる。しかし、断面図の位置が不明瞭である点、ゴミ捨て場を昭和と判断した根拠が記録として残されていないことなどから、特定することは難しい。

ゴミ層が昭和と判断できるのであれば、この畠跡は、昭和時代以降のものと考えられる。なお、1区



の出土遺物は、19世紀末～20世紀所産の泥面子戎(10-00001)・大黒(10-00002)が出土しているが、出土地点がはっきりせず、遺構に伴う時期のものは、不明である。

## 第2項 2区の中近世の遺構・遺物

### 集石土坑群(第5・9・10図)

当区の当該時期の土坑は、45基である。

石を多数含む土坑が主体を占めているためか、プランの確認が充分行われず調査された。また、重複して遺構番号が付されているなどの混乱もおきている。このため、本報告書では、止むを得ず整理番号を付すこととした。整理番号は、原則として調査時の番号を優先したが、重複している遺構については、新番号を与えてある。対応関係については、遺構一覧表(中川2区土坑一覧表)を参照されたい。なお、遺物については、混乱を避けるため旧番号で掲載した。

前述のとおり、この土坑群は表面を直径20cm程度の礫に覆われており、プランの確認ができないまま、調査されている。整理時に可能な限り復元を試み、第5図のように縦線で形状を示した。しかし、集石土坑相互の新旧関係や正確なプランは復元できなかった。このため、集石土坑の性格については不明な点も多い。以下、整理時に得られた所見を元に土坑の性格について整理してみたい。まず、土坑を覆っていた礫についてであるが、土坑状に掘りくぼめられた場所に集中して発見されている。

しかし、第3号集石土坑のように明らかに人為的に石が並べられた痕跡を留めるものもある。第3号集石土坑は、底面に平らな面を持つ石6枚によって構築され、上部をやや小さな礫によって覆われている。内部が空洞になっていたと推定されることから、何かを埋納するための施設とも考えられる。また、第1号集石土坑から寛永通寶(40-0004)、第3号集石土坑から政和通寶(40-0003)と聖宋元宝(40-0003)が出土しており、中世から近世頃の所産と推定され、墓坑としての性格と考えられる。

### 第1・2号不明遺構(第4・11・12図)

2区東端に位置する遺構である。土坑状の掘り込みを持つ遺構である。南端部に木杭が5本ならび小礫が出土している。規模は大きいものの形状もさることながら時期・性格もはっきりしない遺構である。

### 東溝(第5・8図)

東溝は、集石土坑群・不明遺構と重複する状態で調査区内の北側から弧線を描く状態で発見されている。集石土坑群に重複する部分では、暗渠状態の作り(溝状の石組み)になっている(写真図版)。図面は第5図内に示した以外は無く、調査区壁面には薬研堀の大きな落ち込みが認められたが詳細は不明である。出土遺物からは近世以降の時期が考えられるが、出土位置に就いても明らかではない。

## 第3項 2区の古墳時代の遺構・遺物

### As-C下水田跡(第6・21図)

当水田跡は、As-C下で発見された水田跡である。調査された水田跡は10面あるが、中央の3面を除いては一面の全体像を窺し得ない。

畦は概ね8cm程で比較的しっかりしている。水口は認められないことから、掛け流しの水田であったことが考えられる。

調査区中央部を南北走る溝状遺構(名称未設定)を境に東側は、純層のAs-C下水田、西側は二次堆積のAs-C下水田とされるが、調査区北壁土層断面には、二次堆積層と純層の違いが記載されており、詳細は不明である。しかし、溝状遺構を境に畦畔の走行が変化していることは事実であり、この溝状遺構が当水田跡の重要な区画であることは確実性が高いであろう。

当水田跡は、榛名町地区では初めてのAs-C下水田の発見であり、その意義は大きい。

## 第4項 2区の弥生時代の遺構・遺物

### As-C 1～3面礫群(第13・22図)

As-C下水田跡の耕作土及び3層下から発見された礫群である。発掘調査時は、2面礫群および3面礫群と呼称し、2層において調査を進めた。しかし、土層断面を検討した結果、分層は層位の変化による

ものではなく、任意に礫を除去した状況を示すものであるとの結論を得、1面として作図した。ただし、遺物については、混乱を避けるため発掘調査時の取り上げ名称で掲載した。遺構面の名称についても1～3面礫群として報告した。

本礫群は、土層断面に均一に礫が混入することから、人為的に積み上げられた礫群ではなく、旧河道等の洪水により形成された層と思われる。しかし、当遺構面では、石器および土器が多数出土していることから、何らかの人の活動があったことは間違いない。また、石器は、石材が同じものが多い。また、欠損後、刃を付けなおして再利用したものも見つかっており、当時の何らかの活動を示している。

出土している土器様相は、地文縄文に5本1単位の平行櫛描文間に山形状の波状文を施文する10-0013、細く乱れ気味の条痕文を施文する10-0014～0016は弥生中期前半に比定される。また、同時期の土器が原遺跡第1号墳直下及び周辺に集中して出土しており、再葬墓と考えられる第999号土坑からは3個体の壺形土器と小形の鉢形土器1個体が出土している。

### 3面水田跡 (第14・23図)

3面は、水田跡と考えられる面で人と見られる足跡が多数発見された。上記礫群の下層より発見されている。出土遺物は上面で遺物が殆ど出土しなかった部分から出土している。

### 4面 (第15・28図)

4面は、流木とみられる木片が出土している面である。断面を検討したが、この面を文化層としている根拠は乏しく、どのような面として捉え、調査されたかは不明である。

### 2区西2面 (第16図)

As-C下水田面の直下と見られる面である。形状のはっきりとしない浅い溝状遺構が3条、調査区の中央部分で発見されている。

溝状遺構は、中央・東溝がほぼ平行しているが、中央溝と西溝は直行する状態である。この状態からは人為か自然かは言及しきれない。調査段階の遺構

認定が判然としなが、調査所見に応じた。

### 2区2面下 (西3面) (第17・24・25図)

調査区の中央部分に浅いが大規模な溝状遺構が発見された。この溝状遺構から発見された遺物は、東2～3面礫群出土の石器に類似するものが多い。

### 2区2面下最下層 (西4面) (第18・26図)

西3面下層の溝状遺構2条が発見された。西2面下(4面の意味かは不明)第1号溝状遺構からは、遺物が数点まとまって出土している。

### 2区西1面 (拡張区) (第19図)

調査区西端の部分で前述のように、西側の調査区と対応できない。すなわち、西側調査区には西1面と呼称する調査面が存在しないのである。あるいは、As-C下水田を指すとも考えられるが、As-C下水田には、このような足跡はなく、畦畔の方向も一致しない。むしろ東側調査区の3面に相当するのかもしれない。更に、当該遺構面は標高測量がされていないため、面同士の間隔性を物理的にも確認できなかった。また、出土遺物は無かった。

### 2区西第2面礫群 (拡張区) (第20図)

2区西1面同様、調査区西端の拡張調査部分である。出土状況や遺物から東側調査区の2～3面礫群に相当すると見られる。出土遺物は無かった。

### 第5項 3区の奈良平安時代の遺構・遺物

#### As-B下水田跡 (第30図)

As-Bにより覆われた水田跡が発見されている。火山灰および軽石が動かされず堆積していることから、As-B降下後は復旧されなかったようである。3区は、調査面積が約200㎡と非常に狭いため、畔のほんの一部が発見できたに過ぎない。As-B埋没水田は、一般に大きな区画を持つ。しかし、3区の水田の畦畔は、南から西へ大きくカーブし、そこからでている畦畔も直行していない。

これは、地形に沿い構築されたためであろう。

地形は南に向かって緩やかに傾斜しており、中央部分で発見された水口を通して南側の水田へと導水されたものと推定される。後述する5区のAs-B下水田とはほぼ同規模の水田と推定される。

### 第3節 発見された遺構・遺物に就いて

畔に沿って人と見られる足跡が3つ確認されている。

#### 積石遺構 (第31～33図)

As-B下水田の耕作土下層から、積石遺構が発見された。調査区西よりの北壁に沿って発見されたものでなお調査区外に続くものと見られる。プランは、ほぼ円形になるのではないかと推定される。As-B下水田の耕作土下から発見されたこと、遺物に平安時代の瓦(里見庵寺所用か)を含むことなどから、平安時代の所産と考えられる。

発掘調査の結果、積石遺構は人頭大の河原石を用い、円形の囲みを3段に渡って築き、内部を空洞にした上でさらに石を積み上げていることがわかった。発見時にはこの上に載せていた石が崩れ落ちた状況で確認されたが、内部は、構築当初から空洞ではなく、築造時には有機質の容器を納めるための塚であった可能性もある。

#### 第1号溝状遺構 (第34・35図)

調査区西端で発見された溝状遺構である。幅2.8～3.4m、長さは調査区内で6m、深さ30cmを測り、ほぼ南北に流れている。調査区南および北方向に続いており、規模は明らかでない。

立ち上がりが断面でもはっきりしないこと、覆土が均一な粘質土で構成されていることなどから自然の流水痕、若しくは堆積状況に異常な状況を想定せざるを得ない。出土遺物は、発見されていないため明確な年代を示す資料はない。

#### 第1号土坑 (第34図)

本土坑は、3区唯一の土坑で、第1号溝状遺構と同じ文化面で発見された遺構である。長径75cm、短径65cmをはかる。主軸は、北-95度-西である。第1号溝状遺構を壊して構築されていることから、両者の新旧関係は、本土坑が新しいと考えられる。出土遺物は無かった。

#### 第6項 4区の中近世の遺構・遺物

##### 第1号溝状遺構 (第37図上段・第38～40図)

当溝状遺構は、調査区の西端に位置し、南側北側ともに調査区外にかかり全容は不明である。発掘調

査時は、As-B下第1号溝状遺構と呼称されているが、後述のようにAs-Bを切って構築されており、後述の第2～6号溝状遺構の確認面とは、違うと考えられる。

北より東壁に5本から成る杭列を有する。杭列は調査区外へと続く可能性もある。残存長9.5m、最大幅1.9m、深度50cmを測る。走行方向は、北-30度-西である。

覆土は、As-Bを主体とするIII層土で、IV層土ではない。さらに北壁の断面図を検討すると、As-Bを切って溝が構築されている。従って、後述する2・3・4・5・6号溝状遺構より新しい時期のものと考えられる。

出土遺物は、第38～40図であるが、「1・2号溝出土」と注記のあるものについては、いずれの遺構に属すか不明である。このため、第2号溝状遺構より新しい当遺構に属するものとして扱った。

#### 第7項 4区の奈良平安時代の遺構・遺物

##### As-B下の溝状遺構 (第36図)

以下に述べる第2～6号溝状遺構は、As-B降下層より発見された遺構である。特に第3～6号溝状遺構については、一連のものと考えられるが、調査区内ではその全容を明らかにできず、直接のつながりを得られなかったため、それぞれ個別の遺構番号を付すことで対応した。よって、関連が明らかでない第2号溝状遺構と第3～6号溝状遺構に分けて所見を述べることにする。

##### 第2号溝状遺構 (第36・41図)

当溝状遺構は、調査区の西端に位置する。前述、第1号溝状遺構と重複するため、構築時の形状は不明である。特に調査区北側では、ほとんどを第1号溝状遺構に削りとられ、不明な状態であったとみられる。第1号溝状遺構との新旧関係は、第1号溝状遺構が当溝状遺構より新しい。出土遺物では、青磁鏡手蓮弁文碗と10世紀後半の土器類が出土しており、前者の年代からは14世紀代が想定される。

遺構実測図が詳細不明なため、残存長、最大幅、深度、走行方向ともに詳細は不明である。

第3～第6号溝状遺構 (第37・42～44図)

当溝状遺構群は、調査区北東方向に向かって傾斜する谷状の自然地形と思われるが、木製品・須恵器などの遺物が多く発見されている。このため、自然地形を何らかの目的で利用していた遺構ではないかと考えられる。

特に第3号溝状遺構から発見された木皿や加工しであると見られる丸太材など木製品が、多いことが注目される。また、当遺構からは、調査時にかなりの湧水がでていた。このようなことから加工するまでの木材を貯蔵していた施設という可能性もある。

当遺構群のAs-Bの堆積は厚く、降下後は復旧されていないと見られる。

当遺構群の出土遺物では、木製品が注目される。時期の判明する遺物からは10世紀後半頃の年代が当該遺構に与えられる。

第8項 4区の縄文時代以前の遺構・遺物

西テラス (第45図)

西テラスと通称される遺構面は、調査区西端に位置する立木跡と土坑3基から成る。

立木痕 (第45図)

1本の立木が根を張るようなかたちで発見されている。樹種同定の結果、トネリコ属であることがわかっている(分析編樹種同定参照)。また、小礫を多く含む層から発見されており、烏川あるいはその支流による洪水で埋まった立木の可能性もある。

土坑群 (第46図)

立木痕と同じ面から発見されている3基の土坑である。覆土は、第1・2号とも同様で第2号土坑からは、縄文時代晩期頃と思われる深鉢の底部片(10-00043)が出土している。また、これら2基の土坑から出土した土を洗滌したところ、オニグルミなどの種子が多数発見された(第9章第3節第1項参照)。

第9項 5区の中近世の遺構・遺物

土坑群 (第56図)

調査区東端の4基の土坑群である。何らかの状況変更により、区全体とは別に拡張された部分で、5区全体は、統一された遺構面で調査されていない。

この4基の土坑群のうち、第1号土坑では、牛の歯が出土しており、祭祀との関連も注意される。遺構の覆土は、いずれもAs-Bを多く含む粘質土であることから、As-B降下以降の所産は確実である。

第10項 5区の奈良平安時代の遺構・遺物

As-B下水田跡 (第48図)

As-Bで埋没した水田跡である。3区で発見された水田跡と同時期と考えられる。As-Bは、純層と見られ地形に沿っての降下だったためか、調査区西側ほど堆積が厚い。

また、区画も地形に制約されたためか、正方形の小区画であったり、小区画が4枚分ほどの区画であったりと不定である。畔も必ずしも直線に伸びていくわけではないようで、この点でも3区と一致している。区画を整理することよりも、米の生産性を重視したためであろうか。

第1号溝状遺構 (第49～55図)

当溝状遺構は、調査区西端に位置し、北側、南側ともに路線外に伸び、全容は不明である。北端及び中央部分でやや細い支流溝状遺構が合流している。走行方位は約北 $-140$ 度 $-$ 南、残存長12m上幅2 $\sim$ 3m下幅0.7 $\sim$ 1.2m残存深度0.5mである。

出土遺物は、土器類、炭化物、木片等の植物存体、黒色の鉄滓、製鉄炉跡の壁材とみられる粘土塊など多種多様である。後述する第1・2号炉跡で出土した遺物と接合関係がみられることや同種の鉄滓が多く出土することから、炉から排出された鉄滓や壁材等の廃棄場所とも考えられる。

第4号住居跡 (第57～59図)

当住居跡は、調査区東よりに位置する。第6号住居跡に極めて近い位置にあるが、重複はしていない。遺構確認は、②層上面であり、第1号溝状遺構、他の住居跡および後述の第1・2号炉跡も同様である。

### 第3節 発見された遺構・遺物に就いて

焚口では、一面に灰面を発見した。支脚は礫が残存し、掘り方では、円形の掘え方を発見している。

遺物は、住居跡西辺及びカマド付近に集中して出土している。出土遺物には、内黒境及び内黒環と同一の須恵器環・鉢・壺・羽釜が出土している。この傾向は、当遺跡から出土した住居跡の出土遺物に共通する。時期的には10世紀末頃と考えられる。

#### 第5号住居跡 (第60～62図)

当住居跡は、調査区中央南側に位置する。煙道の一部が調査区外に続くため、カマドの一部が未発見である。焚口の掘り方で一面に炭化物を発見した。遺物は、カマド付近に集中して発見されているが、その他は散在している状況である。

出土遺物は、前述の4号住居跡と同様である。

#### 第6号住居跡 (第63図)

当住居跡は、調査区東側の南端に位置する。残存状況が悪く、僅かな掘り込みのみしか確認できなかった。住居跡内を調査用の排水路があり、水路より南側では、平面形態も定かではない。カマドは未発見であるが、東端で一面の炭化物層を発見しており、このあたりと想定できる。出土遺物全重量が少ないが、前述の4・5号住居跡と同様である。

#### 第7号住居跡 (第64図)

当住居跡は、調査区北西角に位置する。西壁及び北壁が調査区外に延びているため、平面形態は、推定である。また、残存状態が非常に悪く、床面は発見できなかった。遺物は、非常に少ない。支脚は発見されていないが、電掘り方で円形の支脚掘え方を発見した。焚口前面には炭化物が広がっていた。出土遺物で提示できた資料は1点である。やはり内黒境である。

#### 第8号住居跡 (第65～70図)

当住居跡は、調査区北東角に位置する。調査時は、明確な立ち上がりを確認できなかったため、整理段階で写真等をもとに復元した。部分的に炭化物が層の広がりを見せている。

当住居跡は、遺物量が非常に多く、そのほとんどが完形に近い遺存状況である。また、杯・碗類が大

半を占めているが、内黒環・壺と須恵器環・壺はほぼ同数で揃っている。そして、黒色を呈する鉄滓塊が出土しており、精錬炉跡との関係も窺わせる。この鉄滓はこの住居跡群の中では当住居跡でしか出土していない。

また、西壁寄りに土坑が重複する。隅丸長方形を呈し二重になった状態で確認されている。外郭側に炭化物が広がり、土坑の壁に沿って橙黄色の粘土を張り巡らせている。出土遺物が無いため判然としない状態である。性格としては土壇墓が推定されるが言及は出来ない。

#### 製鉄遺構(精錬炉跡・小鍛冶) (第72～79図)

炉跡について、5基報告する。炉跡5基の確認面はいずれも住居跡群と同じ②層上面である。

なお、遺構番号については、調査時に炉跡でないことが明らかとなり、第3号炉跡および第4号炉跡が欠番とした。第3号炉跡については、範囲を示したと見られる図面が所在したが、グリットの記載もなく、写真等の資料も見あたらないため、欠番とした。遺物等の混乱を避けるため、遺構番号は調査時のものをそのまま使用することとした。

#### 第1・2号炉跡 (第73～79図)

本遺跡最大の炉跡である。第1・2号炉跡合わせ3回の操業が推定される。図は写真から多くを復元した。

第1・2号炉跡は、発見時一体のものとして調査されたが、調査の結果2基が重なり合い、相次いで使用された痕跡であることが判明した。操業は少なくとも、第2号炉跡は2回以上、第1号炉跡が1回以上の計3回以上にわたる、操業の痕跡が確認された。

操業の新しい順にみていくと、第1号炉跡が最終操業時の使用と見られる。この第1号炉跡は、発見面よりさらに数cm上面まで地業されていたと見られ、現存の部分は、炉底に近い部分のみと考えられる。第1号炉跡で発見された炭化物層は、炉跡の下部構造と見られる。

次の操業が、第2号炉跡の炉跡壁の痕跡を僅かに

#### 第4章 中里見中川遺跡

残す部分である。(復元図 第74図)底面の羽口や壁材は、ほぼ現位置を留めていたと考えられ、炉跡体の大きさも推定できる。炉跡体の形状は、隅丸方形と推定できる。また、羽口(第75図10-00137)に残る被熱変化・鉛着した壁の一部の状態から、奥壁の左壁寄りから俯角状態を保ち、送風が左壁に当り、炉内部を時計回りの逆回転方向の渦巻き状に対流させる意図で炉内部に向い挿入していたことが判断される。このような対流を起こさせることにより、熱効率向上を考慮しての結果であろう。

さらに前の操業時として、第2号炉跡の第1号炉跡よりの部分を含む、部分が考えられる。この炉跡は、大きくしっかりとした掘り方をもち、粘質土を貼ったり鉄滓などを敷き詰めたりすることにより下部構造を構築している。連結部と呼ばれる2つの炉跡を結ぶ部分は、この操業時に第1号炉跡に向かう出銃口と考えられる。

発見された炉跡材や鉄滓は、相当数にあるが、3回の操業分として捉えるには少な過ぎることから、最終時の一部と考えることに妥当性も見出せよう。

##### 第5号炉跡(第72図)

第1・2号炉跡に近接して位置する。平面形態は、楕円形を二つ重ねた瓢箪形を呈する。瓢箪形の頭に当たる部分に鉄滓と見られるものがある。本炉跡については、この図以外に遺物も含め、発掘調査資料が所在しないため、詳細は不明である。

##### 第6号炉跡(第72図)

本炉跡は、第1・2号炉跡に近接して位置する。平面形状は、長楕円形を2つ重ねたような形状である。第5号炉跡同様、小さい方の土坑で鉄滓が出土している。長楕円形の土坑は、馬蹄形状に粘土が張られている。これが、炉跡体と考えられる。炉跡体周辺にも、炭化物および焼土層が広がる。炉跡体は、ほとんどが失われ僅かに痕跡を残すのみであった。

##### 第7号炉跡(第72図)

第6号炉跡同様の平面形態を有する。確認面で、焼土層が確認された。ほとんどが失われ痕跡を残すのみである。

##### 第11項 5区古墳時代以前の遺構・遺物

###### As-C 下水田跡(第71図上段)

当水田跡は、As-C 下から確認された水田である。As-C の堆積は、調査区東側ほど堆積が厚い。西側では、調査時に純層の堆積と考えているが、二次堆積の可能性も考慮される。

発見された水田面は、畦畔が重なり合う状況で1時期を示したものは思われない。また、水田面の間隔も一定ではなく、畔同士が直交あるいは平行する部分が少ない。

これは、発見された水田が As-C の堆積が一定でないことにより、攪乱を受けやすかったためか、地形に制約された水田あるためかは不明である。

###### As-C 下黒色土下の遺構(第71図下段)

As-C 下水田跡の耕作土下④層上面で確認された溝状遺構を中心とする遺構面である。

なお、当区の遺構番号は面ごとに付されており、当遺構面でも新たに第1号溝状遺構から付されている。

###### 第1号溝状遺構(第71図下段)

調査区西南端に位置する。調査区中央部の南壁で第2号溝状遺構に切られその後は不明である。残存長14m、最大幅0.35m、深度0.3mを測る。走行方向は約北-92度-南である。

###### 第2号溝状遺構(第71図下段)

第1号溝状遺構を調査区中央部の南壁で切り、U字状に湾曲して、再び南壁方向へ進む溝状遺構である。第1号溝状遺構との新旧関係は、当溝状遺構が第1号溝状遺構より新しい。

###### 第3号溝状遺構(第71図下段)

調査区中央部をほぼ南北走する溝状遺構である。残存長4.7m、最大幅0.55m、深度0.27mを測る。走行方向は約北-50度-西である。

###### 第4号溝状遺構

当溝状遺構は、調査区東端に位置する。南側で東へ向かう落ち込みが合流するため、その後の形状は不明である。

**倒木跡 (第71図下段)**

調査区南東角に位置する。調査時は、「土塁」と呼称されているが、土層断面から倒木跡と推定される。しかし、確認面は明らかでないため、時期は不明である。

**落ち込み (第71図下段)**

東壁に向かって、地形の落ち込みが見られる。落ち込みには、多数の流木と見られる木片が出土した。自然流路の可能性もある。

**第12項 6区の奈良平安の遺構・遺物****第1号溝状遺構 (第80図)**

調査区中央部に位置する。浅いくぼみ状に落ち込んでいる。発掘調査時の記録には「As-Bの二次堆積とみられる層が堆積していた。」とあるが詳細な記録がないので不明である。

**第1号住居跡 (第82・83図)**

当住居跡は、調査区中央部やや西りに位置する。床面には、ところどころ炭化物が層状に残存している。掘り方は、あまり顕著でない。

出土遺物は小ぶりの坏、羽釜等であり、当遺跡の住居跡出土遺物の傾向を一にしている。時期も10世紀末頃に推定される。

**第2号住居跡 (第84・85図)**

当住居跡は、調査区東端に位置する。残存状態が悪く、平面形態を確認できたのみである。北壁は、立ち上がりも確認できなかった。

出土遺物は少ないが、様相は当遺跡傾向を示している。時期は10世紀末頃に推定される。

**土坑群 (第81図)**

確認面は、住居跡同様、②層上面である。いずれの土坑も遺物は出土していないが、②層を主体とする覆土のため、住居跡に近い年代が推定される。

**第13項 6区の前古墳時代以前の遺構・遺物****第2・3号溝状遺構 (第86・87図)**

③層上面で確認された溝状遺構である。第2号溝状遺構については、図面が掲載部分しかなく、全体の形状は不明である。

また、第3号溝状遺構は、調査区東端に位置しているが、この遺構も掲載部分の図のみである。

**第3号住居跡 (第90図)**

第3号溝状遺構下部から発見された遺構である。明確な平面プランは確認されていない。縄文時代晩期の土器片および石器を出土した。土器片は250点以上が集中して出土し、このうちの多くが同一個体とみられ、後述する7区にも同一と見られる遺物が多数出土した。

当遺構は、住居跡の可能性も無いとは言えないが、このような遺物の出土状態から再葬墓の可能性も考慮される。また、当遺構に伴うとされる調査区東端の溝状遺構との明確な関係は不明である。

**3面植物遺存体 (第88図)**

当面は、④層上面、総社砂層を主体とする泥流層(③層)下から発見された。調査区全面に流木を出土する面である。すべて自然木と見られる。いくつかの流木をサンプリングして樹種鑑定しているが、トネリコが一番多く、カエデ、コナラ、ノリウツギなどであることがわかっている(分析樹種同定)。

**4面植物遺存体 (第89図)**

当遺構面は、④層下位層である。流木片と思われる木片を数点出土しているが、人為的とみられる遺構は存在しない。

**第14項 7区の縄文時代以降の遺構・遺物****第1号溝状遺構**

当遺構は、調査区中央部分北側に位置する。西壁のみ確認で、段差状にしか確認できなかった。従って、溝状遺構であるかは不明である。確認面は、第1号土坑と同一面である。

**第1号土坑群 (第93図)**

④層上面で確認されている。出土遺物はない。

**第15項 7区の縄文時代の遺構・遺物 (第92図)**

6区第3号住居跡で前述したとおり、7区でも縄文時代晩期とみられる土器片および石器が180点ほど出土している。土器片は、ほとんどが同一個体で6区第3号住居跡出土のものと同じと見られる。

遺構と見られる平面プランは確認できなかった。なお、中里見根岸遺跡でも同時期の縄文晩期とみられる土器および石器が多数出土している。

## 第4章 中里見中川遺跡

### 中里見中川遺跡遺構諸元一覧（規模・土層説明等）

#### 3区

##### B水田水口セクションA-A'

1. 赤灰 礫石を僅かに混入。 2. 黒褐 B-1B'の24層土（黒色粘性土）のブロックを含み、砂質味も帯びる。

##### 壁土層断面B-B'・C-C'

1. 明青褐 近現代の水田土層（鉄分に戻る黄色）。 2. 鈍褐 汚れた粘土（As-A?）少量。 3. 濁褐 2のブロックを含む。 4. 粘川テフラ層。 5. As-B灰（部分が含む）。 6. As-B（靑石） 7. 赤灰 全体に黒色味を帯びる。As-B 靑石を含む。 8. 赤褐灰 7層土が褐色味を帯びた状態。 9. 赤灰 砂のブロックを多く含む。 10. 赤灰 9層土と基本的には同じだが、砂のブロックは含まない。 11. 暗赤灰 シルト質。 12. 鈍砂。 13. 赤灰 7近質。粘質がある。 14. 赤灰 7近質。 15. 鈍砂 砂質。 16. 明赤灰 8層土に灰色シルトが混入。 17. 赤灰 7近質。7より黒色味が強い。 18. 赤灰 7近質。 19. 16層近質。 20. 16近質。 21. 16近質。 22. 鈍砂 砂質（鉄分が多いか）。 23. 20近質。 24. 黒色粘質土。 25. 暗茶褐色粘性土 炭化物・植物遺体を含む。 26. 暗灰色砂質 細粒の砂、植物遺体を多く含む。 27. 礫層。

#### 4区

##### 第1号土坑

層序（基準線標高164.60m） 1. 暗黒灰色粘質土 礫・靑石・植物遺体含む。 2. 黒色粘質土 植物遺体含む。 3. 黒色粘質土 地山粒・植物遺体含む。

##### 第2号土坑

層序（基準線標高164.60m） 1. 暗黒灰色粘質土 礫・靑石・植物遺体含む。 2. 黒灰色粘質土 地山粒・植物遺体含む。 3. 黒灰色粘質土 地山粒多・植物遺体含む。 4. 黒色粘質土 植物遺体含む。

##### 第3号土坑

層序（基準線標高166.20m） 1. 明褐 やや粘質・粒状C靑石少。 2. 暗褐色粘質土 塊状黒色土塊・粒状C靑石多。 3. 暗褐色粘質土 塊状黒色土多・粒状C靑石多。

#### 5区

##### 粒状C靑石下黒色土下層土層

1. 黒 総社靑石やや多。 2. 黒 総社靑石多。 3. 灰白色粘質土 黒色土少し混入。 4. 黒 総社靑石多（1・2の中間層）。 5. 黒色土・灰白色土・総社靑石の混土。 6. 黒 灰白色土と総社靑石少し混る。 7. 黒褐 灰白色土と植物やや多い。 8. 黒 下部に総社靑石僅かに含む。

#### 住居跡

##### 6区第1号住居跡

位置：19地区22区m-16グリッド。 規模：4.00m×3.7m。 主軸方位：北-83度一東。

層序（基準線標高168.40m） 1. 明茶褐 粒状粒状C靑石・炭化物混。 2. 茶褐 粒状粒状C靑石・炭化物混。 3. 暗褐 炭化物・焼土含。 4. 3同質。 5. 黒褐 炭化物・焼土含・粒状粘土含。 6. 暗褐 塊状焼土含。 7. 褐 炭化物・焼土含・粒状粘土含。 8. 黒褐 炭化物・焼土・粘土含。 9. 黒 焼土・炭含。 10. 茶褐 炭化物少。 11. 茶褐 灰・焼土・炭化物含。 12. 褐 粒状C靑石少黒・炭化物含。 13. 黒褐 炭化物・灰・焼土含。 14. 黒褐 焼土・灰・炭化物多。

##### 6区第2号住居跡

位置：19地区22区K-17グリッド。 詳細不詳。

##### 6区第3号住居跡

位置：19地区22区A-41グリッド。 規模：5.35+ $a$ m×2.58+ $a$ m。 主軸方位：不詳。

層序（基準線標高167.40m） 1. 暗褐 靑石・砂粒状靑石混。 2. 黒褐 靑石・砂。 3. 褐 砂粒含。 3'。 黒。 4. 黒色・褐色の互層。 5. 茶褐 粘性混。 6. 暗褐 粘性有り。 7. 茶褐 泥炭塊・靑石多。 8. 黄茶褐 泥炭塊散在。 9. 黄白 泥炭に茶褐色土が若干混入。 10. 黒褐 粒状C靑石含・粘性有。 11. 明茶褐 泥炭塊散在。 12. 黄白 泥炭に黒色土混入。 13. 暗褐。 14. 黄茶褐 泥炭と茶褐色土が混入。

##### 5区第4号住居跡

位置：19地区22区A-18・19・B-19グリッド。 規模：3.04m×3.46m。 主軸方位：北-95度一東。 竪規模：軸長1.82m・燃焼部幅0.62m・前面幅1.30m。

層序（基準線標高166.30m） 1. 黒褐 粒状C靑石・炭化物多。 2. 黒褐 粒状C靑石・炭化物混。 3. 黒褐 1近質。 4. 黒褐 2近質。 5. 黒褐 粒状C靑石・炭化物含。 6. 明褐 白色粘土少。 7. 明褐 粒状C靑石・粘土少。 8. 暗褐 粒状C靑石多・粒状焼土少。 9. 暗褐 粒状焼土多。 10. 暗褐 9近質。 11. 灰白 粘土主体・褐色土含有。 12. 黒褐 炭化物主体・粒状焼土少。 13. 黒褐 粒状C靑石含有無・炭化物少。 14. 黒褐 5近質。 15. 暗褐 焼土・炭化物多。 16. 黒褐 細粒粒状C靑石多。

##### 5区第5号住居跡

位置：19地区22区C・D-17グリッド。 規模：2.89m×2.80m。 主軸方位：北-99度一東。 竪規模：軸長0.93+ $a$ m・燃焼部幅0.4m・前面幅0.70m。

層序（基準線標高166.50m） 1. 暗褐 炭化物多・粒状C靑石含。 2. 暗褐 1近質。 3. 黒褐 炭化物多・粒状焼土少。 4. 赤褐 塊状焼土。 5. 暗褐 炭化物・粒状焼土多。

1. 炭化物混。 7. 黒褐 炭化物多・粒状C靑石少。 8. 黒褐 粒状C靑石混。 9. 暗褐 炭化物・粒状焼土多。 10. 暗褐 粒状C靑石・炭化物少。

##### 5区第6号住居跡

位置：19地区22区A-18グリッド。 規模：2.90m×3.08+ $a$ m。 主軸方位：北-88度30分一東。

層序（基準線標高166.40m） 1. 暗褐 粒状C靑石・塊状靑石多・炭化物多。 2. 明褐 粒状C靑石多・やや砂質。

##### 5区第7号住居跡

位置：19地区22区H-18グリッド。 規模：2.38m×2.90m。 主軸方位：北-72度一東。

層序（基準線標高166.70m） 1. 鈍赤褐 As-B 極多。 2. 灰白色粘土。 3. 黒褐 粒状C靑石多。

5区第8号住居跡 位置：19地区12区T-19・22区A-19グリッド。 詳細不詳。

##### 5区第1号伊勢

位置：19地区22区E-18グリッド。 規模：軸長3.6m×壁厚伊勢部幅1.08m×前庭部幅2.13×前庭部幅1.22m。 主軸方位：北-1度一東。

##### 5区第2号伊勢

規模：軸長2.22m×伊勢部幅方長1.17×伊勢部幅方長1.05m。

層序（基準線標高166.60m） 1. 青灰色粘質土 焼土・炭化物含。 4. 暗灰色 炭化物・焼土含。 9. 炭化物・粘土の混土。 10. 灰・礫混。 12. 焼土。 上記以外 2・3・5・8。 11・13に該当する土層は、調査段階での注記未記入。



## 2区土坑一覧表

新土坑 番号	旧土坑 番号	位置	平面形状	主軸方位	規模 (m)			新土坑 番号	旧土坑 番号	位置	平面形状	主軸方位	規模 (m)		
					長	短	深度						長	短	深度
1	1号集石	40-J-6	長方形	北-85度-西	1.95	1.60	—	28	7号集石	40-L-8	方形	北-50度-東	0.60+α	0.80	—
2	2号集石	40-J-6	不整形	北-60度-西	2.30+α	1.65+α	—	29	無	40-L-7	長方形	北-49度-東	0.70+α	0.35+α	—
3	3号集石	40-J-7	正方形	北-36度-西	1.25	1.15	0.44	30	無	40-L-7	不整形	北-42度-東	0.70+α	0.45+α	—
4	4号集石	40-K-8	不整形	北-87度-東	1.70	0.70	0.35	31	無	40-L-7	不明	北-49度-東	0.50+α	0.30+α	—
5	5号集石	40-K-8	円形	北-15度-東	0.95	0.85	0.45	32	9号集石	40-L-7	方形	北-63度-東	1.50	(1.25)	—
6	6号集石	40-K-8	(楕円形)	北-51度-東	0.65	0.60+α	—	33	9号集石	40-L-7	半月形	北-65度-東	1.00	0.50+α	—
7	7号集石	40-K-8	方形	北-92度-東	0.85	0.80+α	—	34	9号集石	40-L-7	不整形?	北-68度-東	0.75+α	(0.75)	—
8	8号集石	40-L-7	不整形	北-2度-西	1.10	0.60+α	—	35	9号集石	40-L-7	方形?	北-24度-西	0.75+α	0.55	—
9	9号集石	40-L-7	長方形	北-18度-西	1.10	0.80	—	36	無	40-L-7	正方形	北-25度-西	0.35	0.30	—
10	10号集石	40-L-7	楕円形	北-32度-西	1.025	0.75	—	37	無	40-K-7	円形	北-3度-西	0.75	0.70	—
11	11号集石	40-L-7	長方形	北-50度-西	1.10	0.90	0.30	38	無	40-L-7	楕円形	北-67度-西	1.00	0.45	—
12	12号集石	40-K-7	不整形	北-38度-東	0.70	—	0.38	39	無	40-K-7	(不整形)	北-17度-東	(4.60)	(3.50)	—
13	13号集石	40-K-7	#	北-50度-西	0.70	0.60	0.47	40	無	40-K-8	正方形	北-79度-東	0.95	0.80	—
14	14号集石	40-K-7	#	北-2度-西	1.30+α	0.90	0.39	41	無	40-K-8	(長方形)	北-10度-西	(1.50)	(1.20)	—
15	15号集石	40-K-7	#	北-85度-西	1.80	0.70	0.39	42	無	40-J-8	長方形	北-40度-西	1.45	1.15	—
16	1号集石	40-I-6	(不整形)	北-17度-東	0.80+α	—	—	43	無	40-K-8	長方形?	北-60度-西	1.80	1.00+α	—
17	無	40-I-6	楕円形	北-73度-西	0.35	0.10	—	44	無	40-J-8	半月形	北-25度-東	1.35	0.45	—
18	1号集石	40-I-6	(楕円形)	北-76度-東	0.70+α	—	—	45	無	40-J-8	方形?	北-48度-西	0.50+α	—	
19	2号集石	40-I-6	(楕円形)	北-34度-西	(1.10)	0.55	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20	無	40-J-7	(長方形)	北-41度-東	(1.60)	(1.45)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21	無	40-J-7	(楕円形)	北-16度-東	(2.60)	(1.25)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22	無	40-J-7	不整形	北-44度-西	(6.35)	3.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—
23	無	40-J-7	(長方形)	北-48度-西	(1.80)	(1.30)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
24	無	40-J-7	(長方形)	北-44度-西	5.45	(1.90)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25	5号集石	40-K-8	円形	北-9度-西	1.25	1.15	—	—	—	—	—	—	—	—	—
26	無	40-K-8	(方形)	北-15度-西	(1.40)	1.10+α	—	—	—	—	—	—	—	—	—
27	7号集石	40-K-8	方形?	北-80度-東	(0.60)	0.55+α	—	—	—	—	—	—	—	—	—

## 3区土坑一覧

番号	位置	平面形状	主軸方位	長	短	深度
1	21-Q-20	円	北-47度-西	1.1	0.9	0.65
2	21-Q-20	円	北-5度-東	1.00	1.00	1.20
3	21-S-20	長方形	北-9度-西	1.60	1.00	0.60

## 4区土坑一覧

番号	位置	平面形状	主軸方位	長	短	深度
1	21-T-19	楕円	北-23度-西	0.95	0.80	0.19
2	21-T-19	楕円	北-54度-西	0.80	0.65	0.20
3	21-T-18	楕円	北-54度-西	0.90	0.65	0.20
4	21-T-18	楕円	北-9度-西	0.65	0.40	0.10
5	22-A-1	楕円	北18度-西	1.95	1.10	0.40
6	21-T-19	楕円	北-29度-東	1.20	0.50	—
7	21-T-18	楕円	北-54度-東	0.95	0.60	0.20
8	22-D-18	楕円	北-50度-東	1.00	0.50	0.10

## 6区土坑一覧

番号	位置	平面形状	主軸方位	長	短	深度
1	22-N-15	正方形	北-51度-西	1.30	0.95	0.20
2	22-N-15	円	北-73度-西	1.05	1.00	0.20
3	22-N-15	円	北-3度-西	1.10	0.80	0.30
4	22-M-15	楕円	北-51度-西	1.05	0.80	0.25
5	22-M-16	楕円	北-2度-西	1.00	0.95	0.15
6	22-N-15	平円	北-79度-西	1.75	0.85+α	0.20
7	22-L-16	楕円	北-47度-東	2.25	1.30	—

## 中里見中川遺跡出土遺物観察表

## 1区出土遺物

遺物番号 図収番号	遺物種類	出土層位 埋藏深度	度量 目 (cm) 重 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	概要
10-00001 23	土製品 土製品	完形	高3.7・幅2.6・厚1.8	酸・並・黄褐色・軟質・シルト質・粗粒調母	前面と背面部に階作り成形後の貼り合わせ。立像右手に約方平、左腕(魚)を抱える。	御同産
10-00002 23	土製品 土製品	完形	高4.3・幅3.2・厚2.7	酸・並・黄褐色・軟質・シルト質・粗粒調母	前面と背面部に階作り成形後の貼り合わせ。伏上の立像。右手に小瓶、互に大黒腹を背負う。	御同産

## 2区東溝出土遺物

遺物番号 図収番号	遺物種類	出土層位 埋藏深度	度量 目 (cm) 重 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	概要
10-00003	織成土器 漆鉢	2区東溝 覆土層上	厚0.9	酸・並・黄褐色・軟質・細砂粒	口唇部は肥厚するキャリヤー状を呈する深縁。口縁直下に沈線を描きこめる。器面は開文。	不詳
10-00004	須恵器 北口壺	2区東溝 覆土層上	高12.0・厚19.0・厚0.6	還元・細・オリーブ黄・尖細物粒不れず。餅状の焼結。	紐作り後輪転整形(右回転)。比重も重く、東海以西からの搬入品と思われる。	不詳
10-00005	埴輪陶器 灯明土	2区東溝 覆土層上	口(10.2)・高(2.0)・底(5.8)	還元・細・灰白・密・緻密	輪轉右回転成形製。底部は回転製後で整形。鼠志野胎を施結する。	不詳
10-00006	埴輪陶器 灯明土	2区東溝 覆土層上	口(10.2)・高(2.0)・底(5.8)	還元・細・灰白・密・緻密	輪轉右回転成形製。底部は回転製後で整形。鼠志野胎を施結する。	不詳
40-00001	埴輪具 嵌口	2区東溝 覆土層上	径0.81・重4.4	真鍮製か	背面部に合わせ目が明確に認められる。	真鍮製

## 2区1号集石土坑出土遺物

遺物番号 図収番号	遺物種類	出土層位 埋藏深度	度量 目 (cm) 重 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	概要
40-00002 160	銅鏡	覆土内 完形	径3.5・重3.0	—	寛永通寶。背面は無紋	—

#### 第4章 中里見中川遺跡

##### 2区3号集石土坑出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 通存度	重量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	調査
40-00003 160	陶瓦	覆土内 完形	径3.5・重2.0		政和造瓦。背面は無紋。	
40-00004 160	陶瓦	覆土内 破片	径3.0・重1.0		型宋元瓦。背面は無紋。	

##### 2区第1号不明遺構出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 通存度	重量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	調査
10-00007	灰青陶器 線 鉢	覆土内 破片	厚1.1	黒・紫・鈍黄・紫・赤褐色粒子・黒色磁物粒子	紐作り後輪轆整形(左回転)。口唇部内側若干厚減。	藤岡産か
10-00008	灰青陶器 大壺	覆土内 破片	厚1.2	紫・緑・鈍赤褐・紫・白色磁物粒子	紐作り後仰き整形。叩き具及び瓦具は不詳。全体に厚減している。	常陸産

##### 2区第2号不明遺構出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 通存度	重量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	調査
10-00009	海狗陶器 灰輪花瓶	覆土内 破片	厚0.6	黒・紫・白灰・紫・白色粒子・黒色粒子	轆轤左回転成形。胎調はオリブ状。透明感がある。	瀬戸産

##### 2区As-C下溝状遺構出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 通存度	重量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	調査
10-00010 ・012-23	土師器 線 鉢	覆土内 破片	厚0.5	紫・紫・鈍黄・紫・白色磁物粒子・赤褐色粒子・黒色磁物粒子	板合口縁。紐作り成形。最終整形は復合部以下を削り落とす。	3点の接合
10-00011 23	土師器 壺	覆土内 破片	口径13.6	紫・紫・鈍黄・粗・石灰灰・黒色磁物粒子・細砂粒	口縁部は型く短く外反する。器内外面は轆轤の研磨を施す。	

##### 2区2・3面出土遺物出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 通存度	重量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	調査	
10-00013	弥生土師器 線 鉢	2区3面 破片	厚0.5	紫・紫・黒灰・紫・石灰・パミス・細砂粒	頸部周部の破片。地文にL状原体を輪転させ、5本一単位位の環目山部。平行を交互施文する。	2点の接合	
10-00014	弥生土師器 線 鉢	2区3面 破片	厚0.5	紫・紫・鈍黄・紫・黒色磁物粒子・細砂粒	頸下部山部。6本一単位以上の条痕文を施文する。条痕は短く浅く断面は円筒。	5点の接合	
10-00015	弥生土師器 線 鉢	2区3面 破片	厚0.5	紫・紫・鈍黄・紫・黒色磁物粒子・細砂粒	10-00014・15と同一個体。裏面にも条痕文の施文が認められる。	3点の接合	
10-00016	弥生土師器 線 鉢	2区3面 破片	厚0.75	紫・紫・鈍黄・紫・黒色磁物粒子・細砂粒	10-00014・15と同一個体。	5点の接合	
20-00001	石器 打製石剣	2区3面 完形	長14.2・幅9.8・厚2.6・重411		粗粒輝石安山岩	断面を撰す。20-00005をタイプとする石剣の標榜品か。長さ比べて、幅が広い。	
10-00017	弥生土師器 線 鉢	2区3面 破片	厚0.9	紫・紫・鈍黄・紫・黒色磁物粒子・細砂粒	ラッパ状に外反した口縁部。RL原体を縦転施文する。		
10-00018	弥生土師器 線 鉢	2区3面 破片	厚0.6	紫・紫・黒灰・紫・黒色磁物粒子・細砂粒	頸部に条痕文を施文後、幅広く断面四角形状の横線3条を頸部に施す。		
10-00019	弥生土師器 線 鉢	2区3面 破片	厚0.5	紫・紫・黒灰・紫・黒色磁物粒子・細砂粒	10-00018・20・21と同一個体		
10-00020	弥生土師器 線 鉢	2区3面 破片	厚0.5	紫・紫・黒灰・紫・黒色磁物粒子・細砂粒	10-00018・19・21と同一個体		
10-00021	弥生土師器 線 鉢	2区3面 破片	厚0.4	紫・紫・黒灰・紫・黒色磁物粒子・細砂粒	10-00018・19・20と同一個体		
20-00002	石器 打製石剣	2区3面 破片	幅6.3・厚2.7・重143		粗粒輝石安山岩	断面を撰す。20-00005をタイプとする石剣の標榜品か。長さ比べて、幅が広い。	
20-00003	石器 打製石剣	2区3面 完形	幅6.6・厚3.9・重340		粗粒輝石安山岩	断面を撰す。20-00005をタイプとする石剣の標榜品か。長さ比べて、幅が広い。	
20-00004	石器 打製石剣	2区3面 完形	長18.4・幅9.7・厚2.0・重306		粗粒輝石安山岩	石剣の標榜品。切断後の標榜が顕著。下部半部の刃部調製が顕著。	

##### 2区2下面大溝出土遺物出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 通存度	重量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	調査	
10-00022	弥生土師器 線 鉢	覆土内 破片	厚7.0	紫・紫・鈍黄・紫・細砂粒	条痕文か条痕文状の標榜が頸中位より上平に認められる。	2点の接合	
10-00023	弥生土師器 線 鉢	覆土内 破片	厚0.7	紫・紫・黒灰・紫・細砂粒多	風化が顕著。頸部に9本一単位位の刺糸状の痕跡が認められる。		
20-00005	石器 打製石剣	覆土内 部分欠損	長14.0・幅9.0・厚2.2・重312		粗粒輝石安山岩	標榜呈する加工。断面を撰し基部は鈍角な成形。刃部側は厚減が認められる。	
20-00006	石器 打製石剣	覆土内 完形	長25.8・幅10.4・厚3.5・重396		粗粒輝石安山岩	断面を撰す。若狭部分の加工が顕著。使用痕等は内面では認められなかった。	

## 第3節 発見された遺構・遺物に就いて

## 2区2面下第1号溝状遺構出土遺物

遺物番号 図収番号	遺物種類	出土層位 遺存状況	量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	概要
20-00024	赤生土器 壺	覆土内7 破片	厚0.7		腹・蓋・筒筒・蓋・細砂粒	肩部に横線を施し、上位に山形文、下位に5一単位のスラット文を採る波状文を施す。
20-00007	石製 打製石製	覆土下層 部分欠損	長14.4・幅9.6・厚 2.6・重436		粗粒輝石安山岩	断面を採る。20-00006をタイプとする石製の輪飾品か。長さ比べて、幅が広い。
20-00008	石製 打製石製	覆土下層 破片	厚3.6・重419		粗粒輝石安山岩	断面を採る。周辺の加工が20-00006の骨柄部分に類似する。
20-00009	石製 打製石製	覆土下層 破片	厚2.6・重380		粗粒輝石安山岩	断面を採る。割片割縁段のリングからは、大型製品とは扱われない。

## 2区内出土木製品

遺物番号 図収番号	遺物種類	出土層位 遺存状況	量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	概要
30-00001	木製品 板	6集石坑 穴形	長49.3・径8.1		樹種・スギ	上半部は自然風化による腐身。先端は6面による横成。先端は鋭角。
30-00002	木製品 板	6集石坑 穴形	長40.5・径11.2		樹種不詳	上半部は自然風化による腐身。先端部は片面加工。先端は欠損する。
30-00003	木製品 板	6集石坑 穴形	長29.1・径5.5		樹種・クヌギ	上下不詳。片面加工部は3面削りが認められる。図上位側は6面加工だが、鈍角である。
30-00004	木製品 板	6集石坑 穴形	長25.0・径5.0		樹種・ヒノキ属	両端を加工。図中下位側は鋭く加工し、上位側は、加工が鈍角である。
30-00005	木製品 板	6集石坑 穴形	遺存長19.3・遺存径 8.4		樹種・クヌギか	先端部だけの遺存。6面の加工が認められる。比較的大きい。
30-00006	木製品 板	遺構不詳	長41.3・径9.2		樹種・ヒノキ	上半部は自然風化による腐身。全体は鈍角な加工だが、基部は鈍角に加工されている。
30-00007	木製品 板	遺構不詳	遺存長37.4・径6.4		樹種・スギ	上半部は自然風化による腐身。先端部は1面削成の片面加工。
30-00008	木製品 板	遺構不詳	遺存長43.6・径5.6		樹種・モモ	上半部は欠損している。先端加工は5面。調査後の乾燥により、中心はひび割れ状態。
30-00009	木製品 板	遺構不詳	長59.3・径3.5(7.4)		樹種不詳	上半部の縁子は不分明。下半部の筋周辺に剥皮が遺存する。先端は鈍角。
30-00010	木製品 板	遺構不詳	遺存長16.3・径3.3		樹種・キリ	上位は欠損する。片面加工の先端は鋭角か。
30-00011	木製品 板	遺構不詳	遺存長42.3・節部径 3.5		樹種・タケ	竹杖。先端は片面加工。上位側には、覆けている。
30-00012	木製品 板	遺構不詳	長28.9・幅5.3		樹種・クリ	杖の一部か。加工面は概略程度にしか残存しない。半完成状態の加工か。不詳不分明。

## 2区5面下出土遺物

遺物番号 図収番号	遺物種類	出土層位 遺存状況	量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	概要
30-00013	木製品 漆器	遺構不詳 部分欠損	長97.3・幅33.0・厚3.0		モミ属	

## 3区積石遺構出土遺物

遺物番号 図収番号	遺物種類	出土層位 遺存状況	量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	概要	
20-00025	瓦 瓦	積石中 破片	厚1.6		薄・黄・灰(灰・黄・黄)・黄・白色 の粒子	半楕作り。凹面に粘土板割り取り。凸面は縦位の 地でをを施す。側部部取り3段。	伏原産 瓦-001
20-00026	瓦 瓦	積石中 破片	厚1.5		薄・黄・灰・黄・黒色粒子・シルト 粒子	一枚作り。黄文。凸面は側で整形。布目はやや粗 い。端部部取り1段。	伏原産 瓦-002
20-00027	瓦 瓦	積石中 破片	厚1.9		薄・黄・灰(灰・黄)・黄・白色粒子	一枚作り。凹面に粘土板割り取り。凹面は布目 の正装が少ない。凸面は粗い半楕作り。	伏原産 瓦-003

## 4区第1号溝状遺構出土遺物

遺物番号 図収番号	遺物種類	出土層位 遺存状況	量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	概要	
10-00028	瓦 壺	覆土内 上平欠損	高6.8		薄・黄・灰白・黄・白色微粒子	底径は広く、断面三角形の高台を備える。横縁石 部は成形。付高台。	伏原産
10-00029	瓦 壺	覆土内 1/3破片	口(13.7)・高2.9・底 (9.4)		薄・黄・黄粒・黄・白色粒子・赤褐 色粒子・白色微粒子	底径の広い足高高台。肩部は非常に浅い。横縁石 部は成形。付高台。	伏原産
10-00030	瓦 内扉	覆土内 破片	厚(18.8)		薄・黄・黄粒・黄・黒色微粒子・ 白色粒子・赤褐色粒子	横縁石部は成形。付高台。凹面に磨きを施し 黒色に塗る。	不詳
20-00031	土製品 土製	覆土内 部分欠損	長4.0・径1.8・孔径 0.65		灰・黄・黄・黄・黄・微砂粒・赤 褐色粒子	図中側部部取りを欠損する。直線的な紡錘形を呈 する。	不詳
30-00014	木製品 板	打製 穴形	長92.6・幅7.7		樹種・クリ	建築部材の利用か。断面三角形を基調。先端部の 加工は鋭く細い。	
30-00015	木製品 板	打製 穴形	長70.8・幅5.9		樹種・クリ	建築部材の利用か。断面三角形を基調。先端は欠 損する。	
30-00016	木製品 板	打製 穴形	長63.5・幅6.8		樹種・クリ	建築部材の利用か。先端部は二重の加工になっ ている。	
30-00017	木製品 不詳	打製 穴形	長25.3・幅7.6		樹種・クリ	建築部材の利用か。両端は先端加工が施されてい ない。	
30-00018	木製品 板	打製 穴形	長44.8・幅6.5		樹種・クリ	建築部材の利用か。14~16に比較して極度に細い。 先端部は二重の加工になっている。	

#### 第4章 中里見中川遺跡

30-00019 29	木製品 杭	打設 定形	長44.5・幅4.7	縦横・タリ	建築部材の利用か。先端側の加工は鋭く無い。上部は腐食による埋身か。
30-00020 28	木製品 杭	打設 定形	長131.9・幅6.5	縦横・タリ	軒材の平截葺葺。先端部は二重の加工になっている。
30-00021 29	木製品 杭	打設 定形	長87.9・幅7.1	縦横・タリ	建築部材の利用か。屈曲している。先端部には斜り込みが認められる。
30-00022 29	木製品 杭	打設 定形	長93.6・幅7.9	縦横・モモ	5年物の自然木を利用している。先端はやや斜角。上半部全体に腐食が残る。

#### 4区第2号溝状遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺構 遺存深度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	調査
10-00032	磁器 青磁碗	覆土内か 破片	口(16.0)	濃・紺・灰・灰オリーブ・密	鍔手蓮弁文碗。口縁部は比較的直線的に立ち上がる。底弁は彫りか。	
10-00033	磁器 青磁碗	覆土内か 破片	口(16.0)	濃・紺・灰・灰オリーブ・密	鍔手蓮弁文碗。口縁部は彫りかを帯び、口唇部は尖る。底弁は大きく、凹弁を配する。	
10-00034	乳器 土環	覆土内 破片	口(9.8)・高(2.9)・ 底(6.0)	灰・黄・黄褐色・赤・黒色紅褐色粒子・ 白色微粒子	小瓶りの環。立ち上がりはやや丸味を帯びる。口縁部は凹輪成形。底部は凹輪未切り。	底不詳
10-00035	乳器 土環	覆土内 破片	口(10.0)・高(3.1)・底 (5.6)	灰・黄・黄褐色・赤・黒色紅褐色粒子・ 白色微粒子・赤褐色粒子	小瓶りの環。立ち上がりはやや丸味を帯びる。口縁部は凹輪成形。底部は凹輪未切り。	秋岡・東附
10-00036	乳器 土環	覆土内 1/2残	口(10.8)・高(3.2)・底 5.8	濃・赤・灰・黄・黒色紅褐色粒子・ 白色微粒子	小瓶りの環。立ち上がりはやや丸味を帯びる。口縁部は凹輪成形。底部は凹輪未切り。	秋岡・東附
10-00037	乳器 土環	覆土内 1/2残	口(14.8)・高(5.8)・底 (7.2)		口縁部は直線的。口縁部は凹輪成形。付高台。器内面に磨きを施し黒色に焼す。	
10-00038	乳器 土環	覆土内 破片	口(29.1)	濃・赤・灰・密・微粒黒色粒子	口縁部は外傾する。器作付後輪縁成形(右回転)。	秋岡産

#### 4区第3号溝状遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺構 遺存深度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	調査
10-00039	磁器 土環	覆土内 破片	底(7.6)	濃・赤・灰・密・黒色微粒子・白色微粒子	輪縁右回転成形。口縁部・体部欠損。付高台。高台高は異なる。	秋岡産
10-00040	磁器 土環	覆土内 破片	底(6.0)	濃・赤・灰・密・黒色微粒子・白色微粒子	底面内外面に磨きしているが剥離不全。輪縁右回転成形。底部は凹輪未切り。墨書-1	秋岡西部 東附
10-00041	磁器 土環	覆土内 破片	口(21.2)	濃・赤・灰・密・黒色微粒子・白色微粒子	口唇は大きい。輪縁右回転成形。天井部は凹輪未切り。	秋岡産
30-00023	木製品 か 不詳	覆土内 破片	残存長23.6・径2.0	縦横・タリ	顕著な加工痕は認められない。	
30-00024	木製品 か 不詳	覆土内 破片	残存長11.2・幅1.3	縦横・タリ	顕著な加工痕は認められない。	
30-00025	木製品 か 不詳	覆土内 破片	残存長10.6・幅1.2	縦横・タリ	顕著な加工痕は認められない。	
30-00026	木製品 か 不詳	覆土内 破片	残存長35.2・幅3.5	縦横・タリ	顕著な加工痕は認められない。	
30-00027	木製品 か 不詳	覆土内 破片	残存長18.1・径2.3	縦横・タリ	顕著な加工痕は認められない。	
30-00028	木製品 か 不詳	覆土内 破片	残存長21.8・径2.7	縦横・ケヤキ	先端部に帯りが認められる。	
30-00029	木製品 榑 榑築部材	覆土下層 定形	長101.3・幅6.6	縦横・タリ	角材加工。器中下層部に削穴を穿り込む。建物の部材と推定される。	
30-00030	木製品 杭	覆土下層 定形	長103.3・幅4.1	縦横・タリ	均一な太さを有している。器中上層は枝分かれの部分を利用する状態。建築部材か。	
30-00031	木製品 杭	覆土下層 定形	残存長90.5・径3.3	縦横・ヤマブツ	均一な太さを有している。先端部分に加工が認められる。建築部材か。	
30-00032	木製品 杭	覆土下層 部分欠損	口18.2・高1.6・底 28.2	縦横・ケヤキ	径目材を使用している。器高は浅く口径は大きい。	

#### 4区第5号溝状遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺構 遺存深度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	調査
10-00042	陶器 土環	覆土下層 2/3残	口(15.0)・環高4.3・ 環底7.6	濃・赤・灰・密・粗黒色微粒子・黒色 微粒子・白色微粒子	厚肉は直線的に立ち上がる。輪縁右回転成形。高台欠損(付高台)。	秋岡産
30-00033	木製品 か 不詳	覆土下層 部分欠損	残存長51.3・幅7.0	縦横・カマツマ属	片刃箭筒の作り。先端は丸く開は長柄筒に向かい窄まる。機織部材か。	

#### 4区第2号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺構 遺存深度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	調査
10-00043	縄文土器 深鉢か	覆土 破片	底(9.0)	濃・赤・灰黄褐色・赤・粗粒砂	底面の立ち上がり部は歪みが認められる。深鉢が疑はれ然ししない。	

#### 4区西テラス出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺構 遺存深度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	調査
30-00034	木製品 か 不詳	直上面 部分欠損	残存長78.0・幅4.2		「Y」字状の枝部分。腐食は失っている。	



第4章 中里見中川遺跡

10-00069	須恵器 小形壺	床直面上 1/3残	口(12.0)・高(9.9)	胎・軟・灰黄・並・黒色鉱物粒子・赤褐色粒子	球状を呈し、胴部上半に最大径を有する。口縁部は短く突起し、直内径後縁部(右)に凹む。	
10-00070	土師器 壺	床直面上 1/3残	口(19.5)・胴(21.6)	胎・並・灰黄褐・並・白色微粒子・黒色鉱物粒子	口縁部は球形部から外縁して立ち上がる。胴部下半は縦位。肩部は縦位の置無で直す。	
10-00071	土師器 壺	床直面上 1/3残	口(25.2)・胴(27.2)	胎・軟・浅黄褐・透明鉱物粒子・石英・粗粒砂	口縁部は球形部から短く立ち上がる。胴部下半は縦位。肩部は縦位の置無で直す。	
10-00072	須恵器 小形壺	床直面上 破片	口24.4	胎・硬・灰黄・並・黒色鉱物粒子・白色微粒子	内々尖味の口縁部は最大径部分に帯を呈する。紐作り後縁部(右)に凹む。	
10-00073	須恵器 小形壺	甕土内 破片	厚0.8	胎・並・鈍黄緑・並・透明鉱物粒子・黒色鉱物粒子	外縁部は平直(右)面に凹む形状の帯を貼る。詳細な作りは不詳。	
10-00074	須恵器 壺	甕土内 破片	底(7.4)	胎・並・灰黄褐・並・白色微粒子・黒色鉱物粒子	紐作り。外面は縦位の置無り。内面は縦輪形(無)で認められる。	
10-00075	土師器 壺	甕土内 床直層	底(8.6)	胎・並・鈍黄緑・並・赤褐色粒子・白色微粒子・黒色鉱物粒子	紐作り。外面は縦位の置無り。内面は縦位の置・物無で認められる。	
20-00014	土師器 壺	甕土内 完存	長29.1・幅11.9・厚10.2	粗粒砂石安山岩・重4580	顯著な加工痕・使用痕は認められない。比喩によるひび割れが認められる。	

5区第5号住居跡出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 遺存層	度量 目(cm) 目(g)	構成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	備考
10-00076	須恵器 環	床直層 2/3残	口10.5・高3.0・底5.5	胎・並・鈍黄緑・並・赤褐色粒子・砂粒	胎厚は厚い。立ち上がりは直線的。縦輪右回転成型形。底部は手持ち残り。	不詳
10-00077	須恵器 環	床直層 完形	口10.8・高3.3・底6.0	胎・並・鈍黄緑・並・赤褐色粒子・砂粒	胎厚は厚い。立ち上がりは直線的。縦輪右回転成型形。底部は手持ちも残る。10-00076同。	不詳
10-00078	須恵器 内黒焼	甕土内 2/3残	口(12.3)・高4.8・底(7.0)	胎・並・灰黄褐・白色粒子・黒色鉱物粒子	胎厚は厚い。口縁部は丸味を帯び立ち上がる。縦輪右回転成型形。行高台。	不詳
10-00079	須恵器 内黒焼	床直層 高台欠損	口12.3・环高4.8・底5.9	胎・並・灰黄・並・白色粒子・黒色鉱物粒子	胎厚は厚い。口縁部は直線的。縦輪右回転成型形。行高台。甕内面に磨きを施し黒色に直す。	不詳
10-00080	須恵器 内黒焼	甕土内 部分欠損	口14.2・环高5.5・底5.0	胎・並・鈍黄緑・並・黒色鉱物粒子	胎厚は短く口縁部は直線的。縦輪右回転成型形。行高台。甕内面に磨きを施し黒色に直す。	不詳
10-00081	角輪陶器 片輪軸	甕土内 破片	口(12.3)	胎・硬・灰白・密 調整はオリブグリーン	直線的に強く開口。口縁部の口唇部が強く外反する。縦輪左回転成型形。胎は段掛け。	中世瀬戸産か
10-00082	土師器 壺	甕土内 破片	口(25.2)	胎・厚・鈍橙・粗粒片岩・白色微粒子・黒色鉱物粒子	比重が高い。口縁部は傾やかに外反する。紐作り後縁部(右)に凹む。	吉澤産か
10-00083	土師器 壺	甕土内 破片	胴最大径(22.0)	胎・並・鈍橙・粗・黒色鉱物粒子・粗粒砂	丸味を帯びて立ち上がる。紐作り(溝輪輪)。外面は縦位の置無り。内面は置無で直す。	
10-00084	土師器 壺	甕土内 破片	胴最大径(26.6)	胎・並・鈍黄緑・並・石英露片岩 粒・黒色鉱物粒子	丸味を帯びて立ち上がる。紐作り(溝輪輪)。外面は縦位の置無り。内面は置無で直す。	
10-00085	土師器 甕土内 破片	甕土内 破片	長径5.7・短径1.5	胎・並・浅黄・並・白色微粒子・白色微粒子	縦輪産土師器(甕土)の転用。紐作り後縁部(右)に凹む。縦位の置無りを施す。	
10-00086	須恵器 片輪軸	床直層 トリヘカ	厚0.7	中・並・灰白・並・白色微粒子・粗粒砂	甕内面に磨きを施し見出し。須恵器★の転用。高台は付け高台。	
10-00087	土師器 甕土内 破片	甕土内 破片	口(25.6)・胴(29.8)	胎・並・鈍橙・並・石英・黒色鉱物粒子・赤褐色粒子	丸味を帯びて立ち上がる。紐作り(溝輪輪)。外面は縦位の置無り。内面は置無で直す。	
10-00088	土師器 羽釜か	床直層 1/3残	底(9.0)	胎・軟・灰黄褐・並・黒色鉱物粒子・赤褐色粒子	丸味を帯びて立ち上がる。紐作り。外面は縦位の置無り。内面は置無で直す。	秋庭産か

5区第6号住居跡出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 遺存層	度量 目(cm) 目(g)	構成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	備考
10-00089	須恵器 環	床直層 部分欠損	口19.6・高2.9・底3.6	胎・並・鈍黄緑・並・黒色鉱物粒子・赤褐色粒子・粗石粒	胎厚は厚い。口唇部が短く外反する。縦輪右回転成型形。底部は回転成形。	不詳
10-00090	須恵器 環	甕土内 1/3残	口(13.2)・高(4.2)・底(6.3)	胎・並・黄緑・並・黒色鉱物粒子・白色微粒子・赤褐色粒子	体部は丸味を帯び口唇部が外反する。縦輪右回転成型形。部分欠損(高台付)。	不詳
10-00091	須恵器 内黒焼	床直層 1/3残	口(9.4)・高3.3・底(2.2)	胎・軟・浅黄褐・並・黒色鉱物粒子・赤褐色粒子・粗石粒	体部から口唇部まで丸味を帯びる。縦輪右回転成型形。甕内面に磨きを施し黒色に直す。	不詳
10-00092	須恵器 内黒焼	床直層 1/3残	口(10.5)・高4.8・底(4.1)	胎・並・鈍黄緑・並・黒色鉱物粒子・白色微粒子・赤褐色粒子	胎厚は立ち上がりは直線的。縦輪右回転成型形。行高台。胎は珪毛直す。	不詳
10-00093	角輪陶器 片輪軸	床直層 1/4残	口(14.0)・高4.9・底(9.5)	胎・硬・灰白・密 調整は透明から白濁	胎厚は直線的に立ち上がる。縦輪右回転成型形。行高台。胎は珪毛直す。	東瀬戸産か
10-00094	土師器 片輪軸	甕土内 完形	長2.6・径1.4・最径2.0	胎・並・鈍黄緑・並・黒色鉱物粒子・白色微粒子・赤褐色粒子	俵型の輪軸片輪か。丁寧な仕上げになっている。	不詳
20-00015	土師器 不詳品	甕土内 部分欠損	長16.7・幅8.4・厚3.7・重148	角閃石安山岩	全体に磨かれた状態。片面中央に凹が認められる。工具の片輪(か)底も認められる。	

5区第7号住居跡出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 遺存層	度量 目(cm) 目(g)	構成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	備考
10-00095	須恵器 内黒焼	甕土内 2/3残	口13.0・环高4.3・底7.0	胎・軟・浅黄緑・並・黒色鉱物粒子・赤褐色粒子・粗石粒	高台欠損後縁に転用。縦輪右回転成型形。行高台。甕内面に磨きを施し黒色に直す。	不詳

5区第8号住居跡出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 遺存層	度量 目(cm) 目(g)	構成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	備考
10-00096	須恵器 壺	床直層 2/3残	口19.1・高2.4・底5.9	胎・軟・浅黄緑・並・黒色鉱物粒子	立ち上がりは胎厚が薄く直線的。縦輪右回転成型形。底部は回転成形。	秋庭産か

## 第3節 発見された遺構・遺物に就いて

10-00097 32	須恵器 床直層	口9.9・高2.4・底6.4	酸・軟・浅黄褐色・黒色鉱物粒子・透明鉱物粒子	立ち上がりは器厚の厚く直線的。轆轤右回転成整形。轆轤未成形。	不詳
10-00098 32	須恵器 部分欠損	口10.1・高2.5・底5.9	酸・軟・灰黄・黒色鉱物粒子・高直石炭	立ち上がりは丸味を帯び、口縁部は開く。轆轤右回転成整形。底部は回転赤褐色。	不詳
10-00099 32	須恵器 部分欠損	口12.4・环高4.3・环底7.2	酸・並・浅黄褐色・並・黒色鉱物粒子・白色粒子・白色微粒子	体部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成整形。高台欠損(付高台)。	秋田産か
10-00100 32	須恵器 2/3残	口13.0・环高4.5・环底7.2	酸・並・鈍褐色・並・黒色鉱物粒子・白色粒子・白色微粒子	体部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成整形。高台欠損(付高台)。	秋田産か
10-00101 32	須恵器 2/3残	口(13.4)・环高4.0・环底(7.4)	中・並・鈍褐色・並・黒色鉱物粒子・白色粒子・白色微粒子	口縁部の器厚は薄く直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。高台欠損(付高台)。	秋田産か
10-00102 32	須恵器 2/3残	口(13.8)・环高4.0・环底7.4	中・並・浅黄褐色・並・黒色鉱物粒子・高直石炭	口縁部は外張り・立ち上がる。轆轤右回転成整形。高台欠損(付高台)。	不詳
10-00103 32	須恵器 2/3残	床直層 1/2残	酸・並・鈍黄褐色・黒色鉱物粒子・シルト粒	口縁部は外反する。轆轤右回転成整形。高台欠損(付高台)。	不詳
10-00104 32	須恵器 部分欠損	口(14.3)・高(5.7)・底(7.4)	酸・並・浅黄褐色・並・黒色鉱物粒子・シルト粒子	強く外傾して立ち上がり、口唇部は外反する。轆轤右回転成整形。付高台。	不詳
10-00105 32	須恵器 高台欠損	口14.4・环高4.1・环底(7.2)	酸・並・浅黄褐色・並・黒色鉱物粒子・透明鉱物粒子	器部は丸味を帯び、体部は外傾し口縁部は外反する。轆轤右回転成整形。高台欠損。	秋田産か
10-00106 32	須恵器 2/3残	口(14.4)・高(6.6)・底(7.2)	中・並・灰黄・並・黒色鉱物粒子・赤褐色粒子	体部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部は器厚は薄く直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。	不詳
10-00107 33	須恵器 部分欠損	口14.8・高6.1・底8.0	酸・硬・浅黄褐色・並・黒色鉱物粒子・透明鉱物粒子	体部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部は器厚は薄く直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。	秋田産か
10-00108 33	須恵器 甕土内か	口(15.6)・环高(4.5)・底(7.6)	酸・並・鈍褐色・並・黒色鉱物粒子・白色微粒子	強く外傾して立ち上がり、口唇部は外反する。轆轤右回転成整形。付高台。	不詳
10-00109 33	須恵器 甕土内か	口(20.4)・环高(6.7)・底(8.0)	酸・並・鈍黄褐色・並・黒色鉱物粒子・白色粒子	体部は丸味が強い。口縁部は器厚は薄く直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。	不詳
10-00110 33	須恵器 甕土内か 脚部欠存	底11.0	酸・並・鈍褐色・並・白色微粒子・粗砂粒	「ハ」の字に開脚する足高台。轆轤右回転成整形。	不詳
10-00111 33	須恵器 床直層 破片	底7.0	酸・並・鈍褐色・並・黒色鉱物粒子・白色粒子	断面三角形片状を呈する高台片。	不詳
10-00112 33	須恵器 床直層 全層	底7.1	中・硬・灰白・並・白色微粒子	断面三角形片状を呈する高台片。	秋田産か
10-00113 33	須恵器 内皿境	口(8.8)・高(3.9)・底(5.3)	並・並・黒馬・並・黒色鉱物粒子・白色粒子	体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。付高台。	不詳
10-00114 33	須恵器 内皿境 口唇一次	口9.9・环底3.0・环底5.8	酸・並・鈍褐色・並・黒色鉱物粒子・白色微粒子	体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。高台欠損(付高台)。	不詳
10-00115 33	須恵器 内皿境 1/2残	口(9.9)・环高2.3・环底6.2	酸・並・鈍褐色・並・黒色鉱物粒子・白色微粒子	体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。高台欠損(付高台)。	不詳
10-00116 33	須恵器 床直層 内皿境	口(8.9)・环高3.3・环底2.6	酸・並・鈍褐色・並・黒色鉱物粒子・白色粒子・腐炭屑片	体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。高台欠損(付高台)。	不詳
10-00117 33	須恵器 床直層 1/2残	口10.0・高3.7・底5.2	中・並・鈍黄褐色・並・黒色鉱物粒子・透明鉱物粒子	体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。高台欠損(付高台)。	不詳
10-00118 33	須恵器 内皿境 高台欠損	口(11.1)・环高3.6・环底5.8	酸・並・鈍黄褐色・並・黒色鉱物粒子・白色粒子	体部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成整形。高台欠損(付高台)。	不詳
10-00119 33	須恵器 内皿境	口(13.3)・高5.4・底7.1	酸・並・鈍黄褐色・並・黒色鉱物粒子・白色粒子	体部は傾れ、口縁部は直線的に立ち上がる。器厚は薄く。轆轤右回転成整形。付高台。	不詳
10-00120 33	須恵器 内皿境 部分欠損	口13.4・环高4.7・环底6.3	酸・並・黄灰・並・黒色鉱物粒子・白色粒子	体部は傾れ、口縁部は直線的に立ち上がる。器厚は薄く。轆轤右回転成整形。高台欠損。	不詳
10-00121 33	須恵器 内皿境 1/2残	口(14.4)・高(6.3)・底(7.8)	中・並・鈍黄褐色・並・黒色鉱物粒子・白色粒子	立ち上がりは丸味を帯び、口縁部は弱く外反する。轆轤右回転成整形。付高台。	不詳
10-00122 33	須恵器 床直層 2/3残	口13.6・高5.6・底7.6	酸・並・鈍黄褐色・並・黒色鉱物粒子・白色粒子・シルト粒	体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。付高台。	不詳
10-00123 33	須恵器 床直層 2/3残	口(14.4)・环高4.8・环底(7.6)	酸・並・鈍黄褐色・並・黒色鉱物粒子・白色粒子	器厚は薄く直線的に立ち上がる。轆轤目は強い。轆轤右回転成整形。高台欠損(付高台)。	不詳
10-00124 33	須恵器 床直層 2/3残	口(14.8)・环高5.7・环底(6.0)	酸・並・鈍黄褐色・並・黒色鉱物粒子・白色粒子	体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。高台欠損(付高台)。	不詳
10-00125 33	須恵器 内皿境 1/2残	口(14.8)・环高5.4・环底7.8	酸・並・鈍黄褐色・並・黒色鉱物粒子・白色粒子	体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。高台欠損(付高台)。	不詳
10-00126 33	須恵器 内皿境 1/2残	口(15.4)・环高(6.1)・底(7.5)	酸・並・鈍黄褐色・並・黒色鉱物粒子・白色粒子	体部は丸味が強い。口縁部は器厚は薄く直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。	不詳
10-00127 33	須恵器 内皿境 1/4残	口(16.3)・高(6.9)・底(8.3)	酸・並・鈍黄褐色・並・黒色鉱物粒子・白色粒子・赤褐色粒子	体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。器厚は薄く。轆轤右回転成整形。付高台。	不詳
10-00128 33	須恵器 甕 破片	口(16.6) 胴径大(18.8)	中・軟・浅黄褐色・並・黒色鉱物粒子・白色微粒子	器厚は強い。口縁部は傾斜状から強く強く外反する。器作り後轆轤整形(右回転)。	秋田産か
10-00129 33	須恵器 羽釜 1/2残	口(22.3)・脚(26.6)	酸・並・鈍褐色・並・黒色鉱物粒子・白色粒子・赤褐色粒子	丸味を強く帯びた器形。縦径の寛がりの特長。器作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼付。	秋田産か
10-00130 33	須恵器 羽釜 破片	口(25.4)・脚(29.6)	酸・軟・浅黄褐色・並・黒色鉱物粒子・高直石炭	丸味を強く帯びた器形。縦径の寛がりの特長。器作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼付。	秋田産か
10-00131 34	須恵器 羽釜 破片	口(26.6)・脚(30.1)	酸・並・鈍黄褐色・並・黒色鉱物粒子・赤褐色粒子	丸味を強く帯びた器形。縦径の寛がりの特長。器作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼付。	秋田産か
10-00132 34	須恵器 甕 1/3残	底7.5	酸・並・鈍黄褐色・並・黒色鉱物粒子・透明鉱物粒子・赤褐色粒	器部は丸味を帯び立ち上がり、胴上部にたつる。器作り後轆轤整形。	不詳
10-00133 34	須恵器 甕 1/4残	底5.8	酸・並・鈍黄褐色・並・黒色鉱物粒子・赤褐色粒子・白色粒子	器部は中や直線的に開いた状態で立ち上がる。器作り後轆轤整形。	不詳
10-00134 34	須恵器 鉢 破片	底(7.8)	並・弱・灰白・密・軸筒は透明・白濁	轆轤右回転成整形。付高台。軸筒は嵌め付け。	不詳
20-00016 20	焼片 不詳	長7.7・幅9.0・厚3.1・重282	安山岩	表面が熱融に融変する。	不詳

## 第4章 中里見中川遺跡

40-00010 31	鉄押	床直層か 破片	長9.6・幅5.4・厚5.4 ・通900	黒鉄色を呈する鉄押。不純物の含有が多いのか、 比重はやや軽い。	
----------------	----	------------	-------------------------	------------------------------------	--

## 5 区第2号伊跡出土遺物

遺物番号 図取番号	遺物種 器種	出土層位 保存状況	量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	備考
10-00135 31	土製品 甕口	埋土内 完整	残存長14.2・幅6.4・ 孔径3.4		生地はシルト質か。	挿入口が残存する。残骸の付着範囲が挿入口近く まで達している。使用の痕跡が。
10-00136 34	土製品 甕口	埋土内 上端欠損	残存長14.2・幅6.2・ 孔径3.2		生地はシルト質か。	埴輪の付着範囲の外側に成る一酸化亜鉛が認めら れるが、135に遺存長が長く使用の痕跡が。
10-00137 34	土製品 甕口	埋土内 上端欠損	残存長19.2・幅5.6・ 孔径3.9		生地はシルト質か。	埴輪・還元一酸化亜鉛の幅が前者より厚く広範であ る。使用部分が異なるのか。
40-00011 35	鉄押	砂内	重69.8		黒鉄色に部分的に赤・赤褐色に色変 した部分が認められる。	出土時の鉄押か。既出物と考えられる。
40-00012 35	鉄押	破片	重19.6			
10-00138 5 10-00154	伊跡				幅3cm前後、長さ20～30cm程の紐状に仕上げた、スサを多く含ませたシルト質の粘土を積み上げた伊跡の破片。砂内面側は、が本 体の部位により異なるが、土砂成分を多く含む。鉄の錆着した様な面の破片に二面がある。 又、破片部分には、粘土層の積み上げ方向に、直線的な面を持つものと斜やかに曲面を持つ二面がある。このは、二面は、伊跡の 平面形状を示していることが分かるが、全体が細分化された状態のため、復元までには至れない。	
10-00138～10-00141 10-00148～第36図版	第35図版	10-00142～第40図版	10-00143～10-00146～第36図版	10-00152～10-00154～第37図版		

## 6 区第1号住居跡出土遺物

遺物番号 図取番号	遺物種 器種	出土層位 保存状況	量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	備考
10-00155 41	須恵器 甕	床直層 部分欠損	□19.1・高2.6・底4.9	酸・黄・鈍黄・赤・赤褐色粒子・黒 色鉱物粒子・白色微粒子	体部は丸味を帯び立ち上がる。口縁部は外反する。 縁は右回転成型形。底部は回転削り。	不詳
10-00156 41	須恵器 甕	床直層 部分欠損	□19.4・高2.2・底5.7	酸・黄・鈍黄・赤・白色微粒子・白 色微粒子・黒色鉱物粒子	体部は丸味を帯び立ち上がる。縁は右回転成型形。 底部は回転削り。	不詳
10-00157	陶物類 灰釉陶 破片	覆土内 破片	高(8.6)	還元・白灰・赤	高台は太い。日月状を呈する。	不詳
10-00158 41	須恵器 破片	床直層 破片	□(21.0)・高(20.4)	酸・赤・明赤・黄・黒色鉱物粒子・ 赤褐色粒子・白色微粒子	器厚は厚く短い口縁部が外反する。紐作り後縁 輪成型形か。	吉井産か
10-00159 41	須恵器 羽蓋	覆土内 1/3残	□(19.7)・高(23.3)	酸・黄・鈍黄・赤・黒色鉱物粒子・白 色微粒子・高嶺石英	器厚は比較的薄い。紐作り後縁輪成型形(右回転 削)。器は貼付け。	吉井産か
10-00160 41	須恵器 羽蓋	床直層 破片	□(19.0)・高(23.3)	酸・黄・明赤・赤・黒色鉱物粒子・ 白色微粒子・高嶺石英	胴の直下に最大径を有する。紐作り後縁輪成型形(右 回転)。器は貼付け。	秋間産か
10-00161 41	須恵器 羽蓋	覆土内 破片	□(21.2)・高(26.0)	酸・黄・明赤・赤・黒色鉱物粒子・ 白色微粒子・高嶺石英	胴の直下に最大径を有する。紐作り後縁輪成型形(右 回転)。器は貼付け。	秋間産か
10-00162 41	須恵器 羽蓋	床直層 破片	□(23.0)・高(25.0)	酸・黄・鈍黄・赤・赤褐色粒子・白 色微粒子・黒色微粒子	胴は高嶺的に立ち上がる。紐作り後縁輪成型形(右回 転)。器は貼付け。	秋間産か
10-00163 41	須恵器 羽蓋	覆土内 破片	□(22.3)・高(26.0)	酸・黄・鈍黄・赤・白色微粒子・黒 色微粒子・粒石	胴の直下に最大径を有する。紐作り後縁輪成型形(右 回転)。器は貼付け。	吉井産か
10-00164 41	須恵器 羽蓋	床直層 破片	□(23.0)・高(27.1)	酸・黄・赤・黄・赤・白色微粒子。黒 色微粒子・赤褐色粒子	胴は丸味を帯び、口縁部は直線的に外反する。紐 作り後縁輪成型形(右回転)。器は貼付け。	吉井産
10-00165 41	土製品 土製品	覆土内 部分欠損	残存長3.6・径1.92・ 口0.80	酸・黄・鈍黄・赤・白色微粒子・赤 褐色粒子	細径状の土製陶を欠損する。	不詳
20-00017 41	石製品 破片	床直層 部分欠損	残存長11.7・幅5.1・ 厚3.3・重269		砥石。砥面は右側が研ぎ減る状態から、右利きで の使用。	不詳

## 6 区第2号住居跡出土遺物

遺物番号 図取番号	遺物種 器種	出土層位 保存状況	量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	備考
10-00166 41	須恵器 甕	覆土内 破片	□(10.4)・高(7.4)・ 底(5.0)	酸・黄・黄・赤・白色微粒子・赤 褐色粒子	胴が強く張り、丸味を帯びて立ち上がる。口縁部 は外反する。縁は右回転成型形。	不詳
10-00167 41	須恵器 甕	床直層 破片	□(11.0)	酸・黄・鈍黄・赤・白色微粒子・赤 褐色粒子	直線的な体部と口縁部の口唇部が強く外反する。 縁は右回転成型形。高台欠損(付高台)。	不詳
10-00168 41	須恵器 甕	床直層 1/3残	高4.8	酸・黄・鈍黄・黒色微粒子・粒石 ・高嶺石英	直線的に立ち上がる。縁は右回転成型形。底部 は回転削り。	不詳
10-00169	陶物類 灰釉陶 破片	覆土内 破片	□(11.8)	還元・白灰・赤	器内面に強い段を有する。縁は右回転成型形。底 部は欠損。	不詳
10-00170 41	須恵器 破片	床直層 破片	□(19.4) 割線(24.5)	酸・黄・鈍黄・赤・細砂・黒色 微粒子	形はなすびで丸味が強い。口縁部は玉粒状に肥厚。 紐作り後縁輪成型形。	吉井・藤 岡産
10-00171 41	須恵器 甕	覆土内 破片	□(22.8)・高(21.6)	酸・黄・鈍黄・赤・黒色微粒子・ 赤褐色粒子	10-00170に類似か。口縁部は強く外反する。紐作 り後縁輪成型形。	不詳
10-00172 42	須恵器 甕	覆土内 破片	□(24.2)・高(23.3)	酸・赤・明赤・黄・黒色微粒子・ 赤褐色微粒子	口縁部は短く外反する。胴位の直線度が顕著。紐 作り後縁輪成型形。	不詳
10-00173 42	須恵器 甕	床直層 破片	□(28.0)・高(27.8)	酸・黄・鈍黄・赤・高嶺石英・黒 色微粒子	口縁部は短く直立し口唇部は肥厚する。紐作り後 縁輪成型形。	吉井産
10-00174 42	須恵器 甕	覆土内 破片	高5.6	酸・黄・鈍黄・赤・高嶺石英・黒 色微粒子・細砂	立ち上がりは強い。胴位の寛がりも深く強い。紐 作り後縁輪成型形。	不詳



## 6区第3号住居跡出土遺物

遺物番号 図収番号	遺物種類	出土層位 遺存状況	度量目 (cm) 重量 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	概要
10-00175	織紋土器 漆鉢	不詳 1/3残	底(8.0)	酸・黄・黄緑・並・白色粒子・粗砂粒	無頸の円輪縁状帯の斜位光沢。底面は割欠、2段縁上1本溝り1本送りか。	
20-00018	石器 打製石斧	不詳 上端欠損	残存長12.6・刃部幅 9.7・重378	粗粒輝石安山岩	上端を欠損。微彫基調か。刃部先端の断面は鈍角で厚縁は認められない。	
10-00176	織紋土器 漆鉢	不詳 1/2残	口(39.0)・高(42.3)	酸・黄・黄緑・鈍黄・並・白色粒子・粗砂粒	無頸の円輪縁状帯の斜位光沢。底面は割欠、2段縁上2本溝り1本送りか。	
20-00019	石器 船石	不詳 完形	長11.7・幅9.5・厚5.2・ 重732	粗粒輝石安山岩	2個側面やや曲った打痕が認められる。下面に厚縁状、上面に集中打痕が認められる。	

## 7区出土遺物

遺物番号 図収番号	遺物種類	出土層位 遺存状況	度量目 (cm) 重量 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	概要
20-00020	石器 打製石斧	包含層 完形	長16.9・刃部幅9.7・ 厚3.4・重512	粗粒輝石安山岩	基部で欠損品の接合。刃部先端の刃先角は鈍角。刃部の厚縁は認められない。	
20-00021	石器 打製石斧	包含層 破片	残存長10.0・上端幅 7.2・重166	粗粒輝石安山岩	上端部の破片。基部での欠損。作りはシャープ。基部で欠損品が認められる。	
20-00022	石器 打製石斧	包含層 完形	長18.0・刃部幅10.0・ 厚2.6・重330	粗粒輝石安山岩	基部で欠損品の接合。刃部先端の刃先角は鈍角。刃部の厚縁は認められる。	
20-00023	石器 打製石斧	包含層 上端欠損	残存長11.0・刃部幅 11.9・重219	粗粒輝石安山岩	先端部の破片。溝い作りのためか刃部の調整は小単位に行っている。刃先角は鈍角。	

## 遺構外

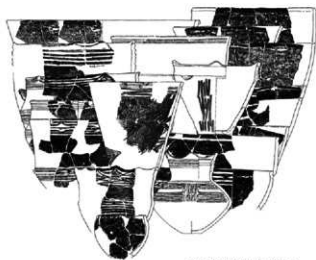
遺物番号 図収番号	遺物種類	出土層位 遺存状況	度量目 (cm) 重量 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	概要
10-00177 42	瓦 瓦片	5区内 破片	厚1.5	還元・灰・黄・白色粒子	端部に斜印「林木」か。残瓦か本瓦(瓦口)かは判別し難い。	
40-00013	陶 鏡 具 部首	5区内 破片	残存長5.4・重14.4		欠損は小さく低い。真鍮製。	
10-00178	軟質陶器 内耳鏡	5区試掘 破片	厚0.9	還元・並(燻焼成)・黒青・白色微粒子・粗砂粒	内耳の耳部。耳は粘土器を挿入挿入後整形。口縁部と体部の境が明確な彫形。	安中産
10-00179	軟質陶器 漆鉢	5区内 破片	厚0.9	還元・並(燻焼成)・黒青・白色微粒子・黒色微粒子・粗砂粒	口唇部の厚縁は顕著。起作り後輪縁整形か。	野野原か
10-00180	軟質陶器 漆鉢	5区内 破片	厚0.9	還元・並(燻焼成)・オリーブ黒・並・白色微粒子・赤褐色粒子	口唇部の厚縁は顕著。起作り後輪縁整形か。	
10-00181	軟質陶器 灰輪花瓶	4区内 破片	厚1.1	酸・黄・黄緑・並・石英質母片岩粒・粗砂粒	18本一単位の脚目を交差施文。起作り後輪縁整形。	吉井産
10-00182	地輪陶器 灰輪花瓶	5区内 破片	胴(6.6)	還元・黄・黄緑・並・輪調はオリーブ灰	頸部に節目の凹刻粗文。仏草散か。	
20-00024 42	石造品 土輪塔	長24.0・幅厚15.2・ 空位13.6・重3970		安山岩	直線的な作りの空筒輪。それぞれに「梵字ア」・「バ」を刻する。	
30-00036 30	漆器 椀	径(8.8)			黒漆を直接塗布。高台の内側に金塗で亀(?)を描く。口縁部はほぼ直立立。	
10-00183	土器 器 要	6区As- B下破片	底(4.8)	酸・並・黄緑・並・粗砂粒・白色粒子	立ち上がりから上位を欠損する。底縁は厚い作り。	
10-00184 42	地輪陶器 灰輪陶器	5区内 破片	口(15.2)	還元・灰・黄・白・青・輪調はオリーブ灰	輪縁は斜位光沢。輪縁回転縁整形。底面は欠損。	
10-00185	硬質陶器 土器 用土	5区内 破片	口(19.6)	還元・灰・黄・並・黒色微粒子・白色微粒子	厚縁は厚い。口縁部は直立し外傾する。輪縁は回転縁整形。底面は持ち手用彫り。	秋間産
10-00186	硬質陶器 土器 用土	5区内 破片	厚0.85	灰・白色粒子	二次的高温被熱に依り断面はかき荒れている。増焼が取り易い。	秋間産
10-00187	硬質陶器 土器 用土	5区内 破片	厚0.55	黄灰・白色粒子	二次的高温被熱に依り断面はかき荒れている。増焼が取り易い。	秋間産
10-00188	硬質陶器 土器 用土	5区内 破片	厚0.6	灰・白色粒子・粗砂粒	二次的高温被熱に依り断面は増焼しかき荒れている。増焼が取り易い。	秋間産
10-00189	硬質陶器 土器 用土	5区内 破片	厚1.1	灰白・白色微粒子・黒色微粒子	二次的高温被熱に依り断面は増焼しかき荒れている。増焼が取り易い。	秋間産
40-00014	鉄器 不詳	残存長5.6・幅0.45・ 重7.0			錆化が顕著。鍛造鉄器。断面矩形を呈する。器種は不分明。	
40-00015	鉄器 不詳	残存長4.6・幅0.4・ 重7.0			錆化が顕著。鍛造鉄器。断面矩形を呈する。器種は不分明。	
40-00016	鉄器 不詳	残存長5.6・幅0.65・ 重11.0			錆化が顕著。鍛造鉄器。断面長方形を呈する。器種は不分明。	
40-00017	鉄器 不詳	残存長5.9・幅0.5・ 重4.0			錆化が顕著。鍛造鉄器。断面長方形を呈する。器種は不分明。	
40-00018	鉄器 不詳	長2.55・幅2.1・厚 1.28			錆化が顕著。鍛造鉄器。	
20-00025 42	石製品 不詳	調査区内 部分欠損	長24.8・幅22.8・高 13.1・重4200		角閃石安山岩	中央を四角く彫り込み、縁の一部に彫り込みを施す。
10-00190 42	土器 土台付 土台	5区C黒 台付裏 下破片	口(15.3)	酸・黄・鈍黄・粗砂粒・黒色微粒子・赤褐色粒子	口縁部中心から網毛彫りを施す。口縁部は真正による凹縁整形。	
10-00191 42	土器 土台付 土台	2位覆土 台付裏 下破片	基部5.1	酸・黄・鈍黄・粗砂粒・黒色微粒子・赤褐色粒子	基部の付加粘土は明確でない。体部は直線的に立ち上がる。10-00190と同一体形か。	
10-00192	土器 土台付 土台	4区2溝 内破片	口(16.8)	酸・黄・黄緑・並・白色粒子・黒色微粒子	腹合口縁。外面は黒化が顕著。磨き整形の痕跡が認められる。	

第4章 中里見中川遺跡

10-00193	赤生土器 敷	6区1溝 内破片	厚0.58	黄・黄・黄褐色・黄・細砂粒・白色 粒子	横線部の上位に単層LR原体を横転施文し、下 位に列点文を施文する。
10-00194	赤生土器 敷	4区内 破片	厚0.6	黄・黄・黄褐色・黄・細砂粒・白色粒 子・黒色鉱物粒子	コンパス文か。細片のため詳細不明。
10-00195	赤生土器 敷	5区内 破片	厚0.75	黄・黄・黄褐色・黄・細砂粒・白色 粒子・黒色鉱物粒子	溝状の工具の痕跡が認められる。細片のため詳 細不明。
10-00196	赤生土器 敷	4区2溝 内破片	厚0.5	黄・黄・黄褐色・黄・細砂粒・白色粒 子	断面に5本+a一単位の溝状文を施文する。
10-00197	赤生土器 敷	4区2溝 内破片	厚0.85	黄・黄・黄褐色・黄・細砂粒・白色粒 子	8本一単位の溝状文をランダムに施文する。
10-00198	赤生土器 敷	4区3溝 内破片	厚0.6	黄・黄・黄褐色・黄・細砂粒・白色粒 子・黒色鉱物粒子	3本一単位の溝状文を施文する。
10-00199 42	赤生土器 敷	4区1溝 内破片	底9.0	黄・黄・黄褐色・黄・透明鉱物 粒子・黒色鉱物粒子	外面は斜位の裏面きを施す。器内面は厚減により 彫形部は認められない。
10-00200	縄紋土器 深鉢	7区1溝 内破片	厚0.84	黄・黄・黄褐色・黄・細砂粒・白色 粒子	直線的口縁部に3本の平行波線を横走させる。
10-00201	縄紋土器 深鉢	7区内 破片	厚0.75	黄・黄・黄褐色・黄・粗粒砂・白色粒 子	直線的口縁部に5本の平行波線を横走させる。
10-00202	縄紋土器 深鉢	7区内 破片	厚0.7	黄・黄・黄褐色・黄・粗粒砂・赤褐色 色粒子・白色粒子	地文に甲斐RL原体を横転施文し刻みを入れた浮 線文を横位に3本を施す。
10-00203	縄紋土器 深鉢	7区内 破片	厚0.7	黄・黄・黄褐色・黄・粗粒砂・赤褐色 色粒子・白色粒子	10-00202に同じ。同一個体個体。
10-00204	縄紋土器 深鉢	6区黒色 破片	厚0.7	黄・黄・黄褐色・黄・粗粒砂・赤褐色 色粒子・白色粒子	9本一単位の横目文を施す。
10-00205	縄紋土器 深鉢	6区2溝 内破片	底(9.9)	黄・黄・黄褐色・黄・粗粒砂・白色 粒子	器部は平直の器面から鈍角に立ち上がる。文様は は認められない。
10-00206 5 213	縄紋土器 深鉢	5区C黒 下破片	厚0.7	黄・黄・黄褐色・黄・粗粒砂・赤褐色 色粒子・白色粒子	器部広く器部の立ち上がりはきつい。器口の裾部 が胴部下半部を充滿させている。胴部上位で内周 気味に窄み口縁部が立ち上がる。口縁部は 10-00206から平縁か。4単位の溝状の取手が付く と思われ。文様は胴上位、口縁部の境に波線表 出の逆風文。波線文間には、刻みを入れた溝文を 配している。上位に横線を全周させ、その上位に 列点横文文を伴う縦線入り筋目文を配する。
20-00026	石輪 削片石器	2位覆土 変形	長3.9・幅1.3・厚0.8 ・重3		チャート
20-00027	石輪 石鏝	1位覆土 部分欠損	横径長2.8・幅1.6・ 長1.0		黒曜石
20-00028	石輪 打製石鏝	5区As C下水田	長14.4・幅刃部10.4 ・厚3.5・重533		粗粒輝石火山岩

## 第5章

### 中里見根岸遺跡



中里見根岸V層出土



## 第5章 中里見根岸遺跡

### 第1節 調査の概要

#### 第1項 試掘調査

中里見根岸遺跡の試掘調査は、用地取得直後に(国道406号線西側・原遺跡側)、遺構面深度確認のために実施した試掘調査と、本調査直前に同様に遺構面内容確認のために実施した試掘調査の都合二回にわたり実施した。前者は前述したが、平成5年6月13日に実施した。後者は、平成6年4月21日から同26日まで客土層の除去を行い、同27日を使い試掘調査を実施した。調査はトレンチ調査とし、前者は3本、後者は1本のトレンチを設定して実施した。

この結果、第1トレンチでは台地崖面からAs-B降下面が確認出来、第2トレンチでは-2.5mでAs-B降下面が確認出来、第3トレンチでは同面まで-2.6mであった。この国道西側では遺構面までの深度が-2.6mあることが確認出来、調査時期の問題もあろうが、湧水も比較的多かった。遺構面は、As-B降下面であることが判断できた。だが、国道に面する調査区が深度-2.6mで、なおかつ湧水があることにより、表土掘削可能か否かという問題も一方では惹起した。

本調査直前の試掘調査では、客土層の撤去に時間を費やす結果であったが、旧地表面(客土段階)下-50cmにIII層土、-60cmでIV層土、-80cmでV層土が確認出来、中川遺跡の調査所見から、当該遺跡も3面の調査面が見込まれた。

#### 第2項 本調査

本調査は、上述後段の試掘調査の終了同時に着手した。国道を挟み東の烏川側を1区とし、西側を2区として着手した。1区ではIII層土面の露呈を旨に開始したが、表土層の掘削はIV層土面の露呈に動めた。これは、III層土の層厚は5cmから8cmと薄かったため、確実な確認面として同面を露呈させた。また、表土層掘削中にAs-Bが部分的に確認出来た。同部ではAs-B下水田跡が発見されている。表土掘

削と並行して遺構確認を実施した。この結果、溝状遺構3条・住居跡3基・土坑35基・鍛冶炉等を確認した。

第1調査面はAs-B下水田跡の調査であり、限定された範囲であったため短期間で調査は終了し、同部分を第2遺構面のIV層上面まで掘削し、調査区内をIV層上面に統一して第2調査面の遺構調査に着手した。

第2遺構面では、平安時代10世紀後半頃の遺構群の発掘調査を実施し、平成6年6月7日に第2調査面終了した。この第2遺構面で見えられた住居跡等は、中川遺跡で見えられた住居跡と同時期の住居跡であった。このことは、短時期に集落構成を成し、鉄生産と鉄製品生産を行い、短期で移動又は廃絶し、後に水田化されていることが判明した。

第3調査面は、IV層土下のV層土は縄文晩期の包含層(千網式)であった。調査はグリッドにセクションベルトを設定し、各グリッド毎に掘り下げた。そして、IV層土内からの出土遺物は取り上げ収納し、V層土内出土遺物については必要な記録を作成し個別に収納した。遺物収納後、第3遺構調査面を平面精査を行ったが、遺構・落ち込み等は確認出来なかった。

第3遺構調査面の調査終了後、重機で青灰白色から黄褐色の地山シルト層を露呈させ平面精査を行ったが、やはり遺構・落ち込み等は確認出来なかった。そして、この平面確認終了後埋め戻しを実施し、平成6年7月21日当該遺跡の調査を終了させた。

2区は、1区の表土掘削終了後着手した。調査区が狭い調査範囲でもあったことから、前年度のトレンチを設定した間隙を調査する形で、やや広いトレンチ調査区を設定し、1区で確認されたAs-B水田跡が2区に広がる想定で調査を開始した。しかし、As-B層まで掘削し、As-B層を除去したが遺構は確認出来なかった。このため平成6年5月12日当区の調査を終了させ、埋め戻しを行った。

## 第2節 発見された遺構・遺物に就いて

### 第1項 発見された遺構・遺物の概要

中里見根岸遺跡は、2区東端で中川遺跡6区と連接する。このため、遺跡内容は中川遺跡6区と同じであり、前章でも述べられたように同一の遺跡である。

根岸遺跡で発見された遺構は、As-B 下水田跡・住居跡3基・溝状遺構3条・土坑35基、鍛冶炉1基と、縄文時代晩期（千網式）包含層が発見されている。この内容が中川遺跡6区と重複している。差違は遺構の頻度と遺物量の違いである。

上述の遺構の構築経過は、溝状遺構→土坑→住居→水田か、溝状遺構→土坑・住居→水田の順位で構築されている（土坑と溝状遺構の新旧関係は直接確認できた場合に依る）。遺跡内の変遷は上記二者のどちらかであろうが、土坑の意義を生活の痕跡として捉えることと、土坑と住居跡の切り合い関係が直接的確認出来たのは2号住と24号土坑だけで（24号土坑は近世以降）あることは、双方が共存状態であったことが窺える。このことから、変遷は後者の在り方であったことが類推される。

住居跡は形状及び竈の位置により2分類出来た。第2号住居跡は竈を東壁中央に据える横長方形の住居跡で、中川遺跡遺跡で発見されている第4号住居跡（以下、第X号住居跡は「X号住」と略記）に代表される形態である。もう一方は1・3号住で、縦長方形の南東隅部に竈を据えている。この双方の所謂「コーナー竈」には軸方向により異なりが見出せ、1号住は竈の軸方向がまだ東方向よりに向いているが、3号住の竈は住居の対角線方向に構築している。従前に置ける筆者の所見によれば、後者の3住居の方が新しい傾向にあると考えられる。しかし、出土遺物は明快な出土状況にはなく、敢えて中川遺跡を含めても齟齬のない状況であろう。この中、1号住出土の10-00003・00004、2号住出土の10-00013は底径が大きく須恵器内黒境段階よりやや下がった10世

紀末頃から11世紀初頭頃の年代観が与えられよう。

1号溝は土層断面の状態から、住居が構築される段階には機能を停止していたと判断されるものの、上限は明らかではない。また、遺構外出土遺物でも10世紀後半を明らかに遡る資料は見出せなかった。

そして、As-B 下水田跡はAs-Bの推定降下年代天仁元年（1008）を年代の根拠とすれば、当遺跡の存続期間は60年間位という推定が導き出せる。

### 第2項 住居跡（第102～109図）

住居跡は3基が発見されている。住居形状等の特徴は既述のとおりであり、ここでは、出土遺物に就いて特に瓦に就いて若干触れておきたい。

瓦は1号住（10-00012）・2号住（10-0017）・3号住（10-00023～00027）の掲載資料と未掲載の少破片が数点ある。10-00012・00017が女瓦、00023～00027が男瓦である。男瓦は、秋間古窯跡で生産された半截作りで凸面には単軸絡条体のローラーで締められて整形されている。女瓦も秋間古窯跡産で、一枚作り、凸面は男瓦同様に単軸絡条体のローラーで整形されている。この整形の特徴は、8世紀末から9世紀前半に比定される組瓦であり、汎山王秋間系の寺院と園分寺に供給されている。ここ里見地区は、秋間古窯跡に至近の位置としても、150年以上遡った時期に、完形個体が纏まって出土することは、秋間古窯跡から直接持ち込まれたとは考え難く、近隣の瓦使用の施設、又は放置物の収集と考えざるを得ない。ここ里見地区には、当遺跡の至近の位置に里見廃寺遺跡が在り、同廃寺でも同種の瓦葺き建物が建立されていたことが確実である。これらの根岸遺跡出土の瓦は、この里見廃寺から直接的に持ち込まれた可能性が濃厚である。このことは、この時期まで、完形状態を維持した瓦が里見廃寺乃至至近の位置に在ったことを示唆しており、完形瓦を屋根から下ろしての持ち出しは考え難いことから、里見廃寺が機能を停止していたか、既に建物大きな変質が生じていたことが窺える。即ち、里見廃寺の瓦葺き建物の存続期の下限を第3号住の構築時期としての10世紀末葉を設定しておきたい。

この意味では、当該瓦の別な一面での存在意義は大きいものがある。

### 第3項 鍛冶炉 (第114図)

鍛冶炉は、調査段階から傍らで発見された6号土坑と共存関係が想定され、調査もその旨で進めた。

鍛冶炉の確認面での状況は、同心円状に被熱の範囲が色調を違えて確認出来た。中心部分はIII層土を主体とする覆土で、外側に向かい酸化焙焼成の熱反応によるIII層土(地山土)の色調変化が認められ、橙・黄橙・浅黄橙に変化していた。しかし、掘り下げた結果、-13cm程で底面に達してしまい、発見部位が、底面周辺であったことが判明した。

6号土坑は、1号炉の北東0.75mの近至に位置する。長楕円形の形状は0.6m×0.32mの小規模な土坑である。この小規模な土坑の上層からは、被熱し破砕された礫が多く出土し、更に、この礫の下からは、錆化した無数微細刺鉄片が層状態で塊状になって出土している。沈殿現象に因る堆積と推定出来、炉での加熱と、鍛打、この土坑での水打と解釈出来き、小鍛冶の工房であることが判断出来る。また、水打土坑の形状・規模からすれば、比較的小形器種の鍛造を行っていたことが推定できる。原遺跡32号住出土の鉄器(鎌・鋤)の様相から、ここでも鎌・鋤などの農耕具が主体であったと類推出来る。

この施設は光を遮断しない限り有効的な生産活動が成し得ない。この遮光施設は、竪穴等の施設が認められなかったことから、掘立柱建物等の施設を想定しなければならない。しかし、発掘調査段階では、周辺の平面精査を十分に行ったが、柱穴等の施設痕跡は認められなかった。推定される生活面は、確認面の上位20~30cmであることから、建物は軽易な「小屋」的な造りであったことが想起され、継続使用に因る痕跡も希薄なことから、この様子が裏付けられる。

時期は、周囲の遺構(中川遺跡から発見されている遺構を含める)から10世紀後半頃と推定され、集落に併設されて事も推測させる。

### 第4項 縄文晩期包含層 (第117~128図)

縄文晩期包含層は、V層土が相当する。当該V層

土は、暗褐色土層細粒状の軽石粒少量混入している。この層状は概ね4遺跡で共通する。当遺跡では、軽石同様の白粒子を僅かに混入している。鏡下での観察は行っていないため明確ではないが、晩期前半の包含層に特徴的な焼骨粒とは異なる夾雑物である。

第117図には遺物の平面分布を掲載した。また、同図中には遺物取納後の、ほぼV層とVI層との層界面での標高を等高線で微地形を図化してある。主曲線間は10cmである。この微地形は凹地に形成しており、縄文晩期の特徴的な占地が窺知できる。

出土遺物は、この面の直上位から上位約20cmの間で出土し、第118~125図の土器類と、第126~128図の石器類である。土器類は、浮線文字文・網状文に代表される千綱(Ⅰ)式の土器群である。

出土した土器類は、精製土器・粗製土器があり、精製土器には皿形・浅鉢形・鉢・深鉢形・壺・壺形等がある。また、精製土器には、有文研磨黒色燻しと無文磨施黒色燻し・無燻しの三者がある。

文字文は沈線・浮線文の二者がある。器種による施文部位の違いもある。破片個体であるため詳述は避けるが、前者には小型の鉢類に多く、沈線部分い小瘤を配し文字文を表出し(10-00092・93)、三条の沈線の上下を繋ぎ表出する個体がある(10-00084)。後者は中規模以上の鉢・深鉢・壺等に認められる。類例は多く10-0062・81~83・119が代表例である。また、肩部の張る器形の肩部の沈線に小瘤乃至小角状の施文で文字文を表出個体がやや多い。

浮線網状文では、10-00116・117・176が代表する。117は大小の5単位波状口縁。176は祭区区画に施文する珍しい類例である。

菱形文は10-00175がある。胴部は撫糸縦位充填後6条の沈線による雷門と間隙に同心円文を施している。

当遺跡の特徴要素として、壺類の出土が多いことが挙げられる。器種組成・文様構成からは、千綱Ⅰ式に同定出来る。

### 第5項 根岸・中川遺跡出土に須恵器類

当該の根岸遺跡は10世紀末から11世紀前半の住居

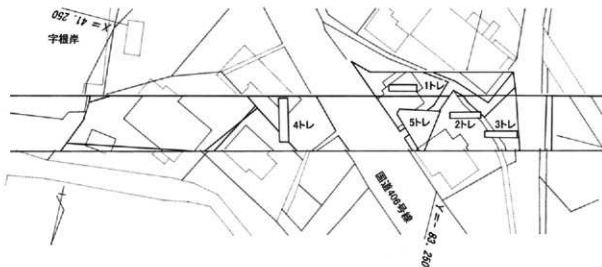


図5 試掘トレンチ設定図(1:800)

跡3基が発見されており、隣接する、中川遺跡でも同時期の住居跡が7基発見されている。この中川遺跡としている部分は、字名称が根岸であり、正しくは根岸遺跡に含まれる。恐らく地形の変換部分で字名を変えたものと思われ、自ずと、古代住居占拠要件に合う部分が台地寄り側の字根岸であり、烏川寄りが字中川である。今回はこの同一遺跡を事業名称で分断はしているが、元来は同一遺跡である。

この住居跡の発見されている部分(以下、根岸遺跡とする)は向井川の支流にあたり、塚崎(泉福寺古墳群を擁する舌状台地)と根岸を分断する小河川である。根岸遺跡はこの右岸側に当たる。

ここで発見されている住居跡からは、台地上の原遺跡とは異なり、内黒土器を主体とする出土遺物多数発見されており、製鉄・鍛冶関係の遺構も多いことが特徴に挙げられる。ここでは、原遺跡で住居が廃絶されてから住居が構築されている。

出土した土器類の内黒土器と酸化焰焼成の須恵器・埴輪類は、内面研磨と内面黒色塗を除けば、器形・胎土はほぼ同一である。器形の特徴は、直線的に立ち上がる器厚の薄い作りで、轆轤も緩やかに丁寧に挽いている。轆轤の回転は右回りである。この直線的・器厚が薄いことは、秋間古窯跡群の焼造品の特徴でもあり、外反の吉井古窯跡群、腰部の張る栗附古窯跡群と利根川西部地区の各古窯跡群の特徴から

しても、当該の土器群は秋間古窯跡群の特徴を備えている。しかし、胎土が秋間古窯跡の陶土ベースとは異なり、比較的緻密な粘土ベースであり、秋間古窯跡群の胎土特徴とは異なっている。

この直前の10世紀代は、県中央部(国府周辺を中心とする群馬郡域)でも秋間古窯跡群の製品は一切供給が閉ざされたかの状況で、既に閉窯したかのかと推定せざるをえない実態である。しかし、後述する原遺跡では、器形・胎土等の特徴から、秋間古窯跡群の製品であろうと考えられる須恵器・埴輪を多く観察出来た。このことは、外部への供給が極度に低下し秋間古窯跡群周辺乃至碓氷郡内に限定した供給に成り果てたものと考えられ、10世紀末には、秋間古窯跡群は閉窯期に達したと推定される。

この閉窯期をもたらした原因・要因は現段階では未だ究明出来得ないが、今回の根岸遺跡で出土した内黒土器・須恵器類は、ただ単に器形の類似・技法の類似ということが特徴的なことだけではなく、秋間古窯跡群の閉窯期の原因・要因を含めた背景を探る上では重要な意味がある。

更に10世紀以降秋間古窯跡群に替わり県中央部にも主体的に供給を開始する吉井古窯跡群の存在を含め、窯業生産体制の変容を探る上でも重要な意義も含んでいることを推測させる。



## 中里見根岸遺跡遺構諸元一覧（規模・土層説明等）

## 溝状遺構

- 溝2・3号溝状遺構 位置：19地区225区B-C-13・14グリッド。 規模：2溝溝見長4.2m・幅0.8～1.8m。3溝溝見長3.45m・幅0.48～1.48m。  
 層序（基準線標高値168.50m）1. 黒灰色粘質土 粒状C粒石少。2. 灰色粘質土 小塊状山白土質粘質土。3. 灰色粘質土 塊状山白土質粘質土多。  
 溝1号溝状遺構 位置：19地区22・23区Q-T-16・17グリッド・23区A-C・13～15グリッド。 規模：発見長37m・最大幅1.15m。  
 層序（基準線標高値168.80m）1. 暗褐色砂質土 白色粒石（0.5～1.0m）含。2. 暗褐色砂質土 砂質土体。3. 灰褐色砂 砂主体。4. 暗褐色粘質土 砂を少量含む。5. 灰褐色砂 ラミネーの閉鎖に黒褐色粘質土を含有。6. 灰褐色砂 ラミネー。7. 5近置。8. 6同置。

## 住居跡

第1号住居跡 位置：19地区22区M-N-19グリッド。 形状：縦長方形。 規模：3.7m×2.85m。 基準線編道：西側。 主軸方位：北-89度分一。 壁規模：長1.22m×前面幅1.14m×側面幅0.55m。

層序（基準線標高値168.70m）1. 暗褐色 粒状C粒石少・塊状黄褐色土少・炭化物少。2. 暗褐色 粗粒状C粒石少・塊状黄褐色土少。3. 暗褐色 粒状C粒石・塊状黄褐色土混。4. 暗褐色 黄褐色粘石少。5. 暗褐色 粒状C粒石少・黄褐色粘石多。6. 暗褐色 粒状C粒石・黄褐色粘石多・粒状炭土含。7. 暗褐色 粒状C粒石含・粒状炭土少。8. 暗褐色 粒状C粒石含・塊状灰褐色土少。9. 暗褐色 粒状C粒石含・小塊状V層土少。10. 塊状灰褐色土少。11. 暗褐色 粒状C粒石含・塊状灰褐色土少・粒状炭土含。12. 暗褐色 粒状C粒石少・塊状灰褐色土多・小塊状炭土少。13. 暗褐色 塊状灰褐色土多・塊状炭土少。14. 暗褐色 粒状C粒石少・塊状灰褐色土含・粒状炭土少。15. 暗褐色 黄褐色粘石多・炭化物・粒状炭土少。16. 15近置（礫を多量に含む）。

第2号住居跡 位置：19地区22区S-T-15グリッド。 形状：横長方形。 規模：3.89m×2.58m。 構築基準道：西側。 主軸方位：北-94度分一。 壁：詳細不明。

層序（基準線標高値168.60m）1. 暗褐色 粒状C粒石多・小塊状V層土混。2. 暗褐色 粒状C粒石含・粗粒状V層土少。3. 暗褐色 粒状C粒石少。4. 暗褐色 粗粒状C粒石混・塊状IV・V層土・粒状砂質土乃至第1溝状遺構層土の混土。5. 暗褐色 粒状C粒石含。6. 暗褐色 粒状C粒石含。7. 暗褐色 粒状C粒石多。8. 暗褐色 細粒状C粒石混。9. 地山 V層土（塊状黄褐色シルト）。10. 8同置。11. 他。12. 暗褐色 塊状炭土含。

第3号住居跡 位置：19地区23区C-12・13グリッド。 形状：縦長方形。 規模：3.70m×3.0m。 構築基準道：不詳。 主軸方位：北-46度分一。 壁：詳細不明。

層序（基準線標高値168.80m）1. 黒灰色粘質土 小塊状灰色粘質土混。2. 黒灰色粘質土 塊状灰色粘質土多。3. 黒灰色粘質土 小塊状白色粘質土含。4. 灰褐色砂質土 粒状C粒石混・砂礫多。5. 灰褐色砂質土 砂礫多。6. 灰褐色砂質土 砂礫主体（ラミネー含）。

## 竪穴状遺構

第1号竪穴状遺構 位置：19地区22区T-U-14・15・23区A-14グリッド。 形状：不整形。 規模：長2.9m×2.1m。 主軸方位：北-131度分一。

層序（基準線標高値168.20m）1. 黒色粘質土 塊状灰色粘質土多。2. 黒色粘質土 塊状褐色砂質土・塊状灰色粘質土多。

## 土坑

第1号土坑 層序（基準線標高値168.50m）1. 暗褐色 粒状C粒石含。

第2号土坑 層序（基準線標高値168.50m）1. 人為掘 IV・V層の混土。2. 暗褐色 IV層土ベース・粒状C粒石少。

第3号土坑 層序（基準線標高値168.50m）1. 茶褐色（鉄分の混入の影響と思われる、発色が茶褐色偏向に傾く）粒状C粒石混。

第4号土坑 層序は2号土坑の1層に同置。

第5号土坑 層序（基準線標高値168.50m）1. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C粒石混。2. 暗褐色 IV層土ベース・粒状C粒石含。3. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C粒石少。

第6号土坑 層序（基準線標高値168.60m）1. 黄褐色粘質土 粒状C粒石混・微細鉄片極多。

第7号土坑 層序（基準線標高値168.60m）1. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C粒石混。2. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C粒石少。

第8号土坑 層序（基準線標高値168.60m）1. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C粒石含。2. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C粒石少・粗粒状C粒石含。

第9号土坑 層序（基準線標高値168.70m）1. 暗褐色 粒状C粒石多。2. 暗褐色 粒状C粒石多・小塊状V層土混。3. 暗褐色 V層土主体・粒状C粒石含。

第10号土坑 層序（基準線標高値168.90m）1. 暗褐色 IV層土ベース・粒状C粒石少。

第11号土坑 層序（基準線標高値168.90m）1. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C粒石多。

第12号土坑 層序（基準線標高値168.90m）1. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C粒石多。2. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C粒石少・礫多。

第13号土坑 層序（基準線標高値168.90m）1. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C粒石少。2. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C粒石少。

第15号土坑 層序（基準線標高値168.80m）1. 茶褐色 粒状C粒石多・小塊状IV層土混。

第16号土坑 層序（基準線標高値168.80m）1. 暗褐色 粒状C粒石多・小塊状IV層土混。2. 灰暗褐色 V層主体・塊状暗褐色粘質土多・粒状C粒石少。3. 灰暗褐色 V層主体・塊状暗褐色粘質土多・塊状黄褐色土少。4. 灰褐色 V層主体・塊状暗褐色粘質土多・塊状黄褐色土少。

第18号土坑 層序（基準線標高値168.80m）1. 暗褐色 粒状C粒石少・小塊状IV層土混。2. V層土主体・粒状C粒石混。

第19号土坑 層序（基準線標高値168.80m）1. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C粒石混。

第20A号土坑 層序（基準線標高値168.80m）1. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C粒石混。2. 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C粒石混。

第20B号土坑 層序（基準線標高値168.80m）1. 暗褐色 V層主体・粒状C粒石少。

第21号土坑 層序（基準線標高値168.80m）暗褐色 IV層の混土・粒状C粒石混。

第22号土坑 層序（基準線標高値168.80m）1. 暗褐色 IV層主体・粒状C粒石少。

第23号土坑 層序（基準線標高値168.60m）1. 暗褐色 V層主体・粒状C粒石少。

第24号土坑 層序（基準線標高値168.60m）1. 暗褐色 粒状C粒石多・小塊状V層土混。2. 暗褐色 粒状C粒石含・粗粒状V層土少。3. 暗褐色 粒状C粒石少。

第25号土坑 層序（基準線標高値168.80m）1. 暗褐色 V層主体・粒状C粒石混。

第26号土坑 層序（基準線標高値168.60m）1. 灰暗褐色粘質土 V層主体・塊状粘質土多・粒状C粒石少・塊状炭化物少。

第27号土坑 灰暗褐色粘質土 V層主体・塊状V層土多・粒状C粒石混。

第28号土坑 灰暗褐色粘質土 V層主体・塊状V層土多・粒状C粒石混。

第29号土坑 層序（基準線標高値168.30m）1. 灰暗褐色粘質土 V層主体・粒状C粒石混。

第30号土坑 層序（基準線標高値168.10m）1. 黄褐色粘質土 V層主体・塊状黄色土混。2. 黄褐色粘質土 細礫含・粗大塊状暗褐色土混。

第31号土坑 層序（基準線標高値168.40m）1. 黒褐色粘質土 V層主体・塊状黄褐色土混。

第32号土坑 灰暗褐色粘質土 V層主体・塊状V層土多・粒状C粒石混。

第33号土坑 第1号溝状遺構の調査時に溝状遺構の一部として調査したため、詳細不明。平準時代の所産が推定される。

第35号土坑 暗褐色 IV・V層の混土・粒状C粒石混。

## 中里見根岸遺跡出土遺物観察表

## 第1号溝状遺構出土遺物

遺物番号 (図版番号)	遺物種 類	出土層位 と 保存度	量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	調査
10-00001	須恵器 内周塊	甕土内 破片	厚0.38	黒・赤・鈍黄褐色・細粒雲母・シル ト粒子・赤褐色粒子	口縁部の破片、周縁が欠れている。器内面は研削 された。	既調査
10-00002	須恵器 羽釜	甕土内 破片	厚0.7	黒・赤・灰・赤・白色粒子・黒色鉱 物粒子	口唇部は平坦。唇の下に最大径を有する。紐作 り後輪軸整形(石回転)。唇は貼付け。	既調査か

## 第1号住居跡出土遺物

遺物番号 (図版番号)	遺物種 類	出土層位 と 保存度	量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	調査
10-00003	須恵器 杯	甕内 完整	口39.4・高2.5・底4.3	黒・赤・黄褐色・赤・シルト粗粒子・ 赤褐色粒子	器厚は厚め。器底は丸味を帯び直線的に立ち上 がる。輪軸整形(石回転)。器底は回転成形。 付高台。	既調査か
10-00004	須恵器 壺	甕土内 2/3残	口(12.6)・高5.8・底 7.8	黒・赤・鈍黄褐色・粗粒砂・黒色 鉱物粒子	器底は丸く口縁部は外反する。輪軸右回転成形。 付高台。	目録地域 か
10-00005	須恵器 壺	甕内 2/3残	口径6.75 底(9.0)	黒・赤・鈍黄褐色・赤・黒色粒子・黒 色鉱物粒子	足高高台。口縁部が欠損する。高台は薄く「ハ」 の字に開く。輪軸右回転成形。付高台。	既調査か
10-00006	須恵器 壺	甕内 破片	口(25.4) 胴径(25.6)	黒・赤・鈍褐色・赤・白色微粒子・粗 粒	口縁部は縦方向に外反する。紐作り後輪軸整形(石 回転)。胴部は縦位の覆り方。 器底は縦位の覆り方。	既調査
10-00007	須恵器 壺	甕内 破片	口(24.8) 胴径24.3	黒・赤・鈍黄褐色・粗・粗粒砂・黒色 鉱物粒子・白色微粒子	器底は丸く口縁部は直立気味。紐作り後輪軸整形 か。器底は縦位の覆り方。	既調査
10-00008	須恵器 羽釜	甕内 1/3残	口(23.4) 唇(26.7)	黒・赤・鈍黄褐色・粗・粗粒砂・黒色 鉱物粒子・白色微粒子	卵形部の破片。唇は広く断面三角形。縦位の覆 り方が顕著。紐作り後輪軸整形か。	既調査
10-00009	須恵器 羽釜	甕内 破片	口(24.4) 唇(28.8)	黒・赤・明赤褐色・赤・白色微粒子・ 赤褐色粒子	唇は広く(断面)三角形。輪軸整形を顕著に起こ す。紐作り後輪軸整形(石回転)。唇は貼付け。	既調査
10-00010	須恵器 羽釜	甕内 破片	口(25.8) 唇(30.8)	黒・赤・鈍黄褐色・シルト粒子・尖 鋭物少	卵形部の破片。唇は広く(断面)三角形。縦位の覆 り方が顕著。紐作り後輪軸整形か。	既調査か
10-00011	須恵器 羽釜	甕内 1/2残	口径7.8	黒・赤・鈍黄褐色・粗粒砂・小円 錐	卵形部が弱く、唇は小さく断面は三角形を呈する。 内面は盛り上げ状態の痕跡を有する。	既調査
10-00012	瓦 女瓦	甕内 破片	厚1.6	黒・赤・灰・赤・白色粒子・黒色粒 子	一枚作り。凸面は単純な全体1/2の回転文。凹面 は骨格面の一部が認められる。	既調査
20-00001	石函 磨石	甕土内 完整	長14.1・幅8.8・厚3.9 ・重832	粗粒輝石安山岩	扁平面の一辺が略減する。小口から側面にかけて 肌状が認められる。	

## 第2号住居跡出土遺物

遺物番号 (図版番号)	遺物種 類	出土層位 と 保存度	量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	調査
10-00013	須恵器 杯	甕内 完整	口16.5・高3.7・底6.0	黒・赤・鈍黄褐色・シルト粒子・赤褐 色粒子・粗粒砂	器厚は薄め。直線的に立ち上がる。輪軸右回転成 形。底面は静止不切削。	既調査か
10-00014	須恵器 杯	甕内 破片	口(12.2)・高3.5・底 (5.4)	黒・赤・鈍褐色・赤・白色微粒子・シル ト粒子・微砂	器底は丸味を帯び口縁部は外反する。器厚は薄め。 輪軸右回転成形。器底は回転成形。	既調査
10-00015	須恵器 羽釜	床直積 破片	口(24.0) 唇(27.6)	黒・赤・明赤褐色・赤・白色微粒子・ 黒色鉱物粒子	口唇部は平坦。唇は小さく断面は三角形を呈する。 紐作り後輪軸整形(石回転)。唇は貼付け。	既調査
10-00016	瓦 瓦	床直積 転用円形	長2.6・幅2.0・厚1.1	黒・赤・灰・赤・黒色粒子・白色粒 子	女瓦片の転用円形。作りは一枚作りか。	既調査
10-00017	瓦 女瓦	床直積 完整	厚1.9	黒・赤・灰・赤・黒色粒子・白色 粒子	一枚作り。凸面は単純な全体1/2の回転文。側面 は縦位の覆り方を呈し、鋭角的出段を有している。	既調査
20-00002	石製品 磨石	床直積 両端欠損	残存長16.0・幅5.6・ 厚3.8・重199g		凹面に使用が認められるが、固定して用いる面は一 部のみであることから、磨石使用と考えられる。	
20-00003	石函 磨石	甕内 完整	長4.5・幅4.2・厚2.6 ・重77g	粗粒輝石安山岩	顕著な使用痕跡は認められない。	

## 第3号住居跡出土遺物

遺物番号 (図版番号)	遺物種 類	出土層位 と 保存度	量 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	調査
10-00018	須恵器 壺	甕土内 破片	厚1.0	黒・赤・灰・赤・シルト粒子・白色 粒子	大形の塊の見込みにも有機質が付着する。	既調査
10-00019	須恵器 羽釜	甕土内 破片	口(19.4) 唇(24.2)	黒・赤・鈍黄褐色・赤・高濃石英・黒 色鉱物粒子・白色微粒子	口縁部は内傾する。唇は断面三角形で大きい。紐 作り後輪軸整形(石回転)。唇は貼付け。	既調査
10-00020	須恵器 羽釜	甕土内 1/4残	口(21.2) 唇(26.0)	黒・赤・鈍褐色・赤・高濃石英・粗粒 砂	器底は低い羽釜。3足の可能性も考慮される。紐 作り後輪軸整形(石回転)。唇は貼付け。	既調査
10-00021	須恵器 壺	床直積上 破片	厚0.7	黒・赤・灰・赤・白色微粒子	底の破片。表面面にも有機質の付着が認められる。 紐作り後輪軸整形(石回転)。	既調査
10-00022	須恵器 羽釜	甕土内 完整	厚・0.8	黒・赤・鈍黄褐色・赤・黒色微粒子・ 赤褐色粒子・白色微粒子	紐作り。器外側は器底部は斜・縦位の覆り方。 胴部は縦位の覆り方。器内面は縦位の覆り方。	既調査
20-00021	石 磨	床直積 完整	長16.7・幅11.4・厚 4.3・重924g	粗粒輝石安山岩	磨面の扁平面より小口にかけて縁角が付着する。	
10-00023	瓦 瓦	甕内 破片	厚1.9	黒・赤・灰・赤・白色粒子・黒色粒 子	一枚作りか。凸面は輪軸文。凹面に粘土板割ぎ取り 痕。側面縁取り3回。	既調査
10-00024	瓦 男瓦	甕 完整	長32.5・広21.0・厚 12.5	黒・赤・灰・赤・白色粒子・黒色粒 子	一枚作り。凸面は輪軸文。凹面は横骨状。側面縁 取りは1回。側面取3回。	既調査
10-00025	瓦 男瓦	甕 破片	厚1.2	黒・赤・灰・赤・白色粒子・黒色粒 子	一枚作り。凸面は輪軸文(密)後輪軸整形。凹面は 横骨状粘土板割ぎ取り後、側面取3回。	既調査

## 第2節 発見された遺構・遺物に就いて

10-00026 51	瓦 男瓦	亀 宛形	長36.3・広24.0・厚 11.5	遺・跡・灰・密・白色粒子・黒色粒 子	半截作り。凸面は轡輪部。凹面は横骨部。端部而 取りは1回、側部面取り3回。	秋間産
10-00027 51	瓦 男瓦	亀 部分欠損	長35.5・広19.3・厚 13.3	遺・跡・灰・密・白色粒子・黒色粒 子	半截作り。凸面は轡手(若)後轡輪部。凹面は 横骨直粘土敷取り面、布合わせ目。	秋間産

## 第1号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00028	須恵窯 坏	覆土内 破片	厚0.4	遺・並・灰・並・シルト粒子・黒色 粒子	口縁部の破片。詳細は不分明。	秋間産

## 第2号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00029	須恵窯 別形	覆土内 破片	厚0.7	灰・並・黄褐色・並・石英・黒色鉱物 粒子	轡輪右回転。破片のため詳細は不分明。	産不詳

## 第3号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00030	須恵窯 坏	覆土内 破片	厚0.6	遺・軟・灰白・並・シルト粒子・黒 色鉱物粒子	轡輪右回転。破片のため詳細は不分明。	秋間産か

## 第5号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00031	須恵窯 別形	覆土内 破片	厚0.9	灰・並・明赤褐色・並・軽石粒・赤褐 色粒子・白色微粒子	轡輪右回転。破片のため詳細は不分明。	産不詳

## 第8号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00032	須恵窯 内黒焼	覆土内 破片	厚0.35	灰・並・黄褐色・並・軽石粒・白色 微粒子	轡輪右回転。破片のため詳細は不分明。	産不詳

## 第9号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00033	須恵窯 坏	覆土内 破片	厚5.7	中・並・黄褐色・並・シルト粒子・白 色微粒子	轡輪右回転。破片のため詳細は不分明。	秋間産

## 第10号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00034	須恵窯 坏	覆土内 破片	厚0.35	中・並・黄褐色・並・シルト粒子・白 色微粒子	轡輪右回転。破片のため詳細は不分明。	秋間産

## 第11号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00035	須恵窯 坏	覆土内 破片	厚0.45	灰・並・黄褐色・並・黄褐色・赤褐色 粒子・シルト粒子	轡輪右回転。破片のため詳細は不分明。	産不詳

## 第12号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00036	須恵窯 小型罎	覆土内 破片	厚0.8	灰・軟・灰・並・黒色鉱物粒子・白 色微粒子・赤褐色粒子	轡輪右回転。破片のため詳細は不分明。	秋間産

## 第13号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00037	須恵窯 坏	覆土内 破片	高(5.1)	灰・並・橙・赤褐色粒子・白色微粒 子	轡輪右回転。内黒の胎土と同じ。	
10-00038	須恵窯 小型罎	覆土内 破片	高(6.2)	灰・並・黄褐色・並・白色微粒子・赤 褐色粒子	轡輪右回転。破片のため詳細は不分明。	産不詳
10-00039	須恵窯 坏	覆土内 破片	厚0.5	灰・並・橙・赤褐色粒子・白色微粒 子	轡輪右回転。内黒の胎土と同じ。破片のため詳細 は不分明。	

## 第14号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00040 52	須恵窯 坏	覆土内 1/3残	口(13.4)・高3.3・深 (7.4)	遺・並・灰白・やや粗・黒色粒子・ 白色微粒子・シルト粒子	口縁部は直縁の如く。轡輪右回転成整形。胎部 は回転赤切り。	秋間産

第5章 中里見根岸遺跡

第16号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類 器種	出土層位 埋存深度	度量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00041	須恵器 環	覆土内 破片	厚0.6	酸・並・黄灰並・白色微粒子	轆轤右回転。破片のため詳細は不明。	秋岡産か

第17号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類 器種	出土層位 埋存深度	度量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00042	須恵器 甕か	覆土内 破片	厚0.6	酸・並・赤褐・並・デイスイト・透 明鉱物粒子・白色微粒子	継作り。破片のため詳細は不明。	吉井産か

第18号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類 器種	出土層位 埋存深度	度量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00043	須恵器 環	覆土内 破片	厚0.4	酸・並・鈍酸・黒色鉱物粒子・白色 微粒子	轆轤右回転。破片のため詳細は不明。	産不詳

第19号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類 器種	出土層位 埋存深度	度量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00044	須恵器 環	覆土内 破片	口(10.0)	酸・並・鈍黄・並・白色微粒子・ 黒色鉱物粒子	体部は丸く口縁部は短く外反する。轆轤右回転成 整形、高欠台(付高台)。	産不詳
10-00045	須恵器 甕	覆土内 破片	厚1.2	産・硬・灰・密・白色微粒子	継作り風引き整形。平行引きに宛目は背荷武文。	秋岡産

第20号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類 器種	出土層位 埋存深度	度量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00046	須恵器 環	覆土内 破片	厚0.5	酸・並・鈍酸・並・白色微粒子・黒 色鉱物粒子	轆轤右回転。破片のため詳細は不明。	秋岡産か

第21号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類 器種	出土層位 埋存深度	度量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00047	須恵器 甕	覆土内 破片	底(10.0)	酸・並・橙・並・黒色鉱物粒子・白 色微粒子	轆轤右回転成整形、口縁部欠損、付高台。	秋岡産か

第22号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類 器種	出土層位 埋存深度	度量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00048	須恵器 環	覆土内 破片	厚0.4	酸・並・黄褐・並・黒色鉱物粒子・ 白色微粒子	轆轤右回転か。破片のため詳細は不明。	秋岡産か

第23号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類 器種	出土層位 埋存深度	度量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00049	須恵器 内風埴	覆土内 破片	厚0.35	酸・軟・オリブ黒・並・黒色鉱物 粒子・白色微粒子	轆轤右回転。破片のため詳細は不明。	産不詳

第24号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類 器種	出土層位 埋存深度	度量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00050	須恵器 甕	覆土内 破片	口(18.2)	酸・並・黒色鉱物粒子・白色微粒子・ 細砂粒	継作り後轆轤整形(右回転)。	秋岡産

第25号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類 器種	出土層位 埋存深度	度量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00051	須恵器 羽釜	覆土内 破片	厚0.6	酸・並・褐・並・黒色鉱物粒子デイス イト・赤褐色粒子	継作り後轆轤整形か。破片のため詳細は不明。	産不詳
10-00052	須恵器 羽釜か	覆土内 破片	厚0.6	酸・並・褐・並・黒色鉱物粒子デイス イト・赤褐色粒子	継作り後轆轤整形か。縦位の寛削りが顕著。	産不詳

第27号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類 器種	出土層位 埋存深度	度量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	摘要
10-00053	須恵器 環	覆土内 完形	口10.8・高2.7・底5.4	中・並・灰黄・並・赤褐色粒子・石 灰	胴部は直る。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤 右回転成整形。底部は回転糸切り。	藤岡産
10-00054	須恵器 環	覆土内 破片	厚0.6	酸・並・鈍黄・並・黒色鉱物粒子・赤 褐色粒子	轆轤右回転。内馬の胎土。破片のため詳細は不明。	産不詳

## 第6号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種類	出土層位 遺存層	重量 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	調査
10-00055	葉形陶 瓶	覆土内 破片	厚0.55	黄・灰・灰黄・透明鉱物粒子・白色 炭粒子	轆轤右回転。細片のため詳細は不明。	秋田助成 産か
10-00056	縄紋土器 洗鉢	覆土内 破片	底(4.2)	黄・黄・鈍橙・黄・白色粒子・黒色 炭物粒子・粗砂	紋様は認められない。	
10-00057 51	土製品 羽口	覆土内 部分欠損	長11.0・幅7.4・厚2.8	シロト質の粘土。	気道孔径2.6。短く使い残った羽口。地盤の付着は 目立って多くない。	
40-00001 51	鉄釘	覆土内 完形	長3.7・幅0.9・重3.0 g		頭部は弓形押し折り曲げている。	
40-00002 52	鉄押	覆土内 破片	重232.0g		破片に鉄押が接着している。	
10-00005 51	鉄押	覆土内 完形	重1,273.0g		破片に鉄押が接着している。	

## 第1号炉出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種類	出土層位 遺存層	重量 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	調査
10-00058	葉形陶 瓶	覆土内 破片	厚0.7	黄・黄・灰・黄・透明鉱物粒子・白色 炭粒子	轆轤右回転。細片のため詳細は不明。	秋田産
40-00003 52	鉄押	覆土内 完形	重77.9g		板状の鉄押。周囲は割れている。	

## 縄紋晩期遺物包含層

遺物番号 回収番号	遺物種類	出土層位 遺存層	重量 目 (g)	焼成・色調・胎土	形状・技法等の特徴	調査
10-00059 53	縄紋土器 洗鉢	VI層土内 破片	厚0.5	黄・黄・黄橙・黄・黒色炭物粒子・ 白色粒子・白色炭物粒子	比羅谷区内に列点刺交文。口縁部には浮線連続横 引文を施し口唇部には大小の把手を配する。	
10-00060 53	縄紋土器 鉢	VI層土内 破片	厚0.35	黄・黄・鈍橙・粗砂多	菱形文の交差部に刺突貼付文を施す。	
10-00061 53	縄紋土器 鉢	VI層土内 破片	厚0.45	黄・黄・鈍橙・粗砂多	口唇部直下に LR 原体の横刺交文。直下に沈線帯。	
10-00062 53	縄紋土器 洗鉢	VI層土内 破片	厚0.55	黄・黄・鈍橙・黄・細砂粒	波状口縁の把手部直下の破片。表面施文。	
10-00063 53	縄紋土器 洗鉢	VI層土内 破片	厚0.55	黄・黄・鈍橙・黄・細砂粒	波状口縁の把手部直下の破片。表面施文。	
10-00064 53						
10-00065 53	縄紋土器 洗鉢	VI層土内 破片	厚0.4	黄・黄・鈍橙・黄・赤褐色粒子・白 色粒子・白色炭物粒子	山形状の把手を施す。	
10-00066 53	縄紋土器 洗鉢	VI層土内 破片	厚0.4	黄・黄・鈍橙・黄・黒色炭物粒子・ 白色粒子・白色炭物粒子	「工」字状文の凹線部分。	
10-00067 53	縄紋土器 洗鉢	VI層土内 破片	厚0.4	黄・黄・鈍灰・黄・黒色炭物粒子・ 白色粒子	4条の沈線帯を施す。	
10-00068 53	縄紋土器 洗鉢	VI層土内 破片	厚0.4	黄・黄・鈍黄橙・黄・粗砂	3条の沈線帯が認められる。	
10-00069 53						
10-00070 53	縄紋土器 洗鉢	VI層土内 破片	厚0.35	黄・黄・鈍黄橙・黄・粗砂粒	2条の沈線帯が認められる。	
10-00071 53	縄紋土器 洗鉢	VI層土内 破片	厚0.5	黄・黄・鈍橙・黄・透明炭物粒子・ 白色炭物粒子	2条の沈線帯が認められる。	
10-00072 53	縄紋土器 洗鉢	VI層土内 破片	厚0.5	黄・黄・鈍橙・黄・白色炭物粒子・ 黒色炭物粒子	2条の沈線帯が認められる。	
10-00073 53	縄紋土器 洗鉢	VI層土内 破片	厚0.4	黄・黄・鈍橙・黄・細砂粒	2条の沈線帯が認められる。	
10-00074 53	縄紋土器 洗鉢	VI層土内 破片	厚0.55	黄・黄・鈍黄橙・黄・粗砂粒	2条の沈線帯が認められる。	
10-00075 53	縄紋土器 洗鉢	VI層土内 破片	厚0.5	黄・黄・鈍橙・黄・透明炭物粒子・ 白色炭物粒子	2条の沈線帯が認められる。	
10-00076 53	縄紋土器 洗鉢	VI層土内 破片	厚0.45	黄・黄・鈍橙・黄・赤褐色粒子・ 白色炭物粒子	2条の沈線帯が認められる。	
10-00077 53	縄紋土器 洗鉢	VI層土内 破片	厚0.6	黄・黄・鈍橙・黄・粗砂粒	2条の沈線帯が認められる。	
10-00078 53	縄紋土器 洗鉢	VI層土内 破片	厚0.6	黄・黄・鈍黄橙・黄・粗砂	2条の沈線帯が認められる。	
10-00079 53	縄紋土器 洗鉢	VI層土内 破片	厚0.65	黄・黄・鈍灰・黄・白色粒子・透明 炭物粒子・炭押付今日	外周に2条の沈線帯。器内面には、横線一帯が認 められる。口縁部直下には補形孔が認められる。	
10-00080 53	縄紋土器 鉢	VI層土内 破片	厚0.45	黄・黄・鈍黄橙・黄・白色炭物粒子・ 黒色炭物粒子	外周に2条の沈線帯。器内面には、横線一帯が認 められる。	
10-00081 53	縄紋土器 鉢	VI層土内 破片	厚0.9	黄・黄・鈍黄橙・黄・白色炭物粒子・ 黒色炭物粒子	浮線「工」字状文を施す。	
10-00082 53						
10-00083 53	縄紋土器 鉢	VI層土内 破片	厚0.6	黄・黄・鈍黄橙・黄・細粒雲母・石 英雲母片粗粒	浮線「工」字状文を施す。	

第5章 中里見根岸遺跡

10-00084 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.4	腹・釜・暗灰・釜・白色微粒子・ 黒色鉱物粒子・夾雜物少	浮腫「工」字状文を施す。
10-00085 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.45	腹・釜・暗灰・釜・白色微粒子・ 黒色鉱物粒子・夾雜物少	先端の平らな翼による沈線突出の「工」字状文を施す。
10-00086 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.4	腹・釜・鈍橙・釜・透明鉱物粒子・ 夾雜物少	先端の平らな翼による沈線突出の「工」字状文を施す。
10-00087 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.4	腹・釜・鈍橙・釜・透明鉱物粒子・ 夾雜物少	先端の平らな翼による沈線突出の「工」字状文を施す。
10-00088 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.4	腹・釜・暗灰・釜・透明鉱物粒子・ 夾雜物少	口唇部を欠損する。
10-00089 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.6	腹・釜・暗灰・釜・透明鉱物粒子・ 夾雜物少	口唇部を欠損する。
10-00090 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.4	腹・釜・鈍橙・釜・透明鉱物粒子・ 夾雜物少	口唇部を欠損する。
10-00091 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.4	腹・釜・鈍橙・釜・透明鉱物粒子・ 夾雜物少	口唇部を欠損する。
10-00092 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	口(17.4)	腹・釜・黒灰・釜・細砂粒	先端の平らな翼による沈線突出の「工」字状文を施す。
10-00093 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片			
10-00094 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.6	腹・釜・黒灰・釜・チャート粒・ 夾雜物少	先端の平らな翼による深い沈線を施す。
10-00095 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.5	腹・釜・鈍黄橙・釜・透明鉱物粒子・ 白色粒子	先端の平らな翼による深い沈線を施す。
10-00096 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.7	腹・釜・暗灰・釜・細砂粒	先端の平らな翼による深い沈線を施す。
10-00097 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.55	腹・釜・鈍黄橙・白色鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	先端の平らな翼による深い沈線を施す。
10-00098 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.6	腹・釜・鈍黄橙・白色鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	先端の平らな翼による深い沈線を施す。
10-00099 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.6	腹・釜・鈍橙・釜・赤褐色粒子・ 礫片	先端の平らな翼による深い沈線を施す。表裏 面を施す。
10-01000 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.6	腹・釜・鈍橙・釜・赤褐色粒子・ アイサイト・夾雜物少	平行沈線は半輪竹管より表出。内面にも一条の 横線を施す。
10-01001 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.85	腹・釜・鈍橙・釜・赤褐色粒子・ 白色粒子・夾雜物少	平行沈線は半輪竹管より表出。内面にも一条の 横線を施す。
10-01002 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	口(23.0)・高14.7・ 底(8.4)	腹・釜・鈍黄橙・釜・粗粒砂・ 夾雜物少	口唇部直下に横線一線を施す。体部は縦位の 寛無で整形。
10-01003 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	口(28.5)	腹・釜・黄橙・釜・白色粒子・ 黒色 鉱物粒子	口唇部直下に横線一線を施す。体部は斜位の 寛無で整形。
10-01004 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	口(18.9)・高16.5・ 底(8.4)	腹・釜・黄橙・釜・粗粒砂・ 夾雜物少	紋様の施文は認められない。外面は斜位の寛無で を施す。底面は平圧痕が認められる。
10-01005 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	口(28.7)	腹・釜・黒灰・釜・粗粒砂	紋様の施文は認められない。口唇部は平坦。
10-01006 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.9	腹・釜・黒灰・釜・黒色鉱物粒子・ 夾雜物少	口唇部はない。紋様の施文は認められない。
10-01007 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.6	腹・釜・鈍橙・釜・白色粒子・ 夾雜物少・シルト質	器厚は薄い。口縁部は内側気味。紋様の施文は認 められない。
10-01008 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.7	腹・釜・鈍黄橙・釜・黒色鉱物粒子・ 白色微粒子	口唇部はない。口縁部は直線的立ち上がる。紋様 の施文は認められない。
10-01009 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.5	腹・釜・暗灰・釜・黒色鉱物粒子・ 細砂粒	口縁部は直線的立ち上がる。紋様の施文は認め られない。
10-01010 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.5	腹・釜・暗灰・釜・黒色鉱物粒子・ 細砂粒	口唇部は尖っている。紋様の施文は認められない。
10-01011 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.5	腹・釜・黒灰・釜・白色粒子・ 黒色 鉱物粒子・夾雜物少	口唇部は尖っている。紋様の施文は認められない。
10-01012 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.85	腹・釜・鈍橙・釜・白色鉱物粒子	口縁部は直線的に立ち上がる。波状口縁部は4車 色にもツーン
10-01013 53	縄紋土器 鉢	Ⅷ層土内 破片	口(20.5)・高(15.6) ・底(7.5)	腹・釜・鈍黄橙・釜・石英葉片若 ・葉7.5	外傾して立ち上がった胴部から、口縁部は短く立 ち上がる。波状口縁。胴部に赤灰文を施す。
10-01014 54	縄紋土器 浮鉢	Ⅷ層土内 破片	口(20.5) 胴径(23.1)	腹・釜・鈍黄橙・透明鉱物粒子・ 白色微粒子・黒色鉱物粒子	胴部から「く」の字に強く内傾して口縁部が立ち上 がる。口唇直下・胴部に紋様を施す。
10-01015 54	縄紋土器 浮鉢	Ⅷ層土内 破片	口(24.5) 胴径(27.5)	腹・釜・鈍黄橙・釜・粗粒砂	胴部から「く」の字に強く内傾して口縁部が立ち上 がる。口唇直下・胴部に紋様を施す。
10-01016 54	縄紋土器 浮鉢	Ⅷ層土内 破片	口(18.0) 胴径(16.5)	腹・釜・鈍黄橙・釜・粗粒砂	口縁部は直立し外傾する。口唇部は波状口縁部。 口縁部に浮線網文を施す。
10-01017 54	縄紋土器 浮鉢	Ⅷ層土内 破片			
10-01018 54	縄紋土器 浮鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.6	腹・釜・鈍橙・石英粒・細砂粒	外傾して立ち上がった胴部から、口縁部は短く立 ち上がる。胴部上半に紋様を施す。
10-01019 54	縄紋土器 浮鉢	Ⅷ層土内 破片	口(31.2) 胴径(29.4)	腹・釜・黒灰・釜・粗粒砂多	胴部は強く内傾する。口縁部は外傾気味に立ち上 がる。口唇直下に「工」字状文を3段に施す。
10-01020 54	縄紋土器 浮鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.6	腹・釜・鈍黄橙・釜・黒色鉱物粒子・ 白色粒子	外傾して立ち上がった胴部から、口縁部は直立し て立ち上がる。胴部上半に紋様を施す。
10-01021 54	縄紋土器 浮鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.45	腹・釜・鈍黄橙・釜・黒色鉱物粒子・ 白色粒子	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。
10-01022 54	縄紋土器 浮鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.5	腹・釜・黒灰・釜・白色微粒子・ 白色 鉱物粒子	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。

## 第2節 発見された遺構・遺物に就いて

10-00123-54	縄紋土器鉢	VⅢ層土内破片	厚0.45	酸・並・黒灰・並・白色微粒子・白色鉱物粒子	「工」字状文の一部。細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。
10-00124-54	縄紋土器鉢	VⅢ層土内破片	厚0.4	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂	「工」字状文の一部。細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。
10-00125-54	縄紋土器鉢	VⅢ層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂	「工」字状文の一部。地文に赤褐色を施す。細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。
10-00126-54	縄紋土器鉢	VⅢ層土内破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉱物粒子・白色粒子	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。
10-00127-54	縄紋土器鉢	VⅢ層土内破片	厚0.55	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉱物粒子・白色粒子	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。
10-00128-54	縄紋土器鉢	VⅢ層土内破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉱物粒子・白色粒子	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。
10-00129-57	縄紋土器鉢	VⅢ層土内破片	割縁(11.7)	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉱物粒子・白色粒子	球形割縁状。細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。
10-00130-54	縄紋土器鉢	VⅢ層土内破片	口(28.4) 割縁(27.8)	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂	胴部は狭く開く器形。口縁部は直立する。口唇直下・立ち上がり部に横線が施文する。
10-00131-54	縄紋土器鉢	VⅢ層土内破片	厚0.8	酸・並・黒灰・並・粗粒砂	外反する口縁部。表面部に横線一線を施文する。唇部が認められる。
10-00132-54	縄紋土器鉢	VⅢ層土内破片	口(23.6) 割縁(20.6)	酸・並・黒灰・並・粗粒砂	胴や外に反する口縁部。紋様は認められなかった。
10-00133-57	縄紋土器鉢	VⅢ層土内破片	割縁(20.6)	酸・並・明赤褐・並・粗粒砂	内両面縁の割縁部。口縁部は胴や外に立ち上がる。器外縁は扇型整形。
10-00134-54	縄紋土器鉢	VⅢ層土内破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・並・白色鉱物粒子・黒色鉱物粒子・粗粒砂	胴や外に反する口縁部。表面部に横線一線を施文する。
10-00135-52	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	口(26.0) 割縁(25.0)	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂	作りは薄い。直線的に立ち上がる胴部から、口縁部は緩やかに外反し立ち上がる。
10-00136-54	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・並・白色微粒子・粗粒砂少	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。
10-00137-54	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.4	酸・並・鈍黄橙・並・白色粒子・黒色鉱物粒子	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。00136・00135と同様な器形と考えられる。
10-00138-54	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.5	酸・並・黒灰・並・黒色鉱物粒子・粗粒砂	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。00136・00138と同様な器形と考えられる。
10-00139-54	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.5	酸・並・黒灰・並・黒色鉱物粒子・白色粒子	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。00136・00137と同様な器形と考えられる。
10-00140-54	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.4	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。00136・00138と同様な器形と考えられる。
10-00141-54	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.4	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉱物粒子・粗粒砂	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。00136・00139と同様な器形と考えられる。
10-00142-54	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.4	酸・並・暗灰・並・粗粒砂	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。00136・00140と同様な器形と考えられる。
10-00143-54	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.7	酸・並・暗灰・軟・粗粒砂・チャート角粒	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。00136・00141と同様な器形と考えられる。
10-00144-54	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・並・白色微粒子・赤褐色粒子・粗粒砂	短く外反する口縁部の直下に刻みを施す縁部が「太い縦線文」を施す。
10-00145-52	縄紋土器壺	VⅢ層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・軟・粗粒砂多	大形土器。器厚は薄い。外面は無施文による粗い整形を施している。
10-00146-55	縄紋土器壺	VⅢ層土内破片	口(41.5)	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂・礫片	内両面縁に開く。口唇部は平で付紋を付す。口唇直下は赤褐色の縦位施文。
10-00147-55	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	口(27.0)	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂・礫片	胴部は丸味を帯び、口縁部は縦状で直立する。口唇直下は横線四本。胴部に赤褐色を施す。
10-00148-55	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.8	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂・礫片	単軸器全体1の施文。
10-00149-55	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.65	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂・礫片	赤褐色の施文。
10-00150-55	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.7	酸・並・暗灰・並・白色粒子・黒色鉱物粒子	単軸器全体1の施文。
10-00151-55	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・並・白色鉱物粒子・白色粒子	赤褐色の縦位施文。
10-00152-55	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・並・白色鉱物粒子・黒色鉱物粒子・白色粒子	赤褐色の縦位施文。
10-00153-55	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉱物粒子・白色粒子	単軸器全体1の施文。
10-00154-55	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂少	単軸器全体1の施文。
10-00155-55	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂少	赤褐色の縦位施文。
10-00156-55	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂少	単軸器全体1の施文。
10-00157-55	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・並・白色鉱物粒子・粗粒砂	単軸器全体1の施文。
10-00158-55	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.8	酸・並・鈍黄橙・軟・白色粒子・粗粒砂	単軸器全体1の施文。
10-00159-55	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.8	酸・並・鈍黄橙・並・白色粒子・粗粒砂	単軸器全体1の施文。
10-00160-55	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉱物粒子・白色微粒子・白色粒子	単軸器全体1の施文。
10-00161-55	縄紋土器深鉢	VⅢ層土内破片	厚0.8	酸・並・黄橙・並・白色粒子・透明鉱物粒子	単軸器全体1の施文。

## 第5章 中風見根岸遺跡

10-00162 55	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	厚0.8	酸・並・暗灰・並・細砂粒	単軸楕円体の施文。	
10-00163 55	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	厚0.5	酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・白色 粒子・粗粒砂少	肩部周辺の大形破片。肩部は横位から斜位に、肩 部を挟む上・下位は縦位に条痕文を施文する。	
10-00164 55	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・白色 粒子・粗粒砂少	肩部周辺の大形破片。肩部は横位から斜位に、肩 部を挟む上・下位は縦位に条痕文を施文する。	
10-00165 55	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	厚0.6	酸・並・暗灰・並・細砂粒	肩部周辺の大形破片。肩部は横位から斜位に、肩 部を挟む上・下位は縦位に条痕文を施文する。	
10-00166 55	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	厚0.55	酸・並・鈍黄橙・並・赤褐色粒子・ 白色粒子・黒色鉱物粒子	条痕文の縦位施文。	
10-00167 56	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	厚0.5	酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・白色 粒子・粗粒砂少	条痕文の縦位施文。	
10-00168 56	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・白色 粒子・粗粒砂少	条痕文の斜位施文。	
10-00169 56	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・白色 粒子・粗粒砂少	条痕文の縦位施文。	
10-00170 56	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	厚0.6	酸・並・鈍黄橙・黒色鉱物粒子・白色 粒子・粗粒砂少	条痕文の斜位施文。	
10-00171 56	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	厚0.6	酸・並・暗灰・並・細砂粒	肩部施文。横位と縦位の条痕文施文。	
10-00172 56	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	厚0.6	酸・並・暗灰・並・細砂粒	肩部施文。羽状施文の条痕文。	
10-00173 56	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・並・白色粒子・粗 粒砂少	条痕文の縦位施文。	
10-00174 56	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	厚0.7	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂・黒色 鉱物粒子	条痕文の斜位施文。	
10-00175 52	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	□(20.4)・高(22.5)	酸・並・鈍黄橙・並・細砂粒・粗粒 砂少	直線的に立ち上がる深鉢。地中に単軸楕円体1を 施文。□唇直下に菱形紋、下位に雷紋を施文。	
10-00176 56	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	□(11.4) 高(17.4)	酸・並・浅黄橙・軟・黒色鉱物粒子・ 細砂粒	肩から肩部に施文する。縦位に二単位の浮線網状 文を施文し、横位二段に浮線網状文を施文する。	
10-00177 56	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	厚0.3	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉱物粒子・ 白色粒子	口唇直下の施文。口唇部は肥厚している。	
10-00178 56	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	厚0.3	酸・並・鈍黄橙・並・黒色鉱物粒子・ 白色粒子	口唇直下の施文。口唇部は肥厚している。	
10-00179 56	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	厚0.4	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂	肩部片。横線区画内の列点状の施文。	
10-00180 56	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	厚0.4	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂	肩部片。横線区画内の列点状の施文。	
10-00181 56	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	厚0.5	酸・並・黒灰・並・黒色鉱物粒子・ 粗粒砂	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。	
10-00182 56	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	厚0.5	酸・並・鈍黄橙・並・高蒸石灰・粗粒砂	細片のため、器形・紋様構成の詳細は不分明。	
10-00183 56	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	底(27.0)	酸・並・明赤褐・並・緑片・赤褐色 粒子・黒色鉱物粒子	直立する口縁部片。紋様は認められない。器外面 は磨滅で整形。	
10-00184 56	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	底(27.0)	酸・並・浅黄橙・並・緑片・白色粒 子・黒色鉱物粒子	外側する口縁部片。口唇部は尖り気味。紋様は認 められない。器外面は磨滅で整形。	
10-00185	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	底(4.2)	酸・並・鈍黄橙・軟・粗粒砂	器厚は均一。小形器の底部か。器外面は風化が顕 著。研削の痕跡が認められる。	
10-00186	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	底4.5	酸・並・鈍黄橙・並・細砂粒・黒色 鉱物粒子	鉢形土層の底部か。紋様は認められない。	
10-00187	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	底(6.2)	酸・並・鈍黄橙・軟・粗粒砂	鉢形土層の底部か。紋様は認められない。	00117に 同
10-00188	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	底6.9	酸・並・鈍黄橙・白色鉱物粒子・粗 砂粒	鉢形土層の底部か。紋様は認められない。	
10-00189	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	底(6.2)	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂	鉢形土層の底部か。底面に網状。網状は1段越え1 本送り2本送り。	
10-00190 57	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	底(7.5)	酸・並・明赤褐・並・粗粒砂少	鉢形土層の底部。外面は縦位の施文で、内面は横 びわりの施文で施文する。	
10-00191	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	底(8.3)	酸・並・鈍黄橙・並・細砂粒	外面は縦位の施文で整形。内面は磨滅により判然 としない。器面の本磨滅。	
10-00192	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	底(8.4)	酸・並・鈍黄橙・並・細砂粒少	外面は縦位の施文で整形。内面は磨滅により判然 としない。器面の本磨滅。	
10-00193 57	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	底(9.6)	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂	外面は縦位の施文で、内面は横びわりの施文で、 底部の網状は、2段越え1本送り2本送り。	
10-00194 56	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	底(10.2)	酸・並・鈍黄橙・並・粗粒砂	丸縁を帯びた底部から割部片。外面は縦位の施文 で、内面は横位の施文で施文する。	
10-00195	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	底(9.0)	酸・並・鈍黄橙・並・白色粒子・黒 色鉱物粒子・粗粒砂少	外面は斜位の条痕文を施文する。底面は網状。網 状は網状は1段越え1本送り2本送り。	
10-00196 57	縄紋土層 深部	Ⅴ層土内 破片	底12.6	酸・並・鈍黄橙・並・白色粒子・粗 粒砂	外面は縦位の施文で、底面に網状。網状は1段越 え1本送り1本送り。	
20-0006 57	打製石器 石鏃	Ⅴ層土内 部分欠損	長1.7・幅1.2・厚0.3 ・重1g	黒曜石	飛燕形の脱。片側の脱決を欠損する。	
20-0007 57	打製石器 石鏃	Ⅴ層土内 部分欠損	長1.7・幅1.3・厚0.4 ・重1g	黒曜石	黒基平縁三角形形脱決式。脱決は丸縁を帯びる。	
20-0008	打製石器 石鏃	Ⅴ層土内 部分欠損	長1.9・幅1.5・厚0.18 ・重1g	黒曜石	黒基平縁三角形形脱決式。	
20-0009	打製石器 石鏃	Ⅴ層土内 完形	長1.3・幅1.1・厚0.2 ・重1g	黒曜石	石鏃か判然としない。	



## 第2節 発見された遺構・遺物に就いて

20-00010 57	打製石器 石鏃	Ⅷ層土内 部分欠損	長1.8・幅1.5・厚0.4 ・重1g	珪質頁岩	有基平根三角形。加工痕から再製品と思われる。
20-00011 57	打製石器 石鏃	Ⅷ層土内 欠形	長3.0・幅1.2・厚0.3 ・重1g	黒色頁岩	有基平根三角形。
20-00012 57	打製石器 石鏃	Ⅷ層土内 部分欠損	長3.7・幅1.4・厚0.6 ・重2g	珪質頁岩	有基平根三角形。茎を欠損する。
20-00013	打製石器 石鏃	Ⅷ層土内 部分欠損	長2.5・幅2.0・厚0.6 ・重2g	黒色安山岩	無基平根三角形。基部側は再調整の工程早とも思われる。
20-00014	打製石器 掻形	Ⅷ層土内 欠形	長3.5・幅2.3・厚0.5 ・重2g	黒色頁岩	2辺側縁全体の削片加工を施し、先端は刃部加工を施す。
20-00015	打製石器 刮器	Ⅷ層土内 欠形	長2.0・幅1.8・厚0.4 ・重1g	黒色頁岩	片面の削片加工と、裏面側は刃部加工が認められる。
20-00016 57	打製石器 刮器	Ⅷ層土内 欠形	長2.7・幅1.3・厚0.3 ・重4.5g	粗粒輝石安山岩	長辺2側縁に刃部加工を施す。
20-00017 57	打製石器 刮器	Ⅷ層土内 欠形	長3.5・幅4.2・厚0.4 ・重29g	珪質頁岩	削片端部側を加工している。刃部は一部に見られる。
20-00018 57	打製石器 削片石鏃	Ⅷ層土内 欠形	長1.3・幅1.6・厚0.5 ・重17g	頁岩	削片の側部側に加工を施している。
20-00019 57	石製品 磁石	Ⅷ層土内 欠形	長9.8・幅4.8・厚1.5 ・重83g	砂岩	堆積の粒子の異なる部分を利用している。粗・重・細の粒子の差を使い分けているか。
20-00020	打製石器 掻形	Ⅷ層土内 欠形	長7.1・幅5.2・厚0.8 ・重42g	黒色頁岩	小形石製素材の石鏃、新鋭二者の刮削加工が認められ、採掘品の転用の可能性もある。
20-00021	打製石器 石鏃	Ⅷ層土内 欠形	長21.8・幅8.8・厚4.6 ・重734g	粗粒輝石安山岩	刃部側の1個縁の再調整か。全体に摩滅が及んでいる。
20-00022	磨製石器 石鏃	Ⅷ層土内 部分欠損	長17.0・幅3.7・厚2.0 ・重240g	片岩	下端側は欠損後の調整が認められる。上端側は欠損の状貌。
20-00023	石鏃 磨石	Ⅷ層土内 欠形	長8.2・幅7.3・厚2.1 ・重179g	粗粒輝石安山岩	扁平面の両面に摩滅が認められる。被熱による亀裂が認められる。
20-00024	石鏃 磨石	Ⅷ層土内 欠形	長7.4・幅6.6・厚5.0 ・重355g	粗粒輝石安山岩	扁平面の両面に摩滅が認められる。
20-00025	石鏃 磨石	Ⅷ層土内 欠形	長9.6・幅6.6・厚4.4 ・重430g	粗粒輝石安山岩	扁平面の片面に摩滅が認められる。
20-00026	石鏃 磨石	Ⅷ層土内 欠形	長11.0・幅7.8・厚3.9 ・重465g	粗粒輝石安山岩	扁平面の片面に摩滅が認められ、片面には集中磨打痕が認められる。
20-00027	石鏃 凹石	Ⅷ層土内 破片	長10.1・幅6.5・厚 3.8・重400g	粗粒輝石安山岩	上端側に欠損する。両面に凹が認められる。
20-00028	石鏃 磨石	Ⅷ層土内 欠形	長12.0・幅10.0・厚 7.3・重1216g	粗粒輝石安山岩	扁平面の片面に摩滅が認められ、片面には集中磨打痕が認められる。
20-00029	石鏃 磨石	Ⅷ層土内 破片	長6.6・幅3.3・厚5.6 ・重447g	粗粒輝石安山岩	半表面に摩滅が認められる。
20-00030	石鏃 磨石	Ⅷ層土内 破片	長7.7・幅9.7・厚4.4 ・重355g	粗粒輝石安山岩	半表面で摩滅し、扁平面の一部に摩滅が認められる。部分の付着は土壌の作用と考えられる。
20-00031	石鏃 磨石	Ⅷ層土内 欠形	長10.9・幅9.7・厚2.7 ・重563g	粗粒輝石安山岩	顕著な使用痕は認められない。
20-00032	石鏃 磨石	Ⅷ層土内 破片	長16.6・幅21.4・厚 7.9・重4119g	粗粒輝石安山岩	大形の磨の両面平面が摩滅する。石皿としての使用か。

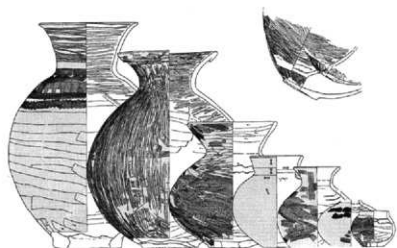
## 遺構外出土遺物

遺物番号 調査番号	遺物種類	出土層位 遺存位置	尺寸 (cm) 重量 (g)	構成・色調・粘土	形状・技法等の特徴	概要
50-00001	灰製品 コウガイ	表土層 部分欠損	残存長7.8・幅0.6		亀甲製	先端部は絞線か。
10-00197	軟質陶器 内耳罐	表土層 破片	厚1.2		黒・並・暗灰青・黒色鉱物粒子・白色顔料	紐作り後輪彫整形(左回転)。
10-00198	須恵器 埴	Ⅷ層土内 破片	底(7.4)		黒・細・灰白・並	輪軸石回転成形。付高台。施釉は脱け。
10-00199	土師器 台台	Ⅷ層土内 破片	基部径3.4		黒・並・浅黄緑・並・細砂粒	基部周辺は施釉を施し、下位は刷毛刷で施す。基部内面は施釉を施す。
10-00200	弥生土器 壺	I 坑層土 破片	径2.3・厚0.6		黒・並・浅黄緑・並・細砂粒多	取附付文。彫状工具を4段以上に施す。
10-00201	弥生土器 I/酒	Ⅷ層土内 破片	口20.0・高32.1・底 6.5		黒・並・浅黄緑・並・細砂粒・粗粒砂	胴部は球形を呈する。頸部は直立して立ち上がり、口縁部は大きく外反する。
10-00202	縄紋土器 深鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.6		黒・並・鈍橙・並・細砂粒多	細く外開する口縁部に外周には、口縁部下に半線竹管による横線と絞形文を施す。
10-00203	縄紋土器 深鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.6		黒・並・鈍橙・並・細砂粒多	0202と同一個体。
10-00204	縄紋土器 深鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.7		黒・並・鈍橙・軟・細砂粒・粗粒砂	表面の風化が顕著。比喩表出による「工」字状文と考えられる。
10-00205	縄紋土器 深鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.6		黒・並・鈍橙・並・細砂粒多	粗い条状文を施す。
10-00206	縄紋土器 深鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.6		黒・並・鈍橙・並・細砂粒多	粗い絞形文を施す。
10-00207	縄紋土器 深鉢	中川6区 破片	厚0.7		黒・並・暗灰・並・細砂粒	口縁部に鹿形浮線文を施す。
10-00208	縄紋土器 深鉢	Ⅷ層土内 破片	厚0.3		黒・並・黒灰・並・粗粒砂	器面全体に研磨を施し、帯輪土の上位に斜位の帯線文を施す。

## 第5章 中里見根岸遺跡

10-00209	縄紋土器 部鉢	VII層土内 破片	厚0.3	黄・黄・黒灰・黄・粗粒砂	00208と同一個体。	
10-00210	縄紋土器 部鉢	VII層土内 破片	高(7.6)	黄・黄・黒灰・黄・粗粒砂	00208と同一個体。底面は削代。削代は1段越え1本送り1本滑り。	
10-00211	縄紋土器 深鉢	VII層土内 破片	厚1.0	黄・黄・黒灰・黄・細砂粒・粗粒砂	LR原体を縦位充填し、懸垂文を垂下させる。	
10-00212	縄紋土器 深鉢	中川6区 破片	厚0.7	黄・黄・黒灰・黄・細砂粒・粗粒砂	字根竹管の縦位区画内に、斜位に竹管条状文を施文する。	
20-00033	打製石器 石鏃	黄土層 完形	長2.5・幅1.6・厚0.6 ・重2g	玉髓	有蓋平根三角形。	
20-00034	打製石器 石鏃	S坑層土 完形	長2.6・幅1.6・厚0.4 ・重1g	黒色頁岩	有蓋平根三角形。	
20-00035	石鏃 破片	S坑層土 完形	長4.0・幅4.2・厚2.5 ・重42g	粗粒輝石安山岩	敲打に伴う剥離が認められる。	
20-00036	石鏃 破片	調査区内 完形	長10.6・幅7.3・厚5.7 ・重583g	粗粒輝石安山岩	顕著な使用痕は認められない。	

## 第6章 中里見原遺跡



中里見原 第1号古墳出土



## 第6章 中里見原遺跡

### 第1節 発掘調査

#### 第1項 調査の経過

中里見原遺跡の調査経過に就いては第1章で略述したが、ここで、本節を述べるに当り、調査着手の経過に就いて改めて触れておきたい。

中里見原遺跡の調査面積は、12,924㎡である。この調査面積を7回に分けて表土掘削を実施した。この状況が示す如く、北陸幹線の発掘調査が如何に慣しい状況下で実施されたかを物語っている。

そして、調査対象区の用地が調査着手段階までに収容出来ていたのは、実態的には20%台であった(図-1を参照)。このため、公道から離れた東側の調査区は重機の搬入路もままならない状態で、孤立するかの如くの状態であった。かかる状況下、中里見原遺跡の調査は着手された。

平成4年度は、4・7・12・1月に各地点(原①・②・③・④・⑤)の用地解決直後に表土掘削を行った。この中で原④・⑤地点は、残土の搬出路の幅員が狭く、残土搬出には効率が悪かった。また、原④地区は、調査区内に搬入・出路を設けて表土層掘削を行い、終了後は再び撤去して、発掘調査をせざるを得なかった。

平成5年度は、5・8・2月に各地点(原⑥・⑦・⑧・⑨)の用地解決後に表土掘削を実施し、発掘調査を実施した。

この様に、用地取得の状況に応じての調査を実施せざるを得なかったのが、中里見原遺跡の調査であった。そして、この間2年間の間に、14遺跡以上の試掘調査・7遺跡の本調査を手掛けている。中里見原遺跡はこの間に実施したとも換言出来る状況であった。

#### 第2項 試掘調査

中里見原遺跡の試掘調査は、遺跡内容の把握・遺跡範囲の確認・旧石器時代調査認定の要否の3種類を実施した。

前者は、調査着手段階で、遺構面露呈(表土層掘削)のため、事前での文化層把握と遺構面把握を目的にして実施した。

試掘調査は、平成4年4月13日から同16日まで実施した。試掘坑の設定は、北側路線幅杭から0.5m隔て、用地界に平行する状態で一辺2mのテストピットを5m毎に10箇所に設定した(西側から第1～10トレンチまで名称を付与した)。調査は人力でハードローム層まで掘り下げた。

この結果、図-4の基本土層に示した層序が確認出来た。そして、台地の中央部に相当する部分のトレンチ断面(第10トレンチ)を基本土層の基準とした。中者は、調査着手段階までに認定されていた遺跡範囲の確認のために実施した。

調査区西端部は上里見井ノ下遺跡に連接するが、斜面部はどこまでが遺跡範囲に該当するのか、この問題を解決するために、同斜面部に3本のトレンチで確認調査を実施した。この結果、斜面部はトレンチの東端程から急激に斜面下方向に落ち込んでおり、遺構は確認出来なかった。この所見から、遺跡範囲をトレンチ東端までとした。

また、調査区東端の暖・急斜面部(図-1原⑥・⑨)は、当初は調査対象ではなかったが、図-1原⑤部分での遺構発見状況から、遺跡は更に東側へ延びる可能性が濃厚になったため、原⑥に東西方向のトレンチを設定して遺跡の範囲確認調査を実施した。調査は平成5年5月7日に実施した。この結果、住居層と思われる落ち込みを数箇所に確認出来たことにより、当該部分が調査区に組み込まれることになった。

同様に原⑨は、平成6年2月1日から表土層掘削を開始した。

後者は、旧石器時代の確認調査であった。調査区内の東側を中心に、2m×2mの試掘坑を設定した(原③・④)。また、2箇所に大規模な試掘坑を設定し調査したが、孰れの試掘坑からも遺物の出土は無かった。この旧石器の試掘調査は平成4年12月14日から開始し、平成5年4月23日まで実施したが、後述する、上里見井ノ下遺跡の調査もこの間に実施し

るため、実態は、断片的な調査であった。

### 第3項 本調査の概要

原遺跡の本調査は前述した如く、用地解決の次第により調査区の拡張を繰り返した調査であった。このため、拡張状態は筆界毎になった。各部位の呼称は、記号名称は用いず夫々の固有名詞を用いて呼称した。

本調査は前述の試掘調査直後、試掘調査の所見により、重機により表土層の除去を行い、下位層の土層を可能な限り傷めない様に考慮した。これは、当遺跡が里見虎寺遺跡に至近の位置関係上、寺域等を示す痕跡を逸しない様に配慮してのことである。

このことにより、遺構確認面は、As-B降下面・IV層土面・V層土、VI～VIII層土を露呈させた。また、一部では、遺構内に陥没する状態でAs-Bの堆積が確認されている(12・14号住)。

遺構確認は、上述の土層で各地点で行ったが、特に、As-B降下面、III層土面を確認面とした地点では、遺構確認も困難な状況でもあり、5mグリッド方眼ごとに人力により掘り下げ、確認面をIV層土・V層土面に求めた。この方法を用いたのは、①・③・④地点で行った。

調査区内の地目は畑・果樹園・宅地・墓地であった。果樹園及び数筆分が東西方向の地割りで、筆界は50cm～80cmの段差が認められ、東端部分では、果樹園と宅地の筆界は2mほどの段差が造成されていた。墓地は、東側斜面に2筆分在った。これらの地目により、遺構確認面は攪乱状態が異なり、どの筆界部分も現地形状どおりに段差が生じ、これにより、調査区内の地形図の等高線に不整合状態が生じている。また、墓地部分では、地山が著しく攪乱する状況であった。原因には、墓地移転に伴う改葬(小型掘削機)もあるが、墓坑の掘削による攪乱も顕著に影響していたと考えられ、過去に多の土墳墓が造られた可能性も考慮される。

発見された遺構は、住居跡57基・竪穴状遺構4基・掘立柱建物跡7基・道跡3条・欄列跡1条・土墳墓4基・土坑1001基・古墳(方墳)1基等である。

## 第2節 発見された遺構・遺物

### 第1項 発見された遺構に就いて

当遺跡は、里見地区では最も広域な調査対象区を有していたことから、4遺跡の中でも比較的遺跡の様子が分明になった。発見された遺構及び数量は概ね前述の通りである。以下、遺構種ごとに概略を記す。

#### 住居跡(第130～297図)

住居跡は57基が発見されている。これらの住居跡は、住居跡の時期と分布状況に傾向が窺われ、3時期5群で構成される住居跡群と判断した。

調査区内の台地中央を縦走する3号道跡(後述)を境に、西斜面側・東斜面側の大きく2群に分布する状況がある。この前者、西側の一群は、概ね8世紀末～9世紀前半～中頃を中心遺構の盛期があり、稀有な大形住居跡と同規模の掘立(16住居跡・5・7号掘立)を至近の位置に構築している状況が認められる。更に、西端台地縁辺には10世紀代の住居跡の分布がある。また、斜面際には柵列により上里見井ノ下道跡側と隔絶されている。

この西側の住居跡群には、均整の取れた横長方形の形状に、竈を北東壁に構築する8世紀末～9世紀前半頃の住居跡(8・9・11・13・14・18・24・52号住)(第1群)と、竈を南東壁に構築する9世紀中頃～9世紀後半頃の住居跡(11・12・16・17・18・19・23号住)(第2群)で、第1群は横長方形の平面形状で、第2群は正方形基調の平面形状を呈する二者の在り方が認められ、更に、調査区西端に10世紀代の住居跡の分布域がある。

この第1・2群の時期には基壇建物跡・掘立柱建物跡が並存していたことが推定され、基壇建物跡と7号掘立との新旧関係から、第1群と基壇建物跡、第2群と掘立柱建物跡の相互関係が推定される。

第3号道跡の東側では、南北方向寄りに長軸を採り、北壁に竈を備える9世紀中頃～9世紀末の住居跡(21・22・27・34号住)(第3群)と、住居構築に指向方向に統一の看取されない10世紀代の住居跡

(20・31～33・36・37・39・44・45・48・49・50・54・55号住) (第4群) に分類される。また、調査区西端側の10世紀の住居跡(1～3・5号住)を第5群としておく。

以下に各群別に概況を記しておく。

#### 第1群の住居跡

第1群の住居跡は、3号道跡西側で、均整の取れた横長方形の形状に、竈を北東壁に構築する(23号住は南東壁に竈を構築するが、24号住と軸方位がほぼ直行する状態で構築されている)8世紀末～9世紀前半頃の住居跡(8・9・13・14・23・24号住)6基が該当する。この他、第2群の25号住に切られる26・41号住が含まれる可能性も考慮される。

出土遺物では、「く」の字口縁の土師器甕、回転笠起こしの須恵器坏、底径の広い須恵器坏、返りの弱い須恵器蓋が特徴的な共存遺物である。

この段階の土師器は吉井・藤岡産が100%に近い供給量があるが出土量は極めて少ない。一方、須恵器坏は出土量が極めて多く、土師器坏と対照的である。須恵器は完全なまでに秋間産が供給されている。

#### 第2群の住居跡

第2群の住居跡は、南東壁に竈を構築している。正方形乃至矩形を基調とする住居跡であるが、11号住は竈の据換えもあり、縦長方形→横長方形に変更している。9世紀中頃～9世紀後半頃の住居跡(10・11・12・16・17・18・19・25号住)9基が該当する。分布は、凹地の浅い谷地に沿っている。

また、当遺跡で発見された住居跡で最大規模を誇る16号住は、6.60m×7.70mの規模で当該期の住居跡でも傑出している。竈も礫を多用する構造で、全長4.62mを計るが、廃棄段階の使用長は2.82mと萎縮した状態になっている。何らかの熱利用をするための施設とも思われる。この他、主柱穴P<sub>6</sub>は床面上で礫を根巻きしている。特殊な住居跡と位置付けられる。

出土遺物では、「コ」の字状口縁の土師器甕、体部に型膚を顕著に残す薄手の土師器坏、底径の縮小化が見られる須恵器坏、塊の出現、須恵器皿の多出が

特徴である。また、17号住からは、紐作りで軸轆整形後に更に縦面に篋削りを施す酸化焰焼成甕(秋間型甕)の出現が認められる。

土師器は第1群の段階同様に出土量は少なく、土

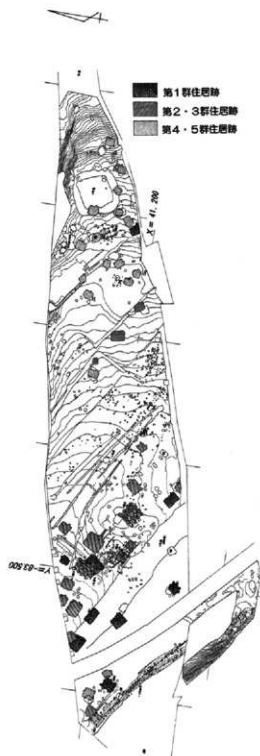


図6 住居跡群別図(1:1,500)

## 第6章 中里見原遺跡

師器環の出土量は異常なまでに少ない。秋間産須恵器が豊富に使えた結果であろうが、当遺跡での、土師器の存在意義も問われよう。

土師器環・甕はやはり吉井・藤岡産が占有するものの、やはり秋間産須恵器の供給は顕著な状態である。また一方では、秋間型甕の出現がある。供給の少ない吉井・藤岡産製品の補完的立場により出現の契機とも思われるが、旧碓氷郡内の当該期の遺跡を詳細に検討を加えないと明かな当時の状況は明らかに来ないと考える。

### 第3群の住居跡

第3群の住居跡は3号道の東側で、南北方向に軸方向を採る、第2群の住居跡群と同時期の住居跡(21・22・27)号住(34号住?)がある。道を隔てたことにより、住居の方向を変えるという現象は、何らかの規制の違いにより生じたと思われるが、現状では少数例であるため、それを推定することは困難である。

出土物は第2群の特徴同様である。

### 第4群の住居跡

第4群の住居跡は東斜面に分布する10世紀台(中頃まで)の住居跡で、住居構築に指向方向に統一の看取されな正方形・矩形基調と、縦長方形の住居跡(20・31~33・36・37・39・44・45・48・49・50・54・55号住+3号竪穴)である。

出土遺物の特徴としては、墨書土器が多出ていることが挙げられる。文字には「人上」が最も多く、風冠に「上」「土」も多い。

土師器環は皆無に等しくなり、須恵器塊の増加が顕著である。また、秋間型甕の出土量の増大が顕著である。そして、新たに、羽釜の出現がある。通有県内西部では吉井型羽釜(吉井古窯跡群産)が主体であるが、当遺跡では、秋間産乃至秋間産と考えられる羽釜が主体であり、微量ながらも月夜野型羽釜の出土がある。秋間産羽釜に固有名詞の設定が可能か問題点でもある。

須恵器はほぼ秋間産と思われるが、酸化焙焼成が主体の胎土の観察所見は、確定し得ない判別困難な

ものが多かった。このため判定は避けている。器形(成・整形技法)の特徴は秋間産を裏付けている。

また、32号住からは鉄製鎌・鋤先が纏まって出土している。このことは、当該段階での遺跡周辺の耕地の拡大乃至開墾がすすんでいる状況を示唆していると考えられる。

### 第5群の住居跡

第5群の住居跡は、調査区西端側に分布する10世紀の住居跡(1~3・5号住)を当該群に設定した。内容はだい4群同様である。

この第4・5群の住居跡は、台地中央部には殆ど構築が認められない実態である。これは、換言すれば低地により近い場所に占地したこと他にないことと、台地内部での状況が変化していることの裏付けでもある。この要因に、第4群の32号住、同時期に含まれる3号竪穴(小鍛冶)の存在は、鉄製農具の普及を具体的に示しており、その背景として新田開発・再開墾が推定される。

この第4・5群の住居跡以降の住居跡は未発見であるが、中川・根岸遺跡では、10世紀後半以降の住居跡が集中して発見されている。

### 竪穴状遺構(第298~306回)

竪穴状遺構は4基を称号させた。しかし、整理事業段階で、詳細を検討すると、1・2号竪穴状遺構は当該名称に馴染みの無い遺構である。

1号竪穴状遺構は、落ち込みとしか認定出来ない遺構で、寧ろ、第1号櫛列跡に付随する施設の可能性が考慮される。直接的に双方の切り合い関係は確認出来なかったが、1号竪穴状遺構が当該部分に造られた必然性が、唯一の双方の関係を考慮する場合の一つの根拠になろう。

第2号竪穴状遺構は、平面形状、覆土の状況、鉄釘・遺物出土状況から土壌墓としての性格付けが正当であろう。

第3号竪穴状遺構は、小鍛冶の遺構を伴うことから、住居跡とは異なる、小鍛冶専用施設として考えられる。第4群の住居跡に伴う鍛冶施設としての性格であろう。一方、住居跡を使用している小鍛冶は11・



12号住で発見されている。

第4号竪穴状遺構は、土坑状であるが、底面は平坦面を意識して構築されているが硬化はなかった。第2群住居跡に伴うと考えられる。

#### 掘立柱建物跡 (第307～316図)

掘立柱建物跡は7棟が発見されている。この中で6号掘立以外は3号遺跡の西側に散在している。特に、1・3・5・7号掘立は、総柱の建物で夫々に規模が違うが柱間7尺の建物である。

他方、2・4・6号掘立は柱間の造りに規則性は完全ではなく、桁側でも梁側でも等間の造りではなかった。

5号掘立は、3間×3間総柱の建物である。柱穴の平断面から、1本の柱の太さが30cmを越える、官衛の正倉級の柱を用いていることが確認されている。

この5号掘立は、付図-6に示した様に、台地の西半分側で凹地状の地形部分に占地している。この凹地状の地形は、調査区の南東側350m程の所に、台地に平行する状態で細長な状態で上見井ノ下側の谷に向かっている。周知の里見庵寺遺跡は、この凹地状の地形の中間部分程の北側に瓦が集中的に分布し、耕作により掘り出されてしまっているが、礎石が出土している。この5号掘立はこの凹地状の地形の最奥部に当たっている。即ち、上見井ノ下の谷から凹地状の地形部分を使い、台地上に上がる場合、上りきった頂部に基礎建物か7号掘立が建ち、手前の凹地平坦部に5号掘立が建っている状態である。

7号掘立は、3間×2間総柱の建物である。1号基壇を切り構築している。そして、柱穴の切り合い関係から、建替えが行われていることが窺え、最終段階で礎石立ち建物が建てられている。

この双方の掘立柱建物跡が前述第2群の住居跡に伴う時期と考えられる。

1～4号掘立は、上述二者と比較すれば小規模な掘立である。取り分け、1・3・4号掘立は第1・2群の住居跡に伴うと考えられる。しかし、2号掘

立はピットの規模が小さく6号住と完全に重複する(6号住床面精査時に確認されている)ことと、周辺状況から勘案すれば、第5群住居跡に伴う可能性が考えられ、場合によれば、6号住の柱穴であることも考慮の範囲であろう。

#### 基壇建物跡 (第317～321図)

第1号基壇建物跡は凹地状の浅い谷地形の頂部に位置している。

確認時の状況は、表土層の掘削と同時に並行で平面精査を行っている段階で、表土層の最下面程で硬化した土層に達し、この硬化範囲を確認した。確認されて硬化範囲は不整形状態であったため、周辺土層と異なる状態、通常の平面確認と同等に精査・確認を実施した。この結果、当該の掘込地業の範囲が確認されたが、北側半分がやや複雑な状況であった。これは、後日明らかになったが、7号掘立が重複していた事に原因していた。また、確認面の数箇所には、礎石状の礫が散見された、その中でも、S-4(7号掘立P<sub>4</sub>部分の礎石)周辺は非常に硬化していた。

調査は、第318図に示した調査上の便宜調査区名称間にセクションベルトを設定して掘り下げを行った。この結果、掘込地業の版築土は、残存が薄く残存層厚約5～10cm程で、全体に微細粒状のAs-Cを多く含む黒色褐土(III層土ベース)の単一層であった。

礎石は、S-1～4を想定し平面上で検討したが納得出来る状態ではなかったが、上述の便宜上の調査区の設定は、S-2・4を通過する線を基準に設定した。

しかし、結果はS-4が7号掘立の礎石である事が判明し、基壇建物の礎石の検証は出来なかった。しかし、7号掘立の礎石は、基壇建物跡の礎石を転用している可能性は残されているが、数量の問題も残されている。

他方、S-1～3の中心での距離は4.2mであり、7尺2間の計算に符合し、7号掘立の指向方向に概ね準じており、7号掘立に近い時期に別な建物の礎石として使用されていたことも想起される。

出土遺物は第319～321図に示したが、1・2・5・6・9・10・11・13・14区画の出土遺物は7号掘立の平面確認調査に伴い出土している。新旧関係から、上記区画の出土遺物は7号掘立に伴うと考えられるべき遺物である（図化掲載時までは編集が出来なかった）。

第320図中では、4・12・13・14区画から出土した10-000865～000877の遺物が基壇建物構築段階での混入乃至後世の部分的な攪乱等により混じれた遺物（10-00874・875）と考えられる。そして、主体的な遺物の時期は、8世紀末～9世紀前半と考えられる。

#### 柵列跡（第322・323図・付図-6）

柵列跡は、西斜面で2条以上が発見されている。この柵列跡に重複状態で第1号竪穴状遺構が位置している。この重複部分がやはり柵列跡が不明瞭な状態に陥っている。また、2号掘立・6号住より以西は柱穴が未発見で、2号掘立と6号住に取り付く状態にも見られる。

明確に捉えられる2条の内、A列（台地内側の列）は、柱穴が24本発見されている。柱間は正確な設計値が読み取れない。概ね150～180cm、5～6尺の間の数値である。

B列（斜面よりの列）は、1号竪穴を挟み途切れた状態で発見されている。この柵列跡も柱間は正確な設計値が読み取れず、上述のA列と同様な状態で概ね150～180cm、5～6尺の間の数値である。

この双方とも、明確な時期を推定出来る遺物の出土が見られなかった。時期に就いては、解釈問題になるが、前述の1号竪穴・2号掘立・6号住との関係を想定するなら10世紀前半頃であろうし、第1・2群の住居跡群との関連性を採るなら8世紀末～9世紀前半頃に推定される。状況的には、寺院機能が明確な時期での構築であったと類推しておきたい。

また、当該柵列跡の南東延長部分の調査区（町道拡張区）では、この柵列跡の延長が未発見であった。当該部分は攪乱（土坑の項目で後述する）が著しかったことから、これにより失われ、未発見になった可能性もある。

#### 道跡（第324～327図）

道跡は、第1～3号道跡の3条が発見されている。この3条の道跡は、目的・時期差により三者各様である。

##### 第1号道跡（付図-7）

1号道は、調査区内西側の台地西端側に近い位置を台地に沿う状態で発見され、現町道とも平行する状態でもある。幅員6m余りの大規模な道跡である。断面形状は浅い皿状を呈する。底面は数条の楎が平行して認められている。

現町道は昭和58年に拡幅工事が行われている（この時に県教育委員会文化財保護課により緊急調査が実施されている）。この町道は、「原往還」と呼ばれていた道を改修しての状態である。下里見中原の道標（図版7-5・元禄期の遺立）は、「板鼻道」との辻部分に置かれている。

この1号道は旧原往還の姿である。

##### 第2号道跡（付図-7）

2号道は、旧筆界に沿って発見されている。元来は断面箱型状（第325図上段）の溝状遺構で、埋没と共に埋没面が硬化している。時期は、上限として近世・近代頃と考えられる。

##### 第3号道跡（第325～327図）

3号道は住居跡群を東西に類別する基準にした道跡である。

この道跡は、台地の最高位上を縦走する状態で発見された。図中では線状に細く成っているが、実際の道の幅員は、第327図上段に示した様に、幅員1.5m～1.8mで、断面形状は浅い「U」字状を呈する道跡であった。これは、第1次遺構確認面をグリッド毎に掘り下げる段階で確認されたため、平面的に露呈させた部分は、道の硬化範囲のみであったことに原因している。

この道跡は、15-G-18グリッド部分では、比較的広い幅員を採る1条の道跡であったが、15-G-19グリッド辺りから分岐が始まり、更に15-J-20・15-I-20グリッド辺りでまた分岐する状態で、大きくは4条に分岐が認められる。この4条に分岐した道に、

夫々にA～D筋とし、更にこの中の分岐にa・b等の支線名称を与えた(第327図)

3道A筋a支線は分岐後徐々に方向を西側に偏在させるようになり、15-O-3グリッド辺りでほぼ東西走せ、16・19号住を過り、12・15号住・7号掘立のところで止まっている。攪乱当により逸している部分はあろうが、12号住が行く手を阻む状況であることから、この5基の遺構乃至基壇建物跡が機能している段階での存在と考えられる。

他の分岐した支線は、概ね西北西～北西方向に延びている。

当該3号道の逆走側は調査が及んでいないため不明であるが、里見庵寺遺跡の瓦葺(基壇)建物跡の配置位置は、当遺跡同様台地稜線の西側20m程に建物の中心が推定されている。この台地稜線からの配置関係からすれば、当該の道跡はこれらの堂舎を結ぶ道の可能性も想起される

#### 土墳墓(第329～333図)

土墳墓は5基発見されている。この5基の土墳墓の内、4基の被葬者がヒトで1基がウマであった。

1～3号土墳墓は、第1号古墳の周溝部分で発見されており、40m隔てた南東部分で第4号墓が発見されている。また、ウマを埋葬した5号土墳墓は、4号土墳墓の北東方向に14m程離れて発見されている。

1号土墳墓～3号土墳墓の被葬者は、埋葬時に極度に足を曲げられた状態であったことが出土葬位から窺える。恐らくは、死後剛直の解ける段階、輪棺以前に行われて葬位と考えられる。この時、棺は縦棺であったことが推定出来る。また、棺を用いない場合は、やはり死後剛直の解ける段階で、布等により、遺骸を出土状況の如くに包み墓坑に直接納めたとも推定出来る。

5号墓はウマを埋葬している。乳歯の残る若いウマで、興味深い所見を得ている。

時期は、孰れも近世～近代頃と考えられる。

埋葬人骨・埋葬馬に就いては、第8章で詳述しているので稿譲りたい。

#### 第1号古墳(第334～339図・付図-5)

1号墳は、主軸を北-29度-西に採る一辺24mの方墳で、As-C降下以前、3世紀後半頃に構築された古墳である。位置は調査区東端で発見され、低地側の根岸・中川遺跡を眺望するには好所である。墳丘盛土は確認面では痕跡も確認出来ず、主体部も発見されなかった。

周溝は幅3.0～3.5m、深さは確認面下1.5～1.8m程で全周している。溝底は、南面は中央部が窪む状態で、西面は墳丘寄りが溝状に低く、東面は緩やかに北面に下り、北面は一段低く中央部が窪む状態である。水平位での南北差は0.8mを測っている。

確認面では、周溝にはIV層土を主体とする覆土が確認出来、墳丘部では、V層土の下層土が確認されている。

周溝内堆積土は、溝底直上には、墳丘側からの地山法面の崩落土が混入する状態で、周溝部位により堆積は異なるが、VII層土～IX層土の混土層が夫々の量比に違いがあるものの、墳丘と周溝法面の崩落と解釈出来る状況であった(5～8層)。

As-Cは上述した溝底直上層群の直上で、周溝内全域で発見されている。層厚概ね10～15cmであった。

As-Cより上位の覆土は、褐色質の発色が強い堆積土(風化ローム土の色調に類似)が墳丘側から流入する状態で認められた。特に顕著だったのが斜面北側で、土層断面B・C・D・Iでは明瞭に看取された。

最上層土(確認面)のIV層土の堆積は、周溝内のAs-Cの堆積からすれば、築造段階では、IV層土のAs-Cを除去した黒色土が地表面であったことが推定出来、本墳構築以後に生成された土層である。このことから、IV層土の堆積段階には、周溝は殆ど窪み状態であったことが窺える。

出土遺物はAs-Cを上下する状況で出土している。上位では、10-00935・936・941がほぼAs-C直上から出土し、2層土に混入する状態で10-00942・943・945が出土している。As-Cより下位、溝底直上層からは10-00940が出土している。

これらの出土遺物の中で、10-00935～941は器外面に赤色顔料塗彩を施している。また、底部穿孔の10-00935・936・940・941の中で、00936が焼成前に穿孔しているが、他は焼成後の穿孔である。

また、10-00935は頸部に簾状文、頸部直下に波状文を越す樽式の文様を施文しているが、強く外反する口縁部、球形を呈する胴部、肥厚する底部は、古式土師器の器形特徴を備えている。同様な個体は、根岸遺跡で単独で出土している(第129図 10-00201)。出土位置は本墳の直下で、低地に移行部分である。ほぼ同時期の土器と考えられ、双方の関係は何らかの状況を示唆しているものと考えられる。

#### 東斜面石組み遺構(第340・341図)

当該遺構は第1号墳の斜面下で発見されている。確認当初は、山寄せ古墳の墳丘に類した地形の中央部に石組みが確認された。地形とこの石組み遺構から小石塚を伴う古墳と思われたが、調査を進行する途中に至り、当該遺構が近代以降に構築されたいことであることが判明した。

石組みは、主軸を北-68度-西に採り、軸長189cm幅90cmにとる規模で、掘方最大長295cm同幅180+ $\alpha$ cmを計る。壁は軸方向で、3石2段、小口側で2石2段が確認出来、目地は底面側壁共にコンクリートにより盲目地がされていた。コンクリートは粗い砂を多く含む脆い状態であった。壁に用いられた礫は型により截断が行われ、壁面側にはこの截断面を用い平にし、更に、コンクリートによる盲目地により、平坦にされている。

当該石組みは、盲目地の意味から、液体物、水等の貯蔵を目的とした施工と思われる。

#### 土坑(第342～367図)

土坑は「穴」を一括して指している。所謂「ピット」も含まれている。総数1001基が発見されている。微細図を掲載した土坑は、良好な状態で遺物出土状況が得られた土坑に限った。

土坑は、その分布状況の特徴は、前述した各住居跡群に伴う周辺から発見がある。

第1・2住居跡群の範囲には、第145・166・189・

205・318・737号土坑が含まれ、第1住居跡群の時期には205号土坑が認められる。他は、第2住居跡群に伴うと考えられる。

また、982・983号土坑は、所謂「攪乱」扱ひされる土坑であるが、周囲が50cm以上も掘削され、島状に残された地山部分で発見されている。この土坑の北西側は柵列跡の南東側延長部分が調査されているが、当該部分がこのような攪乱を受けている状態から、攪乱により柵列跡のピットも多くが失われた可能性がある。

翻って東側では、747・748・795・819・824・874・875・900番代の土坑群が第4住居跡群に重複する範囲で分布している。

これらの土坑からの出土遺物は、未使用乃至未使用に近い遺物が無く、孰れも経年使用の遺物であった。埋納・埋設に際して新ためて用意された器ではないことが示唆的であるが、具体的な性格はなお不明である。

#### As-B 被覆土坑(第365図)

確認面に於いてAs-Bが埋没する状態の土坑に就いてのみ当該の名称を与え、通常土坑と分別した。分別の意図は、希少な類別であることからその設定とした。

当初、7基を確認したが、調査により土坑として認定出来たのは、図化した5～7号の3基であった。

これらの3基の中で、第6号As-B被覆土坑は所謂「ドーナツ土坑」である。調査段階では、地山土層の分層境目辺りに底面と思われる面が観察出来たが、確実性を得るため断ち割り底面・壁面を確認した。As-Bは底面直上では認められなかった。

#### 北東斜面土坑群(第366・367図)

北東斜面土坑群は、北東斜面で不整形の大規模な落ち込みとして確認されていた。調査は、土層観察のためセクションベルト6条設定して掘り下げた。この結果第366図に示した如く、多数の土坑の切り合い状態の様相であった。多数の切り合い関係と言っても、断面で切り合い関係を確認することも困難であった。出土遺物は10世紀前半代の須臾器、灰桶陶

器類がある。

#### 竪穴状落ち込み (第368図)

竪穴状落ち込みは、16号住と5号掘立の間の凹地部分で発見されている。確認面はIV層土下層である。土層断面では、III層土から掘り込んでいることが観察出来た。底面は比較的平坦であるものの、硬化等は認められなかった。

1号では、底面直上層上に灰の散布が認められたが、竈等の施設の存在を示す状況は認められなかった。

土層断面特徴的な堆積状態が確認出来なかったが、平面では、16号住の煙道の掘方埋土と同様な塊状焼土を多く含む土が斜面に沿い、当落ち込みまで続いている状況であった。16号住が斜面占地のために起因する自然排水の流路伝いの結果とも考えられる。

2号では、やや多く遺物が出土したが、孰れも底面から遊離していた。出土遺物は土師器甕の破片のみであった。

#### 井戸状遺構 (第369図)

井戸状遺構は、調査区西端、調査区界に跨る状態で発見されている。調査は、東半分程を発掘したに止まり完掘が出来なかった。

構造は、確認面(図中の一)下-1.5m程に径0.9m程の平坦面を設え、更に、中央部が径0.6m程の円形状に掘り下げられている。調査では、この中心の円形状の部分30cmほどを掘り下げたに止まった。

この中心部分の径60cmの掘り込みからすれば、台地縁辺部の地山層中からの湧水を得ることは不可能である。

井戸以外の機能を考慮すれば、当該遺跡が寺院跡の一部と見なされることから、塔竿支柱も挙げられるが、土層断面には支柱を埋設した諸行の痕跡は認められなかった。他方、近年明らかにされつつある「水室遺構」の構造要件が類似している。

調査が半分にししか及ばなかったことから、未調査部分の構造が不分明であることから、当遺構が水室としての性格が考慮されるまでにとどめておく。

出土遺物は、9世紀後半の須恵器境が2点以外認

められなかった。

#### 第2項 出土遺物に就いて

原遺跡は、寺院跡乃至は寺院関連の遺跡である。また、眼前の秋間丘陵を越えれば、そこには東国最大級の秋間古窯跡の秋間群である。

原遺跡は、この双方の特殊な条件が附加されている。

出土遺物の大きな傾向として、土師器の出土量が非常に少ない点にある。これに比較して、須恵器の出土量は多く、8・9世紀の土師器環類は微量である。図中に掲載した土師器環は口径推定可能な細片でも掲載しており、口縁部片の90%以上を掲載した。

土師器甕は当遺跡独特な胎土・技法で製作されて個体が多数観察された。国府周辺に大量に供給された吉井・藤阿産製品とは異なり、輻輳使用で秋間産乃至確水郡内に生産地が推定される生地土を使用している。「秋間型甕」として図中に註書きした。概要は後述する。

須恵器では、上述したように環類の出土が多い。土師器環の数量が少ない分の反映であり、須恵器環が多く供給されている結果が土師器環の供給(必要)が少なかったのが理由であろう。

また、硯・特殊脚付き境等の特殊器種が出土している。

特殊遺物では、瓦・鉄器を上げることが出来る。

瓦類は、釐瓦・男瓦・女瓦が出土している。隣接する里見庵寺遺跡で所用されていた瓦と考えられるが、当遺跡でも基壇建物跡が発見されており、里見庵寺遺跡と基壇建物跡との関係が問題になる。瓦類に就いては後述する。

鉄器類では、32号住で纏まって出土した鎌・鐮先があり、布断片から、柄から外され袋に入れられていた状態で出土している。更に、使いが進んでいないか未使用と考えられる鎌も含んでいた。隣接の3号竪穴が小鍛冶遺構であることから、集落(?)中での鉄器生産も可能であったことの反映と考えられる。

前述の様に、当遺跡の特殊な部分に就いて概説したが、内的な状況は未分析が多いと考えられる。

## 中里見原遺跡遺構構元一覧（規模・土層説明等）

## 住居跡

## 第1号住居跡

位置：19地区16区E・I-18・19グリッド。 規模：3.2m×3.2m。 主軸方位：北-135度一東。 遺構概要：長1.33m×奥壁部幅0.73m×袖部幅0.96m。  
 層序（基準部標高202.40m）1. 黒褐色 細粒状C軽石少量・焼状焼土少量。 2. 黒褐色 細粒状C軽石少量・焼状焼土少量。 3. 黒褐色 細粒状C軽石少量・焼状焼土少量。 4. 赤褐色 微粒状C軽石微量・焼状焼土・小塊状焼土。 5. 赤褐色 焼状焼土・焼状焼土主体（面熟焼）。 6. 暗褐色 微粒状C軽石若干・焼状焼土含有・焼状焼土。 7. 暗褐色 微粒状C軽石微量・細粒状焼土。 8. 暗褐色 微粒状C軽石微量・小塊状焼土含有・焼状焼土。 9. 暗赤褐色 焼状焼土・微粒状C軽石微量・小塊状焼土少量。 10. 黒褐色 細粒状C軽石若干・焼状焼土含有・焼状焼土。

所見：当該住居跡は第1号竪柱建物跡を切り壊している。竪柱建物跡が著しく歪んだ状態が認められる。この要因は、傍電坑を撤去し構築したか、改築によるものと考えられる。このため右袖部を壁外面に拡張したことが想定出来る。

## 第2号住居跡

位置：19地区16・26区J・K-20・1グリッド。 形状：矩形。 規模：(4.4)m×(4.0)m。 主軸方位：北-14度一東。

遺構概要：長1.25m×奥壁部幅0.7m×袖部幅0.9m。  
 層序（基準部標高202.70m）1. 暗褐色 微粒状C軽石微量・焼状焼土多量・焼状炭化物含有・焼状焼土少量。 2. 暗褐色 細粒状C軽石若干・焼状焼土少量・焼状焼土少量。 3. 微粒状C軽石微量・焼状焼土含有・小塊状焼土少量。 4. 細粒状C軽石若干・焼状焼土含有・焼状焼土。 5. 黒褐色 細粒状C軽石若干・焼状焼土含有。  
 D-D' 1. 暗褐色 焼状焼土・焼状焼土。 E-E' 1. 暗褐色 細粒状C軽石若干。 2. 黒褐色 細粒状C軽石若干・焼状焼土若干・焼状炭化物若干。 3. 黒褐色 微粒状C軽石微量・焼状焼土少量・焼状炭化物若干。 4. 黒褐色 微粒状C軽石微量・焼状焼土若干・焼状炭化物少量。 5. 黒褐色 細粒状C軽石若干。 6. 暗褐色 細粒状C軽石若干・焼状焼土若干・焼状炭化物若干。 F-F' 1. 黒褐色 細粒状C軽石若干・焼状焼土若干。 2. 暗褐色 細粒状C軽石若干。 3. 暗褐色 細粒状C軽石若干・焼状焼土若干。 2. 暗褐色 細粒状C軽石若干・焼状焼土若干。 3. 黒褐色 焼状焼土少量。

所見：非常に遺存の悪い状態で2号住居を重複する状態で確認されているが、新旧関係は平面調査では確認出来なかった。傍電坑は痕跡程度で、直状に掘り直された程度であった。

## 第3号住居跡

位置：19地区16・26区K-20・1グリッド。 形状：横長方形。 規模：3.43m×(2.45)m。 主軸方位：北-116度一東。

遺構概要：長1.08m×奥壁部幅0.48m×袖部幅0.62m。  
 層序（基準部標高202.70m）1. 黒褐色 細粒状C軽石若干・焼状焼土少量（3号住居）。 7. 暗赤褐色 細粒状C軽石微量・焼状炭化物含有。 8. 暗褐色 微粒状C軽石微量・焼状炭化物含有・焼状焼土少量。 H-H' 1. 黒褐色 赤褐色微粒状C軽石少量・細粒状焼土・焼状焼土。 2. 黄褐色 焼状焼土。 3. 暗褐色 細粒状C軽石含有・焼状焼土少量。 4. 黒褐色 細粒状C軽石含有・焼状焼土若干。 1-1' 1. 黒褐色 細粒状C軽石少量。 2. 暗褐色 微粒状C軽石微量・細粒状焼土。 3. 黄褐色 焼状焼土主体。  
 所見：当該住居跡も遺存が悪い。一部で断面方向も失われている。Pから黄平大甍が下層から出土している。

## 第4号住居跡

位置：19地区16区L・m-19・20グリッド。 形状：矩形基調。 規模：4.65m×3.50±0.0m。 主軸方位：北-59度一西。

遺構概要：長1.0m×奥壁部幅0.58m×袖部幅0.75m。  
 層序（基準部標高202.50m）1. 黒褐色 細粒状C軽石少量・焼状焼土少量・細粒状焼土。 2. 黒褐色 細粒状C軽石少量・焼状焼土含有・細粒状焼土少量。 3. 黒褐色 細粒状C軽石微量・褐色土多量・焼状炭化物。 4. 暗褐色 焼状焼土若干・焼状焼土。 5. 暗褐色 焼状焼土若干・焼状焼土少量・焼状炭化物。 6. 褐色焼状焼土主体。 7. 褐色焼状焼土主体・焼状炭化物含有。 7. 黒褐色 細粒状C軽石微量・電粒状焼土若干・褐色土。 8. 暗褐色 細粒状C軽石微量・細粒状C軽石若干・焼状焼土含有。 9. 黒褐色 細粒状C軽石若干。 10. 暗褐色 細粒状C軽石若干・細粒状焼土含有。 11. 赤褐色 焼状焼土主体。 12. 暗褐色 褐色土。 13. 暗褐色 褐色土。 14. 黒褐色 硬質（1次灰層）・焼状焼土若干。 15. 暗褐色 焼状焼土主体・褐色土少量。  
 所見：当該住居跡は西面壁が両面壁に当り覆土により遮れている。また、想定される西面壁部分では、6号住居が重複する位置関係に位置するが、新旧関係は確定的に明らかには出来なかったが、断面方向にて6号住居の壁が確認された。

## 第5号住居跡

位置：19地区16区m-20グリッド。 形状：不詳。 規模：4.35±0.0m×1.98±0.0m。 主軸方位：不詳。 遺：未発見。

層序（基準部標高202.10m）1. 表土。 2. 茶褐色 As-A'乃至日色土。 3. 黒褐色 細粒状C軽石含有・砂や硬質・褐色土含有。 4. 暗褐色 細粒状C軽石少量・YP軽石若干・焼状焼土若干・焼状炭化物若干。 5. 暗褐色 細粒状C軽石少量・YP軽石含有・焼状焼土少量・焼状炭化物少量。 6. 暗褐色 細粒状C軽石少量・YP軽石若干・焼状焼土含有・焼状炭化物少量。 7. 暗褐色 焼状焼土少量・焼状炭化物若干。 8. 細粒状C軽石若干・焼状焼土若干。 9. 暗褐色 焼状焼土若干・焼状炭化物含有。 10. 暗褐色 焼状焼土主体。 11. 暗褐色 焼状焼土主体。 12. 暗褐色 焼状焼土主体。 13. 暗褐色 YP軽石若干。  
 所見：当該住居跡は住居跡としての性格付けに疑問があるが、遺存の悪い住居跡であろうことも考慮して住居跡として扱った。当該住居跡で発見されているとされている土層のみである。周囲から少量ながら焼状焼土の出土が見られている。しかし、伊勢川岸に著しく異なる状態であり、当該の仕組みを判断し得ない状況であった。当該仕組みについての性格は不詳としている。

## 第6号住居跡

位置：19地区16区L・m-19・20グリッド。 形状：正方形。 規模：4.58m×4.33m。 主軸方位：北-35度一東。 構築基準面：北西向き。

遺構概要：長1.14m×奥壁部幅0.75m×袖部幅1.14m。  
 層序（基準部標高201.70m）1. 黒褐色 細粒状C軽石・焼状焼土。 2. 黒褐色 細粒状C軽石多量・焼状焼土。 3. 焼状焼土。 4. 黒褐色 細粒状C軽石含有・YP軽石。 5. 暗褐色 細粒状C軽石cp若干・焼状焼土多量。 6. 暗褐色 細粒状C軽石若干・焼状焼土。 7. 暗褐色 焼状焼土若干・焼状炭化物。 8. 赤褐色 焼状焼土多量・焼状炭化物含有・細粒状C軽石微量。 9. 暗褐色 焼状焼土主体。 10. 暗褐色 焼状焼土少量・YP軽石若干・焼状炭化物若干。 11. 赤褐色 焼状焼土・焼状炭化物。 12. 赤褐色 焼状焼土主体。 13. 暗褐色 YP軽石若干。  
 所見：当該住居跡は第2号竪柱建物跡と重複する。しかし、重複の状態が方向・範囲がほぼ重なっていることから、双方が同一遺構である可能性も考えられる。

## 第7号住居跡

位置：19地区16区C-18・19グリッド。 形状：不詳。 規模：3.62±0.0m×2.65±0.0m。 主軸方位：北-118度一東。 遺：未発見。  
 層序（基準部標高201.60m）1. 暗褐色 細粒状C軽石微量・焼状焼土。 2. 黒褐色 細粒状C軽石微量・焼状焼土。 3. 焼状焼土・焼状焼土主体と焼状焼土の混土。

所見：当該住居跡は第1号遺跡に大半を覆覆される。詳細については不明であるが、発見された壁では壁面も発見されていること、少量ながらの出土品から、当該住居跡は8号住居に類似する形状と想定できる。

## 第8号住居跡

位置：19地区16区D・E-18・19グリッド。 形状：横長方形。 規模：4.64m×5.56m。 構築基準面：南西・南東向き。 主軸方位：北-41度一東。

遺構概要：長0.87m×奥壁部幅0.6m×袖部幅0.9m。  
 層序（基準部標高201.90m）1. 暗褐色 褐色土の混入が多い。 2. 暗褐色 焼状焼土含有・焼状焼土若干。 3. 暗褐色 焼状焼土多量・焼状焼土若干。 4. 暗褐色 細粒状C軽石若干。 5. 暗褐色 細粒状C軽石若干・焼状焼土多量。 6. 暗褐色 細粒状C軽石微量・小塊状焼土。 7. 暗褐色 微粒状C軽石微量・焼状焼土少量・焼状炭化物。 8. 暗褐色 微粒状C軽石微量・焼状焼土若干・焼状焼土。 9. 暗褐色 微粒状C軽石微量・焼状焼土少量・焼状焼土。 10. 暗褐色 微粒状C軽石微量・焼状焼土含有。 11. 暗褐色 微粒状C軽石微量・焼状焼土若干・焼状焼土。 12. 暗褐色 微粒状C軽石微量・焼状焼土含有。 13. 暗褐色 微粒状C軽石微量・焼状焼土含有。 14. 暗褐色 細粒状C軽石若干・焼状焼土若干・焼状炭化物。 15. 暗褐色 細粒状C軽石若干・焼状焼土若干・焼状炭化物。 16. 暗褐色 焼状焼土主体・YP軽石含有・焼状焼土若干。 17. 暗褐色 焼状焼土主体・YP軽石含有・焼状焼土若干。 18. 暗褐色 焼状焼土主体・YP軽石含有・焼状焼土若干。 19. 暗褐色 焼状焼土主体・YP軽石含有・焼状焼土若干。 20. 暗褐色 焼状焼土主体・YP軽石含有・焼状焼土若干。 21. 暗褐色 焼状焼土主体・YP軽石含有・焼状焼土若干。

## 第9号住居跡

22, 26近置。

所見：向角の取れた住居跡である。構築基準面の2面をほぼ直角に採っている。規模では、15尺×18尺に近似しており、住居開始の存在をさししている。

## 第10号住居跡

22, 26近置。

位置：19地区16・26区C・D-E-20・1グッド。形状：横長方形。規模：3.56m×6.04m。主軸方位：北-31度東。構築基準面：北東壁。

電機機：長1.65m×燃焼部幅1.00m×袖部幅1.25m。

層序（基準線標高値202.00m）1.赤褐色 微粒状C軽石少量・粒状焼土多・粒状炭化物若干。2.黒褐色 細粒状C軽石若干。3.黒褐色 粒状C軽石少量・粒状焼土多。4.暗褐色 微粒状C軽石少量・塊状焼土多・粒状C軽石含有。5.暗褐色 細粒状C軽石少量・粒状焼土若干。6.黒褐色 細粒状C軽石少量・粒状炭化物少量。7.暗褐色 細粒状C軽石若干・粒状焼土少量・灰土少量。8.黒褐色 細粒状C軽石若干。9.暗褐色 細粒状C軽石若干・粒状焼土少量。10.黒褐色 粒状C軽石多・細粒状C軽石若干。11.黒褐色 細粒状C軽石少量・塊状C軽石主体。12.暗褐色 粒状C軽石若干。13.黒褐色 暗褐色土と黒褐色土の混土。14.黒褐色 粒状C軽石多・粒状C軽石少量。15.暗褐色 塊状C軽石主体・暗褐色土の混土。

所見：住居跡は横軸方向に傾度に長い横長方形である。住居跡も規模では12尺×20尺の近似値の得られる数値である。

## 第10号住居跡

22, 26近置。

位置：19地区26区F・G-9・3グッド。形状：不詳(正方形基調)。規模：3.0m×4.50m。主軸方位：北-143度東。構築基準面：不詳。

電機機：長1.40m×燃焼部幅0.57m×袖部幅0.57m。

## 第13号住居跡

22, 26近置。

位置：19地区26区F・G-1・2グッド。形状：横長方形。規模：4.96m×6.54m。主軸方位：北-33度東。構築基準面：南壁。

19・13住居跡層序（基準線標高値202.20m）1.黒褐色 As-A 粒。2.黒褐色 細粒状As-A 含有。3.黒褐色 細粒状As-A 含有(断面)。(1)~(3)第1号遺跡4.黒褐色 細粒状C軽石少量。5.黒褐色 細粒状C軽石・粒状炭化物少量・粒状C軽石少量。6.黒褐色 細粒状C軽石含有・粒状焼土含有・粒状炭化物含有。7.黒褐色 微粒状C軽石若干・塊状焼土含有。8.黒褐色 微粒状C軽石少量・塊状焼土含有。9.黒褐色 細粒状C軽石若干・粒状焼土多・粒状炭化物含有。10.暗褐色 粒状焼土多・粒状炭化物少量・粒状C軽石若干。11.塊状焼土。12.暗褐色 微粒状C軽石若干・粒状焼土含有・粒状炭化物少量。13.暗褐色 細粒状C軽石少量・塊状焼土含有・粒状C軽石。14.12近置。15.13近置。16.黒褐色 細粒状C軽石若干・粒状C軽石少量。17.細粒状C軽石若干。18.暗赤褐色 粒状C軽石・粒状C軽石混。19.塊状焼土含有。19.黒褐色 粒状C軽石・粒状C軽石・粒状C軽石含有。20.細粒状C軽石若干・粒状C軽石若干。21.黒褐色 細粒状C軽石・粒状C軽石含有・粒状焼土多・粒状炭化物含有。22.黒褐色 細粒状C軽石少量・粒状焼土若干。23.暗褐色 塊状C軽石少量・塊状焼土若干。24.黒褐色 粒状C軽石少量。25.黒褐色 細粒状C軽石若干・粒状焼土含有。26.黒褐色 細粒状C軽石・粒状C軽石若干。27.黒褐色 微粒状C軽石若干・細粒状C軽石若干。

## 第25号住居跡

22, 26近置。

位置：19地区26区C・D-E-2・3グッド。形状：縦長方形→横長方形。規模：5.15m×5.98m。主軸方位：北-27度東。構築基準面：南壁。

電機機：長1.58m×燃焼部幅0.65m×袖部幅0.25m。

層序（基準線標高値202.00m）1.黒褐色 As-B 粒。2.黒褐色 細粒状C軽石多・粒状焼土多。3.暗褐色 粒状C軽石含有・粒状焼土多・粒状C軽石若干。1.暗褐色 粒状C軽石含有・粒状焼土含有・粒状C軽石多(人為混)。5.黒褐色 細粒状C軽石若干・塊状C軽石含有。6.塊状焼土。7.黒褐色 細粒状C軽石・粒状C軽石少量。8.暗褐色 細粒状C軽石若干・塊状C軽石少量・粒状C軽石少量。9.黒褐色 細粒状C軽石少量・粒状焼土多・粒状C軽石少量。10.黒褐色 細粒状C軽石少量・粒状焼土多・塊状C軽石主体。11.黒褐色 粒状C軽石少量・塊状焼土。12.暗褐色 暗褐色土・粒状焼土少量・粒状C軽石少量。13.12近置。8.黒褐色 細粒状C軽石少量。15.黒褐色 細粒状C軽石少量・粒状C軽石少量。16.暗褐色 細粒状C軽石少量・粒状C軽石少量。17.塊状C軽石。18.暗褐色 粒状C軽石多・塊状C軽石少量。19.塊状焼土。20.暗褐色 細粒状C軽石若干・粒状C軽石多。21.暗褐色 細粒状C軽石少量・粒状C軽石少量。22.暗褐色 粒状焼土多。23.15近置。24.16近置。25.9近置。26.17近置。27.21近置。28.塊状C軽石主体・粒状焼土多。29.15近置。30.暗褐色 細粒状C軽石少量・塊状焼土多。31.暗褐色 細粒状C軽石少量・塊状焼土多。32.暗褐色 粒状C軽石多・粒状C軽石多。33.15近置。34.暗褐色 微粒状C軽石多・粒状焼土若干。35.暗褐色 細粒状C軽石多・粒状炭化物若干。36.暗褐色 細粒状C軽石多・粒状炭化物若干。37.暗褐色 細粒状C軽石多・粒状炭化物若干。38.暗褐色 微粒状C軽石多・粒状焼土若干。39.暗褐色 微粒状C軽石多・粒状炭化物若干。40.暗褐色 微粒状C軽石多・粒状炭化物若干。41.36近置。42.36近置。43.暗褐色 微粒状C軽石多・粒状焼土若干。44.36近置。45.暗褐色 微粒状C軽石多・粒状炭化物若干。47.36近置。48.暗褐色 細粒状C軽石少量・粒状焼土少量・微粒状C軽石少量。49.暗褐色 暗褐色土・粒状焼土若干。

## 第25号住居跡

22, 26近置。

所見：25号は、数々に亘る遺構が4行にわたる。断面では、二回の掘進と確認出来る。東壁壁は、高さがく硬化している。掘進直上の覆土は、住居跡上の5層間土層と相俟っていた。また、東壁面が被覆の箇所も認められた。これらのことから、東壁壁は、未使用状態で焼成され、同時に住居自体も焼成されたと考えられる。床面上で確認された土坑状の掘り込みは、P4以外は陥没が認められ、履取段階は中や深んた状況もあるが、概ね、平に成っている。また、掘方で発見された掘り込みは、掘方に伴う塊状C軽石を主体に埋める層のみであった。

## 第25号住居跡

22, 26近置。

位置：19地区26区A・B-3・4グッド。形状：矩形。規模：4.75m×4.80m。主軸方位：北-111度東。構築基準面：北・南。

電機機：長1.55m×燃焼部幅0.95m×袖部幅1.40m。

層序（基準線標高値201.50m）1.As-B 粒。2.As-B 混黒褐色土。3.黒褐色 細粒状C軽石多。4.黒褐色 細粒状C軽石多・粒状焼土少量・粒状C軽石含有。5.黒褐色 細粒状C軽石若干・塊状C軽石少量。6.黒褐色 細粒状C軽石含有・粒状C軽石少量・粒状焼土含有。7.黒褐色 細粒状C軽石少量・塊状焼土少量。8.黒褐色 微粒状C軽石少量・微粒状C軽石含有。9.黒褐色 微粒状C軽石少量・微粒状C軽石少量。10.黒褐色 細粒状C軽石少量・粒状焼土少量。11.黒褐色 細粒状C軽石若干・粒状焼土少量。12.暗褐色 塊状焼土多・粒状焼土多。13.明赤褐色 粒状焼土多・塊状焼土含有・粒状炭化物若干。14.赤褐色 塊状焼土多・粒状焼土少量。15.暗褐色 細粒状C軽石少量。16.暗褐色 粒状焼土多・粒状炭化物若干。17.暗褐色 微粒状C軽石少量・細粒状C軽石若干。18.暗褐色 塊状C軽石若干。19.暗褐色 塊状C軽石若干。20.暗褐色 微粒状C軽石少量・細粒状C軽石少量。21.黒褐色 細粒状C軽石少量・細粒状C軽石少量。22.暗褐色 粒状C軽石多(灰土)。23.塊状C軽石。24.塊状C軽石とV土の混土。25.黒褐色細粒状C軽石若干・細粒状C軽石少量。26.黒褐色 細粒状C軽石少量・細粒状C軽石少量(灰土)。27.暗褐色 土主体(陥没)。28.暗褐色 細粒状C軽石含有黒褐色土・粒状C軽石少量・粒状焼土少量。29.黒褐色 細粒状C軽石含有・粒状C軽石少量。30.暗褐色 細粒状C軽石含有黒褐色土・粒状C軽石少量・粒状焼土少量。31.暗褐色 細粒状C軽石含有黒褐色土・粒状C軽石多・粒状焼土少量。32.暗褐色 黒褐色土主体・細粒状C軽石多・細粒状C軽石多。33.黒褐色 微粒状C軽石少量・粒状焼土少量。34.暗褐色 細粒状C軽石少量・塊状C軽石含有。35.31近置。36.塊状C軽石主体・細粒状黒褐色土少量。37.塊状C軽石主体。38.黒褐色 細粒状C軽石少量・細粒状C軽石少量。39.黒褐色 細粒状C軽石若干・細粒状C軽石多・細粒状C軽石多。40.黒褐色 微粒状C軽石若干・細粒状C軽石少量。41.暗褐色 塊状C軽石主体。42.暗褐色 細粒状C軽石少量・塊状焼土含有・塊状焼土少量。

## 第25号住居跡

22, 26近置。

所見：P1-(46)・P1-(47)・P1-(37)・P1-(43)・P1-(50)・P1-(66)・P1-(53)・P1-(62)は鉄れも柱穴と考えられる。土層構造を示唆する住居跡は最少で、他に113・169住がある。覆土上にAs-Bが認められたが、周囲には、住居の屋外施設にあたる溝等の施設は発見見なかった。

## 第25号住居跡

22, 26近置。

位置：19地区25区T-3・4グッド。形状：矩形。規模：4.7m×3.48m。主軸方位：北-31度東。構築基準面：不詳。

電機機：長1.20m×燃焼部幅0.66m×袖部幅1.30m。

層序（基準線標高値201.50m）1.土層土(上面はAs-B跡下面に互置)。2.黒褐色 粒状C軽石多・粒状焼土多(第3号遺跡と密覆土)(C-C'の左側に、焼が8割まっている状態)。3.黒褐色 黒褐色土・細粒状C軽石含有(断面)第3号遺跡との間に当っている)。4.黒褐色 粒状C軽石・粒状焼土少量。5.黒褐色 細粒状C軽石若干。6.黒褐色 細粒状C軽石・粒状焼土若干。7.黒褐色 黒褐色土の下層部(細粒状C軽石が多い)。8.暗褐色 細粒状C軽石若干。9.暗褐色 微粒状C軽石若干。10.黒褐色 微粒状C軽石若干・粒状C軽石少量。11.暗褐色 微粒状C軽石少量・塊状C軽石少量。12.塊状焼土。14.黒褐色 細粒状C軽石含有・粒状焼土少量。15.黒褐色 細粒状C軽石少量・粒状焼土含有・粒状C軽石少量。





## 第2節 発見された遺構・遺物

出土遺物では、秋田県産がやや多く出土している。鉄類も口輪部形状は、「コ」の字状口輪を模倣する状態で、腹部から縦位に覆覆りを帯びている。

### 第20号住居跡

位置：19地区25区D-3・4グリッド。形状：横長方形。規模：3.0m×4.23m。主軸方位：北-97度東。構築基準面：西壁。

遺構跡：長1.11m×燃焼部幅0.72m×袖部幅0.675。

層序（基準線標高値198.90m）：1.黒褐色 細粒状C軽石少量・粒状焼土若干・粒状ローム若干。2.黒褐色 細粒状C軽石若干。3.黒褐色 微粒状C軽石若干・粒状焼土若干・微粒ローム若干。4.黒褐色 微粒状C軽石極微量。5.細粒状C軽石極微量・微粒ローム少量。6.黒褐色 1同層。7.黒褐色 微粒状C軽石若干・粒状焼土少量。8.黒褐色 細粒状C軽石極微量・粒状焼土多・塊状ローム含有。9.暗褐色 微粒ローム多・粒状焼土若干。10.暗褐色 粒状焼土多。11.1同層。12.2同層。13.暗褐色 粒状焼土多・微粒ローム若干。14.暗褐色 塊状V層土主体。15.暗褐色 塊状V層土。16.暗褐色 細粒状ローム多・粒状焼土少量・粒状炭化物若干。17.暗褐色 粒状焼土若干・粒状炭化物若干。18.黒褐色 細粒状C軽石若干・塊状V層土若干。19.黒褐色 細粒状C軽石少量・塊状V層土主体。20.暗褐色 塊状V層土主体。

所見：南東隅部の堆積状・崩壊時の床面より確認出来た形状と、断面画像後の形状は異なった状態であった。傍電柱が損壊を失う段階での、縮小行為としても考えられる。出土遺物では、「凡」+「上」を遺棄する遺器類群（尚か）が北西隅部で出土している。

### 第21号住居跡

位置：19地区25区C-4グリッド。形状：縦長方形。規模：3.6×m×2.6m。主軸方位：北-12度西。構築基準面：西・南壁か。電未発見。

層序（基準線標高値198.70m）：1.黒褐色 細粒状C軽石多・粒状焼土若干・粒状炭化物若干。2.黒褐色 微粒状C軽石若干・粒状焼土若干・粒状炭化物極微量。3.黒褐色 塊状V層土主体。

所見：当住居跡は、宅地造成により遺構及び電を失っている。残存する西・南壁の状況は、ほぼ直角に交わる状態で斜めに良く整っている。

### 第22号住居跡

位置：19地区24・25区T-A-2・3グリッド。形状：縦長方形。規模：5.58m×4.20m。主軸方位：北-10度西。構築基準面：西・南壁。

遺構跡：長1.15m×燃焼部幅0.54m×袖部幅1.62m。

層序（基準線標高値197.70m）：1.黒褐色 細粒状C軽石多・粒状炭化物若干。2.黒褐色 細粒状C軽石少量・粒状炭化物少量。3.黒褐色 細粒状C軽石若干・粒状炭化物若干・微粒ローム少量。4.暗褐色 細粒状C軽石少量・微粒ローム少量。5.暗褐色 細粒状ローム多・粒状炭化物若干。6.暗褐色 細粒状C軽石少量・塊状ローム若干・粒状ローム混。7.黒褐色 細粒状C軽石含有・粒状炭化物若干・粒状焼土若干。8.黒褐色 暗褐色 細粒状C軽石少量・粒状焼土少量。9.黒褐色 細粒状C軽石若干・粒状焼土多。10.暗褐色 細粒状C軽石極微量・微粒ローム少量。11.黒褐色 細粒状C軽石若干・微粒ローム少量・粒状焼土若干・粒状炭化物若干。12.暗褐色 細粒状C軽石極微量・粒状焼土多・微粒ローム少量。13.暗褐色 細粒状C軽石若干・粒状焼土若干・粒状炭化物若干。14.黒褐色 細粒状C軽石若干。15.暗褐色 細粒状C軽石若干・塊状焼土主体。16.暗褐色 細粒状C軽石若干・粒状C軽石若干。17.暗褐色 塊状V層土少量・細粒状ローム多。18.黒褐色 細粒状C軽石若干・塊状ローム多。

所見：電を敷く北壁は電を敷く左側の窓か影響がある。想定構図を含む3辺は均整されているがあまりにアンバランスな状況である。北壁は、電の設置と同時に壁の改修も実施しているのかもしれない。電の掘り出し状況のなかで、中央部の大ききな窓は、使用時の元位置を留めている。状況的には、破壊され封印された状態にも考えられる。

### 第23号住居跡

位置：19地区15区L・m-18-20グリッド。形状：横長方形。規模：4.20m×5.40m。主軸方位：北-135度東。構築基準面：4辺。

遺構跡：長1.21m×燃焼部幅0.92m×袖部幅1.38m。

層序（基準線標高値199.90m）：1.黒褐色 細粒状C軽石混。2.黒褐色 粒状C軽石少量・粒状炭化物含有・塊状ローム含有。3.黒褐色 粒状C軽石含有・塊状ローム少量。4.黒褐色 粒状C軽石含有・粒状焼土含有。5.黒褐色 粒状C軽石少量。6.黒褐色 粒状C軽石少量・粒状ローム少量。7.黒褐色 塊状V層土少量（焼明）。8.同層。11.黒褐色 細粒状C軽石若干・粒状V層土含有。10.黒褐色土と塊状V層土の混。11.10同層。12.黒褐色 粒状C軽石少量。13.黒褐色 粒状C軽石含有・塊状焼土。14.黒褐色 微粒状C軽石少量・塊状焼土含有・粒状焼土少量。15.赤褐色～黄褐色 塊状焼土混。16.黒褐色 粒状C軽石若干・粒状焼土若干・粒状ローム混。17.黒褐色 粒状C軽石・小塊状ローム少量。18.黒褐色 細粒状C軽石含有・粒状ローム若干。所見：当住居跡は4辺土基盤が構築が考えられる均整した住居跡である。規模の数値より推定されるのは、14尺13尺に換算できる。当該跡がプロトタイプに近似的なものである。出土遺物では、須賀野浜流面の切り崩し技法に、黒曜岩製土・黒曜岩製の双方が認められる。また、外から掘入された土師環（10-00481）が出土している。

### 第24号住居跡

位置：19地区15区m・N-15-16グリッド。形状：横長方形。規模：4.03m×5.72m。主軸方位：北-40度東。構築基準面：4辺か。

遺構跡：長1.68m×燃焼部幅0.63m×袖部幅1.18m。

層序（基準線標高値199.40m）：1.粗面土の二次堆積（上面はAs-B降下面至近）。2.黒褐色 細粒状C軽石含有。3.黒褐色 細粒状C軽石含有・塊状V層土混。4.黒褐色 細粒状C軽石含有・粒状炭化物含有。5.黒褐色 細粒状C軽石含有・塊状V層土混・粒状焼土若干。6.黒褐色 細粒状C軽石含有・塊状V層土混・粒状焼土。7.黒褐色 細粒状C軽石含有・塊状V層土混・粒状炭化物若干。8.黒褐色 細粒状C軽石含有・塊状V層土混・粒状焼土含有・灰含有。9.黒褐色 細粒状C軽石含有・塊状V層土含有。10.黒褐色 細粒状C軽石含有・塊状V層土混・塊状褐色土含有。11.2同層。12.黒褐色 細粒状C軽石含有・粒状焼土若干・灰含有。13.黒褐色 細粒状C軽石含有・塊状V層土混・灰・粒状炭化物若干。14.暗褐色 細粒状C軽石含有・塊状V層土混・塊状焼土。15.暗褐色 細粒状C軽石含有・塊状V層土混・塊状炭化物。16.暗褐色 細粒状C軽石含有・塊状V層土混・塊状炭化物。17.暗褐色 細粒状C軽石含有・塊状V層土混・塊状炭化物。18.暗褐色 細粒状C軽石含有・塊状V層土混・灰・粒状炭化物若干。19.黒褐色 粒状C軽石多・硬質。20.黒褐色 細粒状C軽石含有・粒状ローム少量。21.黒褐色 細粒状C軽石若干・塊状焼土面状。22.暗褐色 粒状C軽石若干・塊状V層土含有。

所見：本住居跡も均整の取れている平面形状を呈している。出土遺物では、円面鏡が2個体認められる。当該跡での円面鏡出土の多さは注目し得る。

### 第25号住居跡

位置：19地区15区L・m-15-16グリッド。形状：正方形。規模：3.71m×3.11m。主軸方位：北-130度東。構築基準面：北西壁か。

遺構跡：長1.65m×燃焼部幅0.58m×袖部幅1.15m。

層序（基準線標高値199.70m）：1.黒褐色 As-B層（上面はAs-B降下面）。2.黒褐色 粒状C軽石多。3.黒褐色 粒状C軽石多・粒状焼土若干・粒状炭化物含有。4.黒褐色 細粒状C軽石含有。5.黒褐色 細粒状C軽石若干・粒状褐色土若干・塊状褐色土若干。6.黒褐色 粒状C軽石若干・粒状褐色土若干。7.細粒状C軽石少量・粒状褐色土含有・粒状炭化物含有・粒状焼土含有。8.黒褐色 細粒状C軽石若干・粒状褐色土若干。9.黒褐色 微粒状C軽石含有・塊状褐色土少量。10.黒褐色土・粒状焼土・灰・塊状褐色土の混。11.黒褐色 細粒状C軽石少量・粒状褐色土少量。12.黒褐色 細粒状C軽石若干・塊状褐色土。13.黒褐色 細粒状C軽石若干・塊状褐色土混・塊状焼土。14.黒褐色 細粒状C軽石少量・粒状褐色土若干。所見：遺構基の切り合いの住居跡である。9枚状未焼の時期が推定される。吉井・藤原土師土器、秋田県産の破片が出土している。

### 第26号住居跡

位置：19地区L・m区-15-16グリッド。形状：縦長方形。規模：5.66m×4.02m。主軸方位：北-120度東。構築基準面：不詳。電：未発見

層序（基準線標高値199.40m）：1.黒褐色 As-B含有（即層土層相当：上面はAs-B降下面）。暗粒状C軽石多。2.黒褐色 細粒状C軽石多。3.黒褐色 細粒状C軽石混・黄色軽石（C軽石）多。4.黒褐色 粒状C軽石多・塊状炭泥・塊状褐色土。5.黒褐色 細粒状C軽石・塊状炭泥・小塊状焼土若干。6.黒褐色 細粒状C軽石若干・粒状褐色土若干。7.黒褐色 粒状C軽石多。8.黒褐色 微粒状C軽石若干・粒状褐色土混・粒状炭化物若干。9.黒褐色 細粒状C軽石若干・小塊状褐色土若干。10.黒褐色 微粒状C軽石若干・小塊状褐色土若干・粒状褐色土若干。11.暗褐色 細粒状C軽石極微量・粒状焼土混。12.黒褐色 微粒状C軽石若干・粒状褐色土若干・粒状炭化物含有。13.暗褐色 微粒状C軽石極微量・粒状ローム含有。14.黒褐色 細粒状C軽石若干・塊状ローム少量・粒状炭化物若干・粒状褐色土多。

所見：当住居跡は3基の重複に状態で見えられた。重複部分には電の痕跡等が認められなかったことから、未調査部分の異地に存在すると思われる。

### 第27号住居跡

位置：19地区14・24区Q-R-20・1グリッド。形状：縦長方形。規模：4.26m×3.58m。主軸方位：北-30度西。構築基準面：南西壁か。電：未発見。

層序（基準線標高値196.80m）：1.黒褐色 粒状C軽石混。2.黒褐色 細粒状C軽石多・塊状褐色土混。3.黒褐色 細粒状C軽石含有・粒状褐色土若干。4.黒褐色 細粒状C軽石多・粒状炭化物含有・粒状褐色土若干。5.黒褐色 細粒状C軽石多・小塊状褐色土若干。6.暗褐色 細粒状C軽石若干・粒状ローム



## 第2節 発見された遺構・遺物

遺序（基準線標高値193.80m）1. 黒濁 微粒状C軽石含有。 3. 黒濁 細粒状C軽石含有。 4. 黒濁 細粒状C軽石若干・粒状ローム含有。 5. 黒濁 細粒状C軽石若干・塊状ローム少量・粒状ローム若干。

所見：当住居跡は34号位に切り残っている。構作等による覆土が顕著で詳細不分明。

### 第36号住居跡

位置：19地区24区J・K-3・4グリッド。 形状：横長方形。 規模：3.96m×2.76m。 主軸方位：北-85度東。 構築基準面：東壁か。

遺規模：長0.9m×燃焼部幅0.50m×袖部幅0.65m。

### 第42号住居跡

位置：19地区24区J・K-3・4グリッド。 形状：正方形。 規模：3.00m×3.00m。 主軸方位：北-161度東。 構築基準面：不詳。

遺規模：長(0.9)×燃焼部幅(0.48)m×袖部幅(0.84)m。

### 第43号住居跡

位置：19地区24区J・K-3・4グリッド。 形状：正方形。 規模：3.64m×2.40m± $\epsilon$ m。 主軸方位：北-160度東。 構築基準面：不詳。

電：未発見。

遺序（基準線標高値191.80m）1. 黒濁 細粒状C軽石少量・小塊状VI層土含有・粒状炭化物含有・小塊状灰濁土若干。 2. 黒濁 細粒状C軽石微量・粒状塊土若干。 3. 黒濁 細粒状C軽石若干・小塊状褐色土含有・粒状灰濁土若干。 4. 黒濁 細粒状C軽石含有・小塊状炭化物含有。 5. 暗濁 微粒状C軽石若干・粒状ローム量・塊状ローム少量。 6. 黒濁 細粒状C軽石少量・粒状ローム若干。 7. 黒濁 細粒状C軽石微量・粒状ローム量・塊状ローム含有。 8. 塊状ローム主体・粒状ローム若干。 9. 黒濁 細粒状C軽石少量・粒状塊土若干・粒状ローム含有。 10. 黒濁 微粒状C軽石微量・粒状塊土若干・粒状ローム若干。 11. 黒濁 微粒状C軽石微量・粒状ローム含有・塊状ローム少量。 12. 黒濁 細粒状C軽石少量・塊状ローム若干・粒状塊土微量・粒状ローム若干。 13. 黒濁 細粒状C軽石若干・粒状ローム含有。 14. 黒濁 細粒状C軽石若干・粒状ローム量・粒状塊土若干。

所見：(36号位)大平が42号位に切り残されている。電は壁外への張り込みも少なく小規模な造りである。左袖壁は42号位の電による覆土により失っている部分が多いと思われるが、右壁が明確に調査呈出されていたと考えられ、相対的な比較が出来ない。

所見：(42号位)調査時平面上で不完全であったために36号位との新旧関係を誤認し、新旧道を確認している。調査進行中に42号位の電の石組みを確認した段階で新旧関係認識に気が付いていた。電は隣り比較的多く多用する構造であるが、燃焼空間等幅の規模がやや小規模に感じられる。確実な平面状況が把握できなかった為、詳細は不分明である。

所見：(43号位)部分の電出土である。大平を42号位に切り残している。規模も42号位の範囲内としても、小規模な住居跡である。詳細は不分明。

### 第37号住居跡

位置：19地区24区K-2・3グリッド。 形状：横長方形。 規模：3.16m×3.97m。 主軸方位：北-131度東。 構築基準面：北西壁か。

遺規模：長0.95m×燃焼部幅0.46m×袖部幅0.94m。

遺序（基準線標高値193.60m）1. 黒濁 細粒状C軽石少量・粒状ローム若干。 2. 黒濁 微粒状C軽石少量・粒状ローム少量。 3. 黒濁 微粒状C軽石微量・粒状ローム少量。 4. 暗濁 微粒状C軽石少量。 5. 暗濁 微粒状C軽石少量・粒状塊土少量。 6. 暗濁 微粒状C軽石若干・粒状塊土少量。 7. 細粒状C軽石少量・粒状塊土微量・粒状ローム少量。 8. 暗濁 細粒状C軽石若干・塊状塊土少量・粒状ローム含有。 9. 暗濁 微粒状C軽石微量・塊状ローム若干・粒状ローム量。 10. 暗濁 細粒状C軽石少量・塊状塊土若干含有・粒状塊土多量・粒状ローム若干。 11. 黒濁 細粒状C軽石含有・粒状ローム若干。 12. 黒濁 細粒状C軽石含有・粒状ローム多量・粒状塊土多量。 13. 黒濁 微粒状C軽石若干・塊状ローム塊状土。

所見：当住居跡の南西隅には、遺物がやや集中して出土している。その部位は傍電の位置にあたるが、表面下からは確認されなかった。出土遺物は、墨書土器が2点4文字がある。「上14」(10-00626)（墨書-15）は道標の墨書の特殊で、「上」を面下の記号の意と推察されるかもしれない。

### 第38号住居跡

位置：19地区24区K・L-2・3グリッド。 形状：横長方形。 規模：3.53m×4.53± $\epsilon$ m。 主軸方位：北-54度東。 構築基準面：南西壁か。

遺規模：長1.37m×燃焼部幅0.78m×袖部幅1.15m。

遺序（基準線標高値193.90m）1. 黒濁 細粒状C軽石多量。 2. 黒濁 微粒状C軽石多量・塊状VI層土少量。 3. 暗濁 微粒状C軽石若干・塊状VI層土含有。 4. 粒状ローム含有。 5. 黒濁 粒状C軽石少量・粒状塊土少量・塊状塊土多量。 6. 暗濁 粒状C軽石含有・粒状炭化物・灰濁・粒状塊土。 7. 暗濁 細粒状C軽石若干・塊状塊土多量・粒状塊土多量。 8. 塊状土主体・粒状塊土多量。 9. 塊状土主体。 10. 暗濁 細粒状C軽石若干・粒状塊土多量。 11. 黒濁 細粒状C軽石若干・塊状ローム多量・粒状塊土含有。 12. 暗濁 細粒状C軽石若干・粒状ローム多量・粒状塊土少量。 13. 暗濁 細粒状C軽石微量・粒状ローム微量・粒状塊土若干。 14. 暗濁 細粒状C軽石少量・粒状塊土若干。 15. 暗濁 細粒状C軽石少量・粒状塊土含有。 16. 暗濁 細粒状C軽石微量・塊状VI層土含有・粒状塊土含有。 17. 暗濁 微粒状C軽石微量・粒状ローム若干。 18. 暗濁 細粒状C軽石若干・粒状塊土少量。 19. 暗濁 微粒状C軽石微量・塊状ローム含有。 20. 細粒状C軽石若干・塊状ローム主体。 21. 黒濁 細粒状C軽石若干・粒状塊土少量・塊状ローム少量。 22. 黒濁 細粒状C軽石若干。

所見：断面方面で見られた北側ピット跡は奥も60cmを超す深度がある。柱穴とするには疑問が生ずる。だが、深度が深いことから横道の一部と考えられるが、7本が集中する意味は不明である。

### 第39号住居跡

位置：19地区24区R・S-9グリッド。 形状：不詳。 規模：1.39± $\epsilon$ m×2.80± $\epsilon$ m。 主軸方位：北-150度東。 構築基準面：不詳。

遺規模：長0.92m×燃焼部幅0.38m×袖部幅0.6m。

遺序（基準線標高値193.50m）1. 黒濁 粒状C軽石含有（表土層下の覆土が顕著に及んでいる）。 2. 黒濁 粒状C軽石・粒状ロームS。 3. 細粒状C軽石微量・塊状VI層土。 4. 浅黄濁 粒状塊土含有（電跡上）。 5. 黒濁 細粒状C軽石若干・粒状塊土S・塊状塊土S・塊状塊土S。 6. 黒濁 細粒状C軽石若干・粒状塊土S・粒状ローム量・粒状炭化物若干。 7. 暗濁 微粒状C軽石若干・粒状塊土若干・粒状炭化物若干。 8. 細粒状C軽石微量・粒状ロームS・塊状ローム若干。

所見：当住居跡は調査が一部にしか及ばなかった。このため詳細は不分明である。

### 第44号住居跡

位置：19地区24区Q・R・S-6グリッド。 形状：矩形。 規模：3.25m×3.69m。 主軸方位：北-110度東。 構築基準面：南壁か。

遺規模：長1.04m×燃焼部幅0.60m×袖部幅0.70m。

遺序（基準線標高値196.20m）1. 黒濁 細粒状C軽石若干・粒状炭化物含有。 2. 黒濁 粒状C軽石S・粒状VI層土含有。 3. 黒濁 微粒状C軽石微量・粒状褐色土少量。 4. 黒濁 細粒状C軽石粒・粒状塊土多量。 5. 黒濁 細粒状C軽石若干・粒状塊土少量。 6. 黒濁 細粒状C軽石若干・粒状塊土若干・粒状ローム若干。 7. 黒濁 細粒状C軽石少量・粒状VI層土少量。 8. 黒濁色土・塊状VI層土の混生（灰濁）。 9. 黒濁 細粒状C軽石微量・塊状VI層土。 10. 黒濁色土・塊状VI層土の混生。 11. 黒濁 微粒状C軽石微量・細粒状ローム少量・粒状塊状VI層土含有。 12. IV層土。 13. IV層土。 所見：当住居跡の西側は3号道跡は住居跡が見られない。住居跡内部には、P<sub>1</sub>が60cmの深度を計りP<sub>1</sub>が14cmを計る。P<sub>5</sub>は溝道の何らかの部分に該当する柱穴と考えられるが、詳細不詳である。

### 第45号住居跡

位置：19地区24区N・O-4グリッド。 形状：横長方形。 規模：3.30m×3.64m。 主軸方位：北-102度東。 構築基準面：北壁。

遺規模：長0.6m×燃焼部幅0.44m×袖部幅0.79m。

遺序（基準線標高値195.20m）1. 黒濁 粒状C軽石多量。 2. 黒濁 粒状C軽石。 3. 黒濁 粒状C軽石量・粒状褐色土含有。 4. 黒濁 細粒状C軽石若干・塊状VI層土含有。 5. 黒濁 細粒状C軽石若干・粒状ローム若干。 6. 暗濁 細粒状C軽石若干・粒状ローム若干・粒状塊土多量。 7. 暗濁 微粒状C軽石微量・粒状塊土少量。 8. 塊状土主体。 9. 暗濁 細粒状C軽石若干・粒状塊土量・粒状炭化物含有。 10. 暗濁 微粒状C軽石少量・粒状ローム少量（面下）。 11. 細粒状C軽石微量・塊状VI層土。 所見：当住居跡の東方は、扉面全体が埋り下がるのではなく、ピットの張り込みが部分的に埋り込まれている状態である。

### 第47号住居跡

位置：19地区24区N-3・4グリッド。 形状：横長方形。 規模：2.79m×(4.09)m。 主軸方位：北-102度東。 構築基準面：西壁。

遺規模：長0.90m×燃焼部幅0.6m×袖部幅1.04m。

遺序（基準線標高値195.16m）1. 黒濁 細粒状C軽石多量。 2. 黒濁 細粒状C軽石多量・塊状黄濁土多量。 3. 黒濁 細粒状C軽石多量・塊状黄濁土少量・粒状炭化物多量。 4. 黒濁 細粒状C軽石多量・塊状黄濁土多量。 5. 黒濁 細粒状C軽石多量・塊状黄濁土多量。 6. 2近置。 7. 黒濁 細粒状C軽





## 第6章 中里見原遺跡

**層序** (基準線標高値201.20m) 1. 黒馬 細粒状C粒石含有。 1 a. 黒馬 細粒状C粒石含有。 1 b. 黒馬 細粒状C粒石少量。 1 c. 部分大須細粒状C粒石若干。 a-1. 塊状IV層土主体。 a-2. 細粒状C粒石+塊状IV層土多。 a-3. 細粒状C粒石+塊状IV層土少量。 a-4. 細粒状C粒石+塊状IV層土。 a-5. 細粒状C粒石+塊状IV層土若干。 b-1. 塊状IV層土主体。 b-2. 細粒状C粒石+塊状IV層土多。 b-3. 細粒状C粒石+塊状IV層土少量。 b-4. 細粒状C粒石+塊状IV層土。 b-5. 細粒状C粒石+塊状IV層土若干。 c-1. 塊状IV層土主体。 c-2. 細粒状C粒石+塊状IV層土多。 c-3. 細粒状C粒石+塊状IV層土少量。 c-4. 細粒状C粒石+塊状IV層土。 c-5. 細粒状C粒石+塊状IV層土若干。 d-1. 塊状IV層土主体。 d-2. 細粒状C粒石+塊状IV層土多。 d-3. 細粒状C粒石+塊状IV層土少量。 d-4. 細粒状C粒石+塊状IV層土。 d-5. 細粒状C粒石+塊状IV層土若干。

**第6号竪立柱礎跡** 位置:19地区14区L-m-4-5グリッド。 形状:長方形。柱間・規模:6尺(5尺)×3間(5.4m)×2間(3.6m)。 主軸方位:北-117度一東。

**第7号竪立柱礎跡** 位置:19地区25-26区T-A-1-3グリッド。 形状:長方形。柱間・規模:7尺×3間(6.3m)×2間(4.2m)。 主軸方位:北-120度一東。  
**層序** (基準線標高値201.20m) a. IV層土主体。 b. IV層土主体+塊状Iローム若干。 c. IV層土主体+塊状Iローム多。 d. 田層土+IV層土+塊状Iローム多。 e. 田層土+IV層土+塊状Iローム含有。 f. 田層土+IV層土+塊状Iローム多。 g. 田層土+IV層土+塊状Iローム若干。 h. 田層土主体+塊状I層土多+塊状Iローム少量。 i. IV層土主体+塊状Iローム若干。 j. 田層土主体+塊状Iローム少量。 k. 田層土+IV層土。 l. IV層土主体+塊状Iローム若干+塊状I層土少量。 m. IV層土主体+塊状I層土多。 n. 田層土主体+塊状I層土多。 o. 田層土+IV層土+塊状Iローム多。 p. 田層土主体+塊状I層土多。 q. IV+V層土+塊状Iローム少量。 r. IV+V層土+塊状Iローム多。 s. 田層土主体+粗粒状C粒石多。 t. 田層土主体+塊状Iローム多。 基礎建物跡

**第1基壇跡** 位置:19地区25-26区S-T-A-20-1-2グリッド。 形状:正方形。 規模:1.07.0m(25尺)。 主軸方位:北-44度一西。

**層序** (基準線標高値201.70m) 版築土:黒色馬 細粒状C粒石混。硬質。  
 所見:7号竪立に切られる。礎石は二次的に移動している可能性がある。

### 道路

**第1号道路** 位置:19地区15-16-25-26区m-7-T-A-G-14-20-1-2グリッド。 発見長:72m。 幅員:6.4m。 走行方位:北-58度一西。

**第2号道路** 位置:19地区15-25区m-R-17-20-1-8グリッド。 発見長:60m。 幅員:0.6-1.10m。 走行方位:北-15度一東。

**層序** (A-A 基準線標高値203.20m) 2. 黒馬色馬 As-B 主体硬質。 3. 黒馬色馬 As-B 多+塊状I層土含有。 4. 黒馬色 塊状I層土多。 6. 3同層。

**層序** (B-B 基準線標高値202.80m) 1. 掘込。 2. 硬質砂質土 黒馬色馬とAs-Bの混土(As-B主体)。 3. 硬質砂粒砂土(水性硬質)。 4. 硬質砂層。 5. 黒馬色馬 As-B主体。 6. 黒馬色馬 As-B混+塊状I層土多+粒状C粒石含有。 7. 4同層。 8. 2同層。 9. 5同層。

### 第3基壇

**A跡** 位置:19地区15-25区F-A-17-20-1-6グリッド。 発見長:81m。 幅員:0.84-1.21m。 断面・形状:浅い「U」字。

**走行方位:**北-65度・85度一西。

**B跡** 位置:19地区15-25区I-m-20-1-2グリッド。 発見長:20m。 幅員:0.90m。 走行方位:北-58度一西。

**C跡** 位置:19地区15-25区H-Q-19-20-1-5グリッド。 発見長:64m。 幅員:0.80m。 走行方位:北-1度一西。

**D跡** 位置:19地区25区K-N-2-4グリッド。 発見長:28m。 幅員:0.60m。 走行方位:北-45度一西。

**E跡** 位置:19地区25区I-O-1-6グリッド。 発見長:42.5m。 幅員:1.20。 走行方位:北-1度一東。

**層序** (基準線標高値200.60m・200.70m・201.10m・201.50m・200.90m) a. 黒馬色 細粒状C粒石若干。 b. a同層。 c. 黒馬色 粒状C粒石含有。 d. 水性硬質土(細粒状C粒石若干)。 e. 黒馬色 細粒状C粒石含有(硬質)。

### 土壇

**第1号土壇** (基準線標高値191.60m) 位置:19地区24区H-7-8グリッド。 形状:楕円形。 規模:1.02m×0.76m。 主軸方位:北-130度一東。

**第2号土壇** (基準線標高値191.60m) 位置:19地区24区H-8グリッド。 形状:不整形円形。 規模:0.94m×0.86m。 主軸方位:北-7度一西。

**第3号土壇** (基準線標高値191.80m) 位置:19地区24区H-7グリッド。 形状:楕円形。 規模:0.8m×0.62m。 主軸方位:北-84度一東。

**第4号土壇** (基準線標高値191.80m) 位置:19地区24区E-5グリッド。 形状:楕円形。 規模:0.82m×0.72m。 主軸方位:北-96度一西。

**第5号土壇** (基準線標高値188.00m) 位置:19地区24区C-7グリッド。 形状:長方形。 規模:2.12m×1.0m。 主軸方位:北-124度一西。

### 第1号古墳

位置:19地区24区G-K-4-8グリッド。 形状:方墳。 規模:24.6m×24.6m。 周溝幅員:3.0-3.5m。 主軸方位:北-29度一西。

**層序** 1. 黒色 細粒状・微粒状C粒石少量・硬質。 2. 黒色 細粒状C粒石少量。 2 a. 暗褐色 細粒状・微粒状C粒石多+塊状褐色土混(墳丘崩落土)。 2 b. 暗褐色 細粒状・微粒状C粒石少量+塊状褐色土含有。 3. 暗褐色 細粒状C粒石多。 3 a. 暗褐色 細粒状C粒石多+塊状褐色土含有。 3 b. 暗褐色 細粒状C粒石多+塊状褐色土混。 4. 軟状C粒石混。 5. 暗褐色 細粒状・微粒状C粒石多+塊状褐色土混。 6. 2同層。 7. 暗褐色 微粒状・細粒状C粒石含有+YP粒石少量。 8. 黒色馬 YP粒石含有。 8 a. 黒馬色 YP粒石少量+塊状褐色土混。 8 b. 黒色馬 YP粒石少量+塊状褐色土混。 9. 褐色 細粒状C粒石少量+塊状褐色土混。 10. 2同層。 11. 2同層。

**石組み土壇** (基準線標高値187.00m) 位置:19地区24区B-C-9グリッド。 形状:長方形。 規模:1.90m×0.96m。 主軸方位:北-113度一東。

### 土室

**第145号土室** (基準線標高値200.70m) 位置:19地区15区S-19グリッド。 形状:円形。 規模:0.42m×0.38m。 主軸方位:北-4度一東。

**第150号土室** 位置:19地区15区S-19グリッド。 形状:円形。 規模:径0.80m。 主軸方位:北-7度一西。

**第155号土室** (基準線標高値200.90m) 位置:19地区15区S-20グリッド。 形状:不整形円形。 規模:1.6m×0.8m。 主軸方位:北-60度一西。

**第159号土室** (基準線標高値200.60m) 位置:19地区25区Q-3グリッド。 形状:不整形円形。 規模:1.60m×1.05m。 主軸方位:北-16度一東。

**層序** 1. 黒馬 粒状C粒石含有+粒状I層土若干。 2. 黒馬 細粒状C粒石含有。

**第205号土室** (基準線標高値199.40m) 位置:19地区15区P-9グリッド。 形状:不整形円形。 規模:0.92m×0.92m。 主軸方位:北-113度一西。

**層序** 1. 黒馬 粒状C粒石含有+粒状I層土混。 2. 黒馬 粒状C粒石含有+粒状I層土若干。 3. 黒馬 粒状C粒石若干。 4. 暗褐色 細粒状C粒石若干+粒状I層土混。

**第213号土室** (基準線標高値199.70m) 位置:19地区15区O-P-19グリッド。 形状:楕円形。 規模:1.03m×0.85m。 主軸方位:北-72度一東。

**層序** 1. 黒馬 粒状C粒石含有。 2. 黒馬 粒状C粒石少量。粒状I層土含有。

**第318号土室** (基準線標高値200.30m) 位置:19地区25区P-2グリッド。 形状:楕円形。 規模:1.71m×1.59m。 主軸方位:北-8度一西。

**第736号土室** (基準線標高値200.80m) 位置:19地区25区K-5グリッド。 形状:楕円形。 規模:0.42m×0.36m。 主軸方位:北-25度一西。

**層序** 1. 暗褐色 細粒状C粒石少量。

**第737号土室** (基準線標高値200.80m) 位置:19地区25区K-5グリッド。 形状:楕円形。 規模:0.78m×0.45m。 主軸方位:北-51度一西。

**層序** 1. 黒馬 細粒状C粒石少量。

**第747号土室** (基準線標高値198.30m) 位置:19地区25区E-4グリッド。 形状:楕円形。 規模:0.78m×0.48m。 主軸方位:北-30度一西。

**第748号土室** (基準線標高値198.50m) 位置:19地区25区D-4グリッド。 形状:不整形円形。 規模:0.85m×0.74m。 主軸方位:北-90度一西。

**層序** 1. 黒馬 細粒状C粒石含有+粒状I層土若干+粒状I層土多。 2. 黒馬 微粒状C粒石若干+細粒状I層土若干+粒状I層土若干+粒状I層土多

**第759号土室** (基準線標高値199.50m) 位置:19地区15区K-18グリッド。 形状:楕円長方形。 規模:1.80m×1.02m。 主軸方位:北-34度一東。

**層序** 1. 黒馬 細粒状C粒石含有。 2. 黒馬 細粒状C粒石少量+粒状I層土混。

**第767号土室** (基準線標高値199.30m) 位置:19地区15区L-16グリッド。 形状:円形。 規模:0.85m×0.83m。

**層序** 1. 黒馬 細粒状C粒石多。 2. 黒馬 細粒状C粒石多+粒状褐色土混。

- 第955号土坑 (基準線標高値200.80m) 位置: 19地区25区A-19グリッド。形状: 円形。規模: 0.65m。  
 層序: 1. 黒褐色 粒状C軽石含有。 2. 黒褐色 粒状C軽石含有・小塊状埋層土若干。 3. 黒褐色 細粒状C軽石若干・粒状埋層土層。  
 第975号土坑 (基準線標高値197.48m) 位置: 19地区24区R-5グリッド。形状: 楕円形。規模: 1.12m×0.95m。主軸方位: 北-16度-西。  
 層序: 1. 黒褐色 粒状C軽石含有。 2. 暗茶褐色 粒状C軽石若干・塊状埋層土少量。 3. 暗茶褐色 粒状C軽石微量・塊状埋層土多。  
 第981号土坑 (基準線標高値194.60m) 位置: 19地区24区M-3グリッド。形状: 楕円長方形。規模: 1.18m×0.9m。主軸方位: 北-6度-西。  
 層序: 1. 黒褐色 細粒状C軽石少量・粒状ローム含有。 2. 黒褐色 粒状C軽石含有・粒状炭化物多。  
 第982号土坑 (基準線標高値192.40m) 位置: 19地区24区R-5グリッド。形状: 円形。規模: 0.32m。  
 層序: 1. 黒褐色 細粒状C軽石若干。  
 第987号土坑 (基準線標高値191.00m) 位置: 19地区24区N-2グリッド。形状: 楕円形。規模: 0.35m×0.28m。主軸方位: 北-43度-西。  
 層序: 1. 黒褐色 粒状C軽石含有。 2. 黒褐色 粒状C軽石含有。 3. 黒褐色 粒状C軽石含有。 4. 暗褐色 粒状C軽石含有。  
 第984号土坑 (基準線標高値195.90m) 位置: 19地区24区M-3グリッド。形状: 不整形長方形。規模: 0.65m×0.35m。主軸方位: 北-86度-西。  
 第985号土坑 (基準線標高値195.90m) 位置: 19地区24区M-3グリッド。形状: 円形。規模: 0.42m。  
 第999号土坑 (基準線標高値191.30m) 位置: 19地区24区G-4グリッド。形状: 楕円形。規模: 1.22m×1.01m。主軸方位: 北-60度-東。  
 第985号土坑 (基準線標高値199.60m) 位置: 19地区24区F-5グリッド。形状: 円形。規模: 0.83m。  
 層序: 1. 黒褐色 細粒状C軽石含有。 2. 黒褐色 細粒状C軽石含有。 3. 黒褐色 細粒状C軽石含有。 4. 暗褐色 粒状C軽石若干・塊状埋層土少量。  
 第986号土坑 (基準線標高値191.20m) 位置: 19地区24区F-5グリッド。形状: 楕円形。規模: 1.3m×0.95m。主軸方位: 北-57度-西。  
 層序: 1. 黒褐色 細粒状C軽石含有。 2. 黒褐色 細粒状C軽石含有。 3. 黒褐色 細粒状C軽石含有。 4. 暗褐色 粒状C軽石若干・塊状埋層土少量。  
 第987号土坑 (基準線標高値191.00m) 位置: 19地区24区F-5グリッド。形状: 楕円長方形。規模: 1.12m×0.76m。主軸方位: 北-37度-西。  
 層序: 1. 黒褐色 粒状C軽石含有。 2. 黒褐色 粒状C軽石含有。 3. 黒褐色 粒状C軽石含有。 4. 暗褐色 粒状C軽石含有。  
 第988号土坑 (基準線標高値199.90m) 位置: 19地区24区F-5グリッド。形状: 円形。規模: 0.96m。  
 層序: 1. 黒褐色 細粒状C軽石少量。  
 第991号土坑 (基準線標高値191.40m) 位置: 19地区24区F-5グリッド。形状: 不整形円形。規模: 0.94m×0.8m。主軸方位: 北-23度-東。  
 層序: 1. 黒褐色 粒状C軽石少量。 2. 黒褐色 細粒状C軽石含有・粒状埋層土含有。  
 第992号土坑 (基準線標高値191.10m) 位置: 19地区24区F-4グリッド。形状: 楕円形。規模: 0.63m×0.39m。主軸方位: 北-92度-西。  
 層序: 1. Aa-B地層。 2. 黒色 Aa-B含有。 3. 黒褐色 細粒状C軽石少量。 4. 暗褐色 細粒状C軽石少量・塊状IV層土少量。  
 第993号土坑 (基準線標高値190.40m) 位置: 19地区24区E-5グリッド。形状: 楕円形。規模: 0.72m×0.48m。主軸方位: 北-19度-西。  
 層序: 1. 黒褐色 細粒状C軽石含有。 2. 暗褐色 細粒状C軽石若干・粒状ロームS。 3. 暗褐色 粒状C軽石若干・塊状ローム少量。  
 第994号土坑 (基準線標高値190.60m) 位置: 19地区24区E-5グリッド。形状: 円形。規模: 0.42m。  
 層序: 1. 黒褐色 細粒状C軽石少量・粗粒状IV層土少量。  
 第995号土坑 (基準線標高値190.60m) 位置: 19地区24区E-5グリッド。形状: 楕円形。規模: 1.18m×0.8m。主軸方位: 北-26度-東。  
 層序: 1. 黒褐色 粒状C軽石少量。 2. 黒褐色 細粒状C軽石少量・粒状IV層土少量。 3. 黒褐色 細粒状C軽石少量・粒状IV層土若干。  
 第996号土坑 (基準線標高値190.60m) 位置: 19地区24区E-5グリッド。形状: 円形。規模: 0.38m。  
 層序: 1. 黒褐色 細粒状C軽石少量。  
 第982号土坑 (基準線標高値200.80m) 位置: 19地区15区S-8グリッド。形状: 長方形。規模: 1.46m×0.76m。主軸方位: 北-42度-東。  
 層序: 1. 黒褐色 塊状ローム多量状。  
 第983号土坑 (基準線標高値200.80m) 位置: 19地区15区S-8グリッド。形状: 長方形。規模: 1.48m×0.86m。主軸方位: 北-69度-東。  
 層序: 1. 黒褐色 塊状ローム多量状。
- As-B被覆土坑**
- 第5号As-B被覆土坑 (基準線標高値199.70m) 位置: 19地区15区F・G-17グリッド。形状: 不整形円形。規模: 0.72m×0.58m。  
 主軸方位: 北-98度-西。  
 層序: 2. 黒褐色 細粒状C軽石含有・細粒炭化物少量。 3. 黒褐色 細粒状C軽石含有。  
 第6号As-B被覆土坑 (基準線標高値199.80m) 位置: 19地区15区G-17グリッド。形状: 楕円形。規模: 1.20m×0.95m。主軸方位: 北-30度-西。  
 層序: 1. 黒褐色 細粒状C軽石含有。  
 第7号As-B被覆土坑 (基準線標高値199.80m) 位置: 19地区15区H-17グリッド。形状: 楕円形。規模: 1.10m×1.00m。主軸方位: 北-49度-西。  
 層序: 2. 黒褐色 細粒状C軽石含有。 3. 黒褐色 細粒状C軽石含有。 4. 黒褐色 微粒状C軽石若干・細粒状埋層土若干。
- 壁穴状落ち込み**
- 第1号壁穴状落ち込み (基準線標高値199.80m) 位置: 19地区25区O・P-20グリッド。形状: 楕円形。規模: 3.50m×3.06m。  
 主軸方位: 北-11度-東。  
 層序: 黒褐色 粒状C軽石少量・粒状炭化物含有。  
 第2号壁穴状落ち込み (基準線標高値200.40m) 位置: 19地区15・25区P・Q-20・1グリッド。形状: 楕円形。規模: (4.35m×3.0m)。  
 主軸方位: 北-45度-東。  
 層序: 黒褐色 粒状C軽石混入・粒状炭化物含有・細粒状塊土少量
- 井戸状遺構**
- 井戸状遺構 (基準線標高値203.00m) 位置: 19地区16・26区L・m-20・1グリッド。形状: 円形。規模: 径2.00m。深度: 4.70m。  
 層序: 1. 黒褐色 粗粒状C軽石少量・塊状ローム多量・YP軽石若干。 2. 黒褐色 粗粒状C軽石含有・塊状ローム少量。 3. 黒褐色 粗粒状C軽石少量。 4. 黒褐色 粗粒状C軽石若干。 5. 黒褐色 粗粒状C軽石少量・粗粒状ローム少量・YP軽石若干。 6. 暗褐色 塊状ローム主体。 7. 暗褐色 粗粒状ローム多量・YP軽石少量。 8. 暗褐色 粗粒状ローム含有・粒状黒褐色土含有。 9. 黄褐色 塊状ローム主体。 10. 暗褐色 粗粒状粗粒状黒褐色土多・粗粒状ローム含有量・YP軽石少量。 11. 暗褐色 粗粒状粗粒状黒褐色土多・粗粒状ローム多量・YP軽石若干。 12. 暗褐色 粗粒状粗粒状黒褐色土多・粗粒状ローム含有量・YP軽石少量。 13. 暗褐色。 14. 黄褐色 YP軽石多・粗粒状黒褐色土少量。 15. 暗褐色 YP軽石二次体積含有。 16. YP含有ローム土。 17. As-YP層。 18. 浅黄褐色ローム土。

## 中里見原遺跡出土遺物観察表

## 第1号住居跡出土遺物

遺物番号 採取番号	遺物種類	出土層位 埋 存 度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は直目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00001	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.5	薄・緑・灰白・並・黒色胎土	立ち上がりは丸味を強く帯びる。轆轤右回転成型形。底面は手持ち裏切り。	伏間底
10-00002	須恵器 100	覆土内 2/3残	□(12.4)・高4.3・底6.6	薄・軟・灰白・並・透明鉱物粒子・黒色胎土	器厚は薄い。腰部が張り口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成型形。付高台。	底不詳 (伏間か)
10-00003	須恵器 100	覆土内 2/4残	□13.2・高4.1・底6.5	薄・軟・鈍黄・並・シルト粒子・夾雑物少	器厚は薄く見込みからスルーズに立ち上がる。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成型形。付高台。	底不詳 (伏間か)
10-00004	須恵器 100	床直層 高台欠頂	□・12.7・高4.0・底6.5	薄・軟・鈍黄・並・黒色胎土・透明鉱物粒子・内黒胎土に類似	器厚は張り口縁部は短く外反する。轆轤右回転成型形。高台欠頂(付高台)。	底不詳
10-00005	須恵器 100	床直層 2/3残	□12.5・高4.7・底6.0	薄・軟・鈍黄・並・黒色胎土	器厚は厚く口縁部は薄く直線的に立ち上がる。轆轤右回転成型形。高台欠頂(付高台)。	底不詳 (伏間か)
10-00006	須恵器 100	F内 1/3残	□(15.3)・高6.6・底8.9	薄・軟・浅黄・並・細砂粒	器厚は厚く口縁部は短く外反する。轆轤右回転成型形。付高台。00004と形状の類似。	底不詳
10-00007	須恵器 100	覆土内 破片	□(16.0) 厚(19.0)	薄・緑・灰・並・黒色胎土	内側する側面上半に唇を付し口唇は平直。組作り後轆轤成型(右回転)。	伏間底か
10-00008	須恵器 100	覆土内 破片	□(18.2) 厚(21.0)	薄・緑・灰・並・黒色胎土・高温石灰	内側する側面上半の口唇部寄りに唇を付し口唇は平直。組作り後轆轤成型(右回転)。	伏間底か
10-00009	須恵器 100	覆土内 破片	□19.0 厚(24.6)	薄・軟・黄・並・黒色胎土・透明鉱物粒子・シルト粒子	側面上半は平直。口縁部は内湾する。口唇部は平直。組作り後轆轤成型(右回転)。	伏間底
10-00010	須恵器 100	覆土内 破片	□(19.4) 厚(24.0)	薄・軟・鈍黄・並・白色胎土	外側する側面から口縁部は内湾する。口唇部は直線的に立ち上がる。組作り後轆轤成型(右回転)。	底不詳 (伏間か)
10-00011	須恵器 100	覆土内 破片	□(21.0) 厚(23.8)	薄・軟・浅黄・並・黒色胎土・粗砂粒	外側した側面から器厚が内湾する。口唇部は平直。組作り後轆轤成型(右回転)。	底不詳 (伏間か)
10-00012	須恵器 100	覆土内 破片	□(21.0) 厚(23.6)	薄・軟・黄・並・黒色胎土・透明鉱物粒子	外側側面に立ち上がる口縁部の口唇部は平直。組作り後轆轤成型(右回転)。	伏間底か
10-00013	須恵器 100	床直層 破片	□(22.6) 厚(25.8)	薄・軟・浅黄・並・透明鉱物粒子・黒色胎土	側面上半から口縁部は直線的に立ち上がり、口唇部が短く外反する。組作り後轆轤成型(右回転)。	伏間底
10-00014	須恵器 100	覆土内 破片	底(6.9)	薄・軟・鈍黄・並・黒色胎土	立ち上がりは比較的緩やか。内面は直線的。外面は直線的で整形。組作り。	底不詳 (伏間か)
10-00015	海狗陶器 100	覆土内 1/4残	□(13.4)・高2.7・底(6.3)	薄・緑・灰白・密・夾雑物微	轆轤成型形(右回転)。施胎は浸透け。	東海産
10-00016	海狗陶器 100	覆土内 破片	□(15.1)	薄・緑・灰白・密・夾雑物微	轆轤成型形(右回転)。施胎は浸透け。	東海産
10-00017	海狗陶器 100	覆土内 破片	底(6.9)	薄・緑・灰白・密・夾雑物微	轆轤成型形(右回転)。施胎は浸透け。	東海産
10-00018	海狗陶器 100	覆土内 破片	□(13.5)・高2.6・底(6.8)	薄・緑・灰白・密・夾雑物微	轆轤成型形(右回転)。施胎は浸透け。	東海産
10-00019	海狗陶器 100	F、覆土 内破片	□(17.1)	薄・緑・灰白・密・夾雑物微	轆轤成型形(右回転)。施胎は浸透け。	東海産
10-00020	海狗陶器 100	覆土内 破片	□(12.0)	薄・緑・灰白・密・夾雑物微	轆轤成型形(右回転)。施胎は浸透け。	東海産
10-00021	瓦	覆土内 破片	厚1.8	中・軟・黄・並・夾雑物微	一枚作り。凸面は単純橋糸体の開き気無気。側面は差接して上げ。	伏間底
10-00021	碑	覆土内 破片	残存長21.4・残存幅26.1・厚11.2・重9400	粗粒輝石安山岩	2面を破損する。表面面に磨滅が認められる。	

## 第2号住居跡出土遺物

遺物番号 採取番号	遺物種類	出土層位 埋 存 度	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は直目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00022	土師器 100	F、覆土 内破片	□(19.6)	黄・並・鈍赤・並・高温石灰・黒色胎土	「コ」の字状口縁。口縁下中に成形時の器壁を残す。外面は横位の裏割り、内面は横位で整形。	吉井・藤岡産
10-00023	土師器 100	F、覆土 内破片	□(22.0)	黄・並・鈍黄・並・透明鉱物粒子・黒色胎土	「コ」の字状口縁。口縁下部中に成形時の胎土の積み上げを認めている。外面は横位で整形の裏割り。	不詳(伏間底)
10-00024	須恵器 100	床直層 部分欠頂	□11.6・高3.4・底7.6	薄・並・灰黄・並・夾雑物少	器厚は薄く直線的に立ち上がる。口縁部直下に開筋。轆轤右回転成型形。底面は開筋切り。	伏間底
10-00025	須恵器 100	F、覆土 内2/3残	□(13.3)・高6.3・底(3.8)	中・並・暗灰・黒色胎土・透明鉱物粒子	器厚は薄く直線的に立ち上がる。器厚はやや厚目。轆轤右回転成型形。底面は開筋切り。	伏間底
10-00026	須恵器 100	床直層 2/3残	□(13.6)・高7.5・底4.9	中・軟・鈍灰・並・透明鉱物粒子・黒色胎土	器厚は薄く直線的に立ち上がる。器厚は厚目。轆轤右回転成型形。付高台。器面が風化する。	伏間底
10-00027	須恵器 100	床直層 3/4残	□(13.6)・高7.6・底5.1	中・軟・鈍黄・並・透明鉱物粒子・黒色胎土	器厚は薄く直線的に立ち上がる。器厚はやや厚目。轆轤右回転成型形。付高台。器面が風化する。	伏間底
10-00028	須恵器 100	F、覆土 内破片	□(8.6)	薄・軟・浅黄・並・透明鉱物粒子・黒色胎土・赤褐色粒子	丸味を帯びた側面から、短く外側する口縁部が立ち上がる。器面に唇が付着。轆轤成型形(右回転)。	伏間底
10-00029	須恵器 101	覆土内 1/4残	□(13.4) 割目(17.0)	薄・軟・浅黄・並・透明鉱物粒子・黒色胎土	側面上半に横溝を有し、下半部は斜位の裏割り。口縁部は短く外反する。組作り後轆轤成型形(右回転)。	伏間底
10-00030	須恵器 101	覆土内 1/4残	□(20.2)	薄・軟・浅黄・並・透明鉱物粒子・黒色胎土・粗砂	腹筋の側面から口縁部は短く外反する。側面直下から腹筋の裏割り。組作り後轆轤成型形(右回転)。	伏間底
10-00031	須恵器 101	床直層 破片	□(23.4)	薄・軟・浅黄・並・透明鉱物粒子・黒色胎土	腹筋の側面から口縁部は短く外反する。側面は腹筋の裏割り。組作り後轆轤成型形(右回転)。	伏間底



10-00032	須磨器 羽蓋	床直 破片	口(17.8) 踵(22.2)・胴(24.4)	中・並・黄褐色・並・黒色炭物粒子・ 透明炭物粒子	直線的な胴下から内筒気味の口縁部が立ち上がり、 下半部は縦位の寛削り。組作り後輪軸成形(右回転)。	伏間産
10-00033	須磨器 羽蓋	床直 破片	口(18.0) 踵(22.0)	中・並・黄褐色・並・黒色炭物粒子・ 透明炭物粒子	胴上半・口縁部は内筒する。外筒は輪軸目が顯著。 組作り後輪軸成形(右回転)。踵は貼付け。	伏間産
10-00034	須磨器 羽蓋	床直 破片	口(18.2)・踵(22.0) ・胴(22.4)	中・軟・浅黄褐色・並・黒色炭物粒子・ 透明炭物粒子	胴上半・口縁部は内筒する。胴部は縦位の寛削り。 組作り後輪軸成形(右回転)。踵は貼付け。	伏間産
10-00035	須磨器 羽蓋	甕内 破片	口(18.4) 踵(22.0)	中・軟・浅黄褐色・並・黒色炭物粒子・ 透明炭物粒子	胴上半・口縁部は内筒する。胴部は縦位の寛削り。 組作り後輪軸成形(右回転)。踵は貼付け。	伏間産
10-00036 101	須磨器 羽蓋	P・覆土 内破片	口(18.0) 踵(22.0)	中・軟・浅黄褐色・並・黒色炭物粒子・ 透明炭物粒子	胴上半・口縁部は内筒する。胴部は縦位の寛削り。 組作り後輪軸成形(右回転)。踵は貼付け。	伏間産
10-00037	須磨器 羽蓋	床直層 破片	口(20.0)・踵(22.0) ・胴(19.0)	中・軟・灰褐色・並・黒色炭物粒子・ 透明炭物粒子	胴上半・口縁部は内筒する。胴部は縦位の寛削り。 組作り後輪軸成形(右回転)。踵は貼付け。	伏間産
10-00038	須磨器 羽蓋	甕内 破片	口(20.0) 踵(23.0)	中・軟・黄褐色・並・黒色炭物粒子・ 透明炭物粒子	胴上半・口縁部は内筒する。胴部は縦位の寛削り。 組作り後輪軸成形(右回転)。踵は貼付け。	伏間産
10-00039	須磨器 羽蓋	甕内内 破片	底(3.4)	中・軟・黄褐色・並・透明炭物粒子・ 黒色炭物粒子	外筒は斜位の寛削り。内筒は張り上げる状態で 残りを残す。組作り後輪軸成形。	伏間産
10-00040	須磨器 羽蓋	甕内内 破片	底(10.0)	中・軟・黄褐色・並・透明炭物粒子・ 黒色炭物粒子	底筒は大きく大形器種である。溝の部位からの 残物を残す。組作り後輪軸成形(右回転)。	伏間産
10-00041 101	海輪陶器 反輪 皿	覆土内 破片	口(13.0)	濃・緑・灰白・密・夾雑物少	輪軸成形器(右回転)。施釉は浸けぬ。	東海産
10-00042 101	海輪陶器 反輪 皿	床直層 2/3残	口(14.2)・高5.0・底 (7.3)	濃・緑・灰白・密・夾雑物少	輪軸成形器(右回転)。施釉は浸けぬ。	東海産
10-00043 101	海輪陶器 反輪 皿	甕内内 破片	底(5.8)	濃・緑・灰白・密・夾雑物少	輪軸成形器(右回転)。施釉は浸けぬ。	東海産

## 第3号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種 器種	出土層位 遺存 存度	度量 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は皮目録)	形状・技法等の特徴	概要
10-00044	土師器 土師器	床直層 破片	口(19.0)	中・軟・浅黄褐色・並・黒色炭物粒子・ 白色微粒子透明炭物粒子	「コ」の字状口縁。口縁下半部は成形時の器底を残して いる。外筒は縦位の寛削り、内筒は縦帯を施す。	吉井・藤 岡産
10-00045 101	須磨内溝 土師器	床直層 破片	口(16.6)・高5.7・底 (5.7)	中・軟・灰黄褐色・並・白色微粒子・ 透明炭物粒子	体部の丸味が強く全体に丸味を帯びる。輪軸右回 転成形器。付高台。器面が風化し研磨単位不分明。	伏間産
10-00046 101	須磨器 羽蓋	床直層 破片	口(20.0)	中・軟・黄褐色・並・黒色炭物粒子・ 透明炭物粒子	全体に丸味が強い。胴下半部は縦位の寛削り。組 作り後輪軸成形(右回転)。踵は貼付け。	伏間産か
10-00047 101	瓦	床直層 破片	口(14.6)	濃・軟・灰白・密・黒色炭物・シル ト粒子	一枚作り。凸面は半輪帯全体の調印が施文。凹面 側は覆背彫が認められる。	伏間産
10-00048	海輪陶器 反輪 皿	床直層 破片	厚1.7	濃・緑・灰白・密・夾雑物少	輪軸成形器(右回転)。施釉は浸けぬ。	東海系
40-00001 101	貨幣 銅銭	P・内 部分大損	径90.2・重1		「寛平大定」初鋳は寛平2年(890)。皇暦十二銭の 10番目。	

## 第4号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種 器種	出土層位 遺存 存度	度量 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は皮目録)	形状・技法等の特徴	概要
10-00049 101	土師器 土師器	床直層 破片	底(18.0)	中・軟・浅黄褐色・並・透明炭物粒子・ 黒色炭物粒子	外筒は斜位の寛削りを施す。内筒は縦位の研磨を 施し、施し処理を施す。組作り。	不詳
10-00050 101	土師器 土師器	甕内 破片	口(21.0) 胴(24.0)	中・並・黄褐色・並・透明炭物粒子・ 黒色炭物粒子	細身の薄い球帯形の「コ」の字状口縁。器底直下は 凸面に以下は曲線状に下位に向かい漸次を施す。	吉井・藤 岡産
10-00051 101	須磨器 羽蓋	甕内内 破片	口(12.5)・高3.6・底 6.8	濃・並・灰白・密・白色微粒子・黒 色粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がり。器底は中や厚 目。輪軸右回転成形器。器底は回転成形。	伏間産
10-00052 101	須磨器 羽蓋	甕内内 破片	口(12.9)・高(3.0)・ 底(7.2)	濃・並・灰白・密・白色微粒子・黒 色粒子	胴部丸味を帯び口縁部は短く傾斜やかに外反する。 器底右回転成形器。器底は回転成形。	伏間産
10-00053 101	須磨器 羽蓋	甕内内 破片	口(13.4)・高4.8・底 (7.5)	濃・並・灰白・密・夾雑物微	全体に厚味が薄く体・口縁部は直線的に長く立ち 上がる。輪軸右回転成形器。器底は回転成形。	伏間産
10-00054 101	須磨器 羽蓋	床直層 1/2残	口(12.9)・高4.3・底 7.4	濃・硬・灰・並・白色微粒子・黒色 粒子	胴部は丸味を帯びるが、口縁部は直線的に立ち上 がる。輪軸右回転成形器。付高台。	伏間産
10-00055 101	須磨器 羽蓋	覆土内 破片	厚0.6	濃・並・灰・並・黒色炭物	見込みには有機質が付着する。輪軸右回転成形器。 器底は回転成形。	伏間産
10-00056 101	須磨器 羽蓋	甕内 2/3残	口(15.0) 踵(28.7)	濃・軟・灰・並・夾雑物微	胴部は丸味を帯びて立ち上がり、口縁部は短く外 反する。輪軸右回転成形器。器底は回転成形。	伏間産
10-00057 101	須磨器 羽蓋	甕内 P 内破片	胴(20.8)	濃・硬・灰・並・夾雑物微	器底から直線的に立ち上がり、胴部から上位は内 筒する。組作り後輪軸成形(右回転)。	伏間産
10-00058 101	須磨器 羽蓋	覆土内 破片	厚0.6	中・軟・黄褐色・並・白色微粒子	体部からの欠損。器底は成形。	伏間産
10-00059 101	須磨器 羽蓋	甕内内 破片	口(22.5) 踵(28.8)	中・並・黄褐色・並・白色微粒子・黒 色炭物粒子	器底は厚く、胎土も良好。上手な製品。組作り後輪 軸成形(右回転)。	伏間産
10-00060 101	須磨器 羽蓋	甕内内 破片	口(22.5) 踵(28.8)	中・並・黄褐色・並・赤褐色粒子・ 黒色炭物粒子	胴上半・口縁部は内筒する。外筒は輪軸目が顯著。 組作り後輪軸成形(右回転)。踵は貼付け。	吉井系か
10-00061 101	瓦	覆土内 破片	厚1.8	濃・軟・灰・並・シルト粒子・夾雑物 微	半筒作り。凸面は半輪帯全体の調印が施す。有目 度は並。	伏間産
10-00062 101	瓦	覆土内 破片	厚1.8	濃・軟・灰・並・シルト粒子・夾雑物 微	一枚作り。凸面は半輪帯全体の調印が施す。器 底は覆背で仕上げ。	伏間産
10-00063 101	海輪陶器 反輪 皿	覆土内 破片	口(14.4)	濃・緑・灰白・密・夾雑物微	輪軸成形器(右回転)。施釉は浸けぬ。	伏間産

第6章 中里見原遺跡

20-00002 102	礎石	床直層 完存	長30.9・幅24.0・厚 9.8・重11,800g	粗粒輝石安山岩	礎面の両面に使用痕が認められる。	
-----------------	----	-----------	-------------------------------	---------	------------------	--

第5号住居跡出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種類	出土層位 保存度	度量目 (cm) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は表目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00069 102	須恵器 環	覆土内 2/3残	□114.6・高7.2・底5.7	黒・軟・鈍黄・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	口縁部から丸味を帯びて立ち上がり、口縁部は種や かに外反。縁部は凹凹成形。底部は凹凹未切り。	秋田産
10-00070	須恵器 鉢	甌方内 破片	□(114.0)	黒・軟・鈍黄・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	丸味を帯びて立ち上がった側面から短く外傾する 口縁部が立ち上がる。縁部成形が顕著に残る。	秋田産
10-00071	須恵器 鉢	石組内小 1/2残	□(116.3)・高7.3・底 11.4	黒・並・暗緑・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	外面は斜位の覆りを施す。口縁部は縁部成形の 凹凹形を残す。紐作り後縁部成形(右回転)。	秋田産
10-00072 102	須恵器 埴	甌方内 破片	□(112.5)・高5.8・底 (7.4)	黒・並・鈍黄・並・夾雑物微	口縁直下で丸味を帯び、口縁部は短く外反。器厚 は均質で薄い。縁部凹凹成形。付台付。	秋田産
10-00073	須恵器 罌	甌方内 破片	□(118.0)	黒・並・鈍黄・粗・夾雑物微	口縁部は短く外反する。口縁部には縁部成形が 認められる。紐作り後縁部成形(右回転)。	秋田産
10-00074 102	須恵器 罌	石組内小 破片	脚盤(25.6)	黒・並・鈍黄・粗・透明鉱物粒子・ 白色鉱物粒子	器形は「土蓋」に類する。外面は粘土層の覆い上げ 単位を明確に残す。内面は無凹凹成形を施す。	不詳
10-00075 102	須恵器 羽釜	覆土内 破片	□(20.0) 脚(23.6)	黒・軟・鈍黄・並・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	胴上平・口縁部は内湾する。胴部は縦位の覆り。紐 作り後縁部成形(右回転)。脚は貼付け。	秋田産か
10-00076 102	瓦 瓦葺瓦	石組内小 破片	厚1.5	黒・緑・暗灰・並・白色顔料	平截作り。凸面は縁部成形を顕著に残す。布目 笠面は付。	秋田産
10-00077 102	瓦 瓦葺瓦	覆土内 破片	厚1.4	黒・並・灰・並・白色顔料	平截作り。凸面は粘土敷割り取りを顕著に残す。 側面取りは1回。	秋田産
10-00078 102	瓦 瓦葺瓦	覆土内 破片	厚1.6	黒・硬・灰・並・シルト粒子	一枚作り。凸面は単軸系全体の溝印を顕著に残す。 側面取りは2回。	秋田産
10-00079 102	瓦 瓦葺瓦	甌方内 破片	厚1.5	黒・軟・灰・並・シルト粗粒子	一枚作り。凸面は凹凹成形を顕著に残す。凹面 は単軸系全体の溝印を顕著に残す。側面取りは3回。	秋田産
10-00080	陶軸陶器 灰物 罌	覆土内 破片	□(115.0)	黒・緑・灰白・密・夾雑物微	縁部成形(右回転)。胎土は浸透性。	東海産
10-00081	灰物陶器 長瓶瓶	覆土内 破片	脚0.4	黒・緑・灰白・密・夾雑物微	縁部成形(右回転)。胎土は浸透性。	東海産

第6号住居跡出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種類	出土層位 保存度	度量目 (cm) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は表目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00082 103	須恵器 甌方内 鉢	甌方内 破片	□(115.0)	黒・硬・鈍黄・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	口縁部は短く外反する。口縁部には縁部成形が認め られる。器厚の不均質を顕著に残す。内面は凹凹成形。	不詳
10-00083 103	須恵器 埴	甌方内 部分欠損	□113.6・高5.0・底6.3	黒・軟・鈍黄・並・黒色粒子・白色 顔料	縁部は丸味を帯び立ち上がる。口縁部の器厚は薄 く、横割が付着する。縁部凹凹成形。付台付。	秋田産
10-00084 103	須恵器 埴	甌方内 部分欠損	□113.3・高5.2・底6.7	黒・軟・鈍黄・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	全体に歪み。立ち上がりは丸味を帯びた状態に なっている。縁部凹凹成形。付台付。	秋田産
10-00085 103	須恵器 埴	甌方内 部分欠損	□114.0・高4.6・底7.2	黒・並・鈍黄・並・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子・シルト	全体に丸味を帯び、口縁部短く外反。甌内外 部の縁部成形が不均。縁部凹凹成形。付台付。	秋田産
10-00086	須恵器 罌	床直層 破片	脚0.7	黒・並・鈍黄・並・白色顔料	紐作り後縁部成形(右回転)。秋田土師産(秋田 産)。	秋田産
10-00087 103	須恵器 罌	甌方内 破片	□(118.0)	黒・並・鈍黄・並・透明鉱物粒子・ 白色顔料	器厚は薄い。「コ」の字状口縁。粘土層の単位が外 面に残る(秋田産)。	吉井・藤 岡産
10-00088 103	須恵器 罌	甌方内 破片	□(117.0)・脚16.4	黒・軟・灰白・並・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	口縁部は短く外反する。口縁部には縁部成形が認め られる。器厚の不均質を顕著に残す(秋田産)。	秋田産
10-00089 103	須恵器 罌	甌方内 破片	□(118.0) 脚(15.2)	黒・並・鈍黄・並・夾雑物微	口縁部は短く「コ」の字に外傾する。甌内外面に は顕著な縁部成形が残っている(秋田産)。	秋田産
10-00090 103	須恵器 罌	甌方内 破片	□(20.0) 脚(19.0)	黒・硬・明赤・並・透明鉱物粒子・ 赤褐色粒子	「コ」の字状口縁。外面は縦位の覆りで成形。内面 はコテを使った縁部成形(秋田産)。	秋田産
10-00091 103	須恵器 羽釜	甌内 破片	□(118.0) 脚(22.8)	中・並・黒褐(外)・灰褐(内)・並 透明鉱物粒子・黒色鉱物粒子	胴上平・口縁部は内湾する。外面は縁部目が顕著。 紐作り後縁部成形(右回転)。脚は貼付け。	秋田産
10-00092 103	須恵器 羽釜	甌内 破片	□(118.0) 脚(21.8)	黒・硬・鈍黄・並・透明鉱物粒子	胴上平・口縁部は内湾する。胴部は縦位の覆りで。 紐作り後縁部成形(右回転)。脚は貼付け。	秋田産か
10-00093 103	須恵器 羽釜	甌内 1/2残	□(20.0) 脚(23.8)	黒・軟・鈍黄・並・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	丸味のある側面は、器直下で最大径に達し、口縁は 内傾して立ち上がる。紐作り後縁部成形(右回転)。	秋田産
10-00094 103	須恵器 羽釜	甌内 破片	底底(0)	中・並・灰白・並・透明鉱物粒子・ 黒色粒子	丸味を帯びて立ち上がる。底部周辺は斜位の覆り。 内面は縁部成形(右回転)。	秋田産
10-00095 103	須恵器 羽釜	甌内 破片	□(22.0) 脚(26.0)	黒・並・鈍黄・並・透明鉱物粒子・ 黒色顔料	胴上平・口縁部は内湾する。外面は縁部目が顕著。 内面は縦位の覆りで成形(右回転)。脚は貼付け。	秋田産か
10-00096 103	須恵器 羽釜	甌内 1/2残	□(22.0) 脚(23.0)	黒・並・鈍黄・並・透明鉱物粒子・ 白色顔料	内面に底土品の積み上げ痕が認められる。外面は 縦位の覆りの覆り。口縁部は無凹凹。	月夜野産
10-00097 103	瓦 瓦葺瓦	甌内 破片	厚1.7	黒・緑・灰・並・白色顔料	平截作り。凸面は縁部成形を顕著に残す。凹面 に粘土敷割り取りを施す。互当面取付は不均。	秋田産
10-00098 103	瓦 瓦葺瓦	甌内 破片	厚2.1	黒・緑・灰・並・白色顔料	平截作り。凸面は縁部成形を顕著に残す。側面 取りは2回。	秋田産
10-00099 104	瓦 瓦葺瓦	甌内 破片	厚1.8	黒・緑・灰・並・白色顔料	平截作り。凸面は縁部成形を顕著に残す。側面 取りは2回。端部側面取りは1回。	秋田産
10-01000 104	瓦 瓦葺瓦	甌内 破片	厚2.0	黒・緑・灰・並・黒色粒子・シルト 粒子	平截作り。凸面は単軸系全体の溝印を顕著に残す。 側面取りは4回。端部取りは2回。	秋田産

## 第2節 発見された遺構・遺物

10-00101 104	瓦 瓦葺	床直縁 破片	厚2.1	葎・硬・灰・粗・白色塵粒子	一枚作り。凸面は車輪跡条体の輪印き施文。側面 取りは3部。凹面は欠損部。	秋田産
10-00102 104	瓦 瓦葺	床直縁 破片	厚2.0	葎・硬・灰・粗・白色塵粒子・シルト 粒子・シルト粗粒子	一枚作り。凸面は車輪跡条体の輪印き施文。側面 取りは3部。凹面は欠損部。	秋田産
40-00002	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長4.9・幅0.9・ 重10.1g		葎層不分明。利器の茎か。	
40-00003	鉄器 釘か	覆土内 破片	残存長3.0・幅0.5・ 重2.9g		釘か。	
40-00004	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長3.8・幅0.4・ 重3.8g		葎層不分明。	
20-00003 104	磚器 不詳	部内方 宍存	長9.2・幅7.7・厚3.4 ・重93.3g	粗粒輝石安山岩	平組面は使用痕か自然面か判然としない。	

## 第7号住居跡出土遺物

遺物番号 採取番号	遺物種 器種	出土層位 層位	出 土 厚 度 目 (g)	焼成・色調・粘土 (石素材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00103	土器器 蓋	覆土内 1/3残	底(3.6)	酸・並・鈍黄緑・並・微粒雲母	外面は縦位の覆削り。内面は膝上上げる状態の覆削り で覆す。	吉井・藤 岡産
10-00104	土器器 瓶	覆土内 破片	口(13.0)	酸・並・黄緑・並・微粒雲母	底面は覆削り。口縁部下手に彫痕を残し、口縁部 端部・内面は焼成で整形。	吉井・藤 岡産
10-00105	銅器器 釘か	覆土内 破片	口(12.0)	葎・軟・灰白・並・夾雑物微	縦縁右回転成形。底面は欠損。	秋田産
10-00106	銅器器 蓋	覆土内 破片	底(19.2)	葎・硬・灰・並・白色塵粒子	端部は折り返し。天井部は右回転の覆削り。	秋田産

## 第8号住居跡出土遺物

遺物番号 採取番号	遺物種 器種	出土層位 層位	出 土 厚 度 目 (g)	焼成・色調・粘土 (石素材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00107 104	土器器 土環	床直面上 破片	口(13.8) 底(11.8)	酸・並・鈍黄緑・並・雲母石英片粘	器内外面にも小単位のハゼの顕著。口縁部は直 線的に立ち上がる。並作り成形。	吉井・藤 岡産
10-00108 104	土器器 土台	P <sub>1</sub> 覆土 内1/4残	基部4.2 残厚9.6	酸・並・灰黄緑・並・黒色鉱物粒子・ 微粒雲母	胴下半部は横位・斜位気味の覆削りを施す。内面 は膝上げ状の覆削りを実施。脚端部は欠損する。	吉井・藤 岡産
10-00109 104	土器器 土台	床直面上 破片	底9.4	酸・並・黄緑・並・黒色鉱物粒子・透 明鉱物粒子	外面は縦位の覆削りを施す。内面は横位に覆つて 作る。並作り成形。	吉井・藤 岡産
10-00110 105	銅器器 土環	床直面上 破片	口(10.0)・高4.2・底6.5	葎・硬・灰・並・夾雑物微	底面・側面・口縁部は薄く直線的に立ち上がる。 高台が認められる。	秋田産
10-00111 105	銅器器 土環	床直面上 1/2残	口(12.8)・高4.0・底 6.8	葎・硬・灰・並・黒色粒子	全体に厚層は薄い。立ち上がりは丸味を帯び、縦縁 右回転成形。底面は回転成形。自然面が付着。	秋田産
10-00112 105	銅器器 土環	覆土内 1/2残	口(12.8)・高3.4・底 (6.6)	葎・並・灰白・並・夾雑物微	全体に厚層は薄い。立ち上がりは直線的。縦縁右 回転成形。底面は回転成形。	秋田産
10-00113 105	銅器器 土環	床直面上 1/4残	口(13.7)・高4.4・底 (7.1)	葎・硬・灰・並・黒色粒子	体・口縁部の厚層は薄い。口縁部は欠損する。 縦縁右回転成形。底面は回転成形。	秋田産
10-00114 105	銅器器 土環	床直面上 破片	口(13.7)・高4.4・底 (8.2)	葎・硬・灰・並・黒色粒子	厚層は薄い。体部は丸味を帯び、口縁部は直線的。 縦縁右回転成形。底面は回転成形。	秋田産
10-00115 105	銅器器 土環	床直面上 1/2残	口(15.0)・高3.8・底 (9.6)	葎・硬・灰白・並・黒色粒子	底面・口縁部の厚層非常に薄く、体部は厚や厚 目。縦縁右回転成形。底面は回転成形。	秋田産
10-00116 105	銅器器 土環	床直面上 2/3残	口(15.2)・高6.3・底8.6	葎・硬・灰・並・白色塵粒子	底面は丸味を強く帯び、体・口縁部は薄くや丸 味を帯びる。縦縁右回転成形。付着台。	秋田産
10-00117 105	銅器器 蓋	床直面上 破片	胴(4.4)・高4.8・底 (18.0)	葎・硬・灰・並・黒色粒子・白色塵 物粒子	胴部は厚状。天井は縦縁右回転成形。端部は折り 返し。縦縁成形。	秋田産
20-0004 105	磚器 部分欠損	床直面上 部分欠損	残存長15.1・幅13.2 ・厚6.3・重2.012g	粗粒輝石安山岩	明顯な使用痕等は認められなかった。	

## 第9号住居跡出土遺物

遺物番号 採取番号	遺物種 器種	出土層位 層位	出 土 厚 度 目 (g)	焼成・色調・粘土 (石素材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00118	土器器 土環	P <sub>1</sub> 覆土 内破片	口(22.2)	酸・並・鈍黄緑・並・微粒雲母	球形胴の腰。口縁部は短く「く」の字に外気 味に立ち上がる。外面は縦位の覆削りを施す。	藤岡産
10-00119	土器器 土環	P <sub>1</sub> 覆土 内破片	底6.6			
10-00120 105	銅器器 土環	床直面上 2/3残	口(11.7)・高3.8・底 6.9	葎・硬・灰白・並・黒色粒子	厚層は全体に薄く体・口縁部は直線的に立ち上 がる。	秋田産
10-00121 105	銅器器 土環	覆土内 破片	口(12.8)・高3.8・底 (7.2)	葎・硬・灰・並・白色塵粒子	全体に厚層は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は 直線的。縦縁右回転成形。底面は回転成形。	秋田産
10-00122 105	銅器器 土環	覆土内 部分欠損	口(12.4)・高7.2・底7.5	葎・並・灰白・並・シルト粒子	全体に厚層は薄い。体・口縁部は長く直線的に立 ち上がる。縦縁右回転成形。付着台。	秋田産
10-00123 105	銅器器 土環	P <sub>1</sub> 覆土 内完全形	口(14.7)・高6.4・底7.4	葎・並・灰白・並・白色塵粒子	厚層は厚目。口縁部は外反りする。厚層は薄目。 縦縁右回転成形。付着台。	秋田産
10-00124 105	銅器器 土環	P <sub>1</sub> 覆土内 部分欠損	口(16.2)・高6.2・底6.2	酸・並・鈍黄緑・並・黒色鉱物粒子	体・口縁部は丸立ち上がる。内面は覆削りを残し 焼成。縦縁右回転成形。付着台。	不詳
10-00125 105	銅器器 土環	覆土内 破片	口(13.8)	葎・硬・灰・並・黒色粒子	全体に厚層は薄い。器面に小単位の縦状の粘土が 認められる。縦縁成形。	秋田産
10-00126 105	銅器器 土環	覆土内 破片	底6.5	酸・並・鈍黄緑・赤褐色粒子・黒色 鉱物粒子	体・口縁部は丸味がある。内面は研削を残し焼 成。縦縁右回転成形。付着台。	不詳 添書-1

## 第6章 中里見原遺跡

10-00127 105	須磨器 煮	覆土内 破片	□(13.4)	漆・漆・白灰・灰・黒色粒子	外面口唇直下に粘土層を成形し、正面部を複合口 縁状にしている。組作り後繼續成形(右回転)	伏間産
10-00128 105	須磨器 煮	両面灰皿 1/2残	側径(23.0)	漆・漆・灰・灰・黒色粒子・白色微 粉	北側の底面がすぼみ、両側辺の縁輪回転痕跡 を施す。組作り後繼續成形(右回転)	伏間産
10-00129	須磨陶器 灰吹 碇	覆土内 破片	□(14.6)	漆・漆・灰・灰・夾雑物微	繼續成形形(右回転)。施物は没び無	東海産
20-0005 105	石製品 紡錘車	床直磨 完形	径3.5・高1.9・孔径 0.8・重43g	蛇紋岩	殆ど欠損が認められない。遺存例に比較すると、 径が小さく厚さが目立って、調整痕は1本である。	
40-0005 105	鉄器 不詳	覆土内 破片	厚0.3・重27.3g		錆化が顕著。刀子と思われる利刃と基状の製品が 磨削されている。	
40-0006	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅0.7・厚0.3・重4.2		錆化が顕著。形状等不分明。	

## 第10号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00130 105	土師器 甕	甕内 破片	□(12.8)・高(3.2)・ 底(8.8)	灰・漆・黄褐色・灰・黒色粒子・白 色微粉	胴部は丸く口縁が強く外傾する。胴部は裏面より、 口縁・外面は繼續で、外部に意匠無。型作り反焼。	吉井・藤 岡産
10-00131 105	土師器 甕	覆土内 破片	□(13.2)	灰・漆・黄褐色・灰・黒色微粉粒子・ 白色微粉	「コ」の字状に丸く、外縁辺の縁輪の認めら れる。口縁直下は唇位の隆起有り。内面は無施。	吉井・藤 岡産
10-00132 105	土師器 付付碇	覆土内 破片	底(8.0)	灰・漆・黄褐色・灰・黒色微粉粒子・ 白色微粉	胴部、「ハ」の字状に丸く、繼續成形に近い模 造形が認められる。	吉井・藤 岡産
10-00133 105	土師器 付付碇	覆土内 破片	□(20.2)	灰・漆・黄褐色・灰・黒色微粉粒子・ 白色微粉	「コ」の字状で丸く、口縁の角は輪状の痕により表出。 外面は横位の隆起有り。内面は横位の隆起。	吉井・藤 岡産
10-00134 106	須磨器 床直磨	覆土内 部分欠損	□11.6・高2.9・底7.0	漆・漆・灰・灰・夾雑物微	立ち上がりは丸味を帯び、口縁部はやや外反する。 繼續右回転成形。底部は回転余切り。	不詳
10-00135 106	須磨器 内皿 環	覆土内 1/3残	□(12.4)・高6.4・底 3.4	灰・漆・黄褐色・灰・黒色微粉粒子・ 赤褐色粒子	体・口縁部は丸味がある。内面は研削を推し進 められ。繼續右回転成形。底部は回転余切り。	不詳
10-00136 106	須磨器 床直磨上 完形	床直磨上 完形	□13.6・高7.2・底4.0	漆・漆・灰・灰・白色微粉粒子・黒色 粒子	胴部がやや丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち 上がる。繼續右回転成形。底部は回転余切り。	伏間産
10-00137 106	須磨器 床直磨上 2/3残	床直磨上 2/3残	□13.6・高4.1・底7.8	灰・漆・灰白・灰・夾雑物微	体部はやや丸味を帯び、口縁部は短く外反する。 繼續右回転成形。底部は回転余切り。	伏間産
10-00138 106	須磨器 環	覆土内 1/2残	□(14.2)・高(3.4)・ 底7.6	灰・漆・黄褐色・灰・白色微粉粒子	胴部は深い口縁部は薄く、繼續目が強い。繼續右 回転成形。底部は回転余切り。	伏間産
10-00139 106	須磨器 碇	甕内 破片	□(15.2)	漆・漆・灰・灰・黒色粒子	全体が丸味を帯び、口縁部は短く外反気味。繼續 成形形(右回転)	伏間産
10-00140 106	須磨器 碇	甕内 破片	底6.2	漆・漆・灰白・灰・高温石英	厚さは全体に薄く、繼續右回転成形。底部は回 転余切り。見込みに「X」の痕跡が認められる。	伏間産
10-00141 106	須磨器 内皿 環	床直磨 1/3残	径7.1	漆・漆・灰白・灰・夾雑物微	底面は深い。立ち上がりは薄く、繼續右回転成 形。付合有。	伏間産
10-00142 106	須磨器 内皿 環	甕内 破片	□(15.4)・高3.5・底 (9.0)	灰・漆・黄褐色・灰・黒色微粉粒子・ 赤褐色粒子	丸味が強い。口縁は短く外反する。内面に研削を 施す。繼續右回転成形。底部は回転余切り。	不詳
10-00143 106	須磨器 内皿 環	甕内 破片	□(18.2)	灰・漆・黄褐色・灰・白色微粉粒子・ 黒色微粉粒子	全体に丸味を帯び、内面に研削を施す。繼續右 回転成形。	不詳
10-00144 106	須磨器 内皿 環	覆土内 破片	底(8.0)	灰・漆・黄褐色・灰・白色微粉粒子・ 黒色微粉粒子	内面に研削を施す。繼續右回転成形。底部は回 転余切り。	不詳
10-00145	須磨器 大壺	覆土内 破片	厚1.6	漆・漆・暗灰・灰・白色微粉粒子	器内外面は撫で成形。叩き成形の痕跡は認められ ない。起作り。	産附・伏 間産
10-00146 106	瓦 瓦	甕内 破片	厚1.6	漆・漆・白灰・灰・シルト粒子	一枚作り。凸面は単純輪帯体の裏面片断 面取り1回。	伏間産
10-00147 106	瓦 瓦	覆土内 破片	厚1.2	漆・漆・暗灰・灰・白色微粉粒子	断面形状が特殊。製法は、一枚作り。凸面は 単純輪帯体の裏面片断面取り3回。	伏間産
10-00148	須磨器 大壺	甕内 破片	厚1.5	漆・漆・灰・灰・白色微粉粒子	外面は粗い印を叩き、内面の底は直交。平行 印は浅く強く等て明確ではない。	伏間産
20-00006 106	石製品 紡錘車	床直磨 完形	上径3.1・高1.8・下 径2.7・重46g	蛇紋岩	側面に縦位の沈線が4条施す。	
40-00007	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅3.3・高4.3・厚0.5		錆化が顕著。鉄質の可能性がある。形状は厚身の 舌に似ている。	
20-00007 106	礫器 礫石	覆土内 完形	長11.0・幅4.9・厚3.6 ・重307g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨削が認められる。	
20-00008 106	礫器 礫石	床直磨 完形	長15.4・幅12.3・厚 3.9・重1,180g	粗粒輝石安山岩	表面面の平坦面が磨削が認められ、被熱による割 離が認められる。	
20-00009 106	礫器 礫石	覆土内 破片	現存径12.6・幅10.9 ・厚2.0・重1,550g	粗粒輝石安山岩	片面面に被熱による割離が認められる。	
20-00010 106	礫器 礫石	床直磨 完形	長19.1・幅15.8・厚 7.0・重3,100g	粗粒輝石安山岩	使用痕は認められない。	

## 第13号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00149 106	土師器 甕	覆土内 破片	□12.6・高3.5・底8.0	灰・漆・黄褐色・灰・黒色微粉粒子・ 白色微粉	底部中央・体部に型痕を残す。	吉井・藤 岡産
10-00150 106	須磨器 床直磨上 環	床直磨上 1/4残	□(12.6)・高3.2・底 (6.4)	漆・漆・灰・灰・夾雑物微	体・口縁部はやや丸味を帯び、器厚は薄く、 自然熱付。繼續右回転成形。底部は回転余切 り。	伏間産

## 第2節 発見された遺構・遺物

10-00151 106	須恵器 環帯	床直縁 1/3残	口12.7・高6.0・底 6.0	遺・輝・灰・並・夾炭物微	体・口縁部はやや丸味を帯びる。器厚は極薄い。 轆轤右回転成整形。底部は回転未切り。	秋田産
10-00152 106	須恵器 内蓋	床直縁上 高台内側	口13.3・残高1.9・直 径8.0	遺・並・灰・並・黒色鉱物粒子	丸味を帯びる。内面に研削を施し種し処理を施す。 轆轤右回転成整形。高台穴開(付高台)。	不詳
10-00153 107	須恵器 土内 破片	遺5.0		遺・並・灰黄緑・並・黒色鉱物粒子	縁部の裏割りを施す。内面に裏割で残が多い。	秋田産か
10-00154 107	須恵器 把手付風 車	土内破片	胴径(28.0)	遺・輝・硝灰・並・白色微粒子	縁部を呈するのかわ、平行印きの残痕が認められる。 縦作り。叩き整形後轆轤成整形(右回転)。	秋田産
10-00155 107	須恵器 広口壺	土内破片	口(60.4) 胴径(63.6)	遺・硬・灰・並・白色微粒子	縦作り後叩き整形。外面は平行印き、内面宛て具 は裏文。口縁部は轆轤成整形(右回転)。	秋田産
10-00156 5 10-00158	須恵器 大甕	土内破片	厚1.0	遺・硬・灰・並・白色微粒子・黒色 粒子	縦作り後叩き整形。外面は平行印き、内面宛て具 は背筒裏文。	秋田か飛 騨系
20-00011 107	礫石 礫石		長28.5・幅25.2・厚 9.0・重11,300g	粗粒輝石安山岩	表面面の平ら面に磨痕が認められる。	

## 第11号住居跡出土遺物

遺物番号 区番号	遺物種 名	出土層位 と深度	径目(cm) 重(g)	構成・色調・粘土 (右側は付目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00159 107	土師器 土内 破片	土内1層 破片	口(12.6) 底(8.6)	釉・並・鈍緑・並・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	製作形態は底部は裏割り。内面・口縁部は轆轤 成整形。体部は裏割を施す。	吉井・藤 岡産
10-00160 107	土師器 土付壺	床直縁 破片	口(12.4) 胴径(13.0)	釉・並・鈍黄緑・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子・白色粒子	胴部は丸味を帯び、口縁部は「コ」の字状に 立ち上る。全体に裏割は薄い。	吉井・藤 岡産
10-00161 107	土師器 土付壺	床直縁 破片	口(16.0) 胴径(10.2)	釉・並・鈍黄緑・並・黒色鉱物粒子・ 白色粒子	胴部は丸味を帯び、直線的に立ち上る。「コ」の字 状口縁。外面は裏割りを施し、内面は裏割で整形。	吉井・藤 岡産
10-00162 107	土師器 壺	土内内 破片	口(18.0) 底(16.8)	釉・並・鈍緑・並・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子・炭粒青母	「コ」の字状口縁。口縁部立ち上りが成形時の磨削 を残す。外面は裏割りを施し、内面は裏割で整形。	吉井・藤 岡産
10-00163 107	土師器 壺	土内内 破片	口(18.4) 胴径(20.2)	釉・並・鈍緑・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部立ち上りが成形時の磨削 を残す。外面は裏割りを施し、内面は裏割で整形。	吉井・藤 岡産
10-00164 107	土師器 壺	土内内 破片	口(18.8) 底(16.0)	釉・並・鈍赤褐・並・透明鉱物粒子・ 白色粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は裏割りを施し、内面は裏割で整形。	吉井・藤 岡産
10-00165 107	土師器 壺	床直縁 破片	口(19.0) 底(17.4)	釉・並・鈍緑・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部立ち上りが成形時の磨削 を残す。外面は裏割りを施し、内面は裏割で整形。	吉井・藤 岡産
10-00166 107	土師器 壺	土内内 破片	口(19.0) 底(14.4)	釉・並・鈍緑・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子・白色粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は裏割りを施し、内面は裏割で整形。	吉井・藤 岡産
10-00167 107	土師器 壺	土内内 破片	口(19.4) 底(18.0)	釉・並・鈍緑・並・透明鉱物粒子・黒 色鉱物粒子・白色粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は裏割りを施し、内面は裏割で整形。	吉井・藤 岡産
10-00168 107	土師器 壺	土内内 破片	口(19.6) 底(17.0)	釉・並・鈍緑・並・透明鉱物粒子・白 色粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は裏割りを施し、内面は裏割で整形。	吉井・藤 岡産
10-00169 107	土師器 壺	土内内 破片	口(20.0) 底(17.6)	釉・並・鈍緑・並・透明鉱物粒子・黒 色鉱物粒子・白色粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は裏割りを施し、内面は裏割で整形。	吉井・藤 岡産
10-00170 107	土師器 壺	土内内 破片	口(20.0) 底(18.4)	釉・並・明赤褐・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	口縁部は縁やみに外反する。外面は裏割りを施し、 内面は裏割で整形。	吉井・藤 岡産
10-00171 107	土師器 壺	北堀内 破片	口(20.0) 底(18.4)	釉・並・鈍・並・透明鉱物粒子・黒 色鉱物粒子・緑泥片付粒	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は裏割りを施し、内面は裏割で整形。	吉井・藤 岡産
10-00172 107	土師器 壺	土内下層 土内 破片	口(20.2) 胴径(22.9)	釉・並・橙・並・透明鉱物粒子・黒 色鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は裏割りを施し、内面は裏割で整形。	吉井・藤 岡産
10-00173 107	土師器 壺	土内下層 土内 破片	口(20.2) 底(18.0)	釉・並・鈍緑・並・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は裏割りを施し、内面は裏割で整形。	吉井・藤 岡産
10-00174 107	土師器 壺	土内内 破片	口(21.2) 底(20.2)	釉・並・鈍緑・並・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は裏割りを施し、内面は裏割で整形。	吉井・藤 岡産
10-00175 107	土師器 壺	北堀内 破片	口(22.4) 底(19.8)	釉・並・鈍黄緑・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子・炭粒青母	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は裏割りを施し、内面は裏割で整形。	吉井・藤 岡産
10-00176 107	土師器 壺	床直縁 破片	底2.8~4.0	釉・並・鈍黄緑・並・透明鉱物粒子・ 炭粒青母	外面は裏割の裏割り。内面は裏割で整形を 施す。	吉井・藤 岡産
10-00177 108	土師器 壺	北堀内 破片	底4.0	釉・並・鈍黄緑・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子・炭粒青母	外面は裏割の裏割り。内面は裏割で整形を 施す。	吉井・藤 岡産
10-00178 108	土師器 壺	土内下層 土内 破片	底4.2	釉・並・鈍黄緑・並・雲母石英片若 赤褐色粒子	外面は裏割の裏割り。内面は裏割で整形を 施す。	吉井・藤 岡産
10-00179 108	土師器 壺	土内内 破片	基部(4.6)	釉・並・鈍黄緑・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子・白色粒子	外面は裏割の裏割り。内面は裏割で整形を 施す。	吉井・藤 岡産
10-00180 108	須恵器 土内 破片	床直縁上 破片	口(12.4)・高3.2・底 7.2	遺・硬・白灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。裏割は丸味を帯び、口縁部は 轆轤成整形。轆轤右回転成整形。底部は回転未切り。	秋田産
10-00181 108	須恵器 土内 破片	床直縁上 破片	口(12.0)・高3.3・底 6.9	遺・輝・白灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。裏割は丸味を帯び、口縁部は短く外 反する。轆轤右回転成整形。轆轤右回転成整形。	秋田産
10-00182 108	須恵器 土内 破片	土内内 破片	口(12.1)・高(6.4)・ 底(3.8)	中・並・鈍黄緑・並・白色鉱物粒子	器厚は薄い。裏割は丸味を帯び、口縁部は短く外 反する。轆轤右回転成整形。轆轤右回転成整形。	秋田産
10-00183 108	須恵器 土内 破片	土内内 破片	口(12.0)・高(1.1)・ 底(6.6)	遺・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。裏割は丸味を帯び、口縁部は短く外 反する。轆轤右回転成整形。轆轤右回転成整形。	秋田産
10-00184 108	須恵器 土内 一部欠損	土内内 破片	口(12.4)・高3.6・底7.3	遺・硬・白灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。裏割は丸味を帯び、口縁部は短く外 反する。轆轤右回転成整形。轆轤右回転成整形。	秋田産
10-00185 108	須恵器 土内 破片	土内内 破片	口(12.6)・高(3.8)・ 底(7.2)	遺・硬・硝灰・並・白色鉱物粒子	器厚は薄い。裏割は丸味を帯び、口縁部は短く外 反する。轆轤右回転成整形。轆轤右回転成整形。	秋田産
10-00186 108	須恵器 土内 破片	土内内 破片	口(12.7)・高3.8・底7.4	遺・硬・白灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。裏割は丸味を帯び、口縁部は短く外 反する。轆轤右回転成整形。轆轤右回転成整形。	秋田産
10-00187 108	須恵器 土内 部分欠損	土内内 破片	口(12.9)・高3.3・底7.4	遺・硬・白灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。裏割は丸味を帯び、口縁部は短く外 反する。轆轤右回転成整形。轆轤右回転成整形。	秋田産

## 第6章 中里見原遺跡

10-00188 108	須恵窯 1/3焼 環	覆土内 1/3焼	□(12.8)・高3.3・底 (7.6)	遺・硬・白灰・並・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轡轡右回転 成形。底面は回転成形。	扶風産
10-00189 108	須恵窯 1/3焼 環	覆土内 1/3焼	□(13.0)・高3.9・底 7.2	遺・硬・灰・並・黒色炭粉粒子	腹部は深く凹く、体・口縁部は丸味を帯び立ち上 がる。轡轡右回転成形。底部は回転成形。	扶風産
10-00190 108	須恵窯 2/3焼 環	覆土内 2/3焼	□13.1・高4.0・底7.4	遺・並・白灰・並・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反。轡轡右回転成形。底部は回転成形。	扶風産
10-00191 108	須恵窯 部分欠 環	覆土内 部分欠	□13.1・高3.5・底6.0	遺・軟・灰黄・並・黒色炭粉粒子・ 透明炭粉粒子	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯び立ち上る。 轡轡右回転成形。底部は回転成形。	扶風産
10-00192 108	須恵窯 部分欠 環	覆土内 破片	□(13.2)・高3.3・底 (7.2)	遺・軟・外黒灰・内・灰白・並・シ ルト粒子(器外面黒色焼し焼成)	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轡轡右回転成形。底部は回転成形。	扶風産
10-00193 108	須恵窯 環	床直置 完整	□23.2・高3.8・底7.2	遺・締・灰(内・黒灰)・並・白色炭粉 粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轡轡右回転成形。底部は回転成形。	扶風産
10-00194 108	須恵窯 環	床直置 完整	□13.3・高3.4・底7.0	遺・並・白灰・並・夾雜物微	口縁部上半が器厚するが立ち上がりは直線的。轡 轡右回転成形。底部は回転成形。	扶風産
10-00195 108・158	須恵窯 1/3焼 環	覆土内 1/3焼	□(13.4)・高3.4・底 (7.8)	遺・硬・灰白・並・夾雜物微	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轡轡右回転成形。底部は回転成形。	扶風産 唐書-2
10-00196 108	須恵窯 環	床直置 2/3焼	□13.5・高5.0・底7.3	遺・締・黒灰・並・白色炭粉粒子・ 外・自然釉付着	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轡轡右回転成形。底部は回転成形。	扶風産
10-00197 108	須恵窯 環	覆土内 1/3焼	□13.3・高3.3・底 (6.6)	遺・締・灰・並・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轡轡右回転成形。底部は回転成形。	扶風産
10-00198 108	須恵窯 部分欠 環	P27内 部分欠	□(13.7)・高3.7・底 6.6	遺・並・外・黒灰・内・灰白・並・シ ルト粒子(器外面の黒色焼し焼成)	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轡轡右回転成形。底部は回転成形。	扶風産
10-00199 108	須恵窯 部分欠 環	床直置 部分欠	□13.7・高4.2・底6.0	遺・締・灰・並・白色炭粉粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。器厚がやや厚 い。轡轡右回転成形。底部は回転成形。	扶風産か
10-00200 108	須恵窯 環	覆土内 1/3焼	□(13.6)・高3.6・底 (6.8)	遺・並・白灰・並・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轡轡右回転成形。底部は回転成形。	扶風産
10-00201 108	須恵窯 環	覆土内 2/3焼	□13.6・高3.6・底6.6	遺・並・灰白・並・粗砂	体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上る。 轡轡右回転成形。底部は回転成形。	扶風産
10-00202 108	須恵窯 環	床直置 2/3焼	□(13.8)・高3.3・底 7.2	遺・並・白灰・並・白色炭粉粒子・シ ルト粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轡轡右回転成形。底部は回転成形。	扶風産
10-00203 108	須恵窯 環	北郷内 2/3焼	□(13.8)・高3.4・底 7.9	遺・硬・白灰・並・夾雜物微	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は外反 突。轡轡右回転成形。底部は回転成形。	扶風産
10-00204 108	須恵窯 部分欠 環	床直置 部分欠	□13.8・高3.5・底7.2	遺・軟・外・黒灰・内・灰白・並・黒 色粒子(器外面の黒色焼し焼成)	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轡轡右回転成形。底部は回転成形。	扶風産
10-00205 108	須恵窯 環	覆土内 1/3焼	□(13.8)・高3.7・底 (7.2)	遺・締・灰・並・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は外反 突。轡轡右回転成形。底部は回転成形。	扶風産
10-00206 108	須恵窯 環	覆土内 1/4焼	□(14.0)・高4.0・底 7.4	遺・並・立ち上がりは器厚が厚い。体・口縁部は薄く 直線的。轡轡右回転成形。底部は回転成形。	扶風産	
10-00207 109	須恵窯 2/3焼 環	覆土内 2/3焼	□(14.4)・高3.8・底 7.2	遺・軟・外・黒灰・内・灰白・並・(器 外面の黒色焼し焼成)	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯び立ち上る。 轡轡右回転成形。底部は回転成形。	扶風産
10-00208 109	須恵窯 環	覆土内 2/3焼	□14.5・高4.0・底7.2	遺・並・灰白・並・シルト粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轡轡右回転成 形。底部は回転成形。未の器は強(細)い。	扶風産
10-00209 109	須恵窯 環	覆土内 1/4焼	□(15.1)・高(4.1)・ 底(7.6)	遺・硬・白灰・並・夾雜物微	体・口縁部は直線的に立ち上がり、口唇部は短く外 反する。轡轡右回転成形。底部は回転成形。	扶風産
10-00210 109	須恵窯 部分欠 環	P・内上 部分欠	□14.7・高5.9・底7.6	遺・硬・外・黒灰・内・灰白・並・夾 雜物微(器外面の黒色焼し焼成)	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯び立ち上り、 口唇部は短く外反する。轡轡右回転成形。付高台。	扶風産
10-00211 109	須恵窯 環	覆土内 破片	□(14.9) 坏底(8.7)	遺・締・灰・並・夾雜物微・内・自然 釉付着	体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上る。 轡轡右回転成形。高台欠損(付高台)。	扶風産 唐書-4
10-00212 109	須恵窯 環	床直置 3/4焼	□15.2・高5.6・底8.1	遺・軟・白灰・並・透明炭粉粒子・ 黒色炭粉粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上る。 轡轡右回転成形。付高台。	扶風産
10-00213 109	須恵窯 環	床直置 部分欠	□15.0・坏高4.8・坏 底8.9	遺・締・灰・並・黒色粒子・自然釉 付着	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轡轡右回転成形。高台欠損(付高台)。	扶風産
10-00214 109	須恵窯 環	覆土内 1/3焼	□(15.2)・高5.6・底 5.6	遺・硬・灰・並・黒色粒子	体・口縁部は薄く、丸味を帯び立ち上がり、口唇部 は短く外反する。轡轡右回転成形。付高台。	扶風産
10-00215 109	須恵窯 環	覆土内 1/3焼	□(15.4)・高5.2・底 8.0	遺・硬・灰・並・夾雜物微	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轡轡右回転成 形。付高台。作りは丁寧。	扶風産
10-00216 109	須恵窯 環	覆土内 1/4焼	器4.	遺・硬・灰白・並・黒色粒子・白色 炭粉	体部は直線的に立ち上がる。轡轡右回転成形、 付高台。	扶風産
10-00217 109	須恵窯 内黒 環	床直置 3/4焼	□(17.1)・高6.7・底 8.6	胎・並・鈍赤・並・微粒雲母(器内面 に)器内面は焼し焼成	腹部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。 轡轡右回転成形。付高台。内・外面に器厚を施す。	藤岡産
10-00218 109	須恵窯 環	覆土内 破片	器4.	遺・軟・灰・並・微粒雲母	器厚は薄い。轡轡右回転成形。高台欠損(付高 台)。	藤岡産
10-00219 109	須恵窯 環	床直置 1/4焼	□(20.4)・高8.6・底 10.7	遺・並・黒灰(器内外面に)黒灰に焼し 焼成)・並・夾雜物微	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轡轡右回 転成形。付高台。	扶風産
10-00220 109	須恵窯 環	覆土内 破片	器(18.0)	遺・並・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。底部は折り返し、天井部は轡轡右回 転成形。轡轡成形。	扶風産
10-00221 109	須恵窯 環	床直置 2/3焼	器4.4・高5.3・底25.0	遺・並・灰・並・黒色粒子	底部は折り返し、天井部は轡轡右回転成形。轡 轡成形(右回転)。	扶風産
10-00222 109	須恵窯 環	覆土内 破片	□(12.8)・高2.3・底 (7.0)	遺・締・丸・並・黒色粒子・器内外 面自然釉付着	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轡轡右回 転成形。付高台。	扶風産
10-00223 109	須恵窯 環	覆土内 1/3焼	□(13.4)・高3.4・底 (6.9)	遺・並・白灰・並・夾雜物微	器厚は中厚。体・口縁部は直線的に立ち上る。 轡轡右回転成形。高台欠損(付高台)。	扶風産
10-00224 109	須恵窯 環	覆土内 1/3焼	□(13.4)・高2.8・底 (7.6)	遺・硬・灰・並・白色炭粉粒子・黒色 粒子	器厚は厚い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。轡 轡右回転成形。付高台。見込みが濃減する。	扶風産
10-00225 109	須恵窯 環	床直置 破片	□(13.6)・高2.9・底 (6.8)	遺・締・灰・並・黒色粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轡轡右回 転成形。付高台。	扶風産
10-00226 109	須恵窯 環	P・上層 1/3焼	□(13.5)・高2.6・底 7.4	遺・並・白灰・並・黒色粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轡轡右回 転成形。付高台。	扶風産

## 第2節 発見された遺構・遺物

10-00227 109	須恵器 皿	甌土内 1/2皿	口(13.5)・高2.4・底 (7.4)	遺・緑・硝灰・黒・黒色粒子・甌内 外面自然釉付着	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は縦か外反する。轡轡右回転成形、付高台。	秋田産
10-00228 109	須恵器 皿	P、上脚 2/皿	口13.5・高2.4・底6.7	遺・緑・灰・黒・黒色粒子	器縁は高い。体・口縁部直線的に立ち上がる。轡轡右回転成形、付高台。	秋田産
10-00229 109	須恵器 皿	甌土内 1/4皿	口(13.6)・高2.1・底 (7.2)	遺・軟・灰白・黒・夾雑物微	体・口縁部直線的に立ち上がる。轡轡右回転成形、付高台。	秋田産
10-00230 109	須恵器 皿	甌土内 2/3皿	口(13.6)・高2.4・底 (7.2)	遺・緑・灰・黒・黒色粒子	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。轡轡右回転成形、付高台。ハゼ割れが顕著。	秋田産
10-00231 109	須恵器 皿	甌土内 1/4皿	口(13.8)・高2.7・底 (7.6)	遺・並・灰白・黒・黒色粒子	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。轡轡右回転成形、付高台。	秋田産
10-00232 109	須恵器 皿	床直脚 1/3皿	口(14.6)・高2.4・底 7.0	遺・硬・灰・黒・夾雑物微	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は僅かに外反、轡轡右回転成形、付高台。足込みが顕著する。	秋田産
10-00233 110	須恵器 皿	床直脚 1/3皿	口(14.4)・高2.8・底 (8.4)	遺・並・硝灰・並・白色粒子	器厚は厚い。体・口縁部直線的に立ち上がる。轡轡右回転成形、付高台。	秋田産
10-00234 110	須恵器 皿	甌土内 破片	口(14.4)・高2.7・底 (7.5)	遺・硬・外・黒灰・内・灰白・並・(甌 外面の黒色硝灰付着)	器厚は薄い。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。轡轡右回転成形、付高台。	秋田産
10-00235 110	須恵器 皿	甌土内 部分欠損	口14.7・高30・底7.5	遺・並・外・黒灰・内・灰白・並・夾 雑物微(甌外面の黒色硝灰付着)	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。轡轡右回転成形、付高台。	秋田産
10-00236 110	須恵器 皿	甌土内 破片	口(14.8)・高3.0・底 (7.6)	遺・並・灰白・並・黒色粒子	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。轡轡右回転成形、付高台。	秋田産
10-00237 110	須恵器 皿	甌土内 口縁欠損	底6.7	遺・並・灰白・並・黒色粒子	口縁部を欠損する。轡轡右回転成形、付高台。	秋田産
10-00238 110	須恵器 皿	甌土内 2/3皿	口13.4	遺・硬・灰白・並・黒色粒子	口縁部は外反する。底部の器厚は厚い。轡轡右回転成形、付高台。作りは丁寧。	秋田産
10-00239 110	須恵器 小壺	甌土内 破片	口5.6 胴縁(4.0)	遺・硬・灰・並・白色微粒子	紐作り後轡轡成形(右回転)口縁部は内湾して立ち上がり短い。	秋田産
10-00240 110	須恵器 皿	甌土内 破片	口(8.6)	遺・緑・灰・並・白色微粒子	内湾する口縁部は、胴部から短く立ち上がる。轡轡成形(右回転)	秋田産
10-00241 110	須恵器 広口甕	甌土内 破片	口(25.0)	遺・緑・灰・並・黒色粒子・自然釉 付着	口縁部は外反する。口唇部は平坦。轡轡成形(右回転)。	秋田産
10-00242 110	須恵器 広口甕	甌土内 破片	口(25.8)	遺・硬・灰・並・黒色粒子・自然釉 付着	口縁部は外反する。口唇部は平坦。轡轡成形(右回転)。	秋田産
10-00243 110	須恵器 甕	甌土内 破片	胴縁36.0	遺・緑・硝灰・並・白色微粒子	紐作り後叩き整形。外面は斜格子印、内面宛て具は青黄斑文。	秋田県 鹿角市
10-00244 110	須恵器 甕	甌土内 破片	底(13.0)	遺・緑・灰・並・白色微粒子	紐作り後轡轡成形(右回転)。	秋田産
10-00245 110	須恵器 甕	甌土内 破片	底(18.0)	遺・緑・灰・(比色が強い)・黒色粒子	紐作り後叩き整形。外面は斜格子印、内面宛て具は黄文。内面に格子印の痕跡が認められる。	東海産か
10-00246 110	須恵器 壺	甌土内 破片	口(18.0)	酸・硬・浅黄褐色・黒色微粒子・シル ト粒子	紐作り後轡轡成形(右回転)。断面形状は、所謂「受け口状」に似ている。	秋田産 秋田産
10-00247 110	須恵器 広口甕	甌土内 破片	口(20.0) 胴縁(19.4)	遺・並・灰・並・黒色粒子	胴部から「く」の字状に口縁部が立ち上がる。口唇部は平坦。紐作り後轡轡成形(右回転)。	秋田産
10-00248 110	須恵器 広口甕	甌土内 破片	胴縁(31.2)	遺・並・灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。紐作り後轡轡成形(右回転)。	秋田産
10-00249 110	須恵器 形鉢 甕	甌土内 破片	口(19.8) 胴(23.2)	遺・硬・灰・並・黒色粒子・白色微 粒子	胴上・口縁部は内湾する。胴部は緑色の裏面。紐作り後轡轡成形(右回転)。胴に貼付け。	秋田産
10-00250 110	須恵器 形鉢 甕	甌土内 破片	口(22.0) 胴(27.0)	遺・軟・灰白・並・白色粒子	胴上・口縁部は内湾する。外面は轡轡目が顕著。紐作り後轡轡成形(右回転)。胴に貼付け。	秋田産
10-00251 110	須恵器 大甕	甌土内 破片	胴1.0	遺・硬・灰・並・黒色粒子	2段+2条の波状文を施す。波状文は2本2単位。紐作り後轡轡成形(右回転)。	秋田産
10-00252 110	須恵器 大甕	甌土内 破片	胴1.0	遺・硬・灰・並・黒色粒子	2段以上に3条の波状文を施す。波状文は2本2単位。紐作り後轡轡成形(右回転)。	秋田産
10-00253 110	須恵器 大甕	甌土内 破片	胴1.5	遺・硬・灰・並・夾雑物微	紐作り後轡轡成形(右回転)。	秋田産
10-00254 110	輪胎陶器 反胎 甕	甌土内 破片	口(18.4)・高3.8・底 (8.6)	遺・緑・灰白・並・夾雑物微	轡轡成形(右回転)。施胎は刷毛塗り。	東海産
10-00255 110	輪胎陶器 反胎 甕	甌土内 破片	口(16.6)	遺・緑・灰白・並・夾雑物微	轡轡成形(右回転)。施胎は段掲げ。	東海産
10-00256 110	輪胎陶器 反胎 甕	甌土内 破片	底7.5	遺・緑・灰白・並・夾雑物微	轡轡成形(右回転)。施胎は刷毛塗り。	東海産
10-00257 110	輪胎陶器 反胎 甕	甌土内 破片	口(10.6)	遺・緑・灰白・並・夾雑物微	轡轡成形(右回転)。施胎は段掲げ。	東海産
10-00258 110	輪胎陶器 反胎 甕	甌土内 破片	口(13.0)	遺・緑・灰白・並・夾雑物微	轡轡成形(右回転)。施胎は段掲げ。	東海産
10-00259 110	輪胎陶器 反胎 甕	甌土内 破片	口(15.0)	遺・緑・灰白・並・夾雑物微	轡轡成形(右回転)。施胎は不分明。	東北産
10-00260 110	輪胎陶器 反胎 甕	甌土内 破片	胴0.6	遺・緑・灰白・並・夾雑物微	轡轡成形(右回転)。施胎は不分明。	東北産
10-00261 110	輪胎陶器 反胎 甕	甌土内 破片	底1.1	遺・緑・灰白・並・夾雑物微	轡轡成形(右回転)。底部は静止糸入り。施胎は不分明。	東北産
10-00262 110	瓦 男瓦	甌土内 破片	胴4.8	遺・硬・灰・並・黒色粒子・シル ト粒子	手絞り。凸面は調印(車輪状帯)後轡轡成形。側面取付2回。	秋田産
10-00263 110	瓦 男瓦	甌土内 破片	胴1.5	遺・軟・灰・並・赤褐色粒子	手絞り。凸面は調印(車輪状帯)後轡轡成形。側面取付2回。	秋田産
10-00264 110	瓦 男瓦	甌土内 破片	胴1.5	遺・並・灰白・並・黒色粒子	手絞り。凸面は調印(車輪状帯)後轡轡成形。側面取付2回。	秋田産
10-00265 110	瓦 男瓦	甌土内 破片	胴1.5	遺・硬・硝灰・並・白色微粒子・黒 色粒子・シルト粒子	手絞り。凸面は調印(車輪状帯)後轡轡成形。側面取付2回。	秋田産

## 第6章 中里見原遺跡

10-00266-111	瓦 男瓦	覆土内破片	厚1.6	紫・黄・浅黄・シルト質・赤褐色粒子	半成作り。凸面は脚印さ(単軸結状赤か)後縁縁破り。側部面取り3回。	杖頭蓋
10-00267-110	瓦 男瓦	覆土内破片	厚1.5	黒・赤・灰・黄・シルト粒子・白色微粒子	半成作り。凸面は軸縁成形条痕が明瞭に残る。側部面取り2回。凹面右寄せ。	杖頭蓋
10-00268-111	瓦 男瓦	覆土内破片	厚2.0	黒・赤・灰白・黄・赤褐色粒子	半成作り。凸面は軸縁成形条痕が明瞭に残る。側部面取り2回。	杖頭蓋
10-00269-111	瓦 男瓦	覆土内破片	厚1.5	黒・赤・灰・黄・シルト粗粒子	半成作り。軸縁成形条痕が明瞭に残る。側部面取り2回。	杖頭蓋
10-00270-111	瓦 男瓦	覆土内破片	厚1.6	黒・赤・灰・黄・白色微粒子	半成作り。凸面は軸縁成形条痕が明瞭に残る。凹面に粘土板割さ取り痕。	杖頭蓋
10-00271-111	瓦 女瓦	覆土内破片	厚1.5	黒・赤・灰・黄・黒色粒子	一枚作り。凸面は単軸結条体の脚印さ施文。側部は寛狭で仕上げ。凸面彫り。	杖頭蓋
10-00272-111	瓦 女瓦	覆土内破片	厚1.5	中・黄・浅黄・赤・赤褐色粒子・シルト粒子	一枚作り。凸面は単軸結条体の脚印さ施文。側部は寛狭で仕上げ。	杖頭蓋
10-00273-112	瓦 女瓦	覆土内破片	厚1.5	黒・赤・灰白・黄・赤褐色粒子・白色微粒子	一枚作り。凸面は単軸結条体の脚印さ施文。側部は寛狭で仕上げ。	杖頭蓋
10-00274-112	瓦 女瓦	前方内縁1/4残	厚1.8	黒・赤・灰・黄・シルト粒子・赤褐色粒子	一枚作り。凸面は単軸結条体の脚印さ施文。側部は寛狭で仕上げ。側部面取り4回。	杖頭蓋
10-00275-112	瓦 女瓦	床直線破片	厚1.8	黒・赤・灰・黄・シルト粒子・赤褐色粒子	一枚作り。凸面は単軸結条体の脚印さ(T字状)施文。側部は寛狭で仕上げ。側部面取り5回。凹面残存。	杖頭蓋
10-00276-112	瓦 女瓦	覆土内破片	厚2.1	黒・赤・灰・黄・白色微粒子	一枚作り。凸面は単軸結条体の脚印さ施文。側部側部面取りは1回。	杖頭蓋
20-00012	礫部 磨石 光形	床直線 磨石	長4.8・幅4.8・厚2.7・重48g	粗粒輝石安山岩	両縁は風化による自然磨削が認められる。	
20-00013	礫部 磨石 光形	床直線 磨石	長6.2・幅5.4・厚4.5・重193g	粗粒輝石安山岩	片面が磨滅する。	
20-00014	礫部 磨石 光形	床直線 磨石	長7.8・幅7.0・厚4.8・重294g	粗粒輝石安山岩	表面面の平坦面に磨滅が認められる。	
20-00015-112	礫部 磨石 光形	覆土上層破片	残存長5.4・幅7.2・重78g	粗粒輝石安山岩	分割されている。表面部の平坦面に磨滅が認められない。	
20-00016-112	礫部 磨石 部分欠損	覆土下層部分欠損	長10.6・幅8.2・厚3.8・重1126g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨滅が認められる。	
20-00017-112	礫部 磨石 光形	床直線 磨石	長11.7・幅12.0・厚4.9・重1126g	粗粒輝石安山岩	表面面の平坦面に磨滅が認められる。	
20-00018-112	礫部 磨石 光形	覆土内破片	長13.7・幅12.0・厚5.1・重1248g	粗粒輝石安山岩	表面面の平坦面に磨滅が認められる。部分的に打痕が認められる。	
20-00019-112	礫部 磨石 光形	北堀内破片部分欠損	長14.0・幅11.3・厚5.1・重1244g	粗粒輝石安山岩	表面面と1個辺の平坦面に磨滅が認められる。	
20-00020-112	礫部 磨石 光形	北堀内破片	長12.8・幅13.8・厚8.1・重2115g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨滅の付着が認められる。ほかは磨滅等は認められない。	
20-00021-112	礫部 磨石 光形	覆土内破片	残存長17.1・幅10.8・厚5.6・重1447g	粗粒輝石安山岩	下部部の鋭縁は熱処理による割離。磨滅等は認められない。	
20-00022-112	礫部 磨石 光形	床直線上破片	長21.1・幅19.2・厚6.5・重3900g	粗粒輝石安山岩	表面面の平坦面に磨滅が認められる。無数の打痕が認められる。	
40-00008	鉄部 刀子 不詳	覆土上層 刃端欠損	残存長9.1・身幅1.0・重14.3g		磨化が顕著。刃が明瞭ではなく、刃部はつぶれていた可能性がある。	
40-00009	鉄部 刀子 不詳	覆土内破片	残存長6.2・身幅0.9・重8.1g		磨化が顕著。刃部のみが残存。	
40-00010	鉄部 刀子 不詳	覆土内破片	残存長3.0・幅0.8		磨化により表面が割れている。	
40-00011	鉄部 刀子 不詳	覆土内破片	残存長2.0・幅0.8・重4.4g		磨化が顕著。刃部のみが残存。	
40-00012	鉄部 刀子 不詳	覆土内破片	残存長9.6・幅0.5~0.9・重7.1g		磨化が顕著。刃部の部分が認められる。	
40-00013	鉄部 刀子 不詳	覆土内破片	残存長3.3・幅0.5・重7.3g		磨化が顕著。刃部の部分が認められる。	
40-00014	鉄部 刀子 不詳	床直線破片	残存長7.7・幅0.3~0.8・重18.8g		磨化が顕著。刃部の部分が釘と考えられる。	
40-00015	鉄部 刀子 不詳	覆土内破片	残存長7.2・幅0.5~0.8・重8.3g		磨化が顕著。刃部の部分が釘と考えられる。	
40-00016	鉄部 刀子 不詳	覆土内破片	残存長5.9・幅0.4~0.8・重11.8g		磨化が顕著。刃部の部分が釘と考えられる。	
40-00017	鉄部 刀子 不詳	床直線破片	長4.0・幅3.7・厚1.3・重22.3g		磨化が顕著。刃部の部分が釘と考えられる。	
40-00018	鉄部 刀子 不詳	覆土内破片	残存長3.5・幅0.5・重7.6g		磨化が顕著。刃部の部分が釘と考えられる。	
40-00019	鉄部 刀子 不詳	覆土内破片	残存長3.8・幅0.5~0.6・重8.0g		磨化が顕著。刃部の部分が釘と考えられる。	
40-00020	鉄部 刀子 不詳	覆土内破片	残存長3.9・幅0.7・重9.4g		磨化が顕著。刃部の部分が釘と考えられる。	
40-00021	鉄部 刀子 不詳	覆土内破片	残存長3.5・幅0.5・重4.2g		磨化が顕著。刃部の部分が釘と考えられる。	
40-00022	鉄部 刀子 不詳	覆土内破片	残存長2.6・幅0.6・重2.6g		磨化が顕著。刃部の部分が釘と考えられる。	
40-00023	鉄部 刀子 不詳	覆土内破片	残存長3.9・幅0.4~0.5・重5.1g		磨化が顕著。刃部の部分が釘と考えられる。	
40-00024	鉄部 刀子 不詳	覆土内破片	残存長6.7・幅4.4・重121.0g		細状棒の部分破片。	



第12号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種 器種	出土層位 深さ	量目(cm) (g)	組成・色調・粘土 (白粉材は項目)	形状・技法等の特徴	備考
10-00277 113	土師器 灰土 破片	Ⅱ(19.0) Ⅲ(17.2)		酸・硬・鈍黄・赤・微粒雲母・透明 鉱物粒子・黒色鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は直線的に施し、内面は直線的で整形。	吉井・藤 岡産
10-00278 113	土師器 灰土 破片	Ⅱ(19.6) Ⅲ(18.8)		酸・硬・鈍黄・赤・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部立ち上がり部に成形時の副溝 を残す。外面は直線的に施し、内面は直線的で整形。	吉井・藤 岡産
10-00279 113	土師器 灰土 破片	Ⅱ(20.0) Ⅲ(19.6)		酸・赤・鈍・赤・白色鉱物粒子・黒 色鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部半部が欠け、外面は直線的 に施し、内面は直線的で整形。	吉井・藤 岡産
10-00280 113	土師器 灰土 破片	Ⅱ(20.4) Ⅲ(19.2)		酸・硬・鈍黄・赤・微粒雲母・黒色 鉱物粒子・透明鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は直線的に施し、内面は直線的で整形。	吉井・藤 岡産
10-00281 113	土師器 陶内 破片	Ⅱ(20.2) Ⅲ(18.4)		酸・硬・明赤・赤・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子・白色鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部立ち上がり部に成形時の副溝 を残す。外面は直線的に施し、内面は直線的で整形。	吉井・藤 岡産
10-00282	須恵器 灰土 破片	Ⅱ(13.2)		濃・硬・白灰・赤・夾雑物微	直線的に立ち上がる口縁部片、内面に有難物が付 着する。	秋田産
10-00283	須恵器 灰土 破片	Ⅱ(13.0)・高3.6・底 7.0)		濃・硬・暗灰・赤・白色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部は短く 外反する。轡輪右回転成整形、底面は回転未切り。	秋田産
10-00284	須恵器 灰土 破片	Ⅱ(13.6)・高4.4・底 7.0)		濃・赤・灰黄・赤・シルト粒子・微 粒雲母	体・口縁部は丸味を帯び、口唇部は短く立ち上がり。 轡輪右回転成整形、有難物が付着する。	秋田産
10-00285	須恵器 灰土 破片	Ⅱ(16.6)・高3.8・底 7.3)		濃・赤・灰白・赤・黒色粒子	頸部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は直線的に 立ち上がる。轡輪右回転成整形、付高台。	秋田産
10-00286	須恵器 P 1/2層 1/3層	Ⅱ(13.0)・高3.9・底 5.6)		濃・軟・灰白・赤・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	立ち上がりから中央部を帯び立ち上がり、轡輪 右回転成整形。底面は回転未切り。	秋田産
10-00287	須恵器 灰土 破片	Ⅱ(13.7)・高3.7・底 7.2)		濃・赤・灰白・赤・シルト粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轡輪右回転成整形、底面は回転未切り。	秋田産
10-00288	須恵器 灰土 破片	Ⅱ(13.6)・高3.4・底 6.8)		濃・硬・灰白・赤・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轡輪右回転成整形、底面は回転未切り。	秋田産
10-00289	須恵器 灰土 破片	Ⅱ(14.3)・高3.2・底 6.6)		濃・赤・灰黄・赤・黒色粒子・白 色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轡輪右回転成整形、付高台。	秋田産
10-00290	須恵器 灰土 破片	Ⅱ(16.8)・高6.2・底 8.7)		酸・硬・灰・赤・黒色粒子・白色粒 子	体・口縁部はやや丸味を帯び立ち上がり、口唇部 は短く外反する。轡輪右回転成整形、付高台。	秋田産
10-00291	須恵器 灰土 部分欠損	Ⅱ22.3・高10.1・底 9.9)		濃・赤・灰白・赤・黒色粒子・透 明鉱物粒子	体部は直線的に立ち上がり、口唇部は短く外反す る。轡輪右回転成整形、付高台。	秋田産
10-00292	須恵器 灰土 破片	Ⅱ12.9・高1.2・底7.2		酸・軟・濃・赤・微粒雲母・雲母片 灰土片・黒色鉱物粒子	頸厚は薄く、立ち上がり、回転未削りを残す。轡 輪右回転成整形、付高台。	秋田産
10-00293	須恵器 灰土 破片	Ⅱ13.0・高1.9・底 5.6)		濃・赤・灰・赤・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轡輪右回転成整形、高台欠損(付高台)。	秋田産
10-00294	須恵器 灰土 部分欠損	Ⅱ13.2・高2.5・底7.5		濃・硬・灰・赤・白色粒子	頸厚は薄く、体・口縁部は直線的に立ち上がる。轡 輪右回転成整形、付高台。	秋田産
10-00295	須恵器 灰土 部分欠損	Ⅱ13.5・高2.6・底7.2		濃・硬・灰白・赤・夾雑物微	頸厚は薄く、体・口縁部は直線的に立ち上がる。轡 輪右回転成整形、付高台。	秋田産
10-00296	須恵器 灰土 破片	Ⅱ(14.2)・高3.2・底 (8.4)		濃・軟・灰白・赤・黒色粒子	頸厚は厚い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 轡輪右回転成整形、付高台。	秋田産
10-00297	須恵器 灰土 破片	Ⅱ(25.8)		濃・赤・灰白・赤・白色粒子・透 明鉱物粒子	口縁部は「く」の字状に立ち上がる。縦作り放 轡輪整形(右回転)。	秋田産
10-00298	須恵器 灰土 破片	Ⅱ(18.8)		濃・赤・灰・赤・黒色粒子	頸部は回転削りにより、平面にしている。縦作 り放轡輪整形(右回転)。	秋田産
10-00299	須恵器 灰土 破片	Ⅱ(17.0)・高11.1・ 底7.4)		濃・硬・暗灰・白色粒子	胴下平部は回転削り部を残す。口縁部は直線的に立 ち上がり、端部は外反する。轡輪右回転成整形、付高台。	秋田産
10-00300	須恵器 灰土 破片	Ⅲ1.2		濃・硬・灰・赤・白色粒子・白色粒 子	縦作り放轡輪整形。外面は平円形、内面欠け具 は背割放文。	不詳
10-00301	須恵器 灰土 破片	Ⅱ(19.6)		酸・硬・灰黒・赤・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子・白色鉱物粒子	口縁部先端部は内湾気味。器内外面に研磨を施す。	不詳
10-00302	瓦 瓦	Ⅲ1.4		濃・赤・灰・赤・白色粒子	手製作。凸面は轡輪成整形形成が明確に残る。 側部面取り2回。	秋田産
10-00303	瓦 瓦	Ⅲ1.1		濃・硬・灰・赤・白色粒子	手製作。凸面は顕明き(単軸輪状作り)後轡輪整 形。側部面取り1回。右白密度は密。	秋田産
10-00304	瓦 瓦	Ⅲ1.9		濃・硬・灰白・赤・シルト質・シルト粒 子	手製作。凸面は顕明き(単軸輪状作り)後轡輪整 形。側部面取り3回。	秋田産
10-00305	瓦 瓦	Ⅲ1.9		濃・硬・灰白・赤・シルト質・黒 色粒子	手製作。凸面は単軸輪成整形の顕明き気味。側部 面取りは1回。	秋田産
10-00306	輪軸陶器 輪軸 鉄	Ⅱ(13.2)		濃・硬・灰白・赤・夾雑物微	轡輪成整形(右回転)。研磨を施し施す。施輪は授 掛けか。	海部系
10-00307	輪軸陶器 輪軸 鉄	Ⅱ(18.0)		濃・軟・白灰・赤・夾雑物微	轡輪成整形(右回転)。研磨を施し施す。施輪は授 掛けか。	海部系
10-00308	輪軸陶器 輪軸 鉄	Ⅲ0.6		濃・軟・白灰・赤・夾雑物微	轡輪成整形(右回転)。研磨を施し施す。施輪は授 掛けか。	海部系
10-00309	輪軸陶器 輪軸 鉄	Ⅲ3.8・幅1.0・孔徑 0.35		酸・軟・淡黄・赤・透明鉱物粒子・ 微粒雲母	形状は歪みがあり、均一ではない。	不詳
40-00025	輪軸陶器 輪軸 鉄	Ⅲ残存長4.9・身幅1.2			錆化が顕著。蓋と轡輪部分しか残存しない。刀関 が認められる。	
40-00026	輪軸陶器 輪軸 鉄	Ⅲ残存長4.4・幅1.7・ 底8.9			錆化が顕著。利突とはおられない。	
40-00027	輪軸陶器 輪軸 鉄	Ⅲ残存長7.5・幅0.8・ 底21.3			錆化が顕著。蓋状の部分か釘と考えられる。	
40-00028	輪軸陶器 輪軸 鉄	Ⅲ残存長4.5・幅0.9・ 底13.7			錆化が顕著。蓋状の部分か釘と考えられる。	

第6章 中里見原遺跡

20-00023 114	石製品 磨石	覆土内 破片	長7.3・幅6.5・厚2.2 ・重115g	磁灰石	使用が右肩下がりになっている。左側の磁石か。
20-00024 114	磨器 磨石	床直層 突形	長20.6・幅9.1・厚6.9 ・重2,040g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨減が認められる。

第14号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存 存残	度量目 (cm) 重量目 (g)	焼色・色調・胎土 (石炭材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-00310 114	土器類 土師器	覆土内 2/3残	口11.8・高4.4・底8.6	焼・灰・鈍黄緑・黄微粒雲母・赤褐色粒子	器作り。底部は直筒形、内面・口縁部は横溝で、底部に横溝を残す。	横筒状
10-00311 114	土器類 土師器	床直層 1/3残	口13.2・高4.1・底9.5	焼・灰・鈍黄緑・黄微粒雲母・赤褐色粒子	器作り。底部は直筒形、内面・口縁部は横溝で、底部に横溝を残す。	横筒状
10-00312 114	土器類 土師器	覆土内 破片	口(19.6) 脚(21.8)	焼・黄・黄褐色・並・透明鉱物粒子・白色粒子・黒色鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部立ち上がり成形時の筋溝を残す。外面は直筒形を施し、内面は直溝で整形。	吉井・藤岡系
10-00313 114	土器類 土師器	床直層 1/2残	口(22.0) 脚(22.6)	焼・黄・鈍黄・並・透明鉱物粒子・白色粒子	「ク」の字状口縁。口縁部立ち上がり成形時の筋溝を残す。外面は直筒形を施し、内面は直溝で整形。	吉井・藤岡系
10-00314 114	土器類 土師器	床直層 部分欠損	口(20.4)・脚(21.4) ・底4.8	焼・黄・黄・並・透明鉱物粒子・白色粒子・黒色鉱物粒子	「ク」の字状口縁。口縁部成形時の胎土の混合板を残す。外面は直筒形を施し、内面は直溝で整形。	吉井・藤岡系
10-00315 114	須恵器 須恵器	覆土内 1/2残	口(12.1)・高4.5・底(6.8)	薄・輝・灰・並・白色微粒子	器作りは薄。胎土は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底部は直溝を施す。	伏見系
10-00316 114	須恵器 須恵器	床直層 2/3残	口(12.6)・高4.4・底8.7	薄・輝・灰・並・夾雑物微	器作りは薄。胎土は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底部は直溝を施す。	伏見系
10-00317 114	須恵器 須恵器	覆土内 部分欠損	口(12.9)・高4.6・底7.8	薄・黄・灰白・並・白色粒子	全体にや丸味を帯び、轆轤右回転成形。底部は直溝を施す。	伏見系
10-00318 114	須恵器 須恵器	覆土内 2/3残	口(12.7)・高4.2・底6.9	薄・輝・灰白・並・夾雑物微	器作りは薄。胎土は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底部は直溝を施す。	伏見系
10-00319 114	須恵器 須恵器	床直層 破片	底(5.4)	薄・輝・灰白・並・黒色粒子	器作りは薄。胎土は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底部は直溝を施す。	伏見系
10-00320 114	須恵器 須恵器	覆土内 破片	底(14.0)	薄・輝・灰・並・黒色粒子	器作りは薄。胎土は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底部は直溝を施す。	伏見系
10-00321 114	須恵器 須恵器	覆土内 破片	底(5.3)	薄・黄・灰・並・黒色粒子	器作りは薄。胎土は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底部は直溝を施す。	伏見系
10-00322 114	須恵器 須恵器	床直層 突形	口(18.8)・高9.3・底8.2	薄・黄・灰・並・白色微粒子・透明鉱物粒子・黒色粒子	器作りは薄。胎土は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底部は直溝を施す。	伏見系
10-00323 114	須恵器 須恵器	床直層 部分欠損	口(19.1)・高9.2・底8.7	薄・黄・灰・並・白色微粒子・透明鉱物粒子・黒色粒子	器作りは薄。胎土は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底部は直溝を施す。	伏見系
10-00324 114	須恵器 須恵器	覆土内 破片	厚0.9	薄・輝・灰・並・透明鉱物粒子白色微粒子	器作りは薄。胎土は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底部は直溝を施す。	伏見系
10-00325 115	瓦 瓦	覆土内 1/3残	厚1.6	薄・輝・灰白・並・夾雑物微	凸面は不整形体による印。凹面に粘土板製が取り残しと推定される。器底は直溝を施す。	伏見系
40-00029 115	鉄器 不詳	床直層 破片	幅5.5・厚0.7・重0.3 ・重1.1g		錆化が顕著。下部に木質が残存する。至てあろうが、器底の特定は不十分。	
40-00030 115	鉄器 不詳	床直層 破片	幅6.3・厚0.3・重7.9 ・重1.1g		細長い舟柱状の製品。一端は折れ曲がった状態で、器底とは異なる。	
40-00031 115	鉄器 不詳	床直層 破片	幅6.5・厚0.3・重7.5 ・重1.1g		器の蓋と被覆部分とも思われる。	

第15号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存 存残	度量目 (cm) 重量目 (g)	焼色・色調・胎土 (石炭材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-00326 115	須恵器 須恵器	床直層 1/2残	口(13.8)・高3.5・底(7.0)	焼・黄・鈍黄緑・並・シルト粒子・赤褐色粒子	器作りは薄。胎土は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底部は直溝を施す。	伏見系
10-00327 115	須恵器 須恵器	床直層 直上	口(15.3)・高5.5・底7.3	薄・黄・灰・並・黒色粒子	器作りは薄。胎土は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底部は直溝を施す。	伏見系
10-00328 115	須恵器 須恵器	覆土内 2/3残	口(15.6)・高4.9・底7.0	薄・黄・灰白・並・シルト粒子	器作りは薄。胎土は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底部は直溝を施す。	伏見系
10-00329 115	須恵器 須恵器	覆土内 3/4残	口(19.8)・高8.1・底8.5	薄・黄・灰白・並・黒色粒子	器作りは薄。胎土は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底部は直溝を施す。	伏見系
10-00330 115	須恵器 須恵器	覆土内 破片	底(6.0)	薄・輝・灰白・並・夾雑物微	轆轤成形(右回転)。胎土は直溝を施す。	東海系
10-00331 115	土製品 土製品	覆土内 破片	長4.2・幅2.0・厚2.1 ・重1.73g	焼・黄・鈍黄・並・微粒雲母	ズングリしているが均整がとれている。	不詳
40-00032 115	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長7.8・幅0.35・重10.6g		錆化が顕著。器底の特定はできない。	
20-00025 115	磨器 磨石	覆土内 突形	長10.9・幅6.1・厚3.2 ・重173g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨減が認められる。	
20-00026 115	磨器 磨石	P 3 上層 突形	長17.2・幅6.8・厚5.0 ・重877g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨減が認められる。	
20-00027 115	磨器 磨石	床直層 突形	長13.2・幅6.4・厚6.6 ・重751g	粗粒輝石安山岩	表面と1側辺の平坦面に磨減が認められる。	

## 第16号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 名	出土層位 と存在 場所	産 目 (cm)	産色・産質・粘土 (石素材は復旧目)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00332 115	土師器 土師内 1/4残	□(12.2)・ 高3.0・底 9.8	酸・黄・鈍黄緑・並・黒色鉱物粒子	製作成型後底部は黄刷り、内面・口縁部は横線 で整形。体部に歪曲を残す。	吉井・藤 岡産	
10-00333 115	土師器 土師内 破片	□10.6	酸・黄・鈍黄・並・黒色鉱物粒子・ 白色微粒子	製作成型後底部は黄刷り、内面・口縁部は横線 で整形。体部に歪曲を残す。有機質が付着する。	吉井・藤 岡産	
10-00334 115	土師器 土師内 破片	□(12.1)・ 高(3.1)	酸・黄・鈍黄・並・微粒炭母	製作成型後底部は黄刷り、内面・口縁部は横線 で整形。体部に歪曲を残す。	吉井・藤 岡産	
10-00335	土師器 土師内 破片	□(12.2)・ 底(8.8)	酸・黄・鈍黄・並・微粒炭母	製作成型後底部は黄刷り、内面・口縁部は横線 で整形。体部に歪曲を残す。内面に放射状文。	吉井・藤 岡産	
10-00336	土師器 土師内 破片	□(12.6)・ 底(8.5)	酸・黄・鈍黄・並・微粒炭母	製作成型後底部は黄刷り、内面・口縁部は横線 で整形。体部に歪曲を残す。内面に放射状文。	吉井・藤 岡産	
10-00337	土師器 土師内 破片	□(12.2)・ 底(9.4)	酸・黄・鈍黄緑・並・微粒炭母	製作成型後底部は黄刷り、内面・口縁部は横線 で整形。体部に歪曲を残す。内面に放射状文。	吉井・藤 岡産	
10-00338 115	土師器 土師内 破片	□(13.8)・ 底(16.4)	酸・黄・橙・並・黒色鉱物粒子・微 粒炭母	製作成型後底部・体部下は黄刷り、内面・口縁 部は横線で、体部に歪曲を残す。内面に放射状文。	吉井・藤 岡産	
10-00339 115	土師器 土師内 破片	厚0.4	酸・黄・橙・密・白色微粒子	底面黄刷り。見込みに線刻文を2段に残す。	吉井・藤 岡産	
10-00340 115	土師器 土師内 破片	□(20.0) 底(20.2)	酸・黄・鈍黄・白色粒子・黒色鉱物 粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は黄刷りを施し、内面は横線で整形。	吉井・藤 岡産	
10-00341 115	土師器 土師内 破片	□(21.0) 底(22.2)	酸・黄・鈍黄・並・白色粒子・微粒 炭母	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は黄刷りを施し、内面は横線で整形。	吉井・藤 岡産	
10-00342	土師器 土師内 破片	厚0.7~0.9	酸・黄・橙・密・微粒炭母・黒色 微粒子	脚下半は欠損。底部は脚の周りに凹み残る下縁 に横線を残す。内面は横線で整形。	吉井・藤 岡産	
10-00343 115	須恵器 内底 鉢	□116.8・高・14.2・ 底7.7	酸(器外面の黒色焼成焼成)・軟・浅 黄緑・粗・粗内砂・軽石粒	紐作の体輪縁部(右向き)。外面に縦位の黄刷り、 内面に磨面(黒化面)。底部は凹起こし。	不詳	
10-00344 116	須恵器 内底 鉢	□(11.5)・高3.6・底 (5.8)	酸・並・鈍黄・並・高品石英・チャ ット粒	器厚は薄い。体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に 立ち上がる。縦輪右回転成型。底部は凹起こし。	不詳(秋 岡産)	
10-00345 116	須恵器 内底 鉢	□(11.8)・高4.1・底 (6.0)	黄・緑・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び、口縁部は直線的。 縦輪右回転成型。底部は凹起こし。	秋岡産	
10-00346 116	須恵器 内底 鉢	□(11.8)・高3.3・底 6.9	黄・緑・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は 短く外反する。縦輪右回転成型。底部は凹起こし。	秋岡産	
10-00347 116	須恵器 内底 鉢	□12.1・高3.7・底6.6	黄・緑・灰・白・並・黒色粒子・シル ト粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は 短く外反する。縦輪右回転成型。底部は凹起こし。	秋岡産	
10-00348 116	須恵器 内底 鉢	□12.3・高3.3・底6.6	黄・緑・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は 直線的に立ち上がる。縦輪右回転成型。底部は凹起こし。	秋岡産	
10-00349 116	須恵器 内底 鉢	□(12.4)・高3.2・底 (6.6)	黄・緑・灰・並・白色微粒子・黒色 粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は 短く外反する。縦輪右回転成型。底部は凹起こし。	秋岡産	
10-00350 116	須恵器 内底 鉢	□(13.0)・高3.6・底 (6.0)	黄・緑・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に 立ち上がる。縦輪右回転成型。底部は凹起こし。	秋岡産	
10-00351 116	須恵器 内底 鉢	□13.2・高3.4・底6.5	黄・緑・灰・白・並・白色粒子・黒色 粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は 短く外反する。縦輪右回転成型。底部は凹起こし。	秋岡産	
10-00352 116	須恵器 内底 鉢	□13.4・高4.6・底5.9	黄・緑・灰・白・並・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に 立ち上がる。縦輪右回転成型。底部は凹起こし。	秋岡産	
10-00353 116	須恵器 内底 鉢	□(13.8)・高3.3・底8.8	黄・緑・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は 短く外反する。縦輪右回転成型。底部は凹起こし。	秋岡産	
10-00354 116	須恵器 内底 鉢	□(16.2)・高5.2・底 (9.6)	黄・緑・灰・白・並・黒色粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は 短く外反する。縦輪右回転成型。底部は凹起こし。	秋岡産	
10-00355 116	須恵器 内底 鉢	□11.6・高4.4・底7.4	黄・軟・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は 短く外反する。縦輪右回転成型。付高台。	秋岡産	
10-00356 116	須恵器 内底 鉢	□(15.6)・高6.4・底 (9.8)	黄・硬・灰・並・黒色粒子・シル ト粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は 短く外反する。縦輪右回転成型。付高台。	秋岡産	
10-00357 116	須恵器 内底 鉢	□(15.8)・高6.9・底9.0	黄・並・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に 立ち上がる。縦輪右回転成型。付高台。	秋岡産	
10-00358 116	須恵器 内底 鉢	□(16.2)・高6.4・底 (8.2)	黄・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 縦輪右回転成型。付高台。	秋岡産	
10-00359 116	須恵器 内底 鉢	□116.6・高6.5・底8.8	黄・硬・灰・並・黒色粒子・白色 粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に 立ち上がる。縦輪右回転成型。付高台。	秋岡産	
10-00360	須恵器 内底 鉢	厚0.4	黄・硬・白灰・並・白色微粒子	縦輪右回転成型。内面に有機質が付着する。	秋岡産	
10-00361	須恵器 内底 鉢	厚0.5	黄・並・白灰・並・	縦輪右回転成型。内面に有機質が付着する。	秋岡産	
10-00362 116	須恵器 内底 鉢	最輪2.9・厚0.7	黄・緑・灰・並・黒色粒子	平面形状は舌状を呈する。表面側面黄刷りで整形で 仕上げてある。	秋岡産か	
10-00363	土師器 内底 鉢	最輪2.9・厚0.6	酸・黄・明赤焼・密・炭化物微	平面形状は扇状を呈する。表面側面黄刷りで整形で 仕上げてある。	飛入品か	
10-00364 116	須恵器 内底 鉢	□13.8・底径7.0	黄・硬・灰・密・炭化物微	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 縦輪右回転成型。底部は凹起こし。	秋岡産	
10-00365 116	須恵器 内底 鉢	□(14.0)	黄・硬・灰・密・炭化物微	縦輪右回転成型。内面風の周縁とも考えられる。	秋岡産	
10-00366 116	須恵器 内底 鉢	最輪1.8	黄・並・灰・密・炭化物微	胴は縦文。天井部は縦輪右回転黄刷りを施す。	秋岡産	
10-00367 166	須恵器 内底 鉢	最輪1.2	黄・緑・灰・密・炭化物微	全体が手持り刷り成形されている。	秋岡産	
10-00368 158	須恵器 内底 鉢	厚0.4~0.6	酸・並・浅黄緑・並・黒色粒子	二次焼成を受けている。天井部に「上」番書が認め られる。	秋岡産 遺書-5	

第6章 中里見原遺跡

10-00369	須志野 長距離	瀧・覆土 他1/4焼	口(9.5)	瀧・砂・灰・密・白色鉱物粒子	紐作り(か)後継體整形(右回転)。口縁部は押りの 跡が多い。	秋田県 鹿角産
10-00370 116	須志野 環状	床直層 破片	口(28.6)	瀧・密・灰・並・黒色鉱物粒子・白 色微粒子	紐作り後継體整形(右回転)。継體整形条痕が顕著 に残る。	秋田産
10-00371	須志野 円面鏡	覆土内 破片	厚(17.4) 面径(10.4)	瀧・砂・灰・並・黒色粒子	継體右回転成形。胴部に最長の透かしを施す。 外面に自然粘着層。	秋田産
10-00372 ・ 10-00373	須志野 円面鏡	覆土内 破片	厚0.5~0.6	瀧・砂・灰・並・黒色粒子	押部片。継體右回転成形。縦状に平行条線を施 す。透かしは十字状で複数箇所を施す。	秋田産
10-00374	土製品名	覆土内 破片	厚0.9	瀧・砂・鈍色・粗	平巻作り。凸面は細網目(単純網目状)後継體整 形。側面取付1回。凹面合わせ目。	秋田産
10-00375 115	瓦 男瓦	甍丸輪 厚分大割	径約16.0	瀧・砂・浅黄褐色・並・網状に生粘土 が混入している。		秋田産
10-00376 117	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚1.7	瀧・砂・灰・並・黒色粒子・シルト 粗粒子	一收作り。凸面は単純条条体の網目状施文。	秋田産
10-00377 117	動物陶器 灰釉 破	覆土内 破片	口(15.6)	瀧・砂・灰白・密・夾雑物微	継體成形(右回転)。施物は刷毛塗り。	東海産
10-00378	動物陶器 緑釉 破	縦方内 破片	厚0.6	瀧・砂・灰白・密・夾雑物微	継體成形(右回転)。研磨を施し施物。施物は泥 掛けか。	洛北産
40-00033	鉄器 刀子か	覆土内 破片	残存長8.8・幅1.0・ 重12.1g		錆化が顕著。刀子と思われるが、刃部が潰れて いる。	
40-00034	鉄器 刀子	覆土内 破片	残存長8.0・幅0.6・ 重12.7g		錆化が顕著。基状の部分か釘と考えられる。	
40-00035	鉄器 刀子	覆土内 破片	残存長6.1・幅0.3・ 重12.6g		錆化が顕著。細い棒状。断面は多面体の円形か。	
40-00036	鉄器 刀子	覆土内 破片	残存長2.7・幅0.5・ 重3.7g		錆化が顕著。基状の部分か釘と考えられる。	
40-00037	鉄器 刀子	覆土内 破片	残存長2.3・幅0.3・ 重1.5g		錆化が顕著。基状の部分か釘と考えられる。	
40-00038	鉄器 刀子	覆土内 破片	残存長1.6・幅0.4・ 重1.1g		錆化が顕著。基状の部分か釘と考えられる。	
40-00039	鉄器 刀子	覆土内 破片	径(4.7)・厚0.3・重 9.4g		錆化が顕著。薄い円盤状を呈する。	
20-00028	燧石 磨石	覆土内 完形	径4.5・幅6.1・厚5.1 ・重224g	粗粒輝石安山岩	表面面に磨痕が認められる。	
20-00029 117	燧石 磨石	縦方内 完形	長9.3・幅7.3・厚3.6 ・重319g	粗粒輝石安山岩	表面面の平ら面に磨痕が認められる。	
20-00030 117	燧石 磨石	甍内 完形	残存長10.7・幅8.4・ 重352g	粗粒輝石安山岩	石片の転用。	
20-00031 117	燧石 磨石	F内 完形	長12.8・幅8.9・厚3.9 ・重601g	粗粒輝石安山岩	表面面と側面の平ら面に磨痕が認められる。	
20-00032 117	燧石 磨石	甍石輪下 破片	長11.9・幅9.9・厚4.2 ・重733g	粗粒輝石安山岩	表面面の平ら面に磨痕が認められる。	
20-00033 117	燧石 磨石	覆土下層 完形	長11.4・幅11.2・厚 4.6・重1,050g	粗粒輝石安山岩	表面面の平ら面に磨痕が認められる。	
20-00034 117	燧石 磨石	甍内 完形	長15.3・幅10.6・厚 7.6・重1,663g	粗粒輝石安山岩	片面の平ら面に磨痕が認められる。両端の小口に 狭打による打撃痕跡が認められる。	
20-00035 117	燧石 磨石	F内上 層完形	長13.5・幅11.4・厚 5.6・重1,370g	粗粒輝石安山岩	表面面の平ら面に磨痕が認められる。側面に集中 打痕が認められる。	
20-00036 117	燧石 磨石	床直層 完形	長13.2・幅12.5・厚 6.3・重1,548g	粗粒輝石安山岩	表面面の平ら面に磨痕が認められる。部分的に打 痕が認められる。	
20-00037 117	燧石 磨石	F内 完形	長13.1・幅11.2・厚 5.1・重1,096g	粗粒輝石安山岩	片面の平ら面に磨痕が認められる。部分的に打 痕が認められる。	
20-00038 117	燧石 磨石	床面直上 完形	長12.6・幅12.6・厚 5.5・重1,500g	粗粒輝石安山岩	表面面の平ら面に磨痕が認められる。部分的に打 痕が認められる。	
20-00039 117	燧石 磨石	F内 完形	長16.9・幅11.7・厚 6.1・重1,900g	粗粒輝石安山岩	側面に打痕が認められる。磨痕は認められない。	
20-00040	燧石 磨石	甍口 完形	高26.7・幅15.6・厚 10.9・重3,200g	未固結凝灰岩	成形時のハツリ痕・整形痕等は風化により不分明。	
20-00041	燧石 磨石	覆土内 完形	長34.9・幅17.1・厚 9.5・重4,520g	未固結凝灰岩	成形時のハツリ痕・整形痕等は風化により不分明。	

第17号住居跡出土遺物

遺物番号 図面番号	遺物種類	出土層位 層名	出 土 寸 法 (cm)	重量 (g)	地質・色調・胎土 (石炭材は炭目録)	形状・技法等の特徴	産地
10-00379 117	須志野 環状	甍内 破片欠損	口13.0・高3.9・径6.7		中・軟・鈍赤褐色・並・赤褐色粒子	器厚は薄く長く直線的に立ち上がる。継體右回転 成形。底部は回転糸切り後継體を磨用を施す。	秋田産
10-00380 117	須志野 環状	覆土内 1/4焼	口(13.0)・高3.9・底 (6.2)		瀧・軟・灰・並・透明鉱物粒子・白 色微粒子・黒色微粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部はや 外反する。継體右回転成形。底部は回転糸切り。	秋田産
10-00381 117	須志野 環状	床直層 1/4焼	口(13.0)・高4.4・底 (7.0)		瀧・軟・灰・並・白色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部はや 外反する。継體右回転成形。底部は回転糸切り。	秋田産
10-00382 117	須志野 環状	床直層 2/3焼	口(13.0)・高4.2・底6.4		瀧・軟・灰・並・黒色鉱物粒子・黒 色粒子	器厚は薄く、器口は丸味を帯び、体・口縁部直線的 に立ち上がる。継體右回転成形。底部は回転糸切り。	秋田産
10-00383 117	須志野 環状	床直層 1/3焼	口(14.0)・高3.4・底 6.4		瀧・並・灰白・並・白色微粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部はや 外反する。継體右回転成形。底部は回転糸切り。	秋田産
10-00384 117	須志野 環状	甍内 1/3焼	口(14.0)・高4.0・底 (7.4)		中・並・灰黄・並・黒色粒子・白色 微粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 継體右回転成形。底部は回転糸切り。	秋田産

10-00385 117	須恵器 小形壺	壺内	口(12.0)・高(11.2)・ 腹(12.5)	酸・並・洗黄緑・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	口縁部は外反する。継作り後輪縁整形(右回転)。 外面は斜位から縦位の裏割りをする。	秋岡産
10-00386 118	須恵器 須恵壺	床直層 破片	口(18.0) 腹(16.6)	酸・並・洗黄緑・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	口縁部は外反する。継作り後輪縁整形(右回転)。	秋岡産
10-00387	須恵器 須恵壺	床直層 破片	口(18.2) 腹(16.2)	酸・並・洗黄緑・並・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	口縁部は外反する。継作り後輪縁整形(右回転)。 胴部より下位は、縦位の裏割りをする。	秋岡産
10-00388 118	須恵器 須恵壺	床直層 破片	口(21.0) 腹(17.0)	酸・並・洗黄緑・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	口縁部は外反する。継作り後輪縁整形(右回転)。	秋岡産
10-00389 118	須恵器 須恵壺	床直面上 破片	口(19.6)・高(17.8) ・腹(20.2)	酸・並・洗黄緑・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	口縁部は外反する。継作り後輪縁整形(右回転)。 胴部より下位に裏割りをする。	秋岡産
10-00390 118	須恵器 須恵壺	覆土内 破片	口(20.0)・高(17.3) ・腹(20.8)	酸・並・洗黄緑・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	口縁部は外反する。継作り後輪縁整形(右回転)。 胴部より下位に裏割り(現象)をする。	秋岡産
10-00391 118	須恵器 須恵壺	床直層 破片	口(20.0) 腹(17.8)	酸・並・洗黄緑・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子・白色微粒子	口縁部は外反する。継作り後輪縁整形(右回転)。	秋岡産
10-00392 118	須恵器 須恵壺	床直面上 破片	口(20.0) 腹(18.2)	酸・並・洗黄緑・並・透明鉱物粒子・ 白色微粒子	胴部は直線的に立ち上がり、口縁部は短く外反する。 継作り後輪縁整形(右回転)。	秋岡産
10-00393	土師器 須恵壺	壺内 部分欠損	口18.3・高20.6・底 4.0	酸・並・洗黄緑・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	「口」の字状口縁。器厚は厚い。外面は裏割りをする。 内面は筒状で成形。	吉井・藤 岡産
10-00394 118	須恵器 大須恵	床直層 破片	厚4.4	選・軟・灰白・並・夾雑物微	継作り後輪縁整形。外面は平打ち、内面は素文。 並、並行明目は長く表面が磨く(?)られている。	秋岡産
10-00395 118	須恵器 須恵壺	壺内 2/3残	口19.2・高17.2・腹 20.6	酸・並・洗黄緑・白色粒子・透明 鉱物粒子	口縁部は外反する。継作り後輪縁整形(右回転)。 胴部より下位に裏割りをする。	秋岡産 秋岡産
10-00396 118	須恵器 須恵壺	床直層 破片	底6.8	酸・並・洗黄緑・黒色鉱物粒子	器厚は薄い。底部は丸味を帯び立ち上がる。内面は 輪縁整形右回転の整形形。外面は縦位の裏割り。	秋岡産 秋岡産
10-00397 118	須恵器 須恵壺	覆土内 破片	底(6.2)	酸・並・洗黄緑・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	外面は縦位の裏割りをする。内面は輪縁整形 が残る(右回転)。	秋岡産 秋岡産
10-00398	須恵器 須恵壺	覆土内 破片	底(7.0)	選・軟・黒灰・並・透明鉱物粒子・ 白色微粒子・黒色鉱物粒子	底部は直線的に立ち上がり、胴部は丸味を帯びて 立ち上がる。輪縁整形右回転。	秋岡産
10-00399 118	須恵器 小形壺	覆土内 破片	底6.4	酸・並・洗黄緑・並・夾雑物微	外面は斜位の裏割りをする。内面は輪縁整形 が残る(右回転)。	秋岡産
10-00400 118	須恵器 須恵壺	壺内 破片	口(20.4) 腹(18.5)	酸・並・洗黄緑・並・赤褐色粒子・ 黒色鉱物粒子	口唇部は肥厚する。口縁部は短く外反する。外面 は縦位の裏割りをする。輪縁右回転成形。	秋岡産
10-00401 118	須恵器 須恵壺	壺内 破片	口(22.0)	酸・並・洗黄緑・並・赤褐色粒子・ 黒色鉱物粒子	口唇部は肥厚する。口縁部は短く外反する。外面 は縦位の裏割りをする。輪縁右回転成形。	秋岡産
10-00402 118	須恵器 須恵壺	壺内 破片	口(21.0)	酸・並・洗黄緑・並・白色鉱物粒子・ 角粒微	口縁部は外反する。継作り後輪縁整形(右回転)。	秋岡産
10-00403 118	須恵器 須恵壺	壺内 1/3残	口(22.0)・腹(18.0) ・底3.8	酸・並・洗黄緑・粗・凝灰岩片・粗 砂粒	口縁部は外反する。継作り後輪縁整形(右回転)。 胴部より下位は、縦位の裏割りをする。	秋岡産
10-00404 118	須恵器 須恵壺	壺内 1/2残	口(13.8)・高4.8・底 6.8	選・軟・灰白・並・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は 短く外反する。輪縁右回転成形、付高台。	秋岡産
10-00405 118	須恵器 須恵壺	覆土内 破片	口(14.1)・高5.2・底 6.3	選・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は 短く外反する。輪縁右回転成形、付高台。	秋岡産
10-00406 118	須恵器 須恵壺	床直層 1/3残	口(15.1)・高5.0・底 5.7	選・並・灰・並・白色粒子・黒色 鉱物粒子	器厚は薄い。胴部は丸味を帯び口縁部は直線的に 立ち上がる。輪縁右回転成形、付高台。	秋岡産
10-00407 118	須恵器 須恵壺	壺内 破片	口(17.3)・高(8.1)・ 底7.1	酸・並・洗黄緑・並・赤褐色粒子	口唇部は肥厚する。口縁部は短く外反する。口唇部は 短く外反する。輪縁右回転成形、付高台。	秋岡産
10-00408 118	須恵器 須恵壺	覆土内 口縁欠損	口(22.0)	選・軟・灰・並・黒色粒子・透明 鉱物粒子	胴部は丸味を帯び立ち上がる。輪縁右回転成形、 付高台。	秋岡産
10-00409 118	瓦 須恵瓦	床直層 破片	厚2.1	選・並・灰・並・夾雑物微	半枚作り。凸面は輪縁整形形が認められる。 側面取り3回。	秋岡産
10-00410 118	瓦 須恵瓦	覆土内 破片	厚1.3	選・軟・暗灰・並・シト粒粒子	半枚作り。凸面は輪縁整形形が認められる。 側面取り3回	秋岡産
10-00411 119	瓦 文瓦	覆土内 破片	厚1.5	選・軟・灰・並・黒色粒子・白色 微	一枚作り。凸面は半輪縁系の輪縁3高文。凹面 に凸面磨砂。	秋岡産
40-00048	鉄器 不詳	床直層 破片	残存長10.5・幅0.5~ 0.7・重25.1g		磨化の顯著。断面は正方形に近い。棒状を呈して いるが、茎・釘等の判別は難しい。	
40-00041	鉄器 不詳	覆土内 破片	残存長3.5・幅0.5・ 重4.7g		磨化の顯著。断面は正方形に近い。棒状を呈して いるが、茎・釘等の判別は難しい。	
20-00042 119	磁器 磨石	床直層 完形	長15.2・幅6.0・厚4.7 ・重692g	粗粒輝石安山岩	片面が平坦面に磨減が認められ、小口と一角に集 中打痕が認められる。	
20-00043 119	磁器 磨石	床直層 完形	長18.0・幅8.0・厚6.6 ・重1,522g	粗粒輝石安山岩	両小口と一方側面に集中打痕が認められる。	
20-00044 119	磁器 磨石	覆土内 完形	長11.4・幅9.9・厚4.4 ・重752g	粗粒輝石安山岩	裏裏面の平坦面に磨減が認められる。縁面に集中 打痕が認められる。	
20-00045 119	磁器 磨石	床直層直上 完形	残存長21.6・幅12.1 ・厚7.2・重7,499g	粗粒輝石安山岩	縁面に割傷が多く、平坦面にも割傷が入っている。 小口に強打による割傷認められる。その他は特徴 的な使用痕等は認められない。	
20-00046 119	磁器 磨石	壺内 完形	長18.0・幅15.6・厚 6.1・重2,748g	粗粒輝石安山岩	小口の一隅に集中打痕が認められる。平坦面にも集 中打痕が認められる。	
20-00047 119	磁器 磨石	床直層直上 完形	長20.7・幅15.4・厚 7.6・重2,248g	粗粒輝石安山岩	小口の一隅に集中打痕が認められる。平坦面にも集 中打痕が認められる。	

## 第18居号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種類	出土層位	遺物 寸法 (cm)	重量 (g)	構成・色調・胎土 (石質材は図目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00412 119	須恵器 須恵壺	壺内	口13.5・高3.8・底2.2		選・軟・灰・並・黒色粒子・白色 微	体・口縁部は丸味を帯び、口唇部は短く外反する。 輪縁右回転成形。底は右回転成形。	秋岡産

## 第6章 中里見原遺跡

10-00413 119	須色層 Ⅲ	堀方内 1/3塊	□(14.0)・高3.5・底 7.9	遺・硝・灰白・並・黒色粒子・シル ト粒子	体・口縁部は丸味を帯び、口唇部は短く外反する。 轡輪右回転成整形。裏面は凹転余切り。	秋開産
10-00414 119	須色層 Ⅲ	床直層 1/3塊	□(14.6)・高3.9・底 7.0	硝・硝・鈍黄粒・並・赤褐色粒子 透明鉱物粒子	体・口縁部は丸味を帯び、口唇部は短く外反する。 轡輪右回転成整形。裏面は凹転余切り。	秋開産
10-00415 119	須色層 Ⅲ	堀内 2/3塊	□14.8・高4.1・底7.8	遺・硝・外黒灰・内・灰白・並・黒 色粒子(部外面の黒色層は施成)	体・口縁部は丸味を帯び、口唇部は短く外反する。 轡輪右回転成整形。裏面は凹転余切り。	秋開産
10-00416 119	須色層 Ⅲ	堀方内 部分欠損	□(15.8)・高5.2・底 8.2	遺・並・灰黄・並・赤褐色粒子・シル ト粒子	口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は 短く外反する。轡輪右回転成整形。付高台。	秋開産
10-00417 119	土師層 Ⅲ	堀内 破片	□(18.0)・高(15.9) ・底(19.8)	硝・並・鈍黄粒・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は短く外反する。外面は寛胸型を施し、内面は寛胸型が認められる。	吉井・藤 岡産
10-00418 119	土師層 Ⅲ	堀内 破片	□(18.0)	硝・並・鈍黄粒・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は短く外反する。外面は寛胸型を施し、内面は寛胸型が認められる。	吉井・藤 岡産
10-00419 119	土師層 Ⅲ	堀土内 破片	□(20.0)	硝・並・鈍赤褐・透明鉱物粒子・黒 色鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は短く外反する。外面は寛胸型を施し、内面は寛胸型が認められる。	吉井・藤 岡産
40-00042	鉄器 刀子	床面直上 破片	残存長5.4・幅1.4・ 厚11.3		鋼化が顕著。華拵を欠損し、切先を欠損する。全 体が研削加工が著。両面造り。	
10-00420 120	土師層 Ⅲ	堀内 部分欠損	□18.5・高13.3・底 21.6・底3.6	硝・並・鈍黄粒・並・透明鉱物粒子・ 赤褐色粒子	「コ」の字状口縁。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は短く外反する。外面は寛胸型を施し、内面は寛胸型が認められる。	吉井・藤 岡産
10-00421 120	土師層 Ⅲ	堀内 完形	□19.5・高17.9・底 21.6・底4.0	硝・並・並・透明鉱物粒子・白色 粒子	「コ」の字状口縁。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は短く外反する。外面は寛胸型を施し、内面は寛胸型が認められる。	吉井・藤 岡産

## 第19号居住居跡出土遺物

遺物番号 採取番号	遺物種 器種	出土層位 層位	寸法 (cm)	重量 (g)	構成・色調・胎土 (石層材は産目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00422 120	土師層 Ⅲ	堀内 1/3塊	□(14.0)・高(13.6) ・底(14.4)		硝・並・鈍黄・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子・白色粒子	寛胸「コ」の字状口縁。「ナセ」の肩。外面頸部 直下は寛胸、以下位から縦位の寛胸りを施す。	吉井・藤 岡産
10-00423 120	土師層 Ⅲ	堀内 1/3塊	□(17.4)・高(13.8) ・底(19.8)		硝・並・鈍黄・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	特殊な「コ」の字状口縁。頸部が短く、「ナセ」の 肩。外面は寛胸りを施し、内面は寛胸型が認められる。	吉井・藤 岡産
10-00424 120	土師層 Ⅲ	堀土内 破片	□(20.0) ・底(17.6)		硝・並・鈍赤褐・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部以下が丸味を帯び、口唇部は短く外反する。外面は寛胸型を施し、内面は寛胸型が認められる。	吉井・藤 岡産
10-00425 120	須色層 Ⅲ	堀内 破片	□(18.0) ・底(16.0)		硝・硝・鈍黄粒・並・白色粒子 透明鉱物粒子	口縁部は外反する。紐作り後轡輪整形(右回転)。	秋開産 秋開産
10-00426 120	須色層 Ⅲ	堀内 破片	□(18.0)・高(16.8) ・底(20.0)		硝・並・鈍黄・並・透明鉱物粒子・黒 色鉱物粒子	寛胸「コ」の字状口縁。紐作り後轡輪整形(右回転)。 頸部の下位は縦位の寛胸りを施す。内面は寛胸型。	秋開産 秋開産
10-00427 120	須色層 Ⅲ	堀内 破片	□(20.0) ・底(17.6)		硝・硝・鈍黄粒・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	寛胸「コ」の字状口縁。紐作り後轡輪整形(右回転)。 頸部の下位は縦位の寛胸りを施す。	秋開産 秋開産
10-00428 120	須色層 Ⅲ	堀内 破片	□(21.0)・高(19.0) ・底(23.0)		硝・並・鈍黄粒・並・透明鉱物粒子・ 赤褐色粒子	寛胸「コ」の字状口縁。紐作り後轡輪整形(右回転)。 頸部の下位は縦位の寛胸りを施す。内面は寛胸型。	秋開産 秋開産
10-00429 120	須色層 Ⅲ	堀内 破片	□(21.5)・高(19.2) ・底(22.2)		硝・並・鈍黄粒・並・白色粒子・赤 褐色粒子	寛胸「コ」の字状口縁。紐作り後轡輪整形(右回転)。 頸部の下位は縦位の寛胸りを施す。内面は寛胸型。	秋開産 秋開産
10-00430 120	須色層 Ⅲ	堀内 部分欠損	□13.9・高3.9・底6.8		遺・硝・灰白・並・シルト粒子	体・口縁部は丸味を帯び、口唇部はやや外反する が。轡輪右回転成整形。裏面は凹転余切り。	秋開産
10-00431 120	須色層 Ⅲ	堀左地層 部分欠損	□13.6・高2.4・底7.0		遺・硝・黒灰・並・白色鉱物粒子・ 白色粒子(黒色層は施成)	体・口縁部は外反して立ち上がる。轡輪右回転成 整形。付高台。	秋開産
10-00432	須色層 Ⅲ	堀内 1/3塊	□(22.0)・高30.5・ 底(3.6)		硝・並・黄粒・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	寛胸「コ」の字状口縁。紐作り後轡輪整形(右回転)。 頸部の下位は縦位の寛胸りを施す。内面は寛胸型。	秋開産
10-00433	須色層 Ⅲ	堀内 1/4塊	胴径(14.6)		硝・並・鈍黄粒・並・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	頸部は深い。直線的な外形で、底に依る整形は行 われていない。紐作り後轡輪整形(右回転)。	秋開産
10-00434 121	須色層 Ⅲ	堀内 1/4塊	厚1.6		遺・硝・灰白・並・鈍黄粒	轡輪整形(右回転)。底輪は粗毛塗。	東海産
40-00043	鉄器 刀子	床直層 破片	残存長5.0・身幅1.5 ・厚19.0		硝・並・硝・並・鈍黄粒	一枚作り、凸部は離砂。華拵系体の細叩き底文。 両面布合わせ目。側部は寛胸で3回仕上げ。 鋼化が顕著。刀身の破片。刀身・基の大半を欠損 する。 磨削が顕著。華拵の一端が環状に欠損している。 磨削が顕著。華拵の一端が環状に欠損している。	秋開産
10-00044	鉄器 刀子	床面直上 破片	残存長6.5・幅0.6・ 厚0.3・重12.1				
10-00045 121	須色層 Ⅲ	堀土内 完形	長4.8・幅4.1・厚3.8 ・重65		磁灰石	磁石の胎用品。縦溝に逆「ナ」字に孔を穿つ。孔は 糸通しの穴と考えられる。	
10-00049	須色層 Ⅲ	堀内 破片	長4.8・幅4.1・厚3.8 ・重65		粗粒麻石安山岩	磨着な割欠・打痕等は認められない。	
10-00050 121	須色層 Ⅲ	堀内 破片	残存長8.7・残存幅 9.8・重597		粗粒麻石安山岩	裏面側の平坦面に磨滅が認められる。	

## 第20号居住居跡出土遺物

遺物番号 採取番号	遺物種 器種	出土層位 層位	寸法 (cm)	重量 (g)	構成・色調・胎土 (石層材は産目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00436 121	須色層 Ⅲ	堀内 完形	□12.6・高4.9・底6.5		遺・硝・灰白・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	体・口縁部は丸味をやや平直り立ち上げる。轡輪右 回転成整形。付高台。	秋開産
10-00437 121	須色層 Ⅲ	床直層 2/3塊	□12.8・高5.1・底6.0		中・並・灰黄・並・黒色鉱物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轡輪右回転 成整形。付高台。	秋開産か 豊骨-6
10-00438 121	須色層 Ⅲ	床直層 破片	□(15.4)		硝・並・黄粒・並・黒色鉱物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。	藤岡産か 豊骨-6
10-00439 121	須色層 Ⅲ	堀内 破片	□(16.4) ・底(19.5)		硝・並・鈍黄粒・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	胴上平・口縁部は内湾する。外面は轡輪目が顕著。 紐作り後轡輪整形(右回転)。肩は貼付け。	秋開産

## 第2節 発見された遺構・遺物

10-0040 121	須恵器 羽釜	甕内 破片	□(20.0) 脚(22.0)	酸・並・鈍黄色・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	胴上半・口縁部は内湾する。胴部は縦位の置削り。 紐作り後輪縁整形(右回転)。脚は貼付け。	秋田産
10-0041 121	瓦 瓦	床面直上 破片	厚2.3	酸・黄・鈍黄・砂質・白色陶粒子・	収作り。凸面は半輪縁帯体の脚印が無く。側面 取削り4回。	秋田産

## 第21居号住居跡出土遺物

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 と遺存 位置	産 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石素材は産目)	形状・技法等の特徴	調査
10-0042 121	土師器 破片	P内層 破片	□(19.5) 脚(18.0)	酸・並・鈍黄・並・透明鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の指痕を残す。 外面は置削りを施し、内面は置削り整形。	不詳(赤 古・並)
10-0043 121	須恵器 坏	床直層 破片	□(13.0)・高3.5・底 (7.0)	中・酸・灰黄・並・夾雑物微	体・口縁部は直線的に立ち上がる。輪縁右回転成 整形。底部は回転糸切り。内面に置削。	黒古・7 秋田産
10-0044 121	須恵器 坏	床直層 破片	□(12.4)	濃・硬・灰白・並・夾雑物微	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 外面に置削。	黒古・8 秋田産
10-0045 121	須恵器 皿	覆土内 2/3残	□16.2・高3.5・底7.4	濃・硬・灰・並・黒色粒子	体・口縁部直線的に立ち上がる。輪縁右回転成 整形。付高台。	秋田産
10-0051 121	石製品 紡錘車	床面直上 部分欠損	上径4.9・下径3.1・ 厚1.7・重40g	蛇紋岩	部分的な欠損がある。孔径0.8~0.9cm。肩は縦や かて下面の径も狭い。	

## 第22居号住居跡出土遺物

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 と遺存 位置	産 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石素材は産目)	形状・技法等の特徴	調査
10-0046 121	土師器 台付器	床直層 破片	□(13.4)・脚(11.6) ・基(5.0)・高(10.4)	酸・並・鈍黄・並・透明鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部立ち上がり成形時の置 削りを残す。外面は置削りを施し、内面は置削り成 整形。基部の成形部は輪縁成形部を思わせる。基部接 合部は機軸で仕上げ。	吉井・藤 原産
10-0047 121	須恵器 坏	床直層 内2/3残	□13.2・高3.9・底7.1	濃・並・灰・並・黒色粒子・透明 鉱物粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 輪縁右回転成整形。底部は回転糸切り。	秋田産
10-0048 121	須恵器 坏	覆土内 部分欠損	□13.5・高3.6・底7.5	濃・硬・灰白・並・黒色粒子・白色 微粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 輪縁右回転成整形。底部は回転糸切り。	秋田産
10-0049 122	須恵器 坏	床直層 土1/2残	□15.9・高6.0・底8.6	濃・硬・灰白・並・夾雑物微(薄い灰 輪状の自然剥落層)	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部 は外反する。輪縁右回転成整形。付高台。	秋田産
10-0050 121	須恵器 坏	甕内 破片	□(16.2)・高5.2・底 (7.6)	濃・並・灰白・並・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部 は外反する。輪縁右回転成整形。付高台。	秋田産
10-0051 122	須恵器 坏	床直層 破片	□(16.9)	濃・硬・灰白・並・黒色粒子・透明 鉱物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。	秋田産
10-0052 122	須恵器 皿	覆土内 部分欠損	□14.3・高2.3・底5.9	濃・硬・灰・並・透明鉱物粒子	体・口縁部直線的に立ち上がり、口縁部上端が外 反する。輪縁右回転成整形。付高台。	秋田産
10-0053 122	須恵器 土師器	床直層 2/3残	□14.1・高2.6・底7.2	濃(黒色焼し焼成)・硬・黒灰・並・ 透明鉱物粒子	体・口縁部直線的に立ち上がり。輪縁右回転成 整形。付高台。	秋田産
10-0054 122	須恵器 耳皿	床直層 破片	底(6.0)	濃・硬・灰・並・黒色粒子	輪縁右回転成整形。底部は回転糸切り。	秋田産
10-0055 122	須恵器 内蓋	P内 破片	□(15.2)	酸・硬・並・並・透明鉱物粒子・赤 褐色粒子	体・口縁部は丸味を帯びて口唇部まで立ち上がる。 内面に研削を施す。輪縁右回転成整形。	産不詳
10-0056 122	須恵器 内蓋	甕内 坏底(8.0)		酸・硬・並・並・透明鉱物粒子・赤 褐色粒子	体・口縁部は丸味を帯びて立ち上がる。内面に研 削を残す。輪縁右回転成整形。高台(須付高台)。	
10-0057 122	須恵器 甕	甕内 破片	□(19.8) 脚(17.4)	酸・並・鈍黄・並・赤褐色粒子	口縁部は外反。紐作り後輪縁整形(右回転)。胴部 より下位は、縦位の置削りを施す。内面に補修痕。	秋田産 秋田産
10-0058 122	須恵器 甕	覆土内 破片	□19.0・脚15.8・脚 (19.6)	酸・並・鈍黄・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	口縁部は外反。紐作り後輪縁整形(右回転)。胴部 より下位は、縦位の置削りを施す。内面に補修痕。	秋田産 秋田産
10-0059 122	須恵器 甕	甕内 破片	□(19.0)・脚(17.2) ・脚(19.2)	酸・並・鈍黄・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	口縁部は外反。紐作り後輪縁整形(右回転)。胴部 より下位は、縦位の置削りを施す。内面に補修痕。	秋田産 秋田産
10-0060 122	須恵器 甕	甕土 内破片	□(19.2)・脚(17.6) ・脚(22.6)	酸・並・鈍黄・並・透明鉱物粒子・ 赤褐色粒子	口縁部は外反。紐作り後輪縁整形(右回転)。胴部 より下位は、縦位の置削りを施す。内面に補修痕。	秋田産 秋田産
10-0061 122	須恵器 甕	甕内 破片	□(22.6)・脚(20.1) ・脚(22.6)	酸・並・鈍黄・並・夾雑物微(細粒の 土層片を含む。シャットカット)	口縁部は外反。紐作り後輪縁整形(右回転)。胴部 より下位は、縦位の置削りを施す。内面に補修痕。	秋田産 秋田産
10-0062 122	須恵器 甕	覆土内 破片	□(22.4) 脚(20.8)	酸・並・鈍黄・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	口縁部は外反。紐作り後輪縁整形(右回 転)。胴部より下位は、縦位の置削りを施す。	秋田産 秋田産
10-0063	埴輪陶器 反動	覆土内 破片	□(12.0)	濃・硬・灰白・並・夾雑物微	輪縁成形部(右回転)。施削方法は不明。	東海産
10-0064 122	埴輪陶器 反動	床直層 破片	□(15.4)・高2.8・底 (8.0)	濃・硬・灰白・並・夾雑物微	輪縁成形部(右回転)。施削方法は刷毛塗りか。	東海産
10-0065	埴輪陶器 反動	覆土内 破片	□(15.4)	濃・硬・灰白・並・夾雑物微	輪縁成形部(右回転)。施削方法は不明。	東海産
10-0066 122・158	埴輪陶器 反動	甕内 1/2残	□(19.2)・高3.3・底 (9.2)	濃・硬・灰白・並・夾雑物微	輪縁成形部(右回転)。施削方法は刷毛塗り。	東海産 黒古・9
10-0067	埴輪陶器 反動	甕内 破片	底(4.6)	濃・硬・灰白・並・夾雑物微	輪縁成形部(右回転)。施削方法は不明。	東海産
10-0068 122	埴輪陶器 反動	甕内 破片	脚(17.6) 底(8.2)	濃・硬・灰白・並・夾雑物微	輪縁成形部(右回転)。施削方法は不明。	東海産
10-0069 122	須恵器 羽釜	床直層 破片	□(22.4) 脚(27.0)	酸・並・鈍黄・並・夾雑物微	甕より上位は(胴上半部)直立する。肩は長い。胴部は縦 横で字模を施す。紐作り後輪縁整形(右回転)。	秋田産
10-0070	須恵器 灰口瓶	甕内 破片	□(22.6)	濃・硬・灰・並・黒色粒子	「く」の字模を施す。紐作り後輪縁整形(右回 転)。	秋田産
10-0071	須恵器 大甕	覆土内 破片	□(29.0)	濃・硬・灰白・並・黒色粒子	紐作り後輪縁整形(右回転)。器厚は比較的薄い。	秋田産

## 第6章 中里見原遺跡

10-00472	須市器大甕	甕内破片	厚1.5	遺・輝・灰・並・高嶺石灰・夾雜物	5本1單位の波状文を2段確認できる。10-00475と同一個体か。	秋田産
10-00473	須市器大甕	甕内破片	厚1.2	遺・並・暗灰・並・白色黏物粒子・白色黏粒子	【く】の字状に外反する。器作り後焼成整形(右回転)。10-00474と同一個体か。	秋田産
10-00474	須市器大甕	甕内破片	厚1.2	遺・並・暗灰・並・白色黏物粒子・白色黏粒子	【く】の字状に外反する。器作り後焼成整形(右回転)。10-00473と同一個体か。	秋田産
10-00475	須市器大甕	甕内破片	厚1.5	遺・輝・灰・並・高嶺石灰・夾雜物	5本1單位の波状文を2段確認できる。10-00472と同一個体か。	秋田産
10-00476	須市器大甕	甕内破片	胴径(48.9)厚8~9	遺・輝・灰・並・黒色黏粒子	器作り後印し整形。外面は平行印し、内面印し具は素文。	秋田産
10-00477 5	須市器大甕	甕内破片	厚1.5	遺・輝・灰・並・白色粒子	器作り後印し整形。外面は平行印し、内面印し具は青黄派文。	秋田産
10-00479	須市器大甕	甕内破片	厚1.3	遺・輝・灰・並・高嶺石灰・黒色粒子	器作り後印し整形。外面は平行印し、内面印し具は素文。その後、内面は焼成で調整を施す。	秋田産

## 第23号住居跡出土遺物

遺物番号 (図録番号)	遺物種類	出土層位 層 番号	量 目 (cm)	構成・色調・黏土 (石素材は電目録)	形状・技法等の特徴	納 入
10-00481	土師器 環	甕内破片	口(18.0)	酸・輝・暗・密・黄褐色乃至黒粒長石	底部は覆り方を施す。体口縁部は焼成で施す。器作り成型。	蔵入品
10-00482	土師器 台付甕	床直層破片	口(13.0)・胴(11.2)・脚(15.2)	酸・並・黄緑・並・透明黏物粒子・黒色黏物粒子・白色黏粒子	口縁部は外反する。頸部直下から覆り方を施し、内面は焼成を施す。	吉井・藤岡産
10-00483	土師器 甕	甕内破片	口19.6・胴17.1・脚20.2	酸・並・黄褐色・並・黒色黏物粒子・透明黏物粒子	【く】の字状口縁。口内面に成形時の粘土の接合痕を残す。外面は覆り方を施し、内面は焼成で整形。	吉井・藤岡産
10-00484	土師器 甕	甕内破片	口(20.0)・脚(22.0)・底(4.4)	酸・並・鈍緑・並・黒色黏物粒子	口縁部は外反する。頸部直下から覆り方を施し、内面は焼成を施す。	吉井・藤岡産
10-00485 112	土師器 甕	甕内破片	口(21.2)・胴(19.0)・脚(29.4)	酸・並・黄褐色・並・黒色黏物粒子・鈍緑粘石(燻阿土)	口縁部は外反する。外面は頸部直下から覆り方を施し、内面は焼成を施す。	吉井・藤岡産
10-00486 122	須市器 環	甕内破片	口(11.5)・高4.3・底6.9	遺・輝・灰・やや粗・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。轆轤右回転成型。底部は回転成型なし。	秋田産
10-00487 123	須市器 甕	甕内部分欠片	口11.5・高4.1・底6.2	遺・輝・灰・やや粗・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。轆轤右回転成型。底部は回転成型なし。	秋田産
10-00488 123	須市器 甕	甕内部分欠片	口11.6・高4.3・底7.6	遺・並・灰・並・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。轆轤右回転成型。底部は回転成型なし。	秋田産
10-00489 123	須市器 甕	甕内直上完形	口11.7・高4.1・底6.3	遺・輝・灰・やや粗・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。轆轤右回転成型。底部は回転成型なし。	秋田産
10-00490 123	須市器 甕	床直層完形	口11.7・高4.0・底6.9	遺・輝・灰・やや粗・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。轆轤右回転成型。底部は回転成型なし。	秋田産
10-00491 123	須市器 甕	床直層3/4残	口12.0・高3.6・底7.1	遺・並・灰・並・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。轆轤右回転成型。底部は回転成型なし。	秋田産
10-00492 123	須市器 甕	床直層部分欠片	口12.2・高4.0・底6.6	遺・輝・灰・やや粗・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。轆轤右回転成型。底部は回転成型なし。	秋田産
10-00493 123	須市器 甕	床直層部分欠片	口12.0・高4.0・底7.1	遺・輝・灰・やや粗・黒色粒子・白色粒子	体・口縁部は丸味を帯びる。体部の器厚はやや厚い。轆轤右回転成型。底部は回転成型なし。	秋田産
10-00494 123	須市器 甕	床直層直上完形	口12.0・高3.7・底7.0	遺・輝・灰・密・夾雜物	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。轆轤右回転成型。底部は回転成型なし。	秋田産
10-00495 123	須市器 甕	床直層直上完形	口12.0・高3.5・底6.3	遺・並・灰・並・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。轆轤右回転成型。底部は回転成型なし。	秋田産
10-00496 123	須市器 甕	床直層1/4残	口(12.0)・高3.2・底(6.8)	遺・輝・灰・密・夾雜物	体・口縁部は丸味を帯びる。体部の器厚はやや厚い。轆轤右回転成型。底部は回転成型なし。	秋田産
10-00497 123	須市器 甕	床直層1/2残	口(10.5)・高5.7・底6.0	遺・輝・灰・やや粗・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成型。付高付。	秋田産
10-00498 123	須市器 甕	床直層完形	口(15.8)・高8.2・底(9.2)	遺・輝・灰・並・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成型。付高付。	秋田産
10-00499 123	須市器 甕	甕内直上完形	口(12.6)	遺・輝・灰・並・黒色粒子・白色粒子	天井部の器厚は厚いが、口縁部の器厚は薄い。底部は折り返し。	秋田産
10-00500 123	須市器 甕	床直層部分欠片	口(1.4)・高4.1・底16.8	遺・輝・灰・やや粗・黒色粒子・白色粒子	頸部は薄す。頸部は折り返し、天井部は轆轤右回転成型を施す。轆轤成型(右回転)。	秋田産
10-00501 123	須市器 甕	床直層直上完形	口(10.3)・高3.5・底18.7	遺・輝・灰・並・黒色粒子・白色粒子	頸部は薄す。頸部は折り返し、天井部は轆轤右回転成型を施す。轆轤成型(右回転)。乃至は皿か。	秋田産
10-00502 123	須市器 甕	甕内破片	基部径5.3	遺・輝・灰・並・黒色粒子・白色粒子・赤褐色粒子	轆轤成型右回転。脚部に紋の跡が認められる。	秋田産
10-00503 123	須市器 甕	甕内破片	厚1.2 予定径(58.0)	遺・並・外黒灰・内灰白・並・白色粒子	器作り後焼成整形(右回転)。5本1單位の波状文は2段に施す。	秋田産
10-00504	須市器 紡錘車	床直層完形	長4.2・幅1.8・丸4.0・底11.1	酸・並・鈍黄褐色・並・透明黏物粒子・黒色黏物粒子	均整の取れた紡錘車を呈する。	秋田産
10-00505 123	須市器 甕	床直層破片	残存長8.4・残存幅10.0・重242g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨滅が認められる。	
10-00505 123	須市器 甕	床直層完形	長13.8・幅12.1・厚4.2・重1,265g	粗粒輝石安山岩	表面の平坦面に磨滅が認められる。	
10-00504 123	須市器 甕	床直層破片	長15.1・幅11.6・厚5.6・重1,302g	粗粒輝石安山岩	表面の平坦面に磨滅が認められる。	
10-00505 123	須市器 甕	床直層完形	長22.7・幅7.0・厚7.0・重1,595g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨滅が認められる。	
10-00506 124	須市器 甕	床直層完形	長18.9・幅11.8・厚7.0・重2,399g	粗粒輝石安山岩	表面の平坦面に磨滅は認められないが、被熱によると思われる亀裂が認められる。	



## 第24号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 遺存層	量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は灰目目)	形状・技法等の特徴	概要
10-06505 123	土師器 杯	覆土内 破片	口(11.2)・高3.7・底 (8.6)	灰・黒・鈍褐色・黒・微粒雲母	頸作り或は後底部は丸割り、内面・口縁部は機械 で整形。体部に彫溝を施す。	吉井・藤 岡産
10-06506 123	土師器 杯	P,内 底面欠損	口(12.2)・高(3.3)・底 9.8	灰・黒・鈍褐色・黒・黒色鉱物粒子	頸作り或は後底部は丸割り、内面・口縁部は機械 で整形。体部に彫溝を施す。	吉井・藤 岡産
10-06507 123	須恵器 杯	甕内 1/2破	口(11.3)・高4.4・底 (7.2)	黒・緑・灰白・黒・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轡轡右回転成形。底部は回転未切り。	秋田産
10-06508 123	須恵器 杯	P,中層 欠損	口(11.3)・高3.5・底7.9	黒・緑・灰白・黒・黒色粒子	頸部は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 轡轡は右回転成形。底部は回転未切り。	秋田産
10-06509 123	須恵器 杯	甕内 破片	口(11.8)・高3.6・底6.3	黒・緑・灰・黒・黒色粒子・白色微 粒子	頸部は薄い。頸部は丸いが、体・口縁部は直線的。 轡轡右回転成形。底部は回転未切り。	秋田産
10-06510 124	須恵器 黒色土器	覆土内 口縁欠損	径6.2・底6.8	黒・軟・黒灰・黒・灰雑物微(甕内外 面の黒色塗し焼成)	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轡轡右回転 成形。付高台。	秋田産
10-06511 124	須恵器 小瓶	床面直上 上半欠損	径6.2	黒・緑・灰・黒・黒色粒子	緩やかな丸味を帯び立ち上がる。底部・体部は回 転製りを施す。轡轡右回転成形(右回転)。	秋田産
10-06512 124	須恵器 壺	甕内 破片	胴(3.6)・高4.7・嘴 (17.6)	黒・緑・灰・黒・黒色粒子	胴部は球状。嘴部は折り返し、天井部は轡轡右回 転製りを施す。轡轡成形(右回転)。	秋田産
10-06513 124	須恵器 円筒状	覆土内 頸定高(8.8)	頸径(16.0) 頸定高(8.8)	黒・緑・灰・黒・灰雑物微(糊製土)	轡轡成形(右回転)。四方に十字状の溝を施し置 し、透かし間位位の半環を施す。	秋田産
10-06516	須恵器 円筒状	覆土内 破片	厚0.3	黒・緑・灰・黒・黒色粒子	頸部片。轡轡右回転成形。94住10-06372と同一 個体。	秋田産

## 第25号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 遺存層	量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は灰目目)	形状・技法等の特徴	概要
10-06517 124	土師器 杯	覆土内 破片	厚0.4	灰・黒・鈍褐色・黒・黒色鉱物粒子・ 微粒雲母	底部片。見込みに落葉楕圓の痕跡が認められる。 底部は丸割り。	吉井・藤 岡産
10-06518 124	須恵器 杯	P,内 破片	口(13.0)	黒・緑・灰白・黒・灰雑物微	口縁部は短く外傾する。頸部は薄い。轡轡成形 右回転。	秋田産
10-06519 124	須恵器 杯	甕内 破片	口(17.0)・頸(15.5) ・高(18.8)	黒・緑・灰黄・黒・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	頸部は薄い。胴部は球形状を呈する。口縁部は外傾 する。外面は彫溝の残存。内面は彫溝の残存で、 「フ」の字状口縁。頸厚は薄い。外面は丸割り。施 し、内面は丸割りで整形。10-0652と同一個体。	秋田産
10-06520	土師器 杯	甕内 破片	口(16.8) 頸(15.8)	灰・黒・鈍褐色・黒・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	「フ」の字状口縁。頸厚は薄い。外面は丸割り。施 し、内面は丸割りで整形。10-0652と同一個体。	吉井・藤 岡産
10-06521	土師器 杯	床面直上 破片	口(18.0) 頸(17.1)	黒・緑・鈍褐色・黒・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	「フ」の字状口縁。頸厚は薄い。外面は丸割り。施 し、内面は丸割りで整形。10-0652と同一個体。	吉井・藤 岡産
10-06522	須恵器 壺	甕内 破片	口(19.0)・頸(18.0) ・高(20.2)	中・緑・灰黄・黒・透明鉱物粒子	頸部は厚い。胴部は「フ」の字状口縁。外面は縦位の 丸割り、内面は縦位の丸割り。	秋田産
10-06523 124	須恵器 壺	甕内 破片	口(19.0) 頸(17.8)	中・軟・灰黄・黒・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	口縁部は外傾する。胴部は球形状か。組作り後 轡轡成形(右回転)。	秋田産
10-06524 124	須恵器 杯	床面層 1/2破	口(13.6)・高3.3・底 5.2	黒・軟・灰白・黒・灰雑物微	頸部は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。 轡轡右回転成形。底部は回転未切り。	秋田産 書番-10
10-06525	須恵器 灰物 瓶	覆土内 破片	厚0.4	黒・緑・灰白・黒・灰雑物微	轡轡成形(右回転)。施成方法は不明。	東海産
10-06526	須恵器 灰物 瓶	覆土内 破片	口(15.3)	黒・緑・灰白・黒・灰雑物微	轡轡成形(右回転)。施物は鮮明な色。	東海産
10-06527	須恵器 灰物 瓶	覆土内 破片	底(8.4)	黒・緑・灰白・黒・灰雑物微	轡轡成形(右回転)。施物は鮮明な色。	東海産
10-06528 124	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚2.3	黒・軟・灰・黒・白色粒子	一枚作り。凸面は轡轡給給各体の縦切り施文。凹面 に粘土板取りが施す。凹面固定取り4回。	秋田産

## 第26号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 遺存層	量目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は灰目目)	形状・技法等の特徴	概要
10-06529 124	土師器 杯	床面層 2/3破	口(14.4)・高4.3・底9.6	黒・黒・黒・透明鉱物粒子	原作り或は後底部・体部は丸割り、内面・口縁部 は機械で整形。口縁下に彫溝を施す。	吉井・藤 岡産
10-06530 124	土師器 杯	覆土内 破片	口(18.2) 頸(15.8)	黒・軟・鈍褐色・黒・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	口縁部は「フ」の字状に似た断面を呈する。外面は 丸割り、内面は丸割りを施す。	吉井・藤 岡産
10-06531 124	土師器 杯	覆土内 破片	口(13.3)・高2.5・底 (10.4)	黒・黒・鈍褐色・透明鉱物粒子	底部の丸みが少なく、平底に近い。体・口縁部は 直で整形。底部は丸割り。	吉井・藤 岡産
10-06532 124	須恵器 杯	覆土内 1/4破	口(12.9)・高3.7・底 (7.0)	黒・軟・灰・黒・灰雑物微	頸部は薄い。体・口縁部は丸味を帯びて立ち上 がる。轡轡右回転成形。底部は回転未切り。	秋田産
10-06533 124	須恵器 杯	覆土内 1/2破	口(12.6)・高2.9・底 (8.4)	黒・緑・灰・黒・黒色粒子・白色粒 子	頸部は短く丸味を帯び、体・口縁部直線的に立ち 上がる。轡轡右回転成形。底部は回転未切り。	秋田産
10-06534 124	須恵器 杯	覆土内 破片	口(13.1)・高3.7・底 6.2	黒・黒・灰白・黒・黒色粒子	頸部は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 轡轡右回転成形。底部は回転未切り。	秋田産
10-06535 124	須恵器 壺	甕内 1/2破	頸(1.6)・高2.3・底 (11.2)	黒・黄・灰・黒・灰雑物微	頸部は折り返し、天井部は轡轡右回転製りを施す。 轡轡成形(右回転)。	秋田産
10-06536 124	須恵器 壺	甕内 1/4破	頸(3.5)・高2.9・嘴 (13.2)	黒・緑・灰白・黒・黒色鉱物粒子・ 白色粒子	黒・緑・灰・黒・黒色粒子	秋田産
10-06537 124・158	須恵器 壺	覆土内 1/4破	頸(3.8)・高4.1・嘴 (15.8)	黒・緑・灰・黒・黒色粒子・白色微 粒子	黒・緑・灰・黒・黒色粒子	秋田産 書番-11

## 第6章 中里見原遺跡

10-00538 124	須恵器 土師器	覆土内 1/2残	柄(3.4)	黒・緑・灰・黄・黒色粒子・白色微 粒子	帯状残。端部は折り返し。天井部は轆轤回転痕跡 を残す。轆轤成形形(右回転)。	秋田産
10-00539 124	須恵器 土師器	覆土内 破片	口(19.8)	黒・緑・灰・黄・夾雑物微	轆轤成形形右回転。	秋田産
10-00540	須恵器 鉢	床直層 破片	口(38.6)	黒・緑・灰・黄・黒色粒子・白色微 粒子	口縁部は短く強く外反して開く。紐作り後轆轤 成形(右回転)。	秋田産
20-00057 124	磯部 甲石	床直層 完形	長16.9・幅6.9・厚7.9 ・重1,204g	粗粒輝石安山岩	部分的に打痕が認められる。磨削等の使用痕は認 められない。	

## 第27号住居跡出土遺物

遺物番号 採取番号	遺物種 器種	出土層位 保存状態	度量 目(cm) 目(g)	構成・色調・粘土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00541 125	土師器 壺	覆土内 破片	口(19.6) 頸(18.2)	黒・黄・鈍褐・黄・透明鉱物粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は磨削りを施し、内面は轆轤成形。	吉井・藤 岡産
10-00542 124	須恵器 環	覆土内 1/2残	口(13.0)・高2.9・底 1/2残 (8.8)	黒・緑・灰・黄・黒色粒子・シルト 粒子	器身は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成形形。底面は回転糸切り。	秋田産
10-00543 124	須恵器 環	床直層 1/2残	口(13.8)・高3.2・底 (6.7)	黒・緑・灰・黄・黒色粒子・シルト 粒子	体・口縁部は薄く丸味を帯びて立ち上がる。轆轤 右回転成形形。底面は回転糸切り。磨削の痕跡 が認められる。底面は回転糸切り。	秋田産
10-00544 124	須恵器 環	床直層 1/4残	口(12.8)・高3.6・底 (7.0)	黒・緑・灰・黄・黒色粒子	器身は薄い。体・口縁部は丸味を帯びて立ち上 がる。轆轤右回転成形形。底面は回転糸切り。	秋田産
10-00545 125	須恵器 環	床直層 3/4残	口13.0・高3.4・底7.6	黒・緑・灰・黄・黒色粒子・シルト 粒子	器身は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上 がる。轆轤右回転成形形。底面は回転糸切り。	秋田産
10-00546 125・158	須恵器 壺	覆土下層 1/3残	口(16.0)・高6.1・底 (8.2)	黒・黄・灰白・黄・シルト粗粒子	体・口縁部は丸味を帯びて立ち上がり、口縁上半部 は外反する。轆轤右回転成形形。付高台。	秋田産 産書-12
10-00547 125	須恵器 壺	覆土内 1/3残	口(14.8)・高5.3・底 (6.3)	黒・緑・灰・黄・夾雑物微	器身は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上 がる。轆轤右回転成形形。付高台。	秋田産
10-00548 125	須恵器 壺	床直層 破片	口(15.0)頸(12.8)割 22.2	黒・緑・灰・黄・夾雑物微	胴部は丸味を強く帯び、口縁部は直線的に立ち上 がる。紐作り後轆轤成形(右回転)。有磨削が付着する。	秋田産
10-00549 125	高輪陶器 灰輪 破片	覆土内 破片	口(16.4)	黒・緑・灰白・黄・夾雑物微	轆轤成形形(右回転)。胎軸は受掛け。	東海産
10-00550 125	高輪陶器 灰輪 破片	覆土内 破片	底(7.2)	黒・緑・灰白・黄・夾雑物微	轆轤成形形(右回転)。胎軸は受毛塗り。	東海産
10-00551 125	高輪陶器 灰輪 破片	覆土内 破片	口(9.8)	黒・緑・灰白・黄・夾雑物微	轆轤成形形(右回転)。胎軸方法は不明。	東海産
10-00552 125	瓦	覆土内 破片	厚1.8	黒・黄・橙・黄・赤褐色粒子・シル ト粗粒子	一枚作り。凸面は単純結晶体の塊押し攪文。凹面 は横溝。	秋田産
10-00553 125	瓦	覆土内 破片	厚2.6	黒・黄・橙・黄・赤褐色粒子・シル ト粗粒子	一枚作り。凸面は単純結晶体の塊押し攪文。	秋田産
20-00058 125	磯部 磨石	覆土内 1/2残	残存長9.9・幅10.6・ 厚6.6・重1,003g	粗粒輝石安山岩	先端側に集中打痕が認められる。	

## 第40号住居跡出土遺物

遺物番号 採取番号	遺物種 器種	出土層位 保存状態	度量 目(cm) 目(g)	構成・色調・粘土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00554 125	土師器 壺	覆土内 破片	口(18.2)・頸(16.5) ・割(21.0)	黒・黄・橙・黄・透明鉱物粒子・黒 色粒子・赤褐色粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕 を残す。外面は磨削りを施し、内面は轆轤成形。	秋田産部 か
20-00059 125	磯部 磨石	床直層 完形	長18.4・幅13.7・厚 6.4・重2,384g	粗粒輝石安山岩	表面側の平ら面に磨痕が認められる。	

## 第29号住居跡出土遺物

遺物番号 採取番号	遺物種 器種	出土層位 保存状態	度量 目(cm) 目(g)	構成・色調・粘土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00555 125	須恵器 壺	床直面上 高台欠損	口13.0 径5.7	中・黄・鈍黄・黄・透明鉱物粒子・ 黒色粒子・赤褐色粒子	体・口縁部は丸味を帯びて立ち上がり、口縁上半部 は外反する。轆轤右回転成形形。付高台。	秋田産
10-00556 125	須恵器 壺	P 2下層 2/3残	口(12.8)・高4.4・底 6.4	黒・黄・灰白・黄・透明鉱物粒子・ 黒色粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。口縁上半部は やや外反する。轆轤右回転成形形。付高台。	秋田産
10-00557 125	須恵器 環	覆土内 破片	厚0.4	黒・黄・黄・黄・シルト粗粒子	轆轤成形形右回転。	産不詳 産書-13
10-00558	高輪陶器 灰輪 破片	覆土内 破片	厚0.4	黒・緑・灰白・黄・夾雑物微	轆轤成形形(右回転)。胎軸方法は不明。	東海系
10-00559 125	瓦	覆土内 破片	厚1.8	黒・黄・灰白・黄・シルト粗粒子・赤 褐色粒子	一枚作り。凸面は単純結晶体の塊押し攪文。凹面 は斜紋取り。	秋田産
20-00060 125	磯部 磨石	床直層 完形	長11.8・幅9.3・厚4.0 ・重595g	粗粒輝石安山岩	表面側の平ら面に磨痕が認められる。縁面に嵌 入が認められる。	

## 第30号住居跡出土遺物

遺物番号 採取番号	遺物種 器種	出土層位 保存状態	度量 目(cm) 目(g)	構成・色調・粘土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	摘要
10-00560	土師器 壺	覆土内 破片	口(18.6) 頸(16.8)	黒・黄・鈍褐・黄・透明鉱物粒子・ 赤褐色粒子	「コ」の字状口縁。器身は薄い。外面は磨削りを施 し、内面は轆轤成形。	吉井・藤 岡産
10-00561 125	須恵器 環	覆土内 破片	底(7.6)	黒・黄・灰・黄・シルト粒子・白 色微粒子(黒色無し構成)	轆轤成形形右回転。	秋田産か

10-00562 125	須磨器 黒色土器 杯	甕内 破片	口(16.2)	蓮・並・黒灰・並・黒色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	轡輪或成形右回転。	伏間産か
20-00661 125	須磨器 土器	甕土内 完形	長11.0・幅8.2・厚5.1 ・重617g	粗粒輝石安山岩	片側の小口部分に一帯による割痕が認められる。	

## 第31号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 等 存在	尺寸 (cm) 重量 (g)	構成・色調・胎土 (石材は皮目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00563 125	須磨器 埴	甕土内 完形	口13.6・高5.1・底5.8	蓮・硬・灰白・並・白色微粒子・黒色 粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部 は外反する。轡輪右回転或成形、付高台。	伏間産
10-00564 125	須磨器 埴	床面直上	口(15.0)・高4.8・底 7.0	中・並・鈍黄橙・並・黒色粒子・透 明鉱物粒子	体・口縁部は薄く丸味を帯び立ち上がり、口縁上 半部は外反する。轡輪右回転或成形、付高台。	伏間産
10-00565 125	須磨器 埴	甕土内 1/3残	口(14.0) 径底5.8	軟・軟・鈍黄橙・並・シルト粒子・透 明鉱物粒子	体部は薄く丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上 がる。轡輪右回転或成形。	伏間産
10-00566 125	須磨器 埴	甕内 1/4残	口(16.4)・高7.1・底 (9.0)	蓮・並・鈍黄橙・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部 はやや外反する。轡輪右回転或成形、付高台。	伏間産
10-00567	須磨器 不詳	甕土内 破片	底(12.0)	蓮・緑・灰・並・夾雜物微	轡輪或成形右回転。割痕不明。	伏間産
10-00568	須磨器 埴	甕土内 破片	口(17.6) 径(16.2)	中・硬・鈍黄橙・並・夾雜物微	口縁部は外傾する。組作り後轡輪整形(右回転)。 底部より下位は、縦位の覆削りを施す。	伏間産
10-00569	須磨器 埴	甕内 破片	口(16.8)・径(19.4) ・割(18.5)	中・硬・鈍黄橙・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子・シルト粒子	胴上半・口縁部は内傾。外面は直削り。内面は轡 輪整形。組作り後轡輪整形(右回転)。割は貼付け。	伏間産
10-00570	須磨器 埴	甕土内 破片	口(17.6) 径(20.2)	蓮・並・灰・並・透明鉱物粒子・黒色 鉱物粒子	胴上半・口縁部は内傾する。外面は轡輪目が暗着。 組作り後轡輪整形(右回転)。割は貼付け。	伏間産
10-00571	須磨器 埴	甕土内 破片	口(20.0) 径(24.6)	軟・並・軟・並・透明鉱物粒子・黒色 鉱物粒子	胴部は外傾し、口縁部は内傾乃至内湾する。胴部 外面は縦位の覆削り。内面は轡輪無。	伏間産
10-00572	須磨器 埴	甕内 破片	口(21.0) 径(24.6)	軟・並・鈍黄橙・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	胴部は直立気味に立ち上がり、口縁部は内傾する。 外面は縦位の覆削り。内面は轡輪無。	伏間産
10-00573	須磨器 埴	甕内 破片	口(22.2)・径(25.8) ・割(20.6)	軟・並・軟・並・透明鉱物粒子・黒色 鉱物粒子・白色粒子	胴部から口縁部は内湾する。胴部外面は縦位の覆 削り。内面は轡輪整形。浅い割形。	伏間産
10-00574	須磨器 埴	甕土内 破片	口(24.0)・径(27.2) ・割(25.2)	軟・並・軟・並・透明鉱物粒子・黒色 鉱物粒子・白色粒子	胴部から口縁部は内湾する。胴部外面は縦位の覆 削り。内面は轡輪整形。浅い割形。	伏間産
10-00575	地輪陶器 灰輪 甕	灰土層 破片	口(15.0)	蓮・緑・灰白・並・夾雜物微	轡輪或成形(右回転)。施物方法は不明。	東海系
10-00576	地輪陶器 灰輪 甕	甕内 破片	径(7.8)	蓮・緑・灰白・並・夾雜物微	轡輪或成形(右回転)。施物方法は不明。	東海系
10-00577	地輪陶器 灰輪 甕	甕土内 破片	径(19.6) 径(11.3)	蓮・緑・灰白・並・夾雜物微	轡輪或成形(右回転)。施物方法は不明。	東海系
10-00578	瓦 瓦片	灰土層 破片	厚1.8	蓮・硬・灰・並・シルト粗粒子	手削り付。凸面は轡輪或成形条痕が明確に残る。 凹面を含む。側面取り2回。	伏間産
10-00579	瓦 瓦片	甕土内 破片	厚1.8	蓮・緑・灰・並・シルト粗粒子・黒色 粒子	一枚作り。凸面は半輪筋条体の織叩き施文。側面 面取り2回。凹面に自然釉付着。	伏間産
10-00580	瓦 瓦片	P4内 破片	厚1.8	蓮・緑・灰・並・シルト粗粒子	一枚作り。凸面は半輪筋条体の織叩き施文。側面 は裏面仕上げ。	伏間産
20-00662 126	須磨器 土器	甕土内 完形	長10.8・幅9.0・厚4.3 ・重599g	粗粒輝石安山岩	表面部の平坦面に割痕が認められる。亀裂は被熱 によるもの。	

## 第32号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 等 存在	尺寸 (cm) 重量 (g)	構成・色調・胎土 (石材は皮目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00581 126	須磨器 埴	床面直上	口10.3・高3.2・底5.4	中・軟・灰黄・並・黒色鉱物粒子・ 細砂	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部は中や 外反する。轡輪右回転或成形。底部は回転未切り。	伏間産か
10-00582	須磨器 埴	床面直上	口10.7・高3.5・底5.6	中・軟・外・灰黄・内・黒茶・並・黒色 鉱物粒子・細砂(内面埋し或成)	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部は中や 外反する。轡輪右回転或成形。底部は回転未切り。	伏間産か
10-00583 126	須磨器 埴	甕土内 完形	口13.0・高4.0・底7.0	中・並・灰黄・並・透明鉱物粒子・ 赤褐色粒子(器内外面黒く焼る)	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轡輪右回転或 成形。底部は回転未切り	伏間産
10-00584 126	須磨器 埴	床面直上	口13.3・高3.8・底7.0	蓮・硬・灰白・並・黒色粒子・白色 鉱物粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 轡輪右回転或成形。底部は回転未切り	伏間産
10-00585 126・158	須磨器 埴	甕土内 1/2残	口(12.9)・高3.7・底7.0	軟・並・黄灰・並・微粒雲母・黒色 鉱物粒子・透明鉱物粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 轡輪或成形右回転。	藤岡産か 番号-14
10-00586	須磨器 埴	甕内 破片	口(15.2)	中・並・鈍黄橙・並・白色微粒子・ 赤褐色粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。	伏間産か
10-00587	須磨器 埴	床面直上	口(18.0)・高5.0・底 6.6	軟・並・鈍黄橙・並・透明鉱物粒子・ 黒色微粒子	体部は直線的に立ち上がる。口縁部は中や外反す る。轡輪右回転或成形、付高台。	伏間産か
10-00588	須磨器 埴	床面直上	口(14.0)・高5.9・底 (7.4)	蓮・並・灰・並・黒色粒子・白色粒 子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部は外 反する。轡輪右回転或成形、付高台。	伏間産
10-00589	須磨器 埴	古龍堂内 1/4残	口(12.4)・高11.8・ 底5.9	軟・並・鈍黄橙・並・透明鉱物粒子・ 黒色微粒子	轡輪未施り。口縁部は短く外反する。胴部は最大径 (13.0)がある。胴部は縦位。体部は縦位の覆削り。	伏間産
10-00590	須磨器 埴	甕土内 破片	口(19.4)・径(17.6) ・割(19.8)	軟・並・鈍黄橙・並・赤褐色粒子・シ ルト粒子	口縁部は外傾する。組作り後轡輪整形(右回転)。 底部より下位は、縦位の覆削りを施す。	伏間産
10-00591	須磨器 埴	甕内 1/4残	口(21.0)・径(20.0) ・割(21.6)	軟・並・外・鈍赤茶・鈍黄橙・並・透 明鉱物粒子・黒色微粒子	口縁部は直立気味。組作り後轡輪整形(右回転)。 外面は縦位の覆削りを施す。内面は下平直削り。	伏間産
10-00592	須磨器 埴	床面直上	口(23.0) 径(14.6)	蓮・緑・灰白・並・白色微粒子・黒色 粒子	組作り後(印)或成形(轡輪(右回転)再整形。有機 質が付着する。	伏間産

## 第6章 中里見原遺跡

10-00293	陶器陶片	覆土内 反影	口(11.0)	澁・緑・灰白・赤・夾雑物微	轆轤成形形(右回転)。旋輪方法は不明。	東海系
10-00294	陶器陶片	覆土内 反影	胴径(8.8)	澁・緑・灰白・赤・夾雑物微	轆轤成形形(右回転)。旋輪方法は不明。	東海系
10-00295 127	瓦 瓦片	床直層 1/4枚	厚1.7	澁・緑・灰・赤・シルト粗粒子	手轆作り。凸面は薄厚3(単純筒状帯が後轆轤型)。側面高取り3回。凹面粘土板取り有り。	秋田産
10-00296 127	瓦 瓦片	覆土内 破片	厚2.3	澁・軟・橙・黄・赤褐色粒子・シルト粗粒子	一枚作り。凸面は単純筒状帯の轆轤の「丁」字状残文。	秋田産
40-00045 127	鉄器 小形鎌	覆土下層 完形	長13.4・刃元幅3.3		研ぎの面が不明。新倉か。布を思わせる。錆化した轆轤が付着している。	
40-00046 127	鉄器 小形鎌	覆土下層 完形	長(11.3)・刃元幅3.3 ・総重量515g		研ぎ減りがある。	
40-00047 127	鉄器 小形鎌	覆土下層 完形	長13.9・刃元幅3.3		研ぎ減り顕著で渡せ身。	
40-00048 127	鉄器 小形鎌	覆土下層 完形	長12.0・刃元幅3.0		研ぎ減りがある。	
40-00049 127	鉄器 鎌	覆土下層 完形	長22.2・刃元幅4.5		研ぎの面が不明。新倉か。40-00052と接合する可能性がある。	
40-00050 127	鉄器 鎌	覆土下層 完形	長20.3+ $\alpha$ ・刃元幅4.5		研ぎ減りが不明。刃割が認められる。割れ口の状態から、40-00052と接合する可能性がある。	
40-00051 127	鉄器 鎌	覆土下層 破片	残存長12.5・刃元幅4.4		重ねが均一で薄い。裏面に研ぎ減り状の轆轤が見られる。	
40-00052 127	鉄器 鎌	覆土下層 破片	残存長10.8・幅4.5		柄部の上部には、折りによる溝れが見えている。割れ口の状態から、00050と接合する可能性がある。	
40-00053 127	鉄器 動先	覆土下層 破片	残存長16.2・幅3.3		側部の破片。形の残片が認められる。	
40-00054	鉄器 (鹿嶋押)	覆土下層 破片	残存長3.2・幅2.3・重8.1g		錆化は認められない。	
40-00055	鉄器 不詳	覆土下層 破片	長2.5・幅1.7・重2.7g		錆化が顕著。鉄質か。	
40-00056 127	鉄器 鉄押	覆土下層 破片	長4.2・幅3.2・重24.6g		錆化は認められない。	
40-00057	鉄器 鉄押	覆土下層 破片	長3.8・幅2.3・重29.0g		錆化が顕著。	
40-00058 128	鉄器 動先	覆土下層 完形	長20.9・幅19.2		著しい錆化はない。40-00059より、先端は丸い。使用に伴う磨減か。片耳の角が落ちている。	
40-00059 128	鉄器 動先	覆土下層 完形	長22.9・幅19.1・重820.0g	40-00058・59は錆化により磨減している。	著しい錆化はない。先端は比較的尖っている。顕著な使用がなかったと考えられる。	
40-00060	鉄器 不詳	覆土内 破片	長5.7・幅1.3~3.4・重33.9g		錆化が顕著。判別の開分が分か。	
20-00063 128	碑石 磨石	覆土内 完形	長15.2・幅6.1・厚5.4・重821g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨減が認められる。	

## 第33号住居跡出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物類 形・種	出土層位 遺存層	度量 目(cm)	焼成・色調・粘土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-00297 127	須器器 環	覆土内 4/5残	口(12.2)・高53.7・底6.1	澁・黄・灰黄・黄・白色粒子・凝灰粗片	器厚は薄い。唇・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底部は回転糸切り。	秋田産
10-00298 127	須器器 環	覆土内 1/2残	口(12.3)・高3.0・底(5.9)	澁・黄・黄褐色・黄・白色粒子・黒色鉱物粒子	唇・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部はやや外反する。轆轤右回転成形。底部は回転糸切り。	秋田産
10-00299 128	須器器 環	覆土内 1/3残	口(13.6) 環径(7.2)	澁・黄・黄褐色・黄・黒色鉱物粒子・黒色鉱物粒子	器厚はやや薄い。体部は直線的に立ち上がり、轆轤右回転成形。高台欠損(付台有り)。	秋田産
10-00300 128	須器器 環	覆土内 完形	口(14.3)・高5.6・底5.5	中・黄・灰黄・黄・黒色鉱物粒子	唇・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部は外反する。轆轤右回転成形。付台有。	秋田産
10-00301 128	須器器 環	覆土内 部分欠損	口(13.2)・高4.6・底3.8	黄・硬・黄褐色・黄・透明鉱物粒子・凝灰粗片	唇・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。付台有。	秋田産
10-00302 128	瓦 瓦片	覆土内 破片	厚2.2	澁・黄・灰・黄・シルトが顕著	手轆作り。凸面は轆轤成形帯帯が明確に残る。	秋田産
10-00303 128	須器器 羽釜	覆土内 破片	口(20.2)・径(24.7)・脚(24.4)	澁・黄・黄褐色・黄・透明鉱物粒子・黒色鉱物粒子	胴上半・口縁部は内湾する。外面は比較的確の轆轤目が顕著。胴作り後轆轤成形(右回転)。脚に貼付け。片面の平坦面に磨減が認められ、筒小口には縦打痕が認められる。	秋田産
20-00064 128	碑石 磨石	覆土内 完形	長12.3・幅6.2・厚4.6・重500g	粗粒輝石安山岩		

## 第36号住居跡出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物類 形・種	出土層位 遺存層	度量 目(cm)	焼成・色調・粘土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-00604 128	須器器 環	覆土内 完形	口(12.8)・高4.2・底7.1	澁・黄・灰・黄・透明鉱物粒子・黒色鉱物粒子	唇・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底部は回転糸切り。	秋田産
10-00605 128	須器器 環	覆土内 1/3残	口(13.2)・高3.8・底6.6	澁・黄・灰・黄・黒色粒子	唇・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部は短く外反する。轆轤右回転成形。底部は回転糸切り。	秋田産
10-00606 128	須器器 環	床面直上 2/3残	口(13.7)・高3.8・底3.8	中・黄・灰黄・黄・黒色鉱物粒子・黒色鉱物粒子	器厚は薄い。唇・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底部は回転糸切り。	秋田産
10-00607 128	須器器 環	床面直上 完形	口(14.0)・高4.5・底7.3	澁・黄・灰白・黄・白色粒子・透明鉱物粒子	唇・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底部は回転糸切り。	秋田産

10-00608 129	須恵器 土師	床面直上 2/3残	口(11.5)・高5.7・底 (6.8)	濃・黄・灰白・黄・白色微粒子・黒色 黏物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部 は外反する。轆轤右回転成型形。付高台。	秋田産
10-00609 129	須恵器 土師	床直上 破片	口(14.6)高5.4・底6.7	濃・黄・灰白・黄・シルト粒子・黒色 黏物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成型形。付高台。	秋田産
10-00610 129	須恵器 土師	床直上 1/2残	口(11.4)・高5.1・底 6.6	濃・黄・灰・黄・透明黏物粒子・黒色 微粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成型形。付高台。	秋田産
10-00611 129	須恵器 土師	床面直上 一部欠損	口(14.9)高3.3・底7.2	濃・黄・灰・黄・黒色微粒子・白色 微粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は、履位の覆層りを施す。	秋田産
10-00612 129	須恵器 土師	覆土内 破片	口(20.0)・高(19.0)・ 胴(21.0)	黄・黄・鈍黄・黄・シルト粒子・白色 微粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は、履位の覆層りを施す。	秋田産
10-00613 129	須恵器 土師	覆土内 破片	口(22.2)・胴(20.6)・ 胴(22.7)	黄・黄・鈍黄・黄・透明黏物粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は、履位の覆層りを施す。	秋田産
10-00614 129	須恵器 土師	覆土内 破片	口(13.0)	濃・黄・灰白・黄・夾雑物微	轆轤成型形(右回転)。胎痕方法は不明。	東海産
10-00615 129	須恵器 土師	覆土内 破片	口(15.0)	濃・黄・灰白・黄・夾雑物微	轆轤成型形(右回転)。胎痕は鉛毛痕か。	東海産
10-00616 129	須恵器 土師	覆土内 破片	胴0.5	濃・黄・黄灰白・やや粗・夾雑物微	轆轤成型形(右回転)。胎痕方法は不明。	落石産
10-00617 129	須恵器 土師	覆土内 破片	口(51.5)	濃・黄・灰・黄・黒色微粒子・	紐作り後(印き成型)轆轤(右回転)両面形。口縁 部には5本一単位の波状文を2段に施す文。	秋田産
10-00618 129	瓦 形瓦	覆土内 破片	厚1.4	濃・黄・灰・黄・白色微粒子	半張作り、凸面は認められず(半張縁部)後轆轤整形。 縁部には胎痕程度に認められる。側面凹部2回。	秋田産
10-00619 129	土師器 土師	覆土内 完形	長3.6・幅1.4・孔0.4	黄・黄・鈍黄・黄・透明黏物粒子	ズングリとした紡錘形。	不詳
40-00061 129	鉄器 釘	覆土内 破片	残存長4.3・幅0.4		頸部は潰れている。身も割れた状態。	

## 第43号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土部位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	構成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	調査
10-00620	須恵器 土師	覆土内 破片	口(23.2) 底(16.6)	濃・黄・灰・黄・夾雑物微	紐作り後轆轤整形(右回転)。頸部内外面に有機質が 付着する。並列10-00692と同一個体。	秋田産
10-00621	須恵器 土師	床直上 破片	底(8.2)	濃・黄・灰白・黄・夾雑物微	轆轤成型形(右回転)。胎痕方法は不明。	東海産

## 第37号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土部位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	構成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	調査
10-00622 129	須恵器 土師	床直上 1/2残	口(12.7) 底5.4	中・黄・灰黄・黄・黒色微粒子・ 白色微粒子・凝灰岩片	体・口縁部は直線的に立ち上がり、口縁部は短く 外反する。轆轤右回転成型形。付高台。	秋田産か
10-00623 129	須恵器 土師	覆土内 1/2残	口(13.0)・高5.2・底 (7.5)	中・黄・灰黄・黄・透明黏物粒子・ 赤褐色微粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇 部は短く外反する。轆轤右回転成型形。付高台。	秋田産か
10-00624 129	須恵器 土師	覆土内 完形	口13.2・高4.9・底6.7	濃・黄・鈍黄・黄・透明黏物粒子・ 凝灰岩片	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部 はや外反する。轆轤右回転成型形。付高台。	秋田産
10-00625 129	須恵器 土師	覆土内 1/2残	口13.8・高4.8・底7.2	黄・黄・灰・黄・透明黏物粒子・ 白色微粒子	体部は直線的に立ち上がり、口唇部はや外反す る。轆轤右回転成型形。付高台。	産不詳 (秋田か)
10-00627 129・158	須恵器 土師	床面直上 2/3残	口13.6・高3.5・底7.0	黄・黄・鈍黄・黄・砂質	頸部の丸味がかなり強い。口縁部は腰かよ外反す る。轆轤右回転成型形。付高台。墨書2文字。	不詳 墨書-15
10-00628 129	須恵器 土師	床直上 一部欠損	口(12.5)・高3.1・底 7.4	中・黄・灰黄・黄・微粒質母・黒色 微粒子	体部は直線的に立ち上がり、口唇部はや外反す る。轆轤右回転成型形。付高台。	産同産か 墨書-16
40-00062	鉄器 釘	覆土内 破片	残存長3.5・幅0.5・ 重9.5g	濃・黄・灰白・黄・黒色微粒子・ 凝灰岩片	紐作り後轆轤整形(右回転)。頸は貼付け。	秋田産
					錆化が顕著。断面が三角形を呈する。	

## 第38号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土部位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	構成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	調査
10-00629 129	土師器 土師	覆土内 部分欠損	口12.6・高3.1・底 10.8	黄・黄・鈍黄・黄・透明黏物粒子	底部は覆層り。口縁部・内面は横帯で整形。体部 に形痕を残す。	吉井・藤 岡産
10-00630 129	土師器 土師	覆土内 1/3残	口(14.0)・胴(13.0)・ 胴(16.8)	黄・黄・鈍黄・黄・透明黏物粒子・ 黒色微粒子	胴部は扁平丸味で覆層りを施す。口縁部は直立気 味に立ち上がり外反する。内面は横帯で整形。	吉井・藤 岡産
10-00631 129	土師器 土師	覆土内 破片	胴(30.6)	黄・黄・鈍黄・黄・透明黏物粒子・ 黒色微粒子	外面は基部の覆層りにより形影が不分明。内面は 中央に上下接合部が幅広く認められる。	吉井・藤 岡産
10-00632 129	土師器 土師	覆土内 破片	底4	黄・黄・鈍黄・透明黏物粒子	頸部は薄く、外面は上位からの覆層りによる。 内面は頭上上げ位の足端で整形を施す。	吉井・藤 岡産
10-00633 129	土師器 土師	覆土内 完形	口11.8・高4.2・底6.6	濃・黄・灰・黄・白色微粒子	頸部は薄く、体・口縁部は丸味を帯びて立ち上 がる。轆轤右回転成型形。胎部は胎痕未消。	秋田産
10-00634 129	土師器 土師	覆土内 破片	口12.2・高4.2・底6.2	濃・黄・灰・黄・黒色微粒子	頸部は丸味が強く、体・口縁部は外反する。轆轤 右回転成型形。胎部は胎痕確認し。	秋田産
10-00635 129	土師器 土師	覆土内 口縁欠損	底8.8	濃・黄・灰・黄・白色微粒子	頸部は丸味が強く立ち上がる。轆轤右回転成型形。 付高台。	秋田産
10-00636 129	土師器 土師	床直上 部分欠損	口10.3・高5.5・底6.4	濃・黄・灰・黄・白色微粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成型形。付高台。	秋田産

## 第6章 中里見原遺跡

10-00637 129	酒器 蓋	甕内	横4.0・高4.0・幅 2/3柄	17.0	遺・灰・灰白・赤・黒色粒子・白色 粒子	胴部は縦状。底部は折り直し、天井部は轆轤回転 覆りを施す。轆轤成形(右回転)。	秋田産
10-00665 130	磨石	覆土内	長14.0・幅12.2・厚 3.8・重1,005g		粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨痕が認められる。小口に打撃に よる彫痕が認められる。	

## 第39号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物類 器種	出土層位 保存 存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は灰目録)	形状・技法等の特徴	概要
10-00638 129	土師器 環	甕内 1/4柄	口(11.4)・高3.8・底 (5.0)	遺・赤・黄褐色・赤・白色粒子	体・口縁部は直線的。底部は扇形。口縁部・内面 は横状で。体部に整形。型は須恵器環か。	不詳(秋 田産か)
10-00639 129	土師器 環	床面直上 1/3柄	口(11.8)・高4.0・底 (5.4)	遺・赤・黄褐色・赤・白色粒子	体・口縁部は直線的。底部は扇形。口縁部・内面 は横状で。体部に整形。型は須恵器環か。	不詳(秋 田産か)
10-00640 130	土師器 環	甕内 1/4柄	口(12.0)・高4.0・底 (5.8)	遺・赤・黄褐色・赤・黒色副物粒子	体・口縁部は直線的。底部は扇形。口縁部・内面 は横状で。体部に整形。型は須恵器環か。	不詳(秋 田産か)
10-00641 130	土師器 環	甕内 1/4柄	口(10.6)・高3.5・底 (5.0)	遺・赤・黄褐色・赤・黒色副物粒子	体・口縁部は直線的。底部は扇形。口縁部・内面 は横状で。体部に整形。型は須恵器環か。	不詳(秋 田産か)
10-00642 130	須恵器 埴	甕内 1/4柄	口(13.0)・高4.7・底 6.7	遺・赤・黄褐色(黒灰)・赤・透明副物 粒子・黒色副物粒子	体・口縁部は丸味を帯びて立ち上がる。内面は黒 色焼し。轆轤右回転成形。付高台。	秋田産か
10-00643 130	須恵器 埴	甕内 破片	口(22.2) 底(20.6)	遺・赤・黄褐色・赤・夾雑物微	口縁部は外折する。紐作り轆轤成形(右回転)。 断面より下位は、縦位の覆りを施す。	秋田産か
10-00644 130	須恵器 埴	甕内 破片	口(22.0) 底(20.0)	遺・赤・黄褐色・赤・白色副物粒子	「コ」の字状口縁。器厚は薄い。外面は覆りを施し、 内面は覆無き整形。	秋田産
10-00645 130	須恵器 羽釜	甕・覆土 破片	口(20.0)・胴(22.2) ・胴(21.4)	遺・赤・黄褐色・赤・高嶺石英	胴上半部・口縁部は内湾勾取。内面は轆轤成形。 外面は蹲より下位は縦位の覆り。	秋田産か
10-00646 130	須恵器 羽釜	甕内 破片	口(21.0) 胴(23.6)	遺・赤・黄褐色・赤・高嶺石英・黒色 副物粒子	胴上半部・口縁部は内湾する。内面は轆轤成形。 外面は蹲より下位は縦位の覆り。	秋田産か
10-00647 130	須恵器 羽釜	覆土内 破片	底(5.4)	遺・赤・黄褐色・赤・黒色副物粒子・赤 褐色粒子	外面は縦位の覆り。内面は覆りの瓦割で整形。 底部は横状が残る。	秋田産
10-00649 130	須恵器 塞	覆土内 破片	底(15.0)	遺・赤・黄褐色・赤・黒色副物粒子・赤 褐色粒子	紐作り轆轤成形(右回転)。外面は縦位の覆り を施す。	秋田産
10-00648 130	施釉陶器 鉢輪 瓦	床直上 1/4柄	口(14.3)・胴(13.8) ・胴(12.4)	遺・緑・灰白・赤・夾雑物微	轆轤成形(右回転)。施釉方法は不明。	東海産

## 第44号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物類 器種	出土層位 保存 存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は灰目録)	形状・技法等の特徴	概要
10-00650 130	須恵器 環	甕土内 1/4柄	口(13.6)・高3.7・底 4.8	遺・赤・灰白・赤・透明副物粒子・シ ェット粒子	体・口縁部は薄く直線的に立ち上がる。口唇部は 肥厚する。轆轤右回転成形。底部は扇形。	秋田産か
10-00651 130	須恵器 黒色土器環	甕土内 破片	底(5.2)	遺・赤・黒灰・赤・黒色粒子	轆轤右回転成形。底部は扇形。見込み 描きが認められるが、文字とは思われない。	不詳
10-00652 130	須恵器 埴	甕・P・内 高台欠	口14.7・环底5.8	遺・赤・灰白・赤・黒色副物粒子・ 白色粒子・凝灰岩片	体部は直線的に立ち上がり、口唇部はやや外反する。 轆轤右回転成形。付高台。	秋田産か
10-00653 130	須恵器 羽釜	甕・覆土 内破片	口(18.8)・胴(21.4) ・胴(21.0)	遺・赤・黄褐色・赤・透明副物粒子・ 黒色副物粒子	胴上半部・口縁部は内湾勾取。内面は轆轤成形。外面は 蹲より下位は縦位の覆り。轆轤(右回転)成形。	秋田産か
10-00654 130	施釉陶器 反輪 瓦	甕土内 破片	口(15.2)・高5.1・底 (7.0)	遺・緑・灰白・赤・夾雑物微	轆轤成形(右回転)。施釉は浸透掛け。	東海産
10-00655 130	施釉陶器 反輪 瓦	甕土内 破片	口(11.2)	遺・緑・灰白・赤・夾雑物微	轆轤成形(右回転)。施釉方法は不明。	東海産
10-00656 130	施釉陶器 反輪 瓦	甕土内 破片	厚0.3	遺・緑・灰白・赤・夾雑物微	轆轤成形(右回転)。施釉方法は不明。	東海産
10-00657 130	施釉陶器 反輪 瓦	甕内 破片	厚0.6	遺・緑・灰白・赤・夾雑物微	瓶の肥子部分。覆掛け模様が残されている。	東海産
10-00658 130	瓦 男瓦	甕土内 破片	厚1.4	遺・赤・黄褐色・赤・シェットが横状に 入る。	半蓋作り。凸面は轆轤成形条痕が明確に残る。 断面部取り2回。	秋田産
10-00659 130	瓦 女瓦	甕土内 破片	厚2.3	遺・赤・黄褐色・赤・シェット粗粒子・赤 褐色粒子	一枚作り。凸面は半轆轤条痕の顕明な施文。	秋田産
10-00660 130	土製品 土輪	甕土内 欠形	口3.0・幅1.4・孔径 0.35	遺・赤・黄褐色・赤・透明副物粒子・ 黒色副物粒子	上端側を欠損する。	

## 第45号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物類 器種	出土層位 保存 存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は灰目録)	形状・技法等の特徴	概要
10-00661 130・158	須恵器 色土器環	甕土内 部分欠	口12.5・高3.5・底6.4	遺・赤・灰黄・赤・黒色副物粒子・ 黒色副物・黒色粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成 形。体部は扇形に切り	秋田産 番号-17
10-00662 130	須恵器 埴	甕土内 1/3柄	口(12.8)・高4.6・底 6.6	中・赤・黄褐色・赤・透明副物粒子・ 黒色副物粒子	体部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。 付高台。	秋田産
10-00663 130	須恵器 埴	P1内 1/3柄	口(20.0)・胴19.6・ 胴(21.8)	遺・赤・黄褐色・赤・白色粒子・透 明副物粒子	口縁部は内湾する。紐作り轆轤成形(右回転)。 断面より下位は、縦位の覆りを施す。	秋田産 秋田産
10-00664 130	須恵器 羽釜	P1内 破片	底6.5	遺・赤・黄褐色・赤・透明副物粒子・ 黒色副物粒子	外面は縦位の覆り。内面は轆轤(右回転)成形。	秋田産か
10-00665 130	施釉陶器 反輪 瓦	甕土内 破片	口(17.7)	遺・緑・灰白・赤・夾雑物微	轆轤成形(右回転)。施釉は刷毛塗りか。	東海産
10-00666 130	施釉陶器 反輪 瓦	甕土内 破片	厚0.3	遺・緑・灰白・赤・夾雑物微	轆轤成形(右回転)。施釉方法は不明。	東海産

## 第2節 発見された遺構・遺物

10-00667 131	須恵器 羽釜	床直間 1/4焼	口(17.0)・肩(21.2) ・胴(22.0)	酸・泥・鈍黄褐色・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	胴上平部・口縁部は内湾。内面は轆轤型。外面 には粘土層の積層。下位は縦位の重なり。	秋田産
40-00063	鉄器 干針	覆土内 破片	残存長1.8・幅2.0・ 厚2.1g		錆化は少ないが形状等は不分明。	

## 第47号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 と保存度	量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は灰目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00658 131	須恵器 黒色土陶器	床直間上	口(17.2) 胴(15.2)	泥・酸・黒・黄・赤・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	口縁部は外縁する。組作り後轆轤成形(右回転)。 胴部より下位は、縦位の重なりを施す。	底不詳
10-00659 131	須恵器 足高白台	覆土内 破片	底(16.6)	酸・軟・鈍黄褐色・赤・白色微粒子・ 赤褐色微粒子	轆轤成形型(右回転)。	底不詳 墨書-18
10-00670 131	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚1.7	泥・酸・灰・黄・シルト粗粒子・黒色 微粒子	一枚作り。凸面は単軸結条体の顕明き筋文。	秋田産
10-00671 131	瓦 女瓦	P <sub>1</sub> 内 破片	狭軸幅22.8・厚2.3	泥・酸・灰・黄・シルト粗粒子・黒色 微粒子	一枚作り。凸面は単軸結条体の顕明き筋文。両印 きは丁字状。側面は面取り2回と裏面仕上げ。	秋田産

## 第48号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 と保存度	量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は灰目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00672 131	須恵器 瓶	瓶頸 3/4焼	口13.2・高4.9・底5.9	泥・酸・灰・黄・黒色微粒子・白色微 粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部はやや 外反する。轆轤右回転成形。底面は回転糸切り。	秋田産
10-00673 131	須恵器 黒色土陶器	床直間 完全形	口12.6・高3.8・底6.8	泥・酸・黒・灰・赤・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	体・口縁部は縦筋的に立ち上がり。底部は回転糸 切り後周面を回転重なり。轆轤成形型右回転。	秋田産か
10-00674 131	須恵器 鉢	壺内 2/3焼	口14.9・高4.9・底6.9	泥・酸・灰・黄・透明鉱物粒子・黒色 鉱物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短 く外反する。轆轤右回転成形。付高台。	秋田産
10-00675 131	須恵器 鉢	P <sub>1</sub> 内 完全形	口13.5・高3.1・底7.6	泥・酸・灰・黄・黒色微粒子・白色微 粒子・透明鉱物粒子	体・口縁部は縦筋的に立ち上がり。轆轤右回転成 形。付高台。器面全体が風化する。	秋田産
10-00676 131	須恵器 鉢	壺内 破片	口(22.0) 胴(20.4)	酸・軟・鈍黄褐色・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	口縁部は外縁する。組作り後轆轤成形(右回転)。 胴部より下位は、縦位の重なりを施す。	秋田産
10-00677 131	須恵器 鉢	壺内 破片	口(15.2) 胴(10.8)	酸・軟・鈍黄褐色・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	胴部は立ち下り下に重なりを施す。内面は轆轤(右回 転)型。	秋田産

## 第49号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 と保存度	量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は灰目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00678 131	須恵器 杯	覆土内 1/2焼	口(13.0)・高3.6・底 (6.8)	泥・酸・白灰・赤・白色微粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は外 反する。轆轤右回転成形。底面は回転糸切り。	秋田産
10-00679 131	須恵器 壺	覆土内 1/2焼	口(13.5)	泥・酸・灰・白・赤・透明鉱物粒子・ 黒色微粒子・白色微粒子	体部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部はやや外 反する。轆轤右回転成形。付高台。	秋田産
10-00680 131	須恵器 鉢か	覆土内 破片	底6.8	酸・軟・鈍黄褐色・赤・赤褐色微粒子 黒色微粒子	轆轤成形型右回転。	秋田産か
10-00681 131	須恵器 鉢	覆土内 破片	口(13.6)・胴(12.0) ・胴(14.2)	酸・軟・鈍黄褐色・透明鉱物粒子・ 黒色微粒子	口縁部は外縁する。組作り後轆轤成形(右回転)。 胴部より下位は、縦位の重なりを施す。	秋田産
10-00682 131	須恵器 鉢	壺内 破片	口(17.0) 胴(15.6)	酸・軟・鈍黄褐色・赤・白色微粒子・透 明鉱物粒子	口縁部は外縁する。組作り後轆轤成形(右回転)。 胴部より下位は、縦位の重なりを施す。	秋田産
10-00683 131	須恵器 小形壺	床直間 破片	口11.1・胴12.5・底 7.1・高11.3	酸・軟・鈍黄褐色・透明鉱物粒子・ 黒色微粒子	口縁部は外縁する。組作り後轆轤成形(右回転)。 成形時に斜め状の工具を用いる。	秋田産
10-00684 131	須恵器 壺	覆土内 破片	口(17.2)・胴(15.8) ・胴(18.2)	泥・酸・鈍黄褐色・赤・白色微粒子	口縁部は外縁する。組作り後轆轤成形(右回転)。 胴部より下位は斜位の重なりを施す。	秋田産
10-00685 131	須恵器 壺	覆土内 破片	口(17.0) 胴(15.0)	泥・酸・鈍黄褐色・赤褐色微粒子・透明 鉱物粒子	口縁部は外縁する。組作り後轆轤成形(右回転)。 胴部より下位は、縦位の重なりを施す。	秋田産
10-00686 131	須恵器 壺	床直間 破片	口(20.2)・胴(18.8) ・胴(22.4)	酸・軟・鈍黄褐色・赤・赤褐色微粒子・ 白色微粒子	口縁部は外縁する。組作り後轆轤成形(右回転)。 胴部より下位は、縦位の重なりを施す。内面は轆轤 を施す。	秋田産
10-00687 131	須恵器 壺	床直間 破片	口(21.8) 胴(20.2)	中・泥・鈍黄褐色・赤・赤褐色微粒子・ 透明鉱物粒子	口縁部は外縁する。組作り後轆轤成形(右回転)。	秋田産
10-00688 131	須恵器 壺	壺内 破片	底(2.4)	酸・軟・鈍黄褐色・透明鉱物粒子・ 黒色微粒子	外面は縦位の連続的な重なり。内面は縦筋の顕 明な重なりを施す。	不詳(秋 田産か)
10-00689 132	須恵器 壺	覆土内 破片	底(19.7)	中・泥・灰・黄・赤・白色微粒子・透 明鉱物粒子・黒色微粒子	組作り後轆轤成形(右回転)。	不詳
10-00690	陶胎陶器 灰胎 鉢	覆土内 破片	口(12.8)	泥・酸・灰・白・赤・鈍黄褐色	轆轤成形型(右回転)。焼成方法は不明。	東海産
10-00691 132	瓦 男瓦	溝 瓦 型破片	厚1.8	泥・酸・灰・黄・シルト微粒子・鈍状 シルト	手轆作り。凸面は轆轤成形赤糸痕6明線に残る。 側面は面取り3回。側面は面取り1回。	秋田産
10-00692 132	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.9	泥・酸・灰・黄・黒色微粒子・鈍状シ ルト	手轆作り。凸面は轆轤成形赤糸痕が明瞭に残る。 側面は面取り2回。側面は面取り3回。	秋田産
10-00693 132	瓦 男瓦	壺内 破片	厚2.0	シルト・鈍黄褐色・シルト微粒子・鈍状 シルト	手轆作り。凸面は轆轤成形赤糸痕が明瞭に残る。 側面は面取り2回。側面は面取り1回。	秋田産
10-00694 132	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.5	泥・酸・灰・白・黄・黒色微粒子	手轆作り。凸面は轆轤成形赤糸痕が明瞭に残る。 側面は面取り2回。	秋田産
10-00695 132	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.4	泥・酸・灰・黄・鈍状シルト	手轆作り。凸面は顕明き(単軸結条状)後轆轤成形。 顕明きは底縁程度に認められる。側面は面取り2回。	秋田産
10-00696 132	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚1.7	泥・酸・灰・黄・シルト微粒子・鈍状 シルト・赤褐色微粒子	手轆作り。凸面は顕明き(単軸結条状)後轆轤成形。 顕明きは底縁程度に認められる。側面は面取り3回。	秋田産

## 第6章 中里見原遺跡

10-00697 132	瓦 左型 1/2型	竪石類	厚1.8	遺・灰・灰・並・黒色粒子・シルト	一枚作り。凸面は単純輪条体の丁字状隅印が施文。凹面は土板割ぎ取り痕・積り痕。側面は取付口2回。	秋田産
10-00698 133	瓦 瓦 1/2型	竪石類	厚1.7	遺・灰・灰・並・黒色粒子・シルト	一枚作り。凸面は単純輪条体の丁字状隅印が施文。凹面は土板割ぎ取り痕・積り痕。側面は取付口2回。	秋田産
10-00699 133	瓦 右型 1/4型	竪石類	厚2.1	遺・灰・灰・並・シルト質・シルト	一枚作り。凸面は単純輪条体の隅印が施文。側面は取付口2回。	秋田産
10-00700 133	瓦 左型 並1/4型	竪石類	厚1.9	灰・軟・黄・並・赤褐色粒子・シルト	一枚作り。凸面は単純輪条体の隅印が施文。凹面は土板割ぎ取り痕。側面は取付口1回。	秋田産
10-00701 134	瓦 右型 1/4型	竪石類	厚2.0	遺・灰・灰・並・塊状シルト・シルト	一枚作り。凸面は単純輪条体の隅印が施文。凹面は土板割ぎ取り痕。側面は取付口2回。	秋田産
10-00666 133	礫石 礫石 完形	覆土内	長15.1・幅13.3・厚5.8・重1,570g	粗粒輝石安山岩	表面積の平坦面に磨滅が認められる。	

## 第50号住居跡出土遺物

遺物番号 採取番号	遺物種類	出土層位 遺存層	寸法 目目 (cm) 目目 (g)	構成・色調・胎土 (石割材は厚目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00702 134・158	須恵系 埴 瓦	P、内下層 部分の欠損	口12.7・高4.8・底6.9	中・並・鈍黄褐色・並・細砂粒・チャート	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部はやや外反する。輪縁右側面成型。側面は取付口1回。	不詳 番号19
10-00703 134	須恵系 埴 瓦	床直層 1/3型	口(13.2)・高5.4・底5.6	遺・軟・灰白・並・黒色粒子・白色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上平部はやや外反する。輪縁右側面成型。付高台。	不詳 番号20
10-00704 134・158	須恵系 埴 瓦	覆土内 破片	厚0.4	中・並・浅黄・並・黒色鉱物粒子・細砂粒	輪縁成型(右回転)。	秋田産
10-00705 133	須恵系 埴 瓦	覆土内 破片	厚10.4	灰・遺・並・灰・並・黒色粒子	継作り後輪縁成型(右回転)。付高台。	秋田産
10-00706 133	須恵系 埴 瓦	覆土内 破片	厚0.6	遺・並・灰・青・夾雑物微	継作り後輪縁成型(右回転)。	秋田産
10-00707 134	須恵系 埴 瓦	P 1内 破片	口(15.7)・類(14.0)・ 類(14.4)	中・並・鈍黄褐色・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	口縁部は外傾する。継作り後輪縁成型(右回転)。 側面より下方に位置の取付口を施す。	秋田産
10-00708 134	須恵系 埴 瓦	覆土内 破片	口(18.8)	灰・並・男黄褐色・並・黒色鉱物粒子・ 細砂粒	口縁部は丸く外傾する。継作り後輪縁成型(右回転)。 側面より下方に、縦位の取付口を施す。	秋田産か
10-00709 134	須恵系 埴 瓦	覆土内 破片	口(20.6)	中・並・鈍黄褐色・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子	口縁部は丸く外傾する。継作り後輪縁成型(右回転)。 側面より下方に、横位の取付口を施す。	秋田産
10-00710 134	須恵系 埴 瓦	覆土内 破片	口(21.2)・ 類(18.4)	灰・並・鈍黄褐色・透明鉱物粒子・黒色 鉱物粒子	幅約70の字状口縁。輪縁成型(右回転)。	秋田産
10-00711 134	須恵系 埴 瓦	覆土内 破片	口(21.2)・類(18.2)・ 類(21.6)	灰・並・鈍黄褐色・並・透明鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子・白色粒子	口縁部は丸く外傾する。継作り後輪縁成型(右回転)。 側面より下方に、縦位の取付口を施す。	秋田産か
10-00712 134	須恵系 埴 瓦	覆土内 破片	口(23.0)・類(20.8)・ 類(25.0)	中・並・灰黄・並・夾雑物微	側面は薄く、側面は外傾する。継作り後輪縁成型(右回転)。 側面より下方に、縦位の取付口を施す。	秋田産
10-00713 134	埴 瓦 完形	覆土内 完形	口14.3・高5.6・底7.4	遺・細・灰白・青・夾雑物微	輪縁成型(右回転)。施物は側面塗り。	東海産
10-00714 134	埴 瓦 完形	覆土内 完形	口(12.8)	遺・細・灰白・青・夾雑物微	輪縁成型(右回転)。施物は側面塗り。	東海産
10-00715 134	埴 瓦 完形	床直層 破片	高8.1	遺・細・灰白・青・夾雑物微	輪縁成型(右回転)。施物は側面塗り。	東海産
10-00716 134	瓦 男瓦 1/2型	覆土内 破片	厚2.0	遺・硬・暗灰・並・シルト粒子・結 晶シルト・白色微粒子	手造り作り。凸面は輪縁成型条痕が明確に残る。 側面は取付口3回。	秋田産
10-00717 134	瓦 男瓦 1/2型	覆土内 破片	厚2.7	遺・硬・暗灰・並・結晶シルト・黒 色粒子	手造り作り。凸面は隅印(単純輪条状)後輪縁成型。 隅印は取付程度に認められる。側面は取付口3回。	秋田産
10-00718 134	瓦 男瓦 1/2型	床直層 破片	厚2.0	遺・硬・暗灰・並・結晶シルト・黒 色粒子	手造り作り。凸面は隅印(単純輪条状)後輪縁成型。 隅印は取付程度に認められる。側面は取付口4回。	秋田産
10-00719 135	瓦 男瓦 1/2型	床直層 破片	厚2.2	灰・軟・黄・並・シルト粗粒子・ チャート凹粒	手造り作り。凸面は輪縁成型条痕が明確に残る。 側面は取付口2回。	秋田産
10-00720 135	瓦 男瓦 1/2型	床直層 破片	厚1.6	遺・並・灰黄・並・白色微粒子	手造り作り。凸面は輪縁成型条痕が明確に残る。 側面は取付口2回。	秋田産
10-00721 135	瓦 男瓦 1/2型	覆土内 破片	厚1.7	中・並・灰黄・並・シルト粗粒子・ 塊状シルト	手造り作り。凸面は隅印(単純輪条状)後輪縁成型。 隅印は取付程度に認められる。側面は取付口2回。	秋田産
10-00722 135	瓦 男瓦 1/2型	床直層 破片	厚1.7	灰・軟・浅黄褐色(二次焼成)・並・ 赤褐色粒子	手造り作り。凸面は隅印(単純輪条状)後輪縁成型。 隅印は取付程度に認められる。側面は取付口2回。	秋田産
10-00723 135	瓦 男瓦 1/2型	床直層 破片	厚2.0	遺・並・灰白・並・シルト粗粒子・ 塊状シルト	一枚作り。凸面は単純輪条体の隅印が施文。側面 は無磨で仕上げ。凹面は土板割ぎ取り痕。	秋田産
10-00667 135	礫石 叩き石	覆土内 完形	長14.2・幅6.7・厚5.5 ・重848g	粗粒輝石安山岩	両小口に集中打痕が認められる。	
10-00668 135	礫石 完形	床直層 破片	長13.1・幅9.2・厚5.5 ・重949g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨滅が認められる。両小口には集中 打痕が認められる。	
10-00669 135	礫石 完形	床直層 破片	長17.2・幅9.6・厚6.1 ・重1,158g	粗粒輝石安山岩	片面の平坦面に磨滅が認められる。両小口には集中 打痕が認められる。	
10-00670 136	礫石 1/2型	床直層 破片	残存長13.0・幅13.8 ・厚10.4・重2,310g	粗粒輝石安山岩	中央で切断されている。片面の平坦面に磨滅が認め られる。小口に集中打痕が認められる。	

## 第51号住居跡出土遺物

遺物番号 採取番号	遺物種類	出土層位 遺存層	寸法 目目 (cm) 目目 (g)	構成・色調・胎土 (石割材は厚目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00724 135	須恵系 埴 瓦	電線沿床 直層破片	口(20.2)・類(18.0)・ 類(21.2)	灰・並・明赤褐色・並・透明鉱物粒子・ 白色微粒子	「コ」の字状口縁。側面は丸。外側は取付口を施し、 内側は無磨で成形。	吉井・藤 岡産



第2節 発見された遺構・遺物

10-00725	土師製 甕	底直線 破片	口(20.3)・腹(18.9)・底(4.6)	黄・赤・明茶褐・黄・透明鉱物粒子・白色微粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕を残す。外面は黒厚りを施し、内面は黒厚りを施し、内面は黒厚り整形。	吉井・藤岡産
10-00726	土師製 甕	底直線 破片	口(20.6)・腹(18.0)・底(23.0)	黄・赤・黄・黄・透明鉱物粒子・白色微粒子	「コ」の字状口縁。厚厚は冠。外面は黒厚りを施し、内面は黒厚り整形。	吉井・藤岡産
10-00727	須恵器 甕	底直線 1/4残	口(12.5)・高2.6・底(7.0)	黄・赤・灰・黄・黒色微粒子	胴部は黒厚り状で丸味が強い。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底面は回転未切り。	秋岡産
10-00728	須恵器 甕	底直線 破片	口(13.3)・高2.9・底(7.2)	黄・赤・灰・白・黄・黒色微粒子	胴部は黒厚り状で丸味が強い。口縁部は直線的。轆轤右回転成形。底面は回転未切り。	秋岡産
10-00729	須恵器 甕	底直線 破片	口13.4・高3.7・底7.6	黄・赤・灰・白・黄・黒色微粒子(焼成の歪曲著)	厚厚に薄。体部は丸く口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底面は回転未切り。	秋岡産
10-00730	須恵器 甕	底直線 破片	口(13.6)・高2.9・底7.4	黄・赤・灰・黄・黄・透明鉱物微(有機質が付着する)	胴部は丸味を帯び、体・口縁部は薄く直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底面は回転未切り。	秋岡産 豊前21
10-00731	須恵器 甕	底直線 破片	口(13.4)・高3.4・底(8.0)	黄・赤・灰・黄・黒色微粒子・白色微粒子(焼成の歪曲著)	厚厚に薄。口縁部は直線的な作り。	秋岡産
10-00732	須恵器 甕	底直線 破片	口14.4・高4.2・底8.4	黄・赤・灰・黄・黒色微粒子	体・口縁部は薄く丸味を帯び立ち上がり、口唇部はやや外反する。轆轤右回転成形。付高台。	秋岡産
10-00733	須恵器 甕	底直線 破片	底9.1	黄・赤・灰・黄・赤褐色微粒子	内面に有機質が付着する。轆轤右回転成形。付高台。	秋岡産
10-00734	瓦	瓦瓦	厚1.6	黄・赤・黄・灰・黄・シルト粗粒子	一枚作り。凸面は単純扇条体の「丁」字状隅印。凹面は横溝。側面取取り2回。	秋岡産
40-00064	鉄器	覆土内 破片	長10.2・幅7.3・厚4.0		鋼片押。	
10-00071	漆器	覆土内 破片	長17.6・幅6.8・厚4.4・重940g	粗粒輝石安山岩	縦着な使用痕等認められなかった。	

第52号住居跡出土遺物

遺物番号 返収番号	遺物種 類	出土部位 寸法	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・粘土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	備考
10-00735	土師製 甕	底直線 破片	底5.6	黄・赤・鈍赤褐・黄・透明鉱物粒子・黒色微粒子	器内外面は縦位の黒厚りを施す。	吉井・藤岡産
10-00736	須恵器 甕	底直線 破片	口(7.4)・底(7.0)	黄・赤・灰・黄・黒色微粒子	紐作り後轆轤整形(右回転)。器内外面に有機質が付着する。	秋岡産
10-00737	須恵器 甕	覆土内 破片	口(30.4)・底(30.5)	黄・赤・灰・黄・白色微粒子・透明鉱物粒子	口縁部は開いている。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は取り付け。	秋岡産か 豊前産

第53号住居跡出土遺物

遺物番号 返収番号	遺物種 類	出土部位 寸法	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・粘土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	備考
10-00738	須恵器 甕	底直線 破片	口12.6・高4.2・底6.1	黄・赤・灰・黄・黒色微粒子・白色微粒子	厚厚に薄。体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底面は回転未切り。	秋岡産
10-00739	須恵器 甕	底直線 破片	口(13.6)・高4.7・底(6.8)	黄・赤・灰・黄・透明鉱物粒子・黒色微粒子	厚厚に薄。体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。付高台。	秋岡産
10-00740	須恵器 甕	底直線 破片	口14.1・高5.7・底6.9	中・黄・灰・黄・黄・透明鉱物粒子・黒色微粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上半部はやや外反する。轆轤右回転成形。付高台。	秋岡産
10-00741	須恵器 甕	覆土内 破片	口14.1・高5.2・底7.2	黄・赤・灰・白・黄・黒色微粒子・白色微粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。付高台。	秋岡産
10-00742	須恵器 甕	底直線 破片	口(14.6)・高5.6・底(6.5)	黄・赤・灰・黄・黄・透明鉱物粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。付高台。	秋岡産
10-00743	須恵器 甕	底直線 破片	口14.1	黄・赤・灰・黄・白色微粒子・黒色微粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。付高台。	秋岡産
10-00744	須恵器 甕	底直線 破片	底6.5	中・赤・黄・黄・黄・透明鉱物粒子・黒色微粒子	胴部・体部は丸味が強い。轆轤右回転成形。付高台。	秋岡産
10-00745	土師製 甕	底直線 破片	口(10.0)・高12.8・底(6.0)	黄・赤・鈍赤・黄・透明鉱物粒子・黒色微粒子	「コ」の字状口縁。口縁部に成形時の粘土の接合痕を残す。外面は黒厚りを施し、内面は黒厚り整形。	吉井・藤岡産
10-00746	土師製 甕	底直線 破片	口(19.8)・底(9.2)	黄・赤・明茶褐・黄・透明鉱物粒子・黒色微粒子	「コ」の字状口縁。厚厚は冠。外面は黒厚りを施し、内面は黒厚り整形。	吉井・藤岡産
10-00747	須恵器 甕	底直線 破片	口(20.4)・腹(19.2)・底(21.6)	黄・赤・鈍赤・黄・透明鉱物粒子・赤褐色微粒子	口縁部は外傾。紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部より下は、縦位の黒厚りを施す。器底は黒化黒着。	秋岡産
10-00748	須恵器 甕	底直線 破片	口(21.0)・腹(20.4)・底(22.0)	黄・赤・鈍赤・黄・赤褐色微粒子・透明鉱物粒子	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部より下は、縦位の黒厚りを施し、内面は黒厚りの黒化黒着。	秋岡産
10-00749	須恵器 甕	底直線 破片	口25.4・高18.7・底8.6・底16.7	黄・赤・灰・黄・黄・黒色微粒子・白色微粒子・自然粘付着	紐作り後轆轤整形(右回転)。立ち上がり部は縦位の黒厚り、胴部は焼成以前に欠損修整されている。	秋岡産
40-00065	鉄器	覆土内 破片	残存長2.6・幅1.5・底3.1g		大刀子の鋒か。	
10-00066	鉄器	覆土内 破片	残存長6.1・幅3.8・厚2.4		鋼片押の破片。	
10-00750	瓦	瓦瓦	厚1.3	黄・赤・黄・灰・黄・黒色微粒子・白色微粒子	半片作り。凸面は轆轤成形扇条痕が明顯に残る。側面取取り2回。	秋岡産
10-00751	瓦	瓦瓦	厚1.6	黄・赤・灰・黄・黄・シルト粗粒子・白色微粒子	半片作り。凸面は鈍印(単純扇条状)後轆轤整形。鈍印きは縦溝程度に認められる。側面取取り2回。	秋岡産
10-00752	瓦	瓦瓦	厚1.5	黄・赤・灰・黄・シルト粗粒子	半片作り。凸面は鈍印(単純扇条状)後轆轤整形。鈍印きは縦溝程度に認められる。側面取取り2回。	秋岡産
10-00753	瓦	瓦瓦	厚1.9	黄・赤・黄・黄・赤褐色微粒子・高黒石英	一枚作り。凸面は単純扇条体の「丁」字状隅印。凹面は横溝。側面取取り2回。	秋岡産

第6章 中里見原遺跡

10-00754 138	瓦 瓦瓦	甍右袖 3/4枚	厚2.2	遺・軟・灰白・黄・黒色粒子・シルト粗粒子	一枚作り。凸面は単純輪帯体の脚取りの「丁」字状施文。側部は直線。每個部面取りは1回。	伏倒産
10-00755 138	瓦 瓦瓦	甍右壁 破片	厚1.6	遺・黄・灰白・黄・シルト粗粒子・塊状シルト	一枚作り。凸面は単純輪帯体の脚取り。凹面腰骨直。每個面取り1回。	伏倒産
10-00756 138	瓦 瓦瓦	甍内 破片	厚1.7	遺・軟・橙・黄・赤褐色粒子・シルト粗粒子	一枚作り。凸面は単純輪帯体の脚取り。凹面腰骨直。每個面取り2回。	伏倒産
10-00072 139	礎石 礎石	床直層 定形	長15.9・幅13.9・厚7.7・重2,460g	粗粒輝石安山岩	一部に割れ込められ、縁辺に集中打痕が認められる。	

第54号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存位置	量目 (目)	構成・色調・胎土 (石素材は量目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00757	土師器 環	甍土内 破片	口(11.0)	黄・黄・鈍黄・黄・透明黒物粒子・黒色黒物粒子	体部は小単位の間敷で施す。口縁部・内面は横敷で施す。	産不詳
10-00758 138	須恵器 環	床直層上 部分欠損	口9.8・高3.3・底4.6	黄・軟・鈍黄・粗・黒色黒物粒子	体部は丸味が強い。口縁部は直線的で、口唇部は外反する。轆轤右回転成形。底部は回転糸切り。	産不詳
10-00759 138	須恵器 環	甍土内 1/4枚	口(10.2)・高3.6・底5.3	中・黄・灰黄・粗・黒色黒物粒子 粗砂粒	中・黄・灰黄・粗・黒色黒物粒子粗砂粒	産不詳
10-00760 138	須恵器 環	床直層上 部分欠損	口13.2・高4.8・底6.4	黄・軟・鈍黄・粗・黒色黒物粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がり、口唇部はやや外反。轆轤右回転成形。底部は回転糸切り。	伏倒産か
10-00761 139	須恵器 高輪陶器 内蓋 破片	床直層上 2/3枚	口15.6・高5.7・底7.9	黄・黄・軟・粗・透明黒物粒子・黒色黒物粒子	全体に丸味が強い。内面に研削を施し横敷。外面口縁部も横敷する。轆轤右回転成形。付高台。	産不詳
10-00762 139	高輪陶器 灰物 破片	床直層上 1/4枚	口(16.2)・高6.4・底(8.2)	黄・緑・灰白・密・夾雑物	轆轤成形形(右回転)。施物は浸透け。	産不詳
10-00763 139	高輪陶器 灰物 破片	床直層上 1/2枚	底(8.5)	黄・緑・灰白・密・夾雑物	轆轤成形形(右回転)。施物は浸透け。	産不詳
10-00764 139	須恵器 瓦	床直層上 瓦	口(25.0) 厚(27.0)	黄・黄・黒成(難し)・黄・高濃石英	口縁部はほぼ水平直に立ち上がる。継作り後轆轤成形(右回転)。貫は付け。	産不詳
10-00765 139	瓦 瓦瓦	甍土内 破片	厚1.5	中・黄・灰黄・黄・シルト粗粒子・塊状シルト	手裁作り。凸面は脚取り(単純輪帯形)後轆轤成形。脚取りも直線程度に認められる。	伏倒産
10-00766 139	瓦 瓦瓦	床直層 破片	厚1.5	黄・緑・灰・黄・白色粒子	一枚作り。凸面は単純輪帯体の脚取り「丁」字状施文。側部面取り1回。	伏倒産
10-00767 139	瓦 瓦瓦	甍土5面 裏土面片	厚1.7	黄・緑・灰・黄・黄色粒子・塊状シルト	手裁作り。凸面は脚取り(単純輪帯形)後轆轤成形。脚取りも直線程度に認められる。側部面取り3回。	伏倒産
10-00768 139	瓦 瓦瓦	甍土内 破片	厚2.0	黄・緑・灰・黄・黄色粒子・塊状シルト	手裁作り。凸面は脚取り(単純輪帯形)後轆轤成形。脚取りも直線程度に認められる。側部面取り4回。	伏倒産
10-00769 139	瓦 瓦瓦	甍土5面 裏土面片	厚1.5	黄・軟・橙・黄・赤褐色粒子	一枚作り。凸面は単純輪帯体の脚取り施文。凹面腰骨直。	伏倒産

第57号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存位置	量目 (目)	構成・色調・胎土 (石素材は量目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00770 139	須恵器 環	床直層上 定形	口12.0・高3.8・底6.3	黄・軟・鈍黄・黄・黒色黒物粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底部は回転糸切り。	伏倒産か

第55号住居跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存位置	量目 (目)	構成・色調・胎土 (石素材は量目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00771 139	須恵器 環	甍土内 破片	口(12.2)・高4.4・底(5.6)	黄・黄・鈍黄・黄・黒色黒物粒子・小高濃石英	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は中や外反する。轆轤右回転成形。底部は回転糸切り。	伏倒産か
10-00772 139	須恵器 環	甍土内 破片	口(13.2)・高3.7・底(6.4)	黄・黄・鈍黄・中や粗・赤褐色粒子・黒色黒物粒子(内黒胎土)	体・口縁部は直線的に立ち上がり、口唇部は肥厚する。轆轤右回転成形。底部は回転糸切り。	産不詳
10-00773 139	須恵器 環	甍土内 破片	口(11.6)・高4.0・底(4.6)	黄・黄・鈍黄・中や粗・赤褐色粒子・黒色黒物粒子(内黒胎土)	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は中や外反する。轆轤右回転成形。底部は回転糸切り。	産不詳
10-00774 139	須恵器 環	甍土内 2/3枚	口11.8・高4.8・底5.6	黄・黄・鈍黄・黄・緑石・黒色黒物粒子	厚層は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。底部は回転糸切り。	産不詳
10-00775 139	須恵器 環	甍土内 1/3枚	口(12.8)・高3.9・底(3.9)	黄・軟・灰・粗・黒色黒物粒子・白色黒物粒子	体部は直線的に立ち上がり、口唇部はやや外反し。轆轤右回転成形。底部は回転糸切り。	伏倒産か
10-00776 139	須恵器 環	甍土内 1/4枚	口(13.4)・高(5.4)	黄・軟・灰白・黄・夾雑物	体部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部はやや外反する。轆轤右回転成形。付高台。	伏倒産
10-00777 139	須恵器 環	甍土内 破片	口(16.0)・高(6.4)	黄・黄・黄・密・夾雑物	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁上平部は外反する。轆轤右回転成形。付高台。	伏倒産か
10-00778 139	須恵器 環	甍土内 1/3枚	口(15.8)・高4.8・底2.3	黄・軟・灰・粗・小顆・白色粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。付高台。	伏倒産
10-00779 140	須恵器 環	P5内 破片	口(20.2)・高(18.8)・厚(23.2)	黄・黄・黄・黄・夾雑物	口縁部は外傾する。継作り後轆轤成形(右回転)。側部より下位は、数段の横敷で覆覆り施す。	伏倒産 伏倒産
10-00780 139	須恵器 破片	甍土内 破片	口(20.0)・厚(24.0)・高(23.6)	黄・黄・灰・黄・白色粒子・黒色黒物粒子	胴上平部は内傾し、口縁部は内傾する。貫は貼り付け。轆轤成形右回転。	伏倒産
10-00781 139	須恵器 破片	甍土内 破片	高(9.0)	黄・黄・明黄・粗・透明黒物粒子・黒色黒物粒子・白色粒子	内面は轆轤成形。外面は数段の覆覆りを施す。轆轤成形右回転。	伏倒産
10-00782 140	瓦 瓦瓦	甍土内 破片	厚1.4	中・軟・灰黄・黄・赤褐色粒子	手裁作り。凸面は轆轤成形形が明瞭に残る。側部面取り1回。	伏倒産
10-00783 140	瓦 瓦瓦	甍左袖 破片	厚2.0	黄・軟・灰・黄・シルト粗粒子	手裁作り。凸面は轆轤成形形が明瞭に残る。側部面取り3回。	伏倒産

10-00784 140	瓦 瓦葺	床直層 破片	厚2.4	泥・軟・灰白・並・シルト顆粒子	半軟作り、凸面は櫛歯状成形全面が明確に残る。 側面凹取り2回。	秋開産
10-00785 140	瓦 瓦葺	覆土内 破片	厚1.6	泥・硬・暗灰・並・シルト顆粒子・ 黒色粘土	一枚作り、凸面は単純球形体の隅取り無し。側面 凹取り3回。	秋開産
10-00786 140	瓦 瓦葺	覆土内 破片	厚0.9	酸・並・鈍黄橙(二次焼成)・並・織 状シルト	半軟作り、凸面は隅取り(単純球状)後櫛歯状形 成。隅取りは磁粉程度に認められる。側面凹取り2回。 一枚作り、凸面は単純球形体の「丁」字状隅取り。 凹面階状・粘土板割り取り。側面凹取り1回。	秋開産
10-00787 140	瓦 瓦葺	覆土内 破片	厚2.1	泥・硬・暗灰・並・シルト顆粒子・ 塊状シルト・黒色粘土	一枚作り、凸面は単純球形体の隅取り無し。側面 凹取り3回。	秋開産
10-00788 140	瓦 瓦葺	覆土内 破片	厚2.0	泥・並・灰茶褐・並シルト顆粒子・ 白色粘土	一枚作り、凸面は単純球形体の隅取り無し。側面 は直線仕上げ。	秋開産
20-00073 140	石製品 磁石	床直層 破片	残存長5.8・幅4.7・ 厚3.0・重108g	磁鉄石	4面に使用が認められる。研ぎ減りは中央に向か いスロープ状。置き低み。	
40-00067	鉄滓	覆土内 破片	長6.0・幅6.2・厚2.3・ 重11.7g		鋼滓滓の破片。	

## 第56号住居跡出土遺物

遺物番号 /図録番号	遺物種 別	出土層位 層	量 目(cm) (g)	構成・色調・粘土 (石素材は度目目)	形状・技法等の特徴	調査
10-00289 140	煎茶器 環	P内 部分欠損	口12.6・高4.2・底6.3	泥・軟・灰・並・透明鉱物粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がり。櫛歯右回転成 形。直線は凹面凹取り。	秋開産
10-00290 140	煎茶器 床直面上 塊	口(13.8)・高5.2・底 (6.7)	泥・軟・灰・並・透明鉱物粒子・透 明鉱物粒子	器身は丸味を帯びる。体・口縁部は直線的に立ち 上がる。櫛歯右回転成形。付高台。	秋開産	
10-00291 140	煎茶器 塊	口(13.9)・高5.1・底 (6.2)	泥・硬・灰・並・シルト粒子	器身は薄い。体・口縁部は丸味を帯び立ち上り。 櫛歯右回転成形。付高台。	秋開産	
10-00292 141	煎茶器 覆方内 塊	口(14.0)・高5.0・底 (6.2)	泥・硬・灰白・並・黒色粘土	器身は薄い。体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口 縁上平部は外反する。櫛歯右回転成形。付高台。	秋開産	
10-00293 141	煎茶器 塊	口(14.2)・高4.9・底 (7.5)	泥・並・灰・並・シルト粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。櫛歯右回転成 形。付高台。	秋開産	
10-00294 141	煎茶器 短冊蓋	覆方内 破片	口(10.0)	中・軟・灰黄・並・透明鉱物粒子・ 黒色粘土	器身は薄い。口縁部は直立的。	秋開産
10-00295 141	煎茶器 覆土内 塊	口(13.4) 重(12.6)	中・軟・灰黄・並・透明鉱物粒子・ 黒色粘土	器身は薄い。側上平部は内傾して立ち上がり、口縁 部は外反して立ち上る。櫛歯成形右回転。	秋開産	
10-00296 141	煎茶器 覆土内 塊	口(21.2) 重(18.4)	酸・並・灰・並・透明鉱物粒子	口縁部は外反する。紐作り後櫛歯成形(右回転)。 頸部より下位は、櫛歯の裏面に施す。	秋開産	
10-00297 141	煎茶器 蓋	口(20.4)重(17.8)割 (22.0)	酸・硬・鈍灰・並・夾雑物	口縁部は外傾する。紐作り後櫛歯成形(右回転)。側部 は丸味が強い。頸部より下位は、直線の裏面に施す。	秋開産	
10-00298 141	煎茶器 覆土内 破片	口(22.6)・高(20.2) 重(22.6)	泥・並・鈍灰・並・透明鉱物粒子・ 赤褐色粘土	覆方「コ」の字状口縁。紐作り後櫛歯成形(右回転)。 器内外櫛歯成形が残る。	秋開産	
10-00299 141	瓦 瓦葺	覆土内 破片	狭幅幅14.7・厚1.7	泥・並・灰・並・シルト顆粒子・粗 砂	半軟作り、凸面は隅取り(単純球状)後櫛歯状形 成。隅取りは磁粉程度に認められる。側面凹取り3回。	秋開産
10-00300 141	瓦 瓦葺	瓦 瓦葺	厚1.5	泥・硬・灰・並・赤褐色粘土・シ ルト顆粒子	半軟作り、凸面は隅取り(単純球状)後櫛歯状形 成。隅取りは磁粉程度に認められる。側面凹取り2回。	秋開産
10-00301 141	瓦 瓦葺	覆土内 破片	厚1.5	泥・硬・暗灰・並・織状シルト	半軟作り、凸面は隅取り(単純球状)後櫛歯状形 成。隅取りは磁粉程度に認められる。側面凹取り2回。	秋開産
10-00302 141	瓦 瓦葺	覆土内 破片	厚1.4	泥・硬・灰・並・茶褐色粘土	半軟作り、凸面は櫛歯状成形全面が明確に残る。 凹面凹取り1回。	秋開産
40-00068	鉄滓	床直層 不詳	厚0.35・重11.7g		外形は磁石に準ずるが、写部構造に異質がある。	
40-00069 141	鉄器 釘	覆土内 先端欠損	残存長11.7・幅0.9		部分的に錆化による剥落が認められる。	

## 第2号壺穴状遺構出土遺物

遺物番号 /図録番号	遺物種 別	出土層位 層	量 目(cm) (g)	構成・色調・粘土 (石素材は度目目)	形状・技法等の特徴	調査
10-00003 142	煎茶器 環	底直面上 完形	口11.7・高3.4・底5.0	泥・並・灰・並・生土色(10-00004と 同じ土)・軽石	器身は薄い。体部は丸味を帯び、口縁部は直線的 に伸びる。櫛歯右回転成形。直線は凹面凹取り。	産不詳
10-00004 142	煎茶器 環	覆土内 破片	口(11.8)・高3.8・底 (5.7)	中・軟・灰黄・並・生土色(10-00003 と同じ土)・軽石	体部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部はやや外反 する。櫛歯右回転成形。直線は凹面凹取り。	産不詳
10-00005 142	煎茶器 塊	7層内 完形	口12.5・高4.2・底5.0	泥・並・灰・並・黒色粘土	器身は薄い。体部は丸味を帯び立ち上がり、口縁 部はやや外反する。櫛歯右回転成形。付高台。	産不詳
10-00006 142	煎茶器 足高台	覆土内 破片	基部6.2 底8.2	中・軟・灰黄・粗・(内黒粘土)・高 黒石	高台は「ハ」字状に開く。体部はやや丸味を帯び る。櫛歯右回転成形。付高台。	産不詳
10-00007 142・150	地軸陶器 圧込 瓶	7層内 完形	口16.1・高5.2・底8.7	泥・硬・灰白・密・夾雑物	櫛歯状成形(右回転)。蓋軸は掛縄式。	東海産 遺書-22
10-00008 142	圧込陶器 輪花 瓶	7層内 完形	口14.4・高5.1・底7.8	泥・硬・灰白・密・夾雑物	櫛歯状成形(右回転)。蓋軸は掛縄式。	東海産
40-00070	鉄器 釘	底直面上 完形	長5.5・幅0.3・0.7・ 厚0.3・重5.1g		錆化が顕著。頭部は明き溝し。小口を止める釘の 形状。	
40-00071	鉄器 底直面上 釘	残存長2.6・幅0.6・ 厚0.5・重2.8g			錆化が顕著。断面ではやや丸味を帯びた形状を呈 している。	
40-00072	鉄器 底直面上 釘	残存長2.9・幅0.4・0.5 ・厚0.2・重1.4g			錆化が顕著。断面ではやや丸味を帯びた形状を呈 し考えられる。	
40-00073	鉄器 底直面上 釘	残存長2.6・幅0.7・ 厚0.4・重4.9g			錆化が顕著。鉄が木質に附けられている。木質は 花目。	

第6章 中里見取遺跡

40-0074	鉄釘	裏面直上破片	残存長3.1・幅1.8・厚1.2・重4.4g		錆化が顕著。錆が木質に附けられている。木質は程目か。
40-0075	鉄釘	裏面直上破片	残存長4.4・幅1.0・厚0.8・重4.3g		錆化が顕著。錆が木質に附けられている。木質は程目か。

第3号竪穴状遺構出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種類	出土部位 遺存 寸法	重量 (g)	構成・色調・粘土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査 番号
10-0089 143	須恵器 破片	裏土内 破片	口(19.20)	灰・並・鈍黄褐色・並・夾雑物微	類似「㊦」の字状口縁。器厚は薄い。外面は頸部直下から部位の覆附りを施し、内面は磨滅で彫形。	伏見産
10-0010 142	須恵器 破片	裏土内 部分欠損	口13.2・高4.0・底6.3	灰・並・灰白・並・夾雑物微	器厚は薄い。体・口縁部は尖角を帯びて立ち上がる。磨滅右回転成形。底面は回転糸切り。	伏見産
10-0011 150	須恵器 環	裏土内 破片	高7.3	灰・並・灰白・並・白色顔料粒子	器厚は薄い。体より上部は欠損する。	伏見産 番号-23
10-0012 142・150	須恵器 環	裏土内 P,内 欠形	口14.2・高4.4・底6.9	灰・中・灰黄・並・黒色顔料粒子	体・口縁部は尖角を帯びて立ち上がる。磨滅右回転成形。底面は回転糸切り。	伏見産 番号-24
10-0013 142	須恵器 破片	裏土内 2/3残	口13.9・高5.4・底6.8	中・並・灰黄・並・赤褐色粒子	体・口縁部は尖角を帯びて立ち上がる。口縁上部は外反する。磨滅右回転成形。付高台。有機質付着。	伏見産
10-0014 142	須恵器 破片	裏土内 1/3残	口(14.6)・高6.4・底7.2	灰・並・灰・粗・細粒白色顔料粒子・白色顔料	器厚は薄い。体部は尖角を帯び、口縁上部は直線的に立ち上がる。	伏見・蛇 喰支那か 番号-25
10-0015 142・150	須恵器 内底 破片	裏土内 一部欠損	口(15.0)・高5.2・底(7.0)	灰・中・鈍黄褐色・並・微粒雲母・黒色顔料粒子・赤褐色粒子	体・口縁部は尖角を帯び立ち上がり、口縁上部は外反する。磨滅右回転成形。付高台。	伏見産
10-0016 143	須恵器 破片	裏土内 1/3残	口(15.0)・高4.5・底(9.0)	灰・並・灰白・並・黒色粒子	器厚は薄い。体部は直線的。口縁部はやや外反する。磨滅右回転成形。底面は回転糸切り。	伏見産
10-0017 142	須恵器 破片	裏土内 破片	高9.2	灰・並・灰白・並・夾雑物微	器厚は薄い。磨滅右回転成形。付高台。	伏見産
10-0018 143	須恵器 皿	裏土内 破片	口(12.6)	灰・並・灰・並・黒色粒子	磨滅成形型右回転。	伏見産
10-0019	須恵器 杯小	裏土内 破片	厚9.4	灰・硬・白灰・並・夾雑物微	杯の境の破片に、鉄の塩酸化合物が附着する。	伏見産
10-0020	土製器 土鍋	裏土内 破片	残存長4.1 幅2.0	灰・並・鈍黄褐色・並・透明顔料粒子・黒色顔料粒子	器面全体が風化している。ズングリとした作り。	伏見産
10-0021 142	須恵器 皿	裏土内 1/3残	口(15.2)・高2.5・底8.6	灰・並・外・灰・内・白灰・並・夾雑物(器内面の黒色顔料混成体)	体・口縁部は緩やかに外反する。磨滅右回転成形。付高台。	伏見産 番号-26
10-0022	瓦 女瓦	裏土内 破片	厚1.7	灰・軟・浅黄褐色・並・赤褐色粒子・シルト相粒子	一枚作り。凸面は草筋絡糸体の磨りかた文。側面取持ち3割。	伏見産
40-0076	鉄釘 不詳	裏土内 破片	幅3.5 幅3.6		頭上、上端部が線状的に肥厚している。錆跡か。錆化が顕著。	
40-0077	鉄釘 不詳	裏土内 破片	残存長2.8 幅2.1		鉄片。素材か。製品かの判断は出来ない。	
40-0078	鉄釘 不詳	裏土内 破片	残存長3.8 幅2.6		頭上、左端部以外は調査後の欠損。素材か、製品かの判断は出来ない。	
10-0023	土製器 瓶口	裏土内 破片	径9.8 孔径2.3		瓶かにスサを含む。素地土は可塑性が少ない。夾雑物は少ない。	産不詳
10-0024 143	土製器 瓶口	裏土内 完整	径11.6・径7.5・孔2.1 径		瓶かにスサを含む。素地土は可塑性が弱い。夾雑物は少ない。	産不詳
10-0025	土製器 瓶口	裏土内 一部欠損	径18.2・径6.6・孔径2.3		スサを含む。素地土は可塑性が少ない。夾雑物は少ない。	産不詳
10-0026	土製器 部分欠損	裏土内 部分欠損	残存長11.8・径7.7・孔径2.7		スサを含む。素地土は可塑性が少ない。夾雑物は少ない。	産不詳
10-0027	土製器 瓶口	床面直上 瓶口 完整	径12.8・径7.3・孔径2.2		瓶かにスサを含む。素地土は可塑性が弱い。夾雑物は少ない。	産不詳
10-0028 143	土製器 瓶口	裏土内 部分欠損	残存長・径・孔径		イネ科の植物のスサを多く含む。素地土の可塑性を含む。	産不詳
10-0029 143	土製器 瓶口	床面直上 破片	残存長9.9・径7.1・孔1.1径		瓶かにスサを含む。素地土は可塑性が少ない。夾雑物は少ない。	産不詳
10-0030 143	土製器 瓶口	裏土内 上半欠損	残存長12.5・径7.9・孔径2.2		イネ科の植物のスサを多く含む。素地土の可塑性は低。夾雑物を含む。	産不詳
10-0031 143	土製器 瓶口	裏土内 上半欠損	残存長14.3・径8.4・孔径2.5		瓶かにスサを含む。素地土は可塑性が弱い。夾雑物は極微量。	産不詳
10-0032 143	土製器 瓶口	裏土内 上半欠損	残存長10.0・径7.6・孔径2.1		スサが多い。素地土は粗く可塑性も少ない。夾雑物が多い。	産不詳
10-0033	土製器 瓶口	裏土内 同端欠損	残存長12.8・径7.2・孔径2.2		スサが多い。素地土は粗く可塑性も少ない。夾雑物が多い。	産不詳
10-0034	土製器 瓶口	裏土内 破片	残存長・径・孔径		瓶かにスサを含む。素地土は可塑性が弱い。夾雑物は極微量。	産不詳
40-0079	鉄釘	裏土内 完整	長10.2・幅7.6・厚3.7・重32g		縦伏洋。底面は比較的滑らか。	
40-0080	鉄釘	裏土内 完整	径9.5・幅7.5・厚4.4		縦伏洋。底面は比較的滑らか。	
40-0081	鉄釘	裏土内 完整	長10.0・幅7.8・厚5.2・重40g		縦伏洋。底面は比較的滑らか。	
40-0082	鉄釘	裏土内 完整	長11.7・幅10.2・厚3.3・重41g		縦伏洋。底面は凹凸が顕著。	
40-0083	鉄釘	裏土内 完整	長13.7・幅10.4・厚4.3・重89g		縦伏洋。底面は比較的滑らか。	

## 第2節 発見された遺構・遺物

40-00084	鉄牌	覆土内 完形	長12.9・幅12.9・厚 4.9・重700g		筒状押、底面は凹凸が顯著。	
40-00085	鉄牌	覆土内 完形	長12.8・幅11.3・厚 5.5・重670g		筒状押、底面は凹凸が顯著。	
40-00086	鉄牌	覆土内 完形	長10.7・幅14.1・厚 4.7・重910g		筒状押、底面は比較的滑らか。	

## 第4号壁穴状遺構出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-00835 142	須恵器 環	床直層 1/2残	口(13.0)・高4.6・底 (7.0)	濃・灰・灰白・黒・夾雑物微	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00836 143	須恵器 環	覆土内 破片	高6.6	濃・灰・灰・黒・夾雑物微	轆轤成形右回転。底部は回転糸切り。	秋間産
10-00837 143	須恵器 環	床直層 破片	高6.8	濃・灰・灰・黒・夾雑物微	轆轤成形右回転。底部は回転糸切り。	秋間産
10-00838 142	須恵器 環	床直層 2/3残	口11.2・高5.6・底7.0	濃・灰・灰・やや粗・白色微粒子	腰部・体部は丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成形、底面は回転糸切り。付高台。	秋間産
10-00839 142	須恵器 環	覆土内 一部欠損	口11.2・高5.6・底7.0	濃・灰・灰・黒・黒色微粒子	腰部・体部は丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成形、底面は回転糸切り。付高台。	秋間産
10-00840 143	須恵器 環	覆土内 破片	口(11.9)	濃・灰・灰・黒・黒色微粒子	底部は折り返し、天井部は轆轤回転糸切りを施す。轆轤成形右(右回転)。	秋間産

## 第1号掘立柱建物跡出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-00841 144	須恵器 環	P <sub>1</sub> 高直層 残	底(20.6)	濃・灰・灰白・黒・夾雑物微	轆轤成形右回転。高台は厚身張り後貼り付け。	秋間産

## 第2号掘立柱建物跡出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-00842 144	須恵器 環	覆土内 破片	底(7.6)	濃・灰・灰・黒・夾雑物微	轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00843 144	須恵器 環	覆土内 破片	底(8.2)	濃・灰・灰・黒・黒色微粒子・	轆轤右回転成形、付高台。	秋間産

## 第3号掘立柱建物跡出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-00844 142	須恵器 環	覆土内 破片	底7.0	濃・灰・灰・黒・白色微粒子	轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。糸の張り は細か。	東海産か 秋間産

## 第4号掘立柱建物跡出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-00845 144	須恵器 環	覆土内 破片	厚0.6	濃・灰・暗灰・黒・白色微細粒子	轆轤成形右回転。	東海産か 秋間産

## 第5号掘立柱建物跡出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-00846 144	須恵器 環	環小	厚0.5	濃・灰・灰・黒・黒色微細粒子	轆轤成形右回転。器内外面に灰土層の自然軸付着。	秋間産か
10-00847 144	須恵器 環	覆土内 破片	底(8.0)	濃・灰・灰・黒・黒色微粒子	轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	秋間産
10-00848 144	須恵器 環	覆土内 破片	口(19.4)	濃・灰・灰・黒・夾雑物微	轆轤成形右回転。器厚は薄い。内面に線溝状の 返りがある。	秋間産
10-00849 144	須恵器 環	覆土内 破片	厚1.0	濃・灰・鈍黄褐色・黒・白色微粒子	紐作り後(印き成形)印き具は平行印、宛て具 は背筒状。把手の基部周辺の破片。	秋間産

## 第7号掘立柱建物跡出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 器種	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-00850 144	須恵器 環	覆土内 破片	厚0.8	濃・灰・灰・黒・夾雑物微	紐作り後(印き成形)轆轤(右回転)再整形。	秋間産か 東海産

第6章 中里見原道路

第1号基壇跡 出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 内蔵品	量目 (cm) 目 (g)	焼色・色調・胎土 (石室材は度目標)	形状・技法等の特徴	調査
40-00087	鉄器 環か	1区埋土 内蔵品	径4.9・幅7.7・重0.17 ・重1.8g		有耳平三角形式か。刃部は明確ではない。工具等の製品か。	
10-00851	土器 土師器 環	1区埋土 内1/4残	口(12.0)	黒・黄・鈍黄・並・黒色黏物粒子	高部は寛肩り、口縁部・内面は横溝で整形。体部に煎膚を残す。	吉井・藤岡産
10-00852	土器 須恵系 皿	1区埋土 内2/3残	口(13.4)・高2.0・底 7.1	黒・軟・橙・並・微粒雲母(薄層畑土)	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤成形或整形、付台高。	藤岡産
10-00853	土器 須恵系 皿	1区埋土 内1/2残	径2.0・高2.4・底 (12.2)	黒・並・灰・並・黒色粒子	側部は扁平。端部は折り返し、天井部は轆轤回転 裏面を施す。轆轤成形或整形(右回転)。	伏見産
10-00854	土器 須恵系 皿	1区埋土 内蔵品	径(14.4)	黒・硬・灰白・並・黒色粒子	側部は欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転 裏面を施す。轆轤成形或整形(右回転)。	伏見産
10-00855	陶器 須恵系 鉢	2区埋土 内蔵品	径0.4	黒・軟・黄白灰・密・夾雑物微	轆轤成形或整形(右回転)研ぎを施し整形。施物方法は 不明。	浜北産
10-00856	土器 須恵系 埴	2区埋土 内2/5残	口(15.8)・高8.0・底 (8.7)	黒・並・灰・並・黒色粒子・白色微 粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び立ち上がり、口縁 部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転或整形、付 台高。	伏見産
10-00857	土器 須恵系 環	3区埋土 内蔵品	径0.35	黒・硬・鈍赤・密・細粒高温石英・ 微粒雲母	丸味を帯びた口縁部。外面に斜格子様の意文を施 す。内面は鑿位の研ぎを施す。製入点は壁内か。	製入品
10-00858	土器 須恵系 高飯碗か	3区埋土 内蔵品	径(13.0)	黒・硬・灰・並・黒色粒子	轆轤成形或整形右回転。作りは丁寧でシャープ。	伏見産
10-00859	土器 須恵系 瓦	4区埋土 内蔵品	径1.6	黒・硬・灰白・並・黒色粒子	一枚作り。凸面は単純網格全体の彫りか施文。凹面 粘土板取り取り。側部は取り取り3面+横で1面。	伏見産
10-00860	土器 須恵系 皿	9区埋土 内蔵品	径(16.0)	黒・並・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。端部は折り返し、轆轤成形或整形(右 回転)。	伏見産
10-00861	土器 須恵系 内黒皿か	5区埋土 内蔵品	口(13.6)	黒・並・外・鈍黄緑・内・黒灰・並・ 赤褐色粒子	轆轤成形或整形右回転。内面に研ぎす。	不詳
10-00862	土器 須恵系 埴	6区埋土 内1/4残	口(16.2)・高5.3・底 (8.4)	黒・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、 口唇部は中平外反する。轆轤右回転或整形、付台高。	伏見産
10-00863	土器 須恵系 埴	10区埋土 内蔵品	径(16.2)	黒・硬・灰・並・白色粒子	器厚は薄い。轆轤右回転或整形。付台高。	伏見産
10-00864	陶器 須恵系 灰釉 鉢	10区埋土 内蔵品	径0.35	黒・硬・灰白・密・夾雑物微	轆轤成形或整形(右回転)。施物方法は不明。	東海産
40-00088	鉄器 不詳	10区埋土 内蔵品	残存径5.8・幅2.6・ 重25.5g		錆化が顕著なため、器種の判別困難。判要か。	
10-00865	土器 須恵系 環	12区埋土 内1/3残	口(12.2)・高6.5・底 (7.5)	黒・硬・灰黄・並・黒色粒子	器・体部は丸味を帯び、口縁部は直線的。器高は 低い。轆轤成形或整形右回転。高部は回転起し式。	伏見産
10-00866	土器 須恵系 環	12区埋土 内1/3残	口(13.0)・高3.9・底 (6.9)	黒・軟・灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がり、口唇部 は外反気味。轆轤右回転或整形或整形。底面は回転起し式。	伏見産
10-00867	土器 須恵系 皿か	12区埋土 内蔵品	口(14.0)	黒・硬・灰・並・黒色粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は直立気味に立ち上り する。轆轤成形或整形右回転。皿・蓋か不分明。	伏見産
10-00868	土器 須恵系 皿	12区埋土 内蔵品	径(12.8)	黒・並・灰・並・白色微粒子	端部はやや開く。轆轤成形或整形右回転。	伏見産
10-00869	土器 須恵系 埴	12区埋土 内蔵品	口(20.6)・高(3.6)・底 (12.8)	黒・硬・灰・密・夾雑物微	器厚は薄い。轆轤成形或整形右回転。付台高。	伏見産
10-00870	土器 須恵系 皿	12区埋土 内蔵品	口(15.8)	黒・硬・灰白・並・黒色粒子	器厚は薄い。小形の皿広さか。轆轤成形或整形右回転。	伏見産
10-00871	土器 須恵系 小皿	13区埋土 内蔵品	側径(10.9)	黒・並・灰・並・夾雑物微	器高は厚い。立ち上がりは直線的で肩は丸味を帯 びる。轆轤成形或整形右回転。	伏見産
10-00872	土器 須恵系 皿	13区埋土 内蔵品	口(23.4)	黒・硬・灰白・並・細粒黒色粒子	器厚は薄い。縦溝の網毛線で整形。自然付着。 轆轤成形或整形右回転。	伏見産
10-00873	土器 須恵系 皿	14区埋土 内蔵品	口(13.0)	黒・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。立ち上がりは丸味が強く、口縁部は 外反する。轆轤成形或整形右回転。	伏見産
10-00874	土器 須恵系 小形鉢	13区埋土 内蔵品	口(14.2) 径(13.2)	中・軟・灰黄・並・細粒門微	口縁部は外傾する。縦作り轆轤成形或整形(右回転)。	伏見産
10-00875	土器 須恵系 皿	13区埋土 内蔵品	口(13.4)	黒・並・灰白・並・夾雑物微	器高は厚い。器・体部は丸味が強い。轆轤成形或 整形右回転。	伏見産
10-00876	土器 須恵系 環	16区埋土 内蔵品	口(12.4)・高4.0・底 (7.8)	黒・硬・灰・並・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転 或整形。高部は回転起し式。	伏見産
10-00877	土器 須恵系 皿か	16区埋土 内蔵品	径0.4	黒・並・灰・並・夾雑物微	距離さか工具の傷は判然としな。	伏見産
10-00878	土器 土師器 環	埋土内 蔵品	口(11.4) 底(9.0)	黒・並・鈍黄緑・並・黒色黏物粒子・ (薄層畑土)	高部は寛肩り、口縁部・内面は横溝で整形。体部 に煎膚を残す。	藤岡産
10-00879	土器 土師器 環	埋土内 蔵品	口(11.8) 底(9.0)	黒・軟・鈍黄緑・並・黒色黏物粒子・ (薄層畑土)	高部は寛肩り、口縁部・内面は横溝で整形。体部 に煎膚を残す。	吉井・藤岡産
10-00880	土器 土師器 環	埋土内 蔵品	口(12.0) 底(11.0)	黒・並・鈍黄緑・並・黒色黏物粒子・ (薄層畑土)	口縁部は長い。高部は寛肩り、口縁部・内面は横 溝で整形。体部に煎膚を残す。器厚は薄い。	不詳
10-00881	土器 須恵系 環	埋土内 蔵品	径(10.3)	黒・硬・暗灰・並・夾雑物微	黒茶褐色の有機質が付着する。轆轤成形或整形右 回転。	伏見産
10-00882	土器 須恵系 一部欠損	埋土内 一部欠損	口(11.0)・高6.4・底 3.5	黒・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短 く外反する。轆轤右回転或整形。高部は回転起し式。	伏見産
10-00883	土器 須恵系 皿	埋土内 蔵品	口(11.2)・高3.4・底 (7.0)	黒・硬・灰・並・白色微粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。器内外面に有 機質付着。轆轤右回転或整形。高部は回転起し式。	伏見産
10-00884	土器 須恵系 皿	埋土内 蔵品	口(12.0)・高3.3・底 (7.0)	黒・並・鈍・並・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く外 反する。轆轤右回転或整形。高部は回転起し式。	伏見産
10-00885	土器 須恵系 環	埋土内 1/2残	口(13.0)・高3.6・底 (7.4)	黒・硬・灰・並・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く外 反する。轆轤右回転或整形。高部は回転起し式。	伏見産

## 第2節 発見された遺構・遺物

10-00886 146	須恵器 須恵器 環	埋土内 2/3破片	口(13.2) 环高(8.6)	遺・硬・灰・並・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部はやや外反する。轆轤右回転成型形。底部は回転痕あり。	秋田産
10-00887 145	須恵器 環	埋土内 1/3破片	环高(8.0)	遺・硬・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成型形。高台欠損(付高台)。	秋田産
10-00888 146	須恵器 環	埋土内 破片	环高(8.0)	遺・並・灰・やや粗・黒色粒子	器厚は薄い。大身の現。轆轤右回転成型形。高台欠損(付高台)。	秋田産
10-00889 145	須恵器 環	埋土内 破片	口(14.0)	遺・並・灰・並・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く外反する。轆轤右回転成型形。付高台。	秋田産
10-00890 145	須恵器 蓋	埋土内 1/2破片	径(14.0)	遺・並・外周部・黒灰・内・灰白・並・黒色粒子	頸部欠損。底部は折り返し。天井部は轆轤回転成型形を施す。轆轤成型形(右回転)。	秋田産
10-00891 145	須恵器 蓋	埋土内 1/4破片	径(4.6)	遺・並・灰白・並・夾雑物微	環状部。底部欠損。天井部は轆轤回転成型形を施す。轆轤成型形(右回転)。	秋田産
10-00892	須恵器 蓋	埋土内 破片	径(4.8)	遺・並・灰・並・黒色粒子	環状部。底部欠損。天井部は轆轤回転成型形を施す。轆轤成型形(右回転)。	秋田産
10-00893 145	須恵器 蓋口破	埋土内 破片	径(11.8) 径(7.4)	遺・硬・灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。肩が張る。轆轤成型形右回転。	秋田産
10-00894 145	須恵器 蓋口破	埋土内 破片	径(11.7) 径(9.6)	遺・軟・灰黄・並・夾雑物微	器厚は薄い。肩が張る。轆轤成型形右回転。	秋田産
10-00895 145	須恵器 蓋口破	埋土内 破片	径(9.1)	遺・硬・灰・並・夾雑物微	器厚は非常に薄い。内面に有機質が付着する。轆轤成型形右回転。	秋田産
10-00896 145	須恵器 蓋口破	埋土内 破片	底(10.6)	遺・硬・灰・並・夾雑物微	底部外部は回転痕あり。内部の轆轤目は粗い。轆轤右回転成型形。付高台。	秋田産
10-00897 145	須恵器 蓋	埋土内 破片	底(12.0)	遺・細・灰・並・白色粒子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き。内面環状具は不詳。内面に自然釉付着。	秋田産
10-00898 145	須恵器 横穴	埋土内 破片	厚0.8	遺・細・灰・並・白色微粒子	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き。内面環状具は粗状。	秋田産
10-00899 145	高輪陶器 鉢胎 網	埋土内 破片	厚0.35	遺・軟・灰白・やや粗・夾雑物微	轆轤成型形(右回転)。施胎方法は不明。	浜北産
40-00899	鉄器 不詳	埋土内 破片	幅0.4~0.7・重4.7g		錆化が顕著。断面形状が一樣ではない。	

## 第1号櫛形跡出土遺物

遺物番号 採取番号	遺物種類	出土層位 埋土内	位置 埋土内	目録 目録	目録 目録	構成・色調・粘土 (右素材は埋土目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-00900 146	須恵器 環	1層埋土 内破片	底	8(8.2)	遺・並・灰白・並・夾雑物微		立ち上がりはツヤッ。足込みに黒霞乃至黒肌。また、足込みに有機質が付着する。	秋田産
10-00901 146	須恵器 環	1層埋土 内破片	口	14.5・高4.8・径6.5	軟・軟・黄灰・並・黒色微物粒子		頸部は丸味を帯び、体・口縁部直線的に立ち上がる。	秋田産
10-00902 146	須恵器 環	1層埋土 内破片	口	13.6・高5.4・径6.6	中・軟・灰黄・並・シルト粗粒子・中・灰		体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部はやや外反する。轆轤右回転成型形。付高台。	秋田産
10-00903 146	須恵器 環	1層埋土 内完形	口	15.4・高6.5・径6.7	遺・並・灰・並・夾雑物微		器厚は薄い。体・口縁部は粗粒的に立ち上がる。轆轤右回転成型形。付高台。	秋田産
40-00900	鉄器 不詳	1層埋土 内破片	残存長	3.3 幅1.5			錆化が顕著なため器種等の詳細は不分明。	
40-00901	鉄器 不詳	1層埋土 内破片	残存長	2.2 幅0.5			錆化が顕著。釘の頭部と考えられる。	
10-00904 145	須恵器 環	91坑埋土 内破片	底	(6.0)	遺・並・灰・粗・白色粒子		器厚は薄い。轆轤成型形右回転。底部は回転痕起こし。	秋田産
10-00905 145	須恵器 環	123坑埋土 内破片	底	(6.0)	遺・並・灰・粗・白色粒子		轆轤成型形右回転。底部は回転痕起こし。	秋田産
10-00906 145	土師器 甕	132坑埋土 内破片	口	(20.4) 径(18.2)	軟・並・鈍黄褐・並・黒色微物粒子・細砂粒		口縁部は外反する。外面は真刷り。内面は真刷りで施す。	青井・藤原産

## 第1号道跡出土遺物

遺物番号 採取番号	遺物種類	出土層位 埋土内	位置 埋土内	目録 目録	目録 目録	構成・色調・粘土 (右素材は埋土目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-00907 145	軟質陶器 内耳環	埋土内 破片	厚	0.7	遺・並・灰・並・滑らかな微物粒子・黒色微物粒子		紐作り後轆轤成型形(左回転)。	産不詳
10-00908 145	高輪陶器 鉢胎 皿	埋土内 破片	厚	0.4	遺・細・灰白・並・夾雑物微		轆轤成型形(右回転)。施胎は浸掛け。	美濃産
10-00909 145	高輪陶器 鉢胎 網	埋土内 破片	厚	0.35	遺・細・灰黄・密・夾雑物微		轆轤成型形(右回転)。施胎は浸掛け。	産不詳
10-00910 145	高輪陶器 天目鉢	埋土内 破片	厚	0.5	遺・硬・灰・並・夾雑物微		内面口縁部は不目を呈する。轆轤成型形(右回転)。施胎は浸掛け。	産不詳
10-00911 145	高輪陶器 鉢胎 片鉢	埋土内 破片	厚	0.8	遺・硬・灰・並・夾雑物微		口縁部は玉縁。轆轤成型形右回転。	産不詳
10-00912 145	高輪陶器 鉢胎 網	埋土内 破片	厚	0.4	遺・硬・灰・並・夾雑物微		轆轤成型形右回転。	産不詳
10-00913 145	高輪陶器 鉢胎 網	埋土内 破片	厚	0.5	遺・硬・灰・並・夾雑物微		轆轤成型形右回転。	産不詳
10-00914 145	高輪陶器 鉢胎 不詳	埋土内 破片	厚	0.9	遺・硬・灰・並・夾雑物微		鉄胎と透明釉の掛け分け。轆轤成型形右回転。	産不詳
10-00915 145	高輪陶器 鉢胎 土瓶	埋土内 破片	厚	0.35	遺・硬・灰・並・夾雑物微		外面は鉄絵だが、意匠は不詳。内面は真刷。轆轤成型形右回転。	産不詳

## 第6章 中里見原遺跡

10-00916 145	磁器 白磁皿	埋土内 破片	厚0.35	瀬・灰・赤	器厚は薄い、磁釉の回転方向も不詳。	産不詳
-----------------	-----------	-----------	-------	-------	-------------------	-----

### 第1号基跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	構成・色調・胎土 (石素材は度量目録)	形状・技法等の特徴	概要
40-00052 146	喫煙具 煙管	埋土内 完形	長4.4・火皿径1.6・ 重7.0g		反りはややある。火皿は大き目。罫字の挿入部分 だけが残存する。	
40-00053 160	貨幣 銅銭	埋土内 完形	径2.4・重3.0g		寛永通貨。背面は無紋。	
40-00054 160	貨幣 銅銭	埋土内 完形	径2.4・重3.0g		寛永通貨。背面は無紋。	
40-00055 160	貨幣 銅銭	埋土内 完形	径2.4・重3.0g		寛永通貨。背面は無紋。	
40-00056 160	貨幣 銅銭	埋土内 完形	径2.4・重3.0g		寛永通貨。背面は無紋。	
40-00057 160	貨幣 銅銭	埋土内 完形	径2.2・重3.0g		寛永通貨。背面は無紋。	
40-00058 160	貨幣 銅銭	埋土内 完形	径2.3・重2.0g		寛永通貨。背面は無紋。	
40-00059 160	貨幣 銅銭	埋土内 完形	径2.3・重3.0g		寛永通貨。背面は無紋。	
40-00100 160	貨幣 銅銭	埋土内 完形	径2.3・重3.0g		寛永通貨。背面は無紋。	
40-00161 160	貨幣 銅銭	埋土内 完形	径2.4・重3.0g		寛永通貨。背面は無紋。	
40-00162 ~00166	貨幣 銅銭	埋土内 完形	径2.4・重18g		寛永通貨。5枚が錆により錯着している。	写真図版 160

### 第3号基跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	構成・色調・胎土 (石素材は度量目録)	形状・技法等の特徴	概要
40-00167 146	喫煙具 煙管	埋土内 完形	長4.5・火皿径1.5・ 重4.0g		反りは殆どない。火皿も要領した様に小さく、付け根は 太い。罫字の切り込み部は錆により欠損する。	
40-00168 146	喫煙具 吸口	埋土内 完形	残存長5.9・径0.4~ 0.9・重2.0g		吸口部分が錆化により途している。40-00168と対 をなすと判断される。	
40-00169 146	鉄器 不詳	埋土内 破片	残存長3.6・幅3.5・ 厚0.25・重12.0g		部分的な錆化が認められるが、器種等は判断でき ない。	

### 第4号基跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	構成・色調・胎土 (石素材は度量目録)	形状・技法等の特徴	概要
10-00917 146	陶軸 灰軸筒形	埋土内 完形	径36.9・高4.2・底3.0	瀬・灰・灰白・並・夾雑物微	罐腹成筒形(右回転)。陶軸は浸透け。	表裏底か
40-00110 146	鉄器 不詳	埋土内 破片	残存長5.1・幅0.3~ 0.5・重2g		器の上半には木質が錆化により錯着している。釘 の可能性が高い。	
40-00111 146	喫煙具 煙管	埋土内 完形	長4.8・火皿径1.7・ 重10g		反りは殆どない。火皿も要領した様に小さく、付 け根は太い。罫字が切り込み状態で残存している。	
40-00112 146	喫煙具 吸口	埋土内 完形	残存長4.6・幅0.45~ 1.2・重4g		吸口は狭い。罫字が切り込み状態で残存している。	

### 第5号基跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	構成・色調・胎土 (石素材は度量目録)	形状・技法等の特徴	概要
10-00918 145	陶付能器 飯碗	埋土内 破片	口径12.0	瀬・緑・乳白・密	膳装具類の給付け。図柄は地雲と燈籠か。破片の ための詳細不明。	産不詳

### 調査区東斜面基地跡出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	構成・色調・胎土 (石素材は度量目録)	形状・技法等の特徴	概要
10-00919	陶片 灰物短丸鉢	表土層 破片	底(11.8)	瀬・並・灰赤リブ・並	内面の輪飾帯の単位は細い。見込み目録が明 る。	産不詳
10-00920	陶片 灰物仏飯碗	表土層 完形	径36.8・高5.6・底3.8	瀬・並・灰白・並・夾雑物微	脚部下半部分は胴体。基部は回転削り角を施す。 器厚は極薄い。	産不詳
10-00921	磁器 急須	表土層 完形	幅11.9 高6.6	瀬・緑・乳白・密	底部は上打筋。注ぎ口の先端の一部は欠損する。	産不詳
10-00922	磁器 焼口	表土層 完形	径3.4・高3.4・底2.2	瀬・緑・乳白・密	給付けは無い。裏文。	産不詳
10-00923	磁器 磁碗	表土層 1/2残	径7.1・高4.7・底3.0	瀬・緑・乳白・密	口縁部中位の表裏面に呉漆による給付け。図柄は 不詳。	産不詳
10-00924	磁器 焼口	表土層 完形	径7.1・高3.1・底2.6	瀬・緑・乳白・密	赤給付け。口唇部から2単位で梅花文を赤給付け。 間に輪飾(変珠(?)を施す。	産不詳



10-0925	細網織物 線布	表土層 破片	口(12.2)	漆・緋・乳白・密	口縁部は平坦で、給付けを施す。胴部に依る給付け。胴縁は密と緋が、距離不定。	産不詳
10-0926	給付細網織物	表土層 完形	口11.5・高5.9・底3.9	漆・緋・乳白・密	左右に胴縁で風置を密と緋、中央に胴縁で風置を置く。10-0927(夫船草紙)に、	産不詳
10-0927	給付細網織物	表土層 破片	口11.5・高6.0・底3.9	漆・緋・乳白・密		産不詳
10-0928	給付細網織物	表土層 完形	口11.6・高5.8・底4.2	漆・緋・乳白・密	胴縁で花を縦向きした意匠と、胴縁の木の葉を交互に彫り付けた意匠を施す。	産不詳
10-0929	給付細網織物	表土層 1/3残	口(12.0)	漆・緋・乳白・密	銅版染付け。寄をベロ藍に、葉を銅版で施す。	産不詳
10-0930	給付細網織物	表土層 完形	口12.2・高4.9・底4.2	漆・緋・乳白・密	印取染付け。外面に微塵草紙、内面口唇部から環状文を垂下させる。	産不詳
10-0931	給付細網織物	表土層 完形	口11.5・高4.2・底3.6	漆・緋・乳白・密	印取染付け。外面に微塵草紙、内面口唇部から環状文を垂下させ、見込みに寄と微塵草紙を施す。	産不詳
10-0932	給付細網織物	表土層 完形	口11.5・高4.2・底3.6	漆・緋・乳白・密	外面に葉の葉を給付け、見込みに「壽」を描く。	産不詳
10-0933	給付細網織物	表土層 広葉草紙	口10.7・高5.7・底4.1	漆・緋・乳白・密	外面に給付けを施す。模様部分の残りが少ないため、意匠は不詳。	産不詳
10-0934	給付細網織物	表土層 完形	口11.2・高6.6・底6.0	漆・緋・乳白・密	外面に竹を描く。	産不詳

## 第1号古墳出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 重量目(g)	構成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	調査
10-0935 147	土師器 壺	Ae-C直上 完形	口21.4・高13.2・胴 径32.4・高47.5・底 14.7	酸・黄・赤・やや粗・粗砂粒・透明 紫物粒子・黒色紫物粒子・靑石	底面は厚く焼成後の穿孔。胴中に最大径を有し、口縁部は「く」の字に立ち上がる。胴下半は横位の襷無で施す。胴部は縦位に網毛無で施した後、日本一単位の波状文・幾何文を施す。口縁部内外面は横位の研磨を施す。外面は赤色顔料塗彩を施す。	安中市近郊の粘土か
10-0936 148	土師器 直口壺	覆土内 破片	口6.3・高7.6・底4.4	酸・黄・鈍黄・密・白色粒子	穿孔は焼成後、やや厚く網毛の胴部に、短く口縁部は立ち上がる。外面は横位の網毛無で施す。	産不詳
10-0937 148	土師器 壺	Ae-C直上 完形	胴径(14.4)	酸・黄・鈍黄・赤・白色紫物粒子	扁平気味の胴の胴部に多量に環状文を2段に施す。外面は赤色顔料塗彩を施す。	産不詳
10-0938 148	土師器 壺	覆土内 1/4残	口(10.0)・胴(6.0)・ 底(17.2)	酸・黄・鈍黄・赤・白色紫物粒子	内面は横位の襷無で。外面は全体に網毛無で施す。外面・口縁部内面に赤色顔料塗彩を施す。	産不詳
10-0939 148	土師器 壺	覆土内 破片	口(11.4)・胴(9.4)・ 底(19.0)	酸・黄・鈍黄・赤赤褐色粒子・透明 紫物粒子・黒色紫物粒子・靑石	丸みの強い胴部に2段口縁が立ち上がる。外面・口縁部内面に研磨・赤色顔料塗彩を施す。	産不詳
10-0940 148	土師器 壺	溝遺直上 層部分欠	口19.2・高12.0・胴 径27.4・高26.6・底9.1	酸・黄・鈍黄・赤・白色粒子・黒色 紫物粒子	扁平気味の胴部は、横位の網毛無で。胴部周辺縦位の網毛無で施すように横位の襷無で。口縁部は「く」の字に立ち上がる。内面は横位の襷無で。外面に赤色顔料塗彩を施す。底面は波状穿孔。	産不詳
10-0941 147	土師器 壺	Ae-C直上 完形	口21.6胴12.2胴35.3 高41.6底12.2	酸・黄・鈍黄・赤・粗砂粒・透明 紫物粒子・黒色紫物粒子・靑石	やや膨らみ気味の胴部から、「く」の字状に複合口縁が外反して立ち上がる。胴・口縁部外面は、横位の網毛無で後縁部に研磨を施す。内面は横位の襷無で、口縁部は横位に研磨を施す。外面は赤色顔料塗彩を施す。	安中市近郊の粘土か
10-0942 148	土師器 壺	覆土内 破片	胴径(32.2)	酸・黄・鈍黄・赤・粗砂粒・黒色紫 物粒子	やや膨らみ気味の最大径の位置が高い。外面は小単位位の襷無で施す。内面は横位の襷無で。外面は斜位の研磨を施す。内面は横位の研磨を施す。	産不詳
10-0943 148	土師器 壺	覆土内 破片	底7.4	酸・黄・鈍黄・赤・粗砂粒・白色 紫物粒子	底面はやや上げ底。外面は横位の研磨を施す。内面は縦位の襷無で小口での襷無で施す。	産不詳
10-0944 148	土師器 壺	覆土内 破片	底3.8	酸・黄・鈍黄・赤・黒色紫物粒子	底面はやや上げ底。外面は横位の研磨を施す。内面は縦位の襷無で小口での襷無で施す。	産不詳
10-0945 148	土師器 壺	覆土内 破片	底8.4	酸・黄・鈍黄・赤・白色粒子・透 明紫物粒子	球形割か、立ち上りの丸みは強い。外反は縦位の網毛無で施す。内面は縦位の襷無で施す。	産不詳

## 東斜面石組み遺構出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 重量目(g)	構成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	調査
10-0946	軟質陶器 埴輪	覆土内 破片	口厚1.3 底厚0.5	漆・赤・鈍黄・赤・黒色紫物粒子透 明紫物粒子	厚作り、口縁部は肥厚する。横に焼成。表面にコンクリートが付着する。	産不詳
10-0947	軟質陶器 土管	覆土内 破片	底(18.5)	酸・黄・鈍黄・赤・靑石	縦向き成形品。被熱している可能性がある。	産不詳
10-0948	石製品 壺	覆土内 部分欠損	高12.3・幅5.4・厚2.0	頁岩	除部の中央が使用に伴い窪んでいる。表面は磨痕と「山久」を刻する。	産不詳

## 第145号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量目 (cm) 重量目(g)	構成・色調・胎土 (石素材は度量目)	形状・技法等の特徴	調査
10-0949 149	硬質陶器 埴輪	最上面直上 2/3残	口17.3・高7.4・底 10.5	漆・赤・黄・赤・黒色粒子	胎厚は薄い。胴部は縦向き割り、体・口縁部直線の。底面は縦向き割り。縦線は割成り成形。底面は縦向き割り。	秋田産

## 第6章 中里見原遺跡

### 第166号土坑出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種類 器種	出土層位 遺存層	度量 目(cm) 量目(g)	焼成・色調・粘土 (石炭材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-09850 149	土師器 甕	遺跡直上 層 破片	口(21.0) 底(21.6)	酸・並・鈍赤褐色・並・細粒砂	器厚は薄い。底部印を見ず。頸部より下位は横位の寛肩。口縁部に粘土の接合痕。	藤岡産

### 第198号土坑出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種類 器種	出土層位 遺存層	度量 目(cm) 量目(g)	焼成・色調・粘土 (石炭材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-09951 149	須恵器 蓋	覆土内 1/2残	縦3.8・高3.3・端12.2	濃・硬・灰・並・白色粒子・黒色粒子	胴部欠損。端部は折り返し。天井部は轆轤右回転製用りを施す。轆轤成形形(右回転)。	秋田産
10-09952 149	須恵器 環	覆土内 2/3残	口(11.2)・高3.8・底6.6	濃・硬・灰白・並・白色微粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成形形。底部は回転未切り。	秋田産
10-09953 149	須恵器 環	覆土内 破片	口(12.2)・高3.89・底(6.4)	濃・硬・灰・並・黒色粒子・白色粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成形形。底部は回転未切り。	秋田産
10-09954 149	須恵器 環	覆土内 2/3残	口(12.8・高4.3・底7.0)	濃・硬・外・黒灰・内・灰白・並・夾雑物微(器外面の黒色燻し焼成)	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成形形。底部は回転未切り。	秋田産
10-09955 149	須恵器 埴	覆土内 1/2残	口(14.8・高8.4・底9.0)	濃・並・灰・並・黒色粒子・白色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び、口縁部直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形形。行高台。	秋田産
10-09956 149	須恵器 広口瓶少	覆土内 破片	径9.8 底(15.6)	濃・硬・灰・並・白色微粒子	紐作り印が弱く、器内面に死鼠痕が認められる。轆轤成形形(右回転)。	秋田産
10-09957	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚1.0	濃・締・暗灰・並・高品位石英	紐作り印が強い。器内面は平行。器内面は船状の圧痕が残る。	秋田産

### 第205号土坑出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種類 器種	出土層位 遺存層	度量 目(cm) 量目(g)	焼成・色調・粘土 (石炭材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-09958 149	土師器 環	覆土内 完形	口(11.4・高3.2・底8.6)	酸・並・橙・並・黒色微粒子	型作り。底部は寛肩。器内面・口縁部は横傷で、体部に凹溝を残す。	吉井・藤岡産
10-09959 149	土師器 付台甕	覆土内 完形	口(11.6・高14.9・底8.6)	酸・並・鈍黄・並・細粒砂・白色粒子・黒色微粒子	脚は短く。肩が張り、「く」の字状に口縁部が外反して立ち上がる。	吉井・藤岡産
10-09960 149	須恵器 蓋	覆土内 部分欠損	縦4.2・高4.1・端16.8	濃・並・灰・並・黒色粒子・白色粒子	胴部欠損。端部欠損。天井部は轆轤右回転製用りを施す。轆轤成形形(右回転)。	秋田産
10-09961 149	須恵器 環	覆土内 2/2残	口(12.6・高2.9・底7.4)	濃・締・灰・並・黒色粒子・白色粒子 シルト粗粒子	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成形形。底部は回転未切り。	秋田産
10-09962 149	須恵器 環	覆土内 2/2残	口(13.2・高2.9・底8.6)	濃・締・灰・並・黒色粒子	胴部欠損。器内面に筋着。轆轤右回転成形形。底部は回転未切り。	秋田産
10-09963 149	須恵器 環	覆土内 部分欠損	口(13.5・高3.3・底7.8)	濃・締・灰・並・黒色粒子・白色粒子	体・口縁部は丸味を帯び、口唇部は短く外反。轆轤右回転成形形。底部は回転未切り。	秋田産
10-09964	須恵器 環	覆土内 破片	口(14.8)	濃・硬・灰・並・夾雑物微	体部は丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形形。底部は回転未切り。	秋田産
10-09965	須恵器 瓶	覆土内 破片	径(7.6)	濃・締・灰・並・黒色粒子・白色粒子	外傾しながら立ち上がる。紐作り印が強い。轆轤成形形(右回転)。	秋田産
20-00074	埴器	覆土内 完形	長20.6・幅8.6・厚5.9 ・重1,296g	粗粒輝石安山岩	顕著な使用痕跡が認められない。	

### 第213号土坑出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種類 器種	出土層位 遺存層	度量 目(cm) 量目(g)	焼成・色調・粘土 (石炭材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-09966 149	土師器 環	覆土内 2/3残	口(11.6 底16.0)	酸・並・鈍黄・並・黒色微粒子	器厚は薄い。型作り。器厚は寛肩。器内面・口縁部は横傷で、体部に凹溝を残す。	吉井・藤岡産
10-09967 149	土師器 環	覆土内 1/2残	口(12.0)・高3.7・底(9.6)	酸・並・鈍黄褐色・並・黒色微粒子	型作り。底部は寛肩。器内面・口縁部は横傷で、体部に凹溝を残す。	藤岡産

### 第318号土坑出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種類 器種	出土層位 遺存層	度量 目(cm) 量目(g)	焼成・色調・粘土 (石炭材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-09968	須恵器 大甕	遺跡直上 層 破片	厚1.3	濃・締・灰・並・白色微粒子・白色微粒子	紐作り印が強い。器内面は平行印。器内面はては長方形。器内面横傷での再整形。	秋田産
10-09969 149	土師器 高面直上 層2/3残	遺跡直上 層2/3残	口(12.7・高3.3・底9.2)	酸・並・明褐色・並・黒色微粒子・微粒長石	型作り。底部は寛肩。器内面・口縁部は横傷で、体部に凹溝を残す。	吉井・藤岡産
10-09970	須恵器 蓋	高面直上 層 破片	縦(16.2)	濃・硬・灰・並・黒色粒子	胴部欠損。端部は折り返し。天井部は轆轤右回転製用りを施す。轆轤成形形(右回転)。	秋田産
10-09971	須恵器 三	高面直上 層 破片	口(16.2)	濃・並・灰・並・黒色粒子	轆轤成形形(右回転)。口唇部は平直。脚部は欠損する。	秋田産
10-09972	須恵器 瓶	高面直上 層 破片	厚1.0	酸・並・外・黒灰・内・灰白・並・黒色粒子(器外面の黒色燻し焼成)	紐作り印が強い。器内面は平行印。器内面はては長方形。器内面は平行印。	秋田産

## 第2節 発見された遺構・遺物

## 第737号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-00973	須恵器 環	覆土内 部1次	□(11.4)・高3.6・底 (8.2)	濃・灰・灰・白化粧・ 黒色粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轡轡右回転 成形。底部は平持ち型。	秋田産
10-00974	須恵器 環	覆土内 部1次	□(16.6)	濃・灰・灰・白・白灰・黒・白 色粒子(器外部の黒色焼し焼成)	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯び、口唇部は 外反する。轡轡右回転成形。高台欠損。	秋田産
10-00975	須恵器 環	覆土内 部1/2残	楕3.2・高3.4・幅 (18.6)	濃・灰・灰・黒・黒色粒子	頸部は傾伏。底部は内凹し、天井部は轡轡右回 転成形を施す。重ね焼しの痕跡がある。	秋田産
10-00976	須恵器 環	覆土内 部1/3残	楕4.2	濃・灰・灰・黒・黒色粒子	筒状輪。縁部欠損。天井部は轡轡右回転削りを施 す。轡轡成形形(右回転)。	秋田産

## 第747号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-00977 150	須恵器 環	底面直上 層3/4残	□112.5・高4.4・底6.7	酸・黒・鈍黄・黒・黒色・黒色軟物 粒子	外部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轡轡右回 転成形形、付高台。見込み無成形。	産不詳
10-00978 150	須恵器 環	底面直上 層一部欠	□114.0・高5.1・底7.4	酸・黒・淡黄・黒・黒色軟物粒子・ 白色軟物粒子	外部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轡轡右回 転成形形、付高台。	産不詳

## 第748号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-00979 150	須恵器 環	底面直上 層1次	□10.9・高3.8・底4.4	酸・黒・鈍赤・黒・黒色軟物粒子・ 赤褐色粒子	体・口縁部は丸味を帯び、口唇部は短く外反。轡 轡右回転成形形。底部は回転未切り。	吉井・藤 田産
10-00980	須恵器 環	底面直上 層 破片	□(12.8)	酸・黒・黒・黒・シルト質	体・口縁部は直線的。口唇部は短く外反。轡轡右回 転成形形。底部は回転未切り。	藤田産
10-00981	須恵器 環	底面直上 層1/4残	□13.2・高3.4・底5.9	酸・黒・灰・黒・黒色軟物粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轡轡右回転成形形。底部は回転未切り。	産不詳
10-00982 150	須恵器 環	底面直上 層1/2残	□12.6・高4.5・底7.1	濃・黒・灰・黒・高濃石灰・岩片多 量	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轡轡右回転成形形、付高台。	産不詳
10-00983 150	須恵器 環	底面直上 層 完形	□13.9・高6.8・底8.5	酸・硬・粉・黒・夾雑物・比重重 い	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轡轡右回転成形形、長めの付高台。	産不詳
10-00984 150	須恵器 環	底面直上 層2/3残	□15.1・高6.3・底6.8	酸・硬・鈍黄・黒・白色軟物粒子・ チャート片	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轡轡右回転成形形、付高台。	吉井産か
10-00985 150・150	須恵器 環	底面直上 層一部欠	□12.8・高4.6・底7.1	酸・黒・鈍黄・黒・黒色軟・鉄片 を含む	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は中 外反する。轡轡右回転成形形、付高台。	吉井産か 藤田・28
10-00986 150	須恵器 環	底面直上 層2/3残	□14.8・高5.2・底 5.6	濃・黒・灰・黒・シルト質	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がり、口唇部は短く 外反する。轡轡右回転成形形、高台欠損。	産不詳
10-00987 150	須恵器 環	底面直上 層 破片	楕5.8	中・軟・灰・黒・シルト粗粒子	器外部は傾伏・傾位の痕跡あり。器内部は轡轡目が 顕著。組作り後轡轡成形(右回転)。	秋田産
10-00988 150	須恵器 環	底面直上 層 破片	楕7.7	中・軟・灰・黒・透明軟物粒子・ 黒色軟物粒子	轡轡成形形右回転。	秋田産か

## 第767号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-00989 150	須恵器 環	覆土内 部3/4残	□112.3・高4.3・底7.5	濃・黒・灰・黒・黒色粒子	体・口縁部は直線的。口唇部は外反する。轡轡右回 転成形形。底部は回転未切り。	秋田産
10-00990 150	須恵器 環	覆土内 部1次	□114.4・高7.5・底8.9	濃・灰・灰・黒・黒色粒子	外部は丸味を帯び、口縁部は直線的。頸部は回転 削り。轡轡右回転成形形、付高台。	秋田産

## 第955号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-00991	須恵器 環	覆土内 部2/3残	□(13.0)・高3.5・底 7.6	濃・灰・灰・黒・黒色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は直線的。 轡轡右回転成形形。底部は回転未切り。	秋田産
10-00992	須恵器 環	覆土内 部1次	□(12.0)	濃・灰・灰・黒・黒色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は外反する。 轡轡右回転成形形。	秋田産
10-00993	須恵器 環	覆土内 部1次	□(14.2)	濃・灰・灰・黒・黒色粒子	器厚は薄い。口縁部は直線的に立ち上がる。轡轡 右回転成形形。	秋田産

## 第795号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-00994	須恵器 環	覆土内 部1次欠	□112.4・高4.4・底7.0	濃・黒・灰・白・黒・夾雑物	器厚は薄い。体・口縁部は直線的に立ち上がる。 轡轡右回転成形形。底部は回転未切り。	秋田産
10-00995	須恵器 環	覆土内 部1次	楕(12.4) 厚0.6~1.1	濃・灰・灰・黒・黒色粒子	組作り後轡轡成形(右回転)。	秋田産

## 第6章 中里見原遺跡

### 第819号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 保存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-00996 150-159	須恵器 内無 2/3残	甕土内 破片	□13.5・高6.2・底5.8	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
				酸・黄・赤・黒色磁物粒子	体部がやや収る。轡輪成形形器。器内面は研削を施す。轡輪右回転成形。付高台。	産不詳 遺品-29

### 第824号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 保存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-00997 150	須恵器 内 3/4残	甕土内 破片	□19.1・高2.9・底5.4	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
				酸・黄・赤・黒色磁物粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯び口縁部は外反する。轡輪右回転成形。器底は回転未切り。	産不詳
10-00998 150	須恵器 内 3/4残	甕土内 破片	□13.6・高5.1・底6.7	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
				酸・黄・赤・黒色磁物粒子	体・口縁部は丸味を帯びる。轡輪右回転成形。器底は回転未切り。	産不詳

### 第872号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 保存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-00999 150	須恵器 内 完全形	甕面直上 完全形	□12.2・高4.0・底7.4	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値) <td>形状・技法等の特徴</td> <td>概要</td>	形状・技法等の特徴	概要
				酸・黄・赤・黒色磁物粒子	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は外反。轡輪右回転成形。器底は回転未切り。	秋岡産

### 第874号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 保存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
20-00075 151	石製品 約輪車	甕面直上 完全形	上径4.2・下径3.2・ 厚1.7・孔径0.85・重 60g	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値) <td>形状・技法等の特徴</td> <td>概要</td>	形状・技法等の特徴	概要
				蛇紋岩	上面を著しく欠損する。上面には、「女・母・母」の縦列文字が認められる。	

### 第999号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 保存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01000 151	赤土式時 器	甕面直上 破片	□(12.0) 割破(15.8)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値) <td>形状・技法等の特徴</td> <td>概要</td>	形状・技法等の特徴	概要
				酸・黄・赤・黒色磁物粒子・白色磁物粒子	口縁部は内傾する。菱形の沈線区画内に充満したLRを施す。	産不詳
10-01001 151	赤土式時 器	甕面直上 破片	径9.8 割破(24.8)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値) <td>形状・技法等の特徴</td> <td>概要</td>	形状・技法等の特徴	概要
				酸・黄・赤・黒色磁物粒子・白色磁物粒子	器底は丸味を帯び、口縁部は外反する。轡輪右回転成形。器底は回転未切り。	産不詳
10-01002 151	赤土式時 器	甕面直上 破片	径6.2 割破(24.6)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値) <td>形状・技法等の特徴</td> <td>概要</td>	形状・技法等の特徴	概要
				酸・黄・赤・黒色磁物粒子	器底は丸味を帯び、口縁部は外反する。轡輪右回転成形。器底は回転未切り。	産不詳
10-01003 151	赤土式時 器	甕面直上 破片	径7.8 割破(24.6)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値) <td>形状・技法等の特徴</td> <td>概要</td>	形状・技法等の特徴	概要
				酸・黄・赤・黒色磁物粒子・白色磁物粒子・黒色磁物粒子・透明磁物粒子	器底は丸味を帯び、口縁部は外反する。轡輪右回転成形。器底は回転未切り。	産不詳

### 第991号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 保存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01004	赤土式時 器	甕土内 破片	厚9.7	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値) <td>形状・技法等の特徴</td> <td>概要</td>	形状・技法等の特徴	概要
				酸・黄・赤・黒色磁物粒子	4条本一単位位の伏線文を施す。	産不詳
10-01005	須恵器 内 破片	甕土内 破片	径6(4.6)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値) <td>形状・技法等の特徴</td> <td>概要</td>	形状・技法等の特徴	概要
				酸・黄・赤・黒色磁物粒子	轡輪右回転成形。高台欠損。	産不詳

### 第993号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 保存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01006	須恵器 黒色土器 内 破片	甕土内 破片	高(5.2)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値) <td>形状・技法等の特徴</td> <td>概要</td>	形状・技法等の特徴	概要
				酸・黄・赤・黒色磁物粒子	器厚は薄い。立ち上がりは直線的。轡輪右回転成形。器底は回転未切り。	産不詳
10-01007	須恵器 内 破片	甕土内 破片	高(6.0)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値) <td>形状・技法等の特徴</td> <td>概要</td>	形状・技法等の特徴	概要
				酸・黄・赤・黒色磁物粒子・透明磁物粒子	轡輪右回転成形。付高台。	産不詳

### 第994号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 保存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01008	須恵器 内 破片	甕土内 破片	□(14.0)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値) <td>形状・技法等の特徴</td> <td>概要</td>	形状・技法等の特徴	概要
				酸・黄・赤・黒色磁物粒子	やや丸味を帯びている。轡輪右回転成形。器底は回転未切り。	秋岡産

### 第995号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 保存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01009	須恵器 内 破片	甕土内 破片	□(11.6)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値) <td>形状・技法等の特徴</td> <td>概要</td>	形状・技法等の特徴	概要
				酸・黄・赤・黒色磁物粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轡輪右回転成形。高台欠損。	産不詳
10-01010	須恵器 内 破片	甕土内 破片	高(6.6)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値) <td>形状・技法等の特徴</td> <td>概要</td>	形状・技法等の特徴	概要
				酸・黄・赤・黒色磁物粒子	轡輪右回転成形。付高台。	秋岡産か

## 第996号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 別	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・粘土 (石素材は復目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-01811	須恵器 坏心	覆土内 破片	口(13.2)	濃・黄・灰・黄・シルト粗粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轆轤右回転成形。	秋田産
10-01812	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.0)	濃・黄・灰・黄・白色微粒子	器厚は薄い。胴部は細直り状態で丸味が強い。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	秋田産

## 第1号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 別	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・粘土 (石素材は復目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-01813	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.6)	黄・黄・灰黄・粗・黒色鉱物粒子	器厚は薄い。轆轤右回転成形、付高台。	秋田産
10-01814	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口(23.6)・脚(25.0) ・脚(26.0)	濃・黄・灰・粗・軽石・チャート片	胴上平部・口縁部は内湾する。脚は取り付。轆轤成形右回転。	秋田産

## 第4・5・6号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 別	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・粘土 (石素材は復目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-01815	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.0)	濃・黄・灰・黄・夾雑物微	轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。糸の摺りは細かい。	秋田産

## 第6・7号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 別	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・粘土 (石素材は復目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-01816	須恵器 坏心	覆土内 1/3残	口(9.3)・高(7.7)・底 (6.6)	濃・黄・灰白・粗・黒色粒子	体・口縁部は直線的。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。糸の摺りは細かい。	秋田産
10-01817	須恵器 坏心	覆土内 1/3残	口(17.0)	濃・黄・灰・黄・夾雑物微	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形。	秋田産
10-01818	埴輪陶器 灰輪 鏡	覆土内 破片	底(6.0)	濃・黄・白灰・黄・夾雑物微	轆轤成形(右回転)。地輪は授掛けか。	東海系

## 第8・9号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 別	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・粘土 (石素材は復目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-01819	須恵器 坏心	覆土内 破片	口(12.0)	濃・黄・灰・黄・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短く外反する。轆轤右回転成形。	秋田産
10-01820	須恵器 坏	覆土内 破片	底(7.2)	濃・黄・灰・黄・夾雑物微	体部は丸味を帯び、立ち上がる。轆轤右回転成形、付高台。	秋田産
10-01821	須恵器 坏	覆土内 1/3残	底(7.9)	濃・黄・灰・粗・白色鉱物粒子	轆轤右回転成形、付高台。見込みが零減する。	秋田産

## 第11号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 別	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・粘土 (石素材は復目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-01822	須恵器 坏心	覆土内 破片	口(12.1)	濃・黄・灰・黄・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯びる。轆轤右回転成形。	秋田産
10-01823	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.4)	濃・黄・灰・黄・黒色粒子	器厚は薄い。轆轤右回転成形、底部は回転置配こし。	秋田産

## 第12号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 別	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・粘土 (石素材は復目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-01824	須恵器 坏心	1/4残	口(16.2)	濃・黄・灰白・黄・黒色粒子	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	秋田産

## 第84号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 別	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・粘土 (石素材は復目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-01825	土師陶器 坏	覆土内 破片	胴(18.0)	黄・黄・灰黄・黄・黒色鉱物粒子	「コ」の字状口縁。胴部に粘土の接合痕を残す。胴部直下は横位の頸形。	非吉井・藤岡産
10-01826	須恵器 坏	覆土内 破片	底(8.2)	濃・黄・灰・黄・黒色鉱物粒子	器厚は薄い。轆轤右回転成形、底部は回転糸切り。	秋田産

## 第6章 中里見原遺跡

### 第98号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01027	須恵器 杯	覆土内 1/2残	口(12.0)・高4.2・底 (7.0)	濃・灰・赤・黒色粒子	体・口縁部は直線的。口唇部は外反する。轡輪右 回転成型形。底部は回転糸切り。	秋田産

### 第131号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01028	土師器 壺	覆土内 破片	胴(12.0)	灰・赤・暗褐・粗・黒色鉱物粒子	口縁部は外反する。頸部直下は傾位の寛肩り。頸 内面は、横位の寛腹で。	古井・藤 岡産

### 第141号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01029	土師器 杯	覆土内 破片	口(12.0) 底(8.2)	灰・赤・鈍赤褐・赤・黒色鉱物粒子・ (燐銅土)	器作り。底部は寛肩り。器内面・口縁部は横腹で、 体部に凹溝を残す。	藤岡産
10-01030	須恵器 杯	覆土内 破片	底(7.0)	濃・赤・外・黒灰・内・灰白・赤・黒 色粒子(器外側の黒色焼し焼成)	器厚は薄い。轡輪右回転成型形。底部は回転糸切 り。	秋田産
10-01031	須恵器 杯	覆土内 破片	底(6.4)	濃・赤・灰・赤・黒色粒子・白色粒 子	器厚は薄い。轡輪右回転成型形。底部は回転糸切 り。	秋田産
10-01032	須恵器 大壺	覆土内 破片	厚1.1	濃・赤・灰・赤・白色粒子	器作り接印成型形。器外面は平行叩き。器内面 残すは青銅文。	秋田産

### 第142号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01033	須恵器 杯	覆土内 破片	底(7.0)	濃・赤・外・黒灰・内・灰白・赤・灰 濁物粒(器外側の黒色焼し焼成)	器厚は薄い。轡輪右回転成型形。底部は回転糸切 り。	秋田産

### 第143号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01034	土師器 杯	覆土内 破片	口(11.2)	灰・赤・鈍赤・赤・黒色鉱物粒子・	器作り。器内面・口縁部は横腹で、体部に凹溝を 残す。	古井・藤 岡産
10-01035	土師器 杯	覆土内 破片	口(12.1) 底(10.2)	灰・赤・鈍赤・赤・黒色鉱物粒子(燐 銅土)	器作り。底部は寛肩り。器内面・口縁部は横腹で、 体部に凹溝を残す。	藤岡産
10-01036	須恵器 杯	覆土内 破片	口(12.0)	中・赤・灰黄褐・赤・	器厚は薄い。轡輪成型形右回転。	秋田産

### 第146号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01037 151	須恵器 壺	覆土内 2/3残	口(11.6)・高3.6・底 6.5	濃・赤・灰・赤・灰濁物粒	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上 がる。轡輪右回転成型形。底部は回転糸切り。	秋田産
10-01038	須恵器 壺	覆土内 1/3残	口(13.0)・高4.2・底 (8.0)	濃・赤・外・黒灰・内・灰白・赤・灰 濁物粒(器外側の黒色焼し焼成)	体・口縁部は丸味を帯びる。轡輪右回転成型形。 底部は回転糸切り。	秋田産

### 第149号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01039	須恵器 杯	覆土内 破片	口(11.2)	濃・赤・灰・赤・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短く外反す る。轡輪成型形右回転。	秋田産
10-01040	須恵器 壺	覆土内 破片	口(15.2)	濃・赤・灰・粗・黒色粒子	器厚は薄い。口縁部は直線的。轡輪成型形右回転。	秋田産
10-01041	須恵器 壺	覆土内 破片	胴(21.2)	濃・赤・灰・赤・白色粒子	器厚は薄い。器部は折り返し。轡輪成型形(右 回転)。	秋田産

### 第152号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01042 151	須恵器 杯	覆土内 1/3残	口(13.8)・高3.1・底 (6.6)	濃・赤・外・黒灰・内・灰白・赤・灰 濁物粒(器外側の黒色焼し焼成)	器厚も薄。器部がゆるむ状態。口縁部は外反。轡 輪右回転成型形。底部は回転糸切り。	秋田産

## 第2節 発見された遺構・遺物

## 第156号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 別	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01843	土師器 環	覆土内 破片	口(11.8)	酸・軟・鈍褐・並・黒色鉱物粒子	製作り。器内面・口縁部は横無で、体部に歪曲を 残す。	吉井・藤 岡産
10-01844	須恵器 蓋	覆土内 破片	端(15.2)	濃・軟・外・黒灰・内・灰白・中や 粗(翻外面の黒色顔料混入)	上半部を欠損する。端部は折り返し、轆轤成整形 (右回転)。	秋岡産
10-01845	須恵器 環	覆土内 破片	口(11.6)・高(3.3)・底 (6.8)	濃・暗・灰・並・夾雑物微	体・口縁部は横無的に立ち上がる。轆轤右回転成 整形。底部は回転糸切り。	秋岡産

## 第159号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 別	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01846	土師器 環	覆土内 破片	口(12.0)	酸・軟・鈍赤褐・並・黒色鉱物粒子	製作り。器内面・口縁部は横無で、体部に歪曲を 残す。	吉井・藤 岡産

## 第160号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 別	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01847	須恵器 蓋	覆土内 破片	口(12.0)	濃・暗・灰・並・黒色粒子	器厚はやや厚い。口唇部は短く外反する。	秋岡産

## 第172号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 別	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01848	須恵器 蓋	覆土内 破片	端2.0	濃・硬・灰・並・黒色粒子	端部欠損。天井部は轆轤回転整形りを施す。轆轤 成整形(右回転)。	秋岡産

## 第181号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 別	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01849	須恵器 蓋	覆土内 破片	端3.4	濃・硬・灰白・並・白色粒子	環状柄。天井部・端部欠損。轆轤成整形(右回転)。	秋岡産
10-01850	須恵器 蓋	覆土内 破片	端(16.0)	濃・硬・灰・並・黒色粒子	上半部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転 整形りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋岡産
10-01851	須恵器 内照 地	覆土内 破片	厚0.4	酸・並・黒褐・並・夾雑物微	轆轤成整形右回転。	秋岡産

## 第192号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 別	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01852	土師器 環	覆土内 破片	厚0.4	酸・硬・鈍黄褐・並・白色鉱物粒子 (吉井山土)	製作り。器内面・口縁部は横無で、体口縁部直下 に歪曲を残す。	吉井・藤 岡産
10-01853	須恵器 環	覆土内 破片	口(13.0)	濃・暗・灰・並・白色粒子	体・口縁部は丸縁を帯び立ち上がり。口唇部は短 く外反する。轆轤成整形右回転。	秋岡産
10-01854	須恵器 環	覆土内 破片	底(6.6)	濃・並・灰・並・シルト粗粒子	轆轤右回転成整形。底部は回転糸切り。	秋岡産
10-01855	須恵器 環	覆土内 破片	底(8.0)	濃・並・灰・並・夾雑物微	轆轤右回転成整形。底部は回転糸切り。	秋岡産

## 第185号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 別	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01856	須恵器 環	覆土内 破片	厚0.6	濃・硬・灰・並・黒色粒子	轆轤右回転成整形。底部は回転突起こし。	秋岡産

## 第187号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 別	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01857	須恵器 蓋	覆土内 破片	端(16.8)	濃・並・灰・並・夾雑物微	端部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転 整形りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋岡産

## 第189号土坑出土遺物

遺物番号 回収番号	遺物種 別	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01858	須恵器 環	覆土内 破片	厚0.5	濃・並・灰・並・白色粒子	轆轤成整形右回転。	秋岡産

## 第6章 中里見原遺跡

### 第192号土坑出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種類	出土層位 通存 成	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石炭材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01059	須恵器 環	甌土内 破片	□(12.8)	濃・黄・灰・並・白色粒子	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成型形。	伏見遺 紀伝
10-01060	須恵器 環	甌土内 破片	厚0.5	濃・黄・白灰・並・夾雑物微	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成型形。底部は回転未切り。	伏見遺

### 第206号土坑出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種類	出土層位 通存 成	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石炭材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01061 159	土師器 環	甌土内 破片	□(11.0)	黄・黄・純粋・並・微粒炭母	型作り。甌内面・口縁部は模塑で、体部に型削を残す。口縁部に墨書を残す。	吉井・藤岡 遺書-30
10-01062	須恵器 環	甌土内 破片	□(13.6)	濃・黄・灰・並・黒色粒子	胎厚は薄い。口縁部は直線的。轆轤或整形右回転。体部以下全欠損する。	伏見遺

### 第209号土坑出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種類	出土層位 通存 成	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石炭材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01063	須恵器 大要か	甌土内 破片	□(44.0)	中・黄・灰黄・並・赤褐色粒子	口縁下平は直立し上部は外反する。	伏見遺

### 第210号土坑出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種類	出土層位 通存 成	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石炭材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01064	須恵器 環	甌土内 破片	□(11.3)・高3.9・底 (7.0)	濃・緑・黄・並・シト粒状	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成型形。底部は回転未切り。	伏見遺

### 第211号土坑出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種類	出土層位 通存 成	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石炭材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01065	須恵器 環	甌土内 破片	□(13.2)・高3.8・底 (8.1)	濃・黄・灰・並・夾雑物微	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成型形。底部は回転未切り。	伏見遺

### 第218号土坑出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種類	出土層位 通存 成	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石炭材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01066	須恵器 環	甌土内 破片	厚0.4	濃・黄・灰・並・白色胎状粒子	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成型形。	伏見遺

### 第221号土坑出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種類	出土層位 通存 成	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石炭材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01067	土師器 環	甌土内 破片	□(20.2) 底(18.4)	黄・黄・純粋・並・黒色胎状粒子	「コ」の字状口縁。胎部に粘土の層合痕を残す。底部直下は堆位の痕有り。	吉井・藤岡 遺書
10-01068	土師器 環	甌土内 破片	底(4.0)	黄・黄・黄・並黒色胎状粒子・赤褐色 色粒子	底面欠損。器外面は不定方向の「麗」有り。器内面は模塑の痕あり。	吉井・藤岡 遺書
10-01069	須恵器 内黒 塊	甌土内 破片	底(6.4)	黄・黄・浅黄褐色・赤褐色粒子	轆轤成型形。器内面に研削を残す。焼成時器内面を施す。	産不詳
10-01070	須恵器 環	甌土内 破片	□(13.4)・高4.6・底 (8.0)	濃・黄・黒色胎状粒子・黄・黒色胎 状粒子	体・口縁部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成型形。底部は回転未切り。	伏見遺
10-01071	須恵器 皿	甌土内 破片	□(13.4)	濃・黄・灰・並・黒色胎状粒子・白色胎 状粒子	胎厚は薄い。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤成型形右回転。	伏見遺

### 第227号土坑出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種類	出土層位 通存 成	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石炭材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01072	須恵器 塊か	甌土内 破片	厚0.4	濃・黄・灰・並・夾雑物微	胎厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯びる。轆轤右回転成型形。	伏見遺

### 第230号土坑出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種類	出土層位 通存 成	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石炭材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01073	須恵器 塊	甌土内 破片	底(7.0)	濃・黄・灰・並・白色胎状粒子	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成型形。付高台。	伏見遺



## 第235号土坑出土遺物

遺物番号 図取番号	遺物種 器種	出土層位 埋存度	度量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は灰目録)	形状・技法等の特徴	概要
10-01074	須恵器 甕	覆土内 破片	厚0.4	還元・硬・灰・並・黒色粒子	形状・技法等の特徴	組作り後叩き整形。器外面は平行叩き、器内面削て具は青黄波文。

## 第253号土坑出土遺物

遺物番号 図取番号	遺物種 器種	出土層位 埋存度	度量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は灰目録)	形状・技法等の特徴	概要
10-01075	須恵器 甕	覆土内 破片	縦3.6	還元・硬・灰・並・夾雜物微	形状・技法等の特徴	薄状胴。天井部以下を欠損する。轆轤成整形右回転。

## 第309号土坑出土遺物

遺物番号 図取番号	遺物種 器種	出土層位 埋存度	度量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は灰目録)	形状・技法等の特徴	概要
10-01076	須恵器 甕	覆土内 破片	厚0.4	還元・硬・灰・並・白色微粒子	形状・技法等の特徴	器厚は薄い。直線的に立ち上がる。轆轤成整形右回転。
10-01077	須恵器 甕か	覆土内 破片	厚1.0	還元・硬・灰・並・シト粒粒子	形状・技法等の特徴	組作り後叩き整形。器外面は平行叩き、器内面削て具は赤文。

## 第667号土坑出土遺物

遺物番号 図取番号	遺物種 器種	出土層位 埋存度	度量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は灰目録)	形状・技法等の特徴	概要
10-01078	須恵器 甕	覆土内 破片	底(4.6)	酸・並・浅黄緑・並・夾雜物微	形状・技法等の特徴	立ち上がりは丸縁を帯びる。器外面は縦位の置用り。器内面は僅きあげ態で造す。
10-01079	須恵器 灰輪 皿	覆土内 破片	厚0.3	還元・弱・白灰・並・夾雜物微	形状・技法等の特徴	轆轤成整形(右回転)。底縁は段折れか。
10-01080	須恵器 甕	覆土内 破片	底(6.7)	還元・並・灰・並・黒色粒子	形状・技法等の特徴	器厚は薄い。直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。底部は回転未切り。
10-01081	須恵器 甕か	覆土内 破片	厚0.8	還元・並・灰・並・白色粒子	形状・技法等の特徴	丸縁を帯び立ち上がる。轆轤右回転成整形。

## 第668号土坑出土遺物

遺物番号 図取番号	遺物種 器種	出土層位 埋存度	度量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は灰目録)	形状・技法等の特徴	概要
10-01082	須恵器 甕か	覆土内 破片	厚1.0	還元・並・灰黄・並・夾雜物微	形状・技法等の特徴	組作り後叩き整形。器外面は平行叩き、器内面削て具は赤文。

## 第759号土坑出土遺物

遺物番号 図取番号	遺物種 器種	出土層位 埋存度	度量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は灰目録)	形状・技法等の特徴	概要
10-01083	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚0.9	還元・硬・灰・並・黒色粒子	形状・技法等の特徴	組作り後轆轤整形(右回転)。3本一単位の波状文を造らす。

## 第761号土坑出土遺物

遺物番号 図取番号	遺物種 器種	出土層位 埋存度	度量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は灰目録)	形状・技法等の特徴	概要
10-01084	須恵器 甕	覆土内 破片	底(6.6)	還元・並・灰白・並・夾雜物微	形状・技法等の特徴	轆轤右回転成整形。底部は回転未切り。

## 第763号土坑出土遺物

遺物番号 図取番号	遺物種 器種	出土層位 埋存度	度量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は灰目録)	形状・技法等の特徴	概要
10-01085	土師器 甕	覆土内 破片	口(12.2)	酸・並・鈍赤褐・並・白色粒子	形状・技法等の特徴	口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。外縁は強い。型作り感形。
10-01086	須恵器 甕	覆土内 破片	口(17.2)	還元・硬・灰・並・黒色粒子	形状・技法等の特徴	縁部欠損。肩部は折り返し、天井部は轆轤回転置用りを造す。轆轤成整形(右回転)。
10-01087	須恵器 甕	覆土内 破片	底(6.4)	還元・硬・灰・並・黒色粒子	形状・技法等の特徴	縁部は丸縁を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成整形。底部は回転未切り。
10-01088	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚1.1	還元・硬・灰・並・白色粒子	形状・技法等の特徴	組作り後叩き整形。器外面は平行叩き、器内面削て具は赤文。器内外面微で調整。

## 第776号土坑出土遺物

遺物番号 図取番号	遺物種 器種	出土層位 埋存度	度量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は灰目録)	形状・技法等の特徴	概要
10-01089	須恵器 甕	覆土内 破片	口(14.0)	還元・硬・灰・並・白色微粒子	形状・技法等の特徴	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形。

## 第6章 中里見取遺跡

10-01090	須恵型 灰か	覆土内 破片	厚0.9	蓮・緋・灰・並・シルト顆粒子	紐作り後印き整形。器外面は平行印き、器内面印 て具は並文か。	秋田産
----------	-----------	-----------	------	----------------	-----------------------------------	-----

## 第793号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 通存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石室材は灰目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01091	須恵系 須恵器 環	覆土内 破片	口(13.0)	蓮・並・灰・並・夾雑物微	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轆轤右回 転成型形。	秋田産
10-01092	地輪陶器 灰輪 甕	覆土内 破片	厚0.6	蓮・緋・灰白・並・夾雑物微	轆轤成型形(右回転)。胎土方法は不分明。	東海系

## 第796号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 通存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石室材は灰目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01093	須恵系 須恵器 環	覆土内 破片	口(13.4)・高3.2・底 (7.0)	蓮・並・外・黒灰・内・灰白・並・白 色微粒子(外面着色施し焼成)	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轆轤右回 転成型形。底面は回転糸切り。	秋田産
10-01094	須恵系 須恵器 環	覆土内 1/3残	厚0.6	中・並・灰黄・並・夾雑物微	胎厚は薄めで、胎面直下は縦位の溝跡で、紐作り 後轆轤成型形(右回転)。	秋田産 秋田産

## 第797号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 通存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石室材は灰目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01095	須恵系 須恵器 瓶	覆土内 1/4残	厚0.7	蓮・並・灰白・並・白色微粒子	紐作り後印き整形。器外面は平行印き、器内面印 て具は背渡文か。	秋田産

## 第825号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 通存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石室材は灰目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01096	須恵系 須恵器 環	覆土内 破片	口(13.2)	蓮・並・灰・並・夾雑物微	体部は丸味を帯び、口縁部直線跡。轆轤右回転成 型形、底面は回転糸切り。	秋田産
10-01097	須恵系 須恵器 環	覆土内 1/3残	底7.8	蓮・並・灰・並・夾雑物微	轆轤右回転成型形、底面は回転糸切り。	秋田産

## 第827号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 通存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石室材は灰目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01098 151	須恵系 須恵器 瓶	覆土内 1/4残	底7.6 胴径14.6	中・並・灰黄・粗粒・粗砂粒	紐作り後轆轤右回転成型形、底面は回転糸切り。	秋田産

## 第836号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 通存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石室材は灰目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01099	須恵系 須恵器 瓶	覆土内 破片	厚1.5	蓮・並・鈍黄橙・並・黒色粒子	粘土板からの立ち上げか。底面は裏側で、見込み は、立ち上げの整形形が起る。	秋田産
10-01100	須恵系 須恵器 羽釜	覆土内 破片	底(9.0)	中・並・灰黄・並・白色微粒子	立ち上がり部分が肥厚する。器外面は縦位の溝跡 り。器内面は轆轤成型形。	産不詳

## 第837号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 通存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石室材は灰目値)	形状・技法等の特徴	調査
40-00113	鉄押	覆土内 完形	長10.1・幅6.9・厚3.1		碗状溝。隅丸形状に認められる。	

## 第840号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 通存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石室材は灰目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01101	地輪陶器 灰輪 甕	覆土内 破片	厚0.35	蓮・緋・灰白・並・夾雑物微	胎厚は薄い。轆轤成型形(右回転)。胎土方法は不 分明。	東海系

## 第847号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 器種	出土層位 通存度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石室材は灰目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01102	須恵系 須恵器 環	覆土内 破片	底(6.8)	蓮・緋・灰・並・黒色粒子	胎部・体部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回 転成型形、底面は回転糸切り。	秋田産
10-01103	須恵系 須恵器 環	覆土内 破片	口(13.2)	中・並・灰黄・並・黒色微粒子	体部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部は緩やかに 外反する。轆轤成型形右回転。	産不詳

## 第2節 発見された遺構・遺物

10-01104	須恵器 甕	覆土内 破片	厚0.6	遺・炭・灰・並・夾雑物微	器厚は薄い。紐作り後印き整形。器外面は平行印き、器内面は具は背輪紋文。	秋田産
----------	----------	-----------	------	--------------	-------------------------------------	-----

## 第849号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存度	度量目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01105	須恵器 坏	覆土内 破片	底(5.6)	遺・炭・灰白・並・夾雑物微	胴部・体部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成整形。底部は回転未切り。	秋田産

## 第861号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存度	度量目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01106	須恵器 広口甕	覆土内 破片	口(30.0) 底(19.0)	遺・炭・灰・並・黒色粒子	強く外反する口縁部。紐作り後輪轆整形(右回転)。	秋田産

## 第875号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存度	度量目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01107	須恵器 壺小	覆土内 破片	口(14.8)	遺・炭・褐灰・並・夾雑物微	体部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤成整形右回転。	秋田産

## 第877号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存度	度量目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01108	須恵器 甕	覆土内 破片	厚1.0	遺・炭・灰・並・白色粒子	高台・体・口縁部を欠損する。轆轤成整形右回転。	秋田産

## 第878号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存度	度量目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01109	須恵器 坏	覆土内 破片	底(5.0)	遺・炭・灰・並・白色粒子	胴部・体部は丸味を帯び立ち上がる。轆轤右回転成整形。底部は回転未切り。	秋田産

## 第891号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存度	度量目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01110	須恵器 坏小	覆土内 破片	口(12.0)	遺・炭・灰白・並・白色粒子	胴部・体部は丸味は強い。口縁部はやや外反する。器内外面吸込。轆轤成整形右回転。	産不詳
10-01111	須恵器 坏	覆土内 破片	厚0.6	遺・炭・灰・並・黒色粒子	器厚は薄い。轆轤右回転成整形。底部は回転未切り。	秋田産
40-00114	鉄滓	覆土内 完形	長12.8・幅10.7・厚3.4		碗状滓	
40-00115	鉄滓	覆土内 完形	長9.5・幅9.4・厚3.5		碗状滓	

## 第900号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存度	度量目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01112	須恵器 甕	覆土内 破片	天(9.4)	中・軟・黄灰・並・夾雑物微	胴部・底部を欠損。天井部は轆轤回転覆削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋田産
10-01113	須恵器 甕	覆土内 破片	底(9.8)	遺・炭・灰・並・黒色粒子	轆轤右回転成整形。付高台。	秋田産
10-01114	須恵器 甕	覆土内 破片	底(7.7)	軟・軟・鈍灰・並・白色粒子	底部が窄減する。器外面は縦位の覆削り。紐作り後輪轆整形(右回転)。	秋田産か 産不詳
10-01115	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚0.8	遺・炭・灰・並・白色粒子	紐作り後印き整形。器外面は平行印き、器内面は 具は背輪紋文。	秋田か 産不詳

## 第954号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存度	度量目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01116	須恵器 甕	覆土内 破片	端(15.0)	遺・炭・灰・並・黒色粒子	上半部を欠損する。底部は折り返し。轆轤成整形(右回転)。	秋田産
10-01117	須恵器 甕	覆土内 破片	厚0.6	遺・炭・灰白・並・夾雑物微	胴部・底部を欠損。天井部は轆轤回転覆削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	秋田産

## 第6章 中里見原遺跡

## 第959号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査	
10-01118	須恵器 壺	覆土内 破片	口(11.5)・高4.1・底 (6.8)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	体・外・黒灰・内・灰白・並・夾 雑物微(器外面の黒色焼し焼成)	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上 がる。轆轤右回転成形。底部は回転未切り。	秋田産
10-01119	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.6)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	薄・緑・灰・並・黒色粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成 形。底部は回転未切り。	秋田産

## 第961号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査	
10-01120	須恵器 坏	覆土内 破片	底(6.8)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	薄・緑・灰・並・黒色粒子	立ち上がりは直線的。轆轤右回転成形。底部は 回転起こし。	秋田産

## 第962号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査	
10-01121	須恵器 壺	覆土内 破片	底(4.8)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	薄・並・黒焼・並・黒色微粒子・ 透明鉱物粒子	器外面は縦位の彫り。器内面は横位の彫り。で 吉井・藤 田産	秋田産
10-01122	須恵器 壺	覆土内 破片	口(12.0)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	薄・緑・灰・並・黒色粒子	胴部欠損。胴部は折り返し。天井部は轆轤回転 成形。底部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成 形。	秋田産
10-01123	須恵器 坏	覆土内 破片	口(10.0)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	薄・緑・陶灰・並・白色微粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成 形。	秋田産
10-01124	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.0)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	薄・緑・灰・並・黒色粒子	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上 がる。轆轤右回転成形。	秋田産

## 第964号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査	
10-01125	須恵器 壺	覆土内 破片	底(14.8)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	薄・並・外・灰白・内・黒ね以外黒灰・ 並・夾雑物微	胴部は折り返し。天井部は轆轤回転成形。底部 を施す。轆轤成形(右回転)。有機質が付着する。	秋田産

## 第965号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査	
10-01126	須恵器 壺	覆土内 破片	底(14.2)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	薄・並・灰白・並・夾雑物微	胴部欠損。胴部は折り返し。天井部は轆轤回転 成形。底部を施す。轆轤成形(右回転)。	秋田産
10-01127	須恵器 壺	覆土内 破片	底(15.2)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	薄・外・黒灰・内・灰白・並・夾 雑物微(器外面の黒色焼し焼成)	胴部欠損。胴部は折り返し。天井部は轆轤回転 成形。底部を施す。轆轤成形(右回転)。	秋田産

## 第967号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査	
10-01128	須恵器 坏	覆土内 1/4残	口(12.2)・高4.0・底 (7.2)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	薄・緑・灰・並・黒色粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成 形。底部は回転未切り。	秋田産

## 第968号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査	
10-01129	須恵器 壺	覆土内 破片	底(15.0)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	薄・緑・灰・並・白色微粒子	胴部欠損。胴部は折り返し。天井部は轆轤回転 成形。底部を施す。轆轤成形(右回転)。	秋田産

## 第970号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査	
10-01130	須恵器 壺	覆土内 破片	底(13.2)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	薄・並・灰白・並・夾雑物微	器厚は薄い。胴部欠損。胴部は折り返し。天井部 は轆轤回転成形。底部を施す。轆轤成形(右回転)。	秋田産

## 第972号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存度	度量 目(cm) 量目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査	
10-01131	須恵器 坏	覆土内 破片	口(11.2)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	薄・並・灰・並・白色微粒子	器厚は薄い。口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤 成形(右回転)。	秋田産

## 第981号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	量目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01132	土師器 坏	覆土内 破片	口(1.12)	灰・黄・黄緑・微砂	丸みは強い。歪作り。器内面・口縁部は横撫で、 外部に原色を残す。	産不詳
10-01133	須恵系 坏	覆土内 破片	厚0.6	濃・黄・灰・黄・黒色粒子	轆轤右回転成型形。底部は回転掘りこし。	秋田産
10-01134	須恵系 土	覆土内 破片	厚0.5	濃・黄・灰白・黄・白色微粒子	上半部を欠損する。底部は折り返し、轆轤成型形 (右回転)。	秋田産

## 第990号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	量目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01135	須恵系 土	覆土内 破片	底(17.6)	濃・黄・鈍黄・並シルト質	器厚は薄い。二次整形痕は認められない。横作り 後轆轤成型形(右回転)。	秋田産 秋田産
10-01136	須恵系 土	覆土内 破片	底(6.2)	濃・黄・灰白・黄・長石少	体部は丸味を帯びる。轆轤右回転成型形、付高台。	秋田産 秋田産

## 第997号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	量目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01137	須恵系 坏	覆土内 破片	底(6.0)	濃・黄・灰・黄・夾雑物微	器厚は黄。轆轤右回転成型形。底部は回転糸切り。	秋田産

## 第998号土坑出土遺物

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	量目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01138	須恵系 坏	覆土内 破片	厚0.25	濃・黄・灰・黄・夾雑物微	器厚は薄い。轆轤成型形右回転。	秋田産

## 北東斜面号土坑出土遺物群

遺物番号 図版番号	遺物種類	出土層位 遺存度	量目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01139	須恵系 土	覆土内 完形	口12.4・高4.3・底5.8	濃・黄・黄緑・黄・微砂・黄・白色 微粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がり、口唇部は外反す。 轆轤右回転成型形、付高台。	吉井・藤 岡産
10-01140	須恵系 土	覆土内 2/3残	口13.4・高4.5・底 7.6	中・黄・黄緑・黄・白色微粒子・黄黒石 英・	体部は丸味を帯び、口縁部は緩やかに外反する。 轆轤右回転成型形、付高台。	秋田産か
10-01141	須恵系 土	覆土内 破片	底(6.6)	濃・黄・灰・黄・白色微粒子	体部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成型形、 付高台。	秋田産か
10-01142	須恵系 坏	覆土内 破片	厚0.6	濃・黄・灰・黄・白色微粒子	器内外面に有機質が付着する。轆轤右回転成型形、 底部は回転糸切り。	秋田産
10-01143	須恵系 坏	覆土内 破片	厚0.35	中・黄・黄緑・黄・高黒石英・黒色 微粒子	丸味を帯びた体部片。器外面黒灰中。轆轤成型形 右回転。	産不詳
10-01144	須恵系 坏	覆土内 破片	厚0.6	濃・黄・灰・黄・黒色微粒子	直線的に立ち上がる口縁部。器内外面に有機質が 付着する。	秋田産
10-01145	須恵系 土	覆土内 破片	底(12.0)	濃・黄・灰白・黄・白色微粒子	横作り後轆轤成型形(右回転)。付高台。器内面はコ ナによる轆轤成型形。	秋田産
10-01146	須恵系 土	覆土内 破片	厚0.7	濃・黄・灰白・黄・白色微粒子	丸味は強い。肩部に環状把手の接合痕が認めら れる。横作り後轆轤成型形(右回転)。	秋田産
10-01147	施釉陶器 灰胎 罎	覆土内 破片	口(13.0)	濃・緑・白灰・密・夾雑物微	轆轤成型形(右回転)。施釉は襷掛けか。	東海系
10-01148	施釉陶器 灰胎 罎	覆土内 破片	口(12.6)	濃・緑・白灰・密・夾雑物微	轆轤成型形(右回転)。施釉方法は不分明。	東海系
10-01149	施釉陶器 灰胎 罎	覆土内 破片	口13.0	濃・緑・灰白・密・夾雑物微	轆轤成型形(右回転)。施釉方法は不分明。	東海系
10-01150	施釉陶器 灰胎 罎	覆土内 破片	口(14.6)・高2.9・底 (8.0)	濃・緑・白灰・密・夾雑物微	轆轤成型形(右回転)。施釉は襷色塗り。	東海系
10-01151	施釉陶器 灰胎 罎	覆土内 破片	口(17.4)	濃・緑・白灰・密・夾雑物微	轆轤成型形(右回転)。施釉は襷色塗り。	東海系
10-01152	施釉陶器 灰胎 罎	覆土内 破片	厚0.6	濃・緑・白灰・密・夾雑物微	轆轤成型形(右回転)。施釉方法は不分明。	東海系
10-01153	施釉陶器 灰胎 罎	覆土内 破片	口(4.0)	濃・緑・白灰・密・夾雑物微	轆轤成型形(右回転)。施釉は襷掛けか。	東海系
40-00116	鉄釘	覆土内 1/2残か	残存長6.8・幅0.5・ 重・20.0g		頭部の横しは深くほぼ直角に曲げている。	
40-00117	鉄釘	覆土内 1/2残か	残存長8.3・幅6.3・ 厚3.5		筒状部。表面は凹凸がやや多い。	

## 第6章 中里見原遺跡

## 第1号井戸状遺構出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 保存状態	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01154	須恵器 土器	層土内上 層 完整	口15.9・高5.5・径8.5	還元・赤・灰・粗・黒色粒子	体部は丸縁を帯び、口縁部はやや外反する。轆轤右回転成型形、付高台。	秋田産
10-01155	須恵器 土器	層土内上 層1/2残	口(16.2)・高5.5・径8.1	還元・赤・灰・粗・粗黒色粒子	体・口縁部直線的に立ち上がる。轆轤右回転成型形、付高台。	秋田産

## 遺構外出土遺物(1)

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 保存状態	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01156	土製品 不詳	15-G-20 表土部次	幅3.8・高1.6	酸・赤・橙・黄・微粒雲母	型作り。6面に交互に肋骨・輪状物の模様。メンコと思われるが、詳細不分明。	藤岡産
10-01157	土製品 泥人形	表探 完形	幅1.75・高2.45・厚1.6	酸・赤・橙・黄・微粒雲母	先が円錐を帯びただ正座状。中央に乾燥時の先廻りの棒の穴が認められる。	藤岡産
10-01158	土製品 泥面形	表探 完形	幅1.9 厚0.8	酸・赤・橙・黄・微粒雲母	「呻」の形相が憤怒の形相か。	自性寺焼か
10-01159	陶胎陶器 小鉢か	15-K-15 表土破片	厚0.6	還元・赤・灰・黄・夾雑物微	器内外面に透明釉。器内面は火目線を施す。下半に蓋跡。	自性寺焼か
10-01160	陶胎陶器 透明釉鉢	15-K-15 表土破片	厚0.7	還元・赤・白灰・黄・夾雑物微	器内外面に透明釉を施す。轆轤成型形右回転。	自性寺焼か
10-01161	陶胎陶器 透明釉鉢	道東 表土破片	口(20.0) 径(19.4)	還元・赤・白灰・黄・夾雑物微	器内外面に鉄釉を施す。一部に釉の欠けが認められる。轆轤成型形右回転。	自性寺焼か
10-01162	焼跡陶器 磁鉢	15-P-18 表土破片	底(17.6)	還元・赤・白灰・黄・夾雑物微	器内外面に鉄釉を施す。詳細不分明。	自性寺焼か
10-01163	焼跡陶器 磁鉢	調査区内 表土破片	底(19.0)	還元・赤・白灰・黄・夾雑物微	器内面に厚塗が顕著。底面は轆轤右回転成型形、底部は回転糸切り後周縁は回転置座り。	自性寺焼か
10-01164	陶胎陶器 灰釉豆皿	道東 表土破片	口(9.0)・高2.2・径(4.2)	還元・赤・灰・黄・夾雑物微	轆轤成型形右回転。口縁部上半まで回転裏面作りが及ぶ。	産不詳
10-01165	陶胎陶器 灰釉豆皿	15-K-7 表土破片	口(10.0) 径3.36+	還元・赤・白灰・黄・夾雑物微	轆轤成型形右回転。体部は回転置座り。	美濃産
10-01166	陶胎陶器 灰釉豆皿	道東 表土破片	径4.4	還元・赤・白灰・黄・夾雑物微	轆轤成型形右回転。高台は削り出し。体部は削り作り。	産不詳
10-01167	陶胎陶器 灰釉豆皿	道東 表土破片	口(11.6)	還元・赤・白灰・黄・夾雑物微	型作りにより菊文を表す。	美濃産か
10-01168	陶胎陶器 野跡磁鉢	道東 表土破片	底(7.0)	還元・赤・灰・黄・夾雑物微	見込みに鉄釉を施す。破片のため図柄は不分明。白志跡。	美濃産か
10-01169	焼跡陶器 磁鉢	14-S-18 表土破片	厚1.0+α	還元・赤・灰・黄・夾雑物微	器鉢の見込み部分。	産不詳
90-00001	玩具 オハジキ	道西 表土完整	長径2.0・短径1.7・厚0.3	ガラス	表面は亀甲紋の型作り。	
40-00118	喫煙具 煙管	15-L-16 表土破片	残存長5.2・径1.1・重7.3g		口の部分に欠損する。反りは殆どない。	
40-00119	貨幣 銅銭	道東 表土完整	径3.0・重3.0g		「五十銭」銅貨。裏面に「大日本・明治十年・NES・J」を刻する。	
40-00120	貨幣 銅銭	24区西 表土完整	径2.2・重3.0g		裏面に「大日本・大正八年・J」を刻する。	
40-00121	貨幣 アルミ貨	25区西 表土完整	径2.1・重14.6g		十銭アルミニウム硬貨。裏面に「大日本・昭和十八年・J」を刻する。	
40-00122	貨幣 銅銭	26区西 表土完整	径2.3・重1.0g		「寛永通寶」背面は無文。	
40-00123	貨幣 銅銭	14-S-7 表土完整	径2.2・重3.0g		「寛永通寶」背面は無文。	
40-00124	貨幣 鉄銭	26区西 表土完整	径2.3・重2.9g		錆化が顕著。	
40-00125	貨幣 鉄銭	27区西 表土部次	径(2.3)・重1.4g		錆化が顕著。	
40-00126	貨幣 鉄銭	28区西 表土部次	径(2.3)・重1.3g		錆化が顕著。	

## 遺構外出土遺物(2)

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 保存状態	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01170	軟質陶器 内耳磁器	道東 表土破片	厚0.8	酸・赤・鈍黄・黄・白色鉱物粒子	組作り後轆轤成型形(左回転)。	安中市産
10-01171	陶胎陶器 灰釉磁器	調査区内 表土破片	厚0.6	還元・赤・灰・黄・黒色粒子	印花文を施すが文様置戻は不詳。	藤戸産
10-01172	軟質陶器 内耳磁器	調査区内 表土破片	厚0.8	酸・赤・鈍黄・黄・白色鉱物粒子	組作り後轆轤成型形(左回転)。	安中市産

## 遺構外出土遺物(3)

遺物番号 (図表番号)	遺物種 類	出土層位 と埋 存 深 度	量 目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は度目目)	形状・技法等の特徴	調査
10-01173	土師器 環	15区内 表土層片	口(14.6)	酸・黄・黒・黄・黒色鉱物粒子	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に歪磨を 残す。体部・口縁部は直線的に並ぶ。	吉井・藤 岡産
10-01174	土師器 環	25-D-E-1 表土層片	口(12.2)	酸・黄・鈍黄緑・並白色鉱物粒子・微 粒雲母	型作り。器内面・口縁部は横撫で、底部・体部は 真削り。	吉井・藤 岡産
10-01175	土師器 環	25-Q-2 表土層片	口(11.8)	酸・黄・明赤褐・黄・微粒雲母(吉 井山土)	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に歪磨を 残す。	吉井産
10-01176 152	土師器 環	25区内 田原部表 土層片	口(12.0)・高3.0・底 10.1	酸・黄・明赤褐・黄・黒色鉱物粒子 (吉井山土)	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に歪磨を 残す。	吉井産
10-01177	土師器 環	25-Q-3 表土層片	口(12.4) 底(10.2)	酸・黄・鈍黄緑・並・黒色鉱物粒子・ 微粒雲母	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に歪磨を 残す。	吉井・藤 岡産
10-01178 152・159	土師器 環	15-J-18 表土層片	口(12.0) 底(10.0)	酸・黄・鈍黄緑・並・黒色鉱物粒子・ 微粒雲母	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に歪磨を 残す。	吉・藤 岡産
10-01179	土師器 環	25-D-E-1 表土層片	厚0.4	酸・黄・鈍黄緑・並・微粒雲母	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に歪磨を 残す。	吉井・藤 岡産
10-01180	土師器 環	25-R-3 表土層片	口(12.2) 底(10.0)	酸・黄・浅黄緑・並・微粒雲母(吉井 山土)	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に歪磨を 残す。	吉井産
10-01181	土師器 環	15-S-19 表土層片	口(14.0) 底(12.0)	酸・黄・鈍黄緑・並・黒色鉱物粒子・ 微粒雲母	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に歪磨を 残す。	吉井・藤 岡産
10-01182	土師器 環	遺棄 表土層片	口(13.0) 底(7.8)	酸・黄・鈍黄緑・並・白色粒子	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に歪磨を 残す。	吉井・藤 岡産
10-01183	土師器 環	26-D-E-1 表土層片	口(17.2) 底(10.6)	酸・黄・黄・並・黒色鉱物粒子	型作り。器内面・口縁部は横撫で、体部に歪磨を 残す。	吉井・藤 岡産
10-01184	土師器 環	15-Q-20 表土層片	口(17.0) 底(13.2)	酸・黄・浅黄緑・黄・微粒雲母(藤岡 畑土)	型作り。器厚は厚い。器内面・口縁部は横撫で、 体部は真削りのシワが顕著。	藤岡産
10-01185	土師器 環	25-L-3 表土層片	口(16.0) 底(12.4)	酸・黄・鈍黄緑・並・黒色鉱物粒子・ 微粒雲母	型作り。器内面・口縁部は横撫で、底部・体部は 真削り。	吉井・藤 岡産
10-01186 152・159	土師器 環	1号通溝 表土層片	厚0.5	酸・黄・鈍黄緑・並・黒色鉱物粒子・ 微粒雲母	底面は真削り。器厚が薄い。	吉・藤 岡産
10-01187	土師器 環	25-R-4 表土層片	厚0.5	酸・黄・鈍黄緑・並・黒色鉱物粒子・ 微粒雲母	底面は真削り。見込みに縦装幀文を施す。	吉井・藤 岡産

## 遺構外出土遺物(4)

遺物番号 (図表番号)	遺物種 類	出土層位 と埋 存 深 度	量 目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は度目目)	形状・技法等の特徴	調査
10-01188	土師器 環	14-Q-19 表土層片	口(10.0)	酸・軟・鈍黄緑・並・黒色鉱物粒子・ 細粒砂	小形。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。体部・ 口縁部に歪磨を残す。	吉井・藤 岡産
10-01189	土師器 環	25-L-3 表土層片	口(11.0)	酸・軟・鈍黄緑・並・黒色鉱物粒子・ 細粒砂	小形。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。底部 は真削り。体部・口縁部に歪磨を残す。	吉井・藤 岡産
10-01190 152	土師器 環	24区内 表土層片	厚0.5	酸・軟・鈍黄緑・並・黒色鉱物粒子・ 細粒砂	小形。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。体部・ 口縁部に歪磨を残す。	吉井・藤 岡産
10-01191	土師器 環	15-F-17 表土層片	厚0.6	酸・軟・浅黄緑・並・黒色鉱物粒子・ 細粒砂	小形。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。体部・ 口縁部に歪磨を残す。	吉井・藤 岡産
10-01192	土師器 内蓋 環	25-F-3 表土層片	口(13.6)	酸・黄・鈍黄緑・並・黒色鉱物粒子	丸味を呼び直上する。器内面は横位の研磨を施す。	産不詳
10-01193	土師器 環	15-K-16 表土層片	口(21.0) 底(19.4)	酸・黄・明赤褐・並・白色粒子・黒 色鉱物粒子	胴部の器厚は薄くて、瓶形を帯びる。口縁部は「コ」 の字状に研磨する。	吉井・藤 岡産
10-01194	土師器 環	25区内 表土層片	口(13.6) 底(10.8)	酸・黄・鈍黄緑・並・微粒雲母・長石	「く」の字状に口縁部が外反。器外面口縁部・器部 は真削り。器内面は横位の真削り。	吉井・藤 岡産
10-01195	土師器 環	遺内斜間 表土層片	口(22.2) 底(21.0)	酸・黄・灰青褐・並・微粒雲母(藤岡 畑土)	口縁部は直立気味。胴部は球状。器外面は横位の 真削り。器内面は横位の真削り。	藤岡産
10-01196	土師器 内蓋 環	26-C-3 表土層片	口(16.2) 底(14.3)	酸・黄・灰オリーブ・並・黒色鉱物 粒子・白色粒子(内黒胎土)	口縁部は靱い。器外面部直下は横位の真削り。 器内面は横位の研磨。黄ではなく鈍赤。	産不詳
10-01197	土師器 環	26-A-4 田原部表 土層片	口(22.0) 底(21.2)	酸・黄・鈍黄緑・並・黒色鉱物粒子・ 白色粒子	口縁部は直立気味。胴部は球状。器外面は横位の 真削り。器内面は靱い。	吉井・藤 岡産
10-01198	須恵器 環	第1号通溝 表土層片	口(19.0)	遺(?)・黄・灰・並・白色鉱物粒子	器面全面は灰色を呈する。二次焼成とは思われない。	伏岡産
10-01199 152	土師器 環	25-N-1 表土層片	厚0.4・9-25	酸・黄・明赤褐・並・白色粒・黒色 鉱物粒・微粒雲母(吉井山土)	「く」の字状口縁部。器内外面横位の無で無彫形。	吉井・藤 岡産
10-0200	土師器 環	15-O-18 表土層片	厚0.5	酸・黄・鈍黄緑・並・長石	器外面は手持ちによる真削り。詳細不分明。	輸入品か
10-0201	土師器 環	第1号通溝 表土層片	口(21.0)	酸・黄・明赤褐・並・白色鉱物粒子・ 黒色鉱物粒子(藤岡畑土)	器内面は「コ」の字状口縁。口縁部外面は2段 の真削りでも施す。	藤岡産
10-0202	土師器 環	遺棄 表土層片	口(17.2) 底(16.0)	中・軟・黄灰・黄・シルト質	口縁部は短く外反する。最大径は胴部中央か。 器外面は横位の真削り。器内面は横位の真削り。	伏岡産か
10-0203	須恵器 環	14-Q-19 表土層片	口(18.6) 底(17.2)	酸・黄・鈍黄緑・並・赤褐色粒子	縦装「コ」の字状口縁。器外面は横位の真削りにより「コ」 の字を表現している。縦装成形が特徴。	伏岡産

## 遺構外出土遺物(5)

遺物番号 (図表番号)	遺物種 類	出土層位 と埋 存 深 度	量 目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は度目目)	形状・技法等の特徴	調査
10-0204	土師器 環	24-H-5 表土層片	高48.0	酸・黄・鈍黄緑・並・微粒	胴部は球状を呈する。器外面は真削り。器内面は 横位の真削り。	吉井・藤 岡産

## 第6章 中里見原遺跡

10-01205 152	土師器 甕	遺灰 表土破片	底径10.5	灰・黒・鈍黄・赤・赤褐色粒子・白色 鉱物粒子	胴部は球形を呈する。器外面は斜位の覆面り。	古井・藤 岡産
10-01206	土師器 甕	25-Q-1 表土破片	口径30.2・高27.9 ・底径9.0	灰・赤・鈍黄・黒・シルト質	底部から口縁部まで直線的に立ち上がる。口縁部 は強く外傾する。底位の覆面り。	古井・藤 岡産
10-01207	土師器 甕	25-Q-1 表土破片	底径12.6	灰・赤・鈍黄・黒・シルト質	器外面は斜位の覆面り。器内面は横位の瓶で整形。	古井・藤 岡産
10-01208	土師器 甕	25-P-2 表土破片	底径14.6	灰・赤・鈍黄・黒・黒色鉱物粒子・ 白色粒子	器外面は斜位の覆面り。器内面は横位の瓶で整形。	古井・藤 岡産
10-01209	土師器 甕	15-Q-20 表土破片	口径16.6	灰・赤・鈍黄・赤・黒色 鉱物粒子(燻陶土)	胴部は強い傾斜により、輻辏車状の整形面が 残る。体部は直線的。	藤岡産
10-01210	土師器 甕	15-Q-20 表土破片	口径16.0	灰・赤・鈍黄・赤・細粒砂	体部は直線的に立ち上がり、口縁部はやや内傾気 味。器外面は斜位の覆面り。	古井・藤 岡産
10-01211	土師器 不詳	15-M-18 表土破片	厚0.4	灰・赤・黄緑・赤・夾雑物微	仏像等の破片か、銅片のため詳細不分明。	古井・藤 岡産

## 遺構外出土遺物(6)

遺物番号 (図録番号)	遺物種 類	出土層位 層 存在 層	量 目 (m) 目 (g)	焼色・色調・粘土 (石炭材は炭目値)	形状・技法等の特徴	調査 産
10-01212 152	須置器 環	25-R-1 表土破片	口径8.5・高4.4・底 径5.8	黒・赤・灰・赤・白色粒子	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯びる。自然輪 行着。轆轤右回転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01213 152	須置器 環	15-K-16 田圃破片	口径11.0・高・底	黒・赤・灰・赤・黒色粒子	器厚は薄いやや粗。器外面は自然輪行着。 轆轤右回転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01214	須置器 環	15区内 表土破片	口径11.0・高(4.5) 底(7.0)	黒・赤・灰・赤・夾雑物微	体部・口縁部は直線的。体部は丸味を帯びる。轆 轤右回転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01215 152	須置器 環	25-Q-1 表土1/4塊	口径11.0・高4.5・底 (7.4)	黒・赤・灰・赤・白色微粒子	器厚は薄い。体部はやや丸味を帯びる。轆轤右回 転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01216 153	須置器 環	25-T-4 表土破片	口径14.7	黒・赤・灰・赤・黒色粒子	器厚の外縁が鋭。口縁部は内傾気味。轆轤右回 転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01217 152	須置器 環	25-Q-3 表土1/2塊	口径11.7・高3.4・底 (6.5)	黒・赤・灰・赤・黒色粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯びる。口縁部は直線 的。轆轤右回転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01218 152	須置器 環	調査1号 表土1/2塊	口径12.0・高4.0・底 (6.2)	黒・赤・灰・赤・夾雑物微	器厚は薄い。体部は丸味を帯びる。口縁部は直線 的。轆轤右回転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01219 152	須置器 環	遺灰 表土2/2塊	口径12.0・高3.3・底 6.6	黒・赤・灰・赤・白・灰・赤・夾 雑物微(器外面の黒色燻土焼成)	器厚は薄い。体部は丸味を帯びる。口縁部は直線 的。轆轤右回転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01220	須置器 環	15区内 表土破片	口径12.0・高(3.6) 底(8.2)	黒・赤・灰・赤・夾雑物微	体部・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回 転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01221	須置器 環	25-Q-1 表土1/4塊	口径13.0・高3.7・底 (7.3)	黒・赤・灰・赤・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は強く外反す る。轆轤右回転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01222	須置器 環	15区内 表土破片	底径8.0	黒・赤・灰・赤・黒色粒子	体部は丸味を帯びる。器内面に有線が付着する。	伏見産
10-01223	須置器 環	15-M-18 表土破片	底径6.4	黒・赤・灰・赤・夾雑物微	底部は田圃面取りを呈す。轆轤右回転成形。	伏見産
10-01224	須置器 環	25-P-2 表土1/4塊	口径14.3・高3.7・底 (10.0)	黒・赤・灰・赤・黒色粒子	体部・口縁部とも直線的に立ち上がる。轆轤右回 転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01225	須置器 環	遺灰 表土破片	底径8.0	黒・赤・灰・赤・白色微粒子	器厚は薄から中。轆轤右回転成形。底部は回 転起し。	伏見産

## 遺構外出土遺物(7)

遺物番号 (図録番号)	遺物種 類	出土層位 層 存在 層	量 目 (m) 目 (g)	焼色・色調・粘土 (石炭材は炭目値)	形状・技法等の特徴	調査 産
10-01226 152	須置器 環	遺灰 表土3/4塊	口径13.0・高3.0・底 (8.0)	黒・赤・灰・赤・やや粗・黒色粒子	体部・口縁部はやや丸味を帯びる。器厚は薄い。 轆轤右回転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01227	須置器 環	調査区内 田圃1/4塊	口径14.2・高3.0・底 (8.8)	黒・赤・灰・赤・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は強く外反す る。轆轤右回転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01228 152	須置器 環	25-Q-1 表土1/2塊	口径12.0・高3.1・底 (7.0)	黒・赤・灰・赤・シルト粗粒子	体・口縁部は直線的。口唇部は外反する。轆轤右 回転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01229 152	須置器 環	調査区内 表土破片	口径12.0・高3.2・底 (8.0)	黒・赤・灰・赤・シルト粗粒子	器厚は薄い。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01230	須置器 環	25-M-4 表土1/4塊	口径13.0・高3.7・底 (8.0)	黒・赤・灰・赤・夾雑物微	器厚は薄い。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。 轆轤右回転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01231	須置器 環	遺灰 表土1/2塊	口径13.0・高3.4・底 (8.0)	黒・赤・灰・赤・夾雑物微	体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的に立ち上 がる。轆轤右回転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01232	須置器 環	遺灰 表土那欠	口径12.0・高3.6・底 7.8	黒・赤・灰・赤・白色粒子	体部・口縁部はやや丸味を帯びる。内側に有線付 着。轆轤右回転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01233	須置器 環	15-M-16 表土破片	口径12.0・高3.4・底 (6.7)	黒・赤・灰・赤・夾雑物微・器外面 自然輪行着。	薄い。体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短く 外反。轆轤右回転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01234	須置器 環	遺灰 表土1/4塊	口径13.0・高3.7・底 (7.6)	黒・赤・灰・赤・赤褐色粒子	体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短く外反す る。轆轤右回転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01235	須置器 環	遺灰 田圃1/4塊	口径13.2・高3.2・底 (7.2)	黒・赤・灰・赤・黒色粒子	体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短く外反す る。轆轤右回転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01236	須置器 環	15-R-20 表土破片	口径14.0・高3.7・底 (7.4)	黒・赤・灰・赤・赤褐色粒子	体部はやや丸味を帯びる。口縁部は直線的。轆轤 右回転成形。底部は回転起し。	伏見産
10-01237 152	須置器 環	1号焼夷 表土1/2塊	口径14.2・高3.8・底 (7.8)	黒・赤・灰・赤・シルト粗粒子	体・口縁部は直線的。轆轤右回転成形。底部は 回転起し。轆轤右回転成形。底部は回 転起し。	伏見産



## 第2節 発見された遺構・遺物

10-01238 152	須恵器 環	14-S-6 須恵器文	□(14.0)・高3.5・底7.1	瀬・灰・灰・灰・夾雑物微	薄い。体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短く外反。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01239	須恵器 環	1号須恵器 表土層/2残	□(12.8)・高3.5・底6.4	中・黄・黄灰・やや粗・夾雑物微	薄い。体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短く外反。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01240 152	須恵器 環	15-L-18 表土/2残	□(13.6)・高4.8・底6.6	中・黄・黄灰・赤褐色粒子・白色微粒子	体・口縁部は直線的。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。轆轤目は細かい。	秋田産

## 遺構外出土遺物(8)

遺物番号 回収番号	遺物種 類	出土層位 と遺構 との関係	度量 目(cm)	重量 目(g)	構成・色調・胎土 (石炭材は炭目録)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01241 152	須恵器 環	14-S-20 田圃/2残	□(14.0)・高3.8・底6.8	(6.4)	瀬・灰・灰・灰・白色微粒子	器厚は薄い。体・口縁部は直線的。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01242 152	須恵器 環	道東 田圃/2残	□(14.0)・高4.7・底6.7	(6.0)	瀬・灰・灰白・灰・白色微粒子	体・口縁部は直線的。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01243 152	須恵器 環	26-A-4 表土/4残	□(8.8)・高3.6・底6.0	(6.0)	瀬・硬・灰・灰・黒色微粒子	体部・口縁部はやや丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01244 152	須恵器 環	25-Q-3 田圃/2残	□(11.8)・高4.2・底7.2	(7.2)	瀬・硬・灰・灰・夾雑物微	体部・口縁部はやや丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01245 152	須恵器 環	25-K-3 田圃変形	□(12.5)・高4.2・底10.8	(10.8)	瀬・灰・灰・灰・白色微粒子	体部・口縁部はやや丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01246 152	須恵器 環	道西 表土/2残	□(12.8)・高4.5・底6.6	(6.6)	瀬・灰・灰・灰・夾雑物微	体・口縁部は直線的。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01247 152	須恵器 環	25-Q-1 田圃/2残	□(12.0)・高4.0・底7.6	(7.6)	瀬・硬・暗茶褐・灰・夾雑物微	器落ちか。全体に薄く丸味を帯び、口唇部は外反。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01248 152	須恵器 環	15-Q-19 田圃/2残	□(11.6)・高3.6・底6.5	(6.5)	瀬・硬・灰・灰・黒色微粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01249 152	須恵器 環	道東 田圃破片	□(12.0)・高3.8・底7.0	(7.0)	瀬・硬・灰・灰・黒色微粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01250 152	須恵器 環	調査区内 表土層/3	□(12.0)・高3.8・底7.0	(7.0)	瀬・硬・灰・灰・灰・夾雑物微	器厚は薄い。体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01251 152	須恵器 環	道東 田圃/2残	□(12.6)・高4.1・底7.0	(7.0)	瀬・硬・灰・灰・灰・黒色微粒子	器厚は薄い。体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01252 152	須恵器 環	14-S-20 田圃/2残	□(12.2)・高3.0・底6.5	(6.5)	瀬・硬・灰・灰・灰・夾雑物微	器落ちか。全体に薄く丸味を帯び、口唇部は外反。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01253	須恵器 環	25-P-4 田圃/2残	□(11.2)・高3.4・底5.8	(5.8)	瀬・硬・灰・灰・灰・夾雑物微	器厚は薄い。体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01254	須恵器 環	25-M-4 表土層/3	□(12.0)・高3.7・底6.2	(6.2)	瀬・硬・灰・灰・灰・夾雑物微	器厚は薄い。体部は丸味を帯びる。口縁部は直線的。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01255	須恵器 環	25-R-3 田圃/2残	□(12.4)・高4.1・底6.4	(6.4)	瀬・硬・灰・灰・灰・夾雑物微	体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短く外反する。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産

## 遺構外出土遺物(9)

遺物番号 回収番号	遺物種 類	出土層位 と遺構 との関係	度量 目(cm)	重量 目(g)	構成・色調・胎土 (石炭材は炭目録)	形状・技法等の特徴	摘要
10-01256	須恵器 環	25-K-2 田圃/2残	□(11.8)・高3.8・底6.2	(6.2)	瀬・硬・灰・灰・灰・白色微粒子	器厚は薄い。体・口縁部は丸味を帯びる。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01257	須恵器 環	25-Q-2 田圃/2残	□(12.8)・高3.9・底6.0	(6.0)	瀬・硬・灰・灰・灰・黒色微粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は強く外反する。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01258	須恵器 環	24-R-5 田圃/2残	□(11.2)・高4.7・底4.0	(4.0)	酸・硬・明赤褐・灰・白色微粒子	底部は小さく、体部は薄く丸味は強い。口縁部は直線的。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産か
10-01259	須恵器 環	道西 表土/4残	□(12.4)・高3.6・底4.0	(4.0)	中・軟・黄黄褐・灰・夾雑物微	底部は小さく、体部は薄く丸味は強い。口縁部は直線的。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産か
10-01260	須恵器 環	調査区内 表土/3残	底5.9		酸・硬・灰・灰・黒色微粒子・自然粘付着。	底部は小さく、体部は薄く丸味は強い。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産か
10-01261	須恵器 環	24-S-7 田圃破片	底(6.2)		瀬・硬・灰白・灰・夾雑物微	体部の丸味は強い。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産 番号-33
10-01262 159	須恵器 黒色土層 環	道西斜面 表土層/3	底(8.3)		瀬・硬・黒褐・灰・夾雑物微	器厚は広く、器部の丸味は強い。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01263 159	須恵器 環	25-R-1 田圃破片	底(7.2)		瀬・硬・灰白・灰・夾雑物微	立ち上がりは直線的。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産 番号-34
10-01264 159	須恵器 環	道東 田圃破片	底(6.8)		瀬・硬・暗灰・灰・白色微粒子	底面は厚い。立ち上がりは直線的。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産 番号-35
10-01265	須恵器 環	道西 表土層/3	底(5.8)		中・軟・黄・灰・細粒砂	立ち上がりは直線的。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01266	須恵器 環	道東 表土層/3	底(6.4)		酸・軟・黄橙褐・灰・赤褐色微粒子	器部はやや丸味を帯びる。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01267	須恵器 環	道東 表土/2残	底5.6		瀬・硬・灰・灰・白色微粒子	器厚は薄い。立ち上がりは直線的。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01268	須恵器 環	25-T-4 田圃破片	底(6.6)		瀬・硬・灰・灰・灰・夾雑物微	器落ちか。器厚は薄い。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01269	須恵器 環	15-R-20 田圃/2残	底5.6		瀬・硬・灰・灰・黒色微粒子	器落ちか。器厚は薄い。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	秋田産
10-01270 159	須恵器 環	15-K-17 田圃破片	□(11.0)		中・硬・黄灰・灰・黒色胎物微粒子	体・口縁部は丸味を帯びる。口唇部は短く外反する。轆轤右回転成整形。底部は回転成切り。	産不詳 番号-36

第6章 中里見原遺跡

10-01271	須恵器 灰土層片	25G内 表土層片	口(13.6)・高3.4・底 (7.4)	瀬・硬・灰・並・黒色粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轡輪右回転成形。底面は回転糸切り。内面赤色顔料塗布。	秋田産
10-01272	須恵器 灰土層片	15S-19 田層破片	厚0.6	瀬・硬・灰・並・夾雑物微	回転糸切りの糸の跡が細かい。	秋田産
10-01273	須恵器 灰土層片	15-N-17 田層破片	厚0.5	酸・並・鈍黄・並・黒色鉱物粒子(内 黒胎土)	轡輪成形右回転。底面に磨きする。	秋田産 番号・37
10-01274	須恵器 灰土層片	第1号遺跡 裏土層片	厚0.4	瀬・並・白灰・並・夾雑物微	轡輪成形右回転。底面に磨きする。	秋田産 番号・38
10-01275	須恵器 灰土層片	25-R-2 田層破片	厚0.8	酸・並・橙・並微粒雲母(藤岡焼土)	藤岡焼土の染み器形。轡輪成形右回転。	藤岡産

遺構外出土遺物①

遺物番号 図録番号	遺物種 別	出土層位 と 保存 状態	度量 目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石割材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01276	須恵器 灰土層片	15-R-18 田層1/2塊	高(6.4)	瀬・硬・灰・並・黒色粒子	轡輪右回転成形。付高台。底面は回転糸切し。	秋田産
10-01277	須恵器 灰土層片	15-J-16 田層破片	高(5.6)	瀬・硬・灰・並・白色微粒子	高台は磨り出し。底面は轡輪右回転糸切り。	秋田産
10-01278	須恵器 灰土層片	15-K-15 田層破片	口(9.2)・高5.3・底 (6.2)	瀬・並・灰・並・黒色粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は直線的。轡輪右回転成形。付高台。	秋田産
10-01279	須恵器 灰土層片	調査区内 表土層片	底(6.6)	瀬・硬・灰・並・夾雑物微	体部は丸味を帯び、轡輪右回転成形。付高台。	秋田産
10-01280	須恵器 灰土層片	15-R-18 田層破片	底(5.6)	瀬・硬・灰・並・夾雑物微	轡輪右回転成形。付高台。	秋田産
10-01281	須恵器 灰土層片	15-R-18 田層破片	口(13.6)・高6.1・底 (7.6)	瀬・硬・灰・並・夾雑物微	体・口縁部は直線的に立ち上がる。胴部は回転糸切り。轡輪右回転成形。付高台。	秋田産
10-01282	須恵器 灰土層片	遺東 田層破片	高(8.2)	瀬・硬・灰・並・夾雑物微	体部丸味を帯び、轡輪右回転成形。付高台。	秋田産
10-01283	須恵器 灰土層片	遺西 表土層片	口(14.2)	瀬・硬・灰・並・夾雑物微	体部丸味を帯び、口縁部は直線的に立ち上がる。轡輪右回転成形。底面欠損。	秋田産
10-01284	須恵器 灰土層片	遺東 田層破片	口(15.2)	瀬・並・灰白・並・黒色粒子	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轡輪右回転成形。高部欠損。	秋田産
10-01285	須恵器 灰土層片	遺東 田層破片	高(9.6)	瀬・硬・灰・並・夾雑物微	体部丸味を帯び、轡輪右回転成形。付高台。	秋田産
10-01286 153	須恵器 灰土層片	遺東 田層破片	口15.2・高7.8・底8.0	瀬・硬・灰・並・白色微粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は直線的。轡輪右回転成形。付高台。	秋田産
10-01287 153	須恵器 灰土層片	遺東 田層破片	底(8.0)	瀬・並・灰・並・黒色粒子	体部丸味を帯び、轡輪右回転成形。付高台。	秋田産
10-01288 153	須恵器 灰土層片	1号遺跡 裏土1/2塊	口(12.7)・高4.7・底 2.2	中・軟・黄灰・並・黒色微粒子・ 黒色胎土	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轡輪右回転成形。付高台。	秋田産
10-01289	須恵器 灰土層片	25-R-4 田層破片	口(15.0)・高5.2・底 0.6	酸・並・鈍黄・並・赤褐色粒子(比重 は重い)	体・口縁部は直線的に立ち上がる。轡輪右回転成形。高台欠損後部に転写。	秋田産
10-01290	須恵器 灰土層片	遺東 田層1/2塊	高7.2	瀬・並・灰・粗・白色微粒子(粒 径不明)	体・口縁部直線的に立ち上がる。轡輪右回転成形。付高台。	秋田産
10-01291	須恵器 灰土層片	24-O-2 田層1/2塊	口(12.6)・高4.9・底 (6.0)	酸・並・鈍黄・並・黒色微粒子	体・口縁部直線的に立ち上がる。轡輪右回転成形。付高台。	秋田産
10-01292 153	須恵器 灰土層片	14-S-20 田層破片	口(14.2)・高4.7・底 5.8	瀬・並・灰・並・シルト微粒子・粗 粒砂	体・口縁部はやや丸味を帯び、轡輪右回転成形。付高台。	秋田産
10-01293	須恵器 灰土層片	遺西 表土1/2塊	口(13.9)・高5.5・底6.6	瀬・軟・灰・並・白色微粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轡輪右回転成形。付高台。	秋田産

遺構外出土遺物②

遺物番号 図録番号	遺物種 別	出土層位 と 保存 状態	度量 目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石割材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01294 153	須恵器 灰土層片	25-N-4 田層1/2塊	口(12.4)・高4.0・底 (6.2)	中・軟・黄灰・並・白色粒子	厚薄は薄い。体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轡輪右回転成形。付高台。	産不詳 秋田産か
10-01295	須恵器 灰土層片	15-J-18 田層破片	厚0.4	酸・硬・鈍黄・黒色微粒子・高 温石灰	器外面体部に墨書「上」。	産不詳 番号・39
10-01296 153	須恵器 灰土層片	遺東 田層1/2塊	口(18.2)・高6.5・底 (8.4)	瀬・並・灰白・並・黒色粒子	大身の埴。体部丸味を帯び、轡輪右回転成形。付高台。	秋田産
10-01297 153	須恵器 灰土層片	遺東 田層1/2塊	口(19.4)・高8.8・底 (9.4)	瀬・並・灰白・並・夾雑物微	大身の埴。体部丸味を帯び、轡輪右回転成形。付高台。	秋田産
10-01298	須恵器 灰土層片	遺東 田層破片	高(8.8)	酸・並・鈍黄・並・シルト質	「ハ」字状に開く。付け高台。器内面は磨きを施す。	産不詳
10-01299	須恵器 灰土層片	遺東 田層破片	高(11.8)	酸・軟・鈍黄・並・赤褐色粒子	「ハ」字状に開く。付け高台。	産不詳
10-01300	須恵器 灰土層片	遺東 田層破片	厚0.7	瀬・並・灰・並・黒色粒子	体部中央に椀状の粘土板を貼り付けている。	秋田産
10-01301	須恵器 灰土層片	24区東側 田層破片	厚0.5	瀬・並・灰白・並・黒色粒子	見込みには焼成前のケガキ状で多数の傷が認められる。	秋田産
10-01302	須恵器 灰土層片	14-R-20 田層1/2塊	口(13.8)・高3.4・底 (7.2)	瀬・並・灰・並・夾雑物微(器内・外 部の黒色焼し焼成)	轡輪成形右回転。焼しは芯まで透す。体・口縁部は丸味を帯び、口唇部は短く外反する。	輸入品
10-01303	須恵器 灰土層片	15-G-18 田層破片	口(13.2)	酸・並・鈍黄・並・黒色微粒子 (器内面の黒色焼し焼成)	体・口縁部は丸味を帯び、口唇部は短く外反する。轡輪右回転。器内面に磨きを施す。	産不詳

10-01304	須恵器内蓋	25-L-3 皿蓋破片	口(16.6)	灰・黄・鈍橙・黒色鉱物粒子(器内面の黒色焼し痕)	体・口縁部は丸味を帯び、口唇部は短く外反する。轆轤右回転。器内面に研着す。	産不詳
10-01305	須恵器内蓋	15-G-18 皿蓋破片	口(15.8)・高5.3・底(6.8)	灰・黄・鈍橙・黄・黒色鉱物粒子	体部は丸味を帯び、口縁部は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。器内研着を施す。	産不詳
10-01306	須恵器内蓋	25-K-7 皿蓋(内)蓋	高7.8	灰・黄・鈍橙・黄・灰雑物微(器内面の黒色焼し痕)	体部は丸味を帯び、轆轤右回転成整形、付高台。器内研着を施す。	産不詳
10-01307	須恵器高付き杯	15区内 覆及皿蓋	底(10.2)	黄・緑・灰・黄・灰雑物微	高台は削り出し、体部の厚厚は薄い。	産不詳
10-01308	須恵器杯	25-R-4 皿蓋破片	口(13.0)	黄・黄・灰・黄・黒色粒子	口縁部は直立後緩やかに外反。底部は平持ち寛肩形。	伏見産
10-01309	須恵器取耳杯	25-N-1 皿蓋破片	口(12.4)高3.2脚2.2	黄・緑・灰・黄・黒色粒子	口縁部は直立後緩やかに外反。底部は平持ち寛肩形。体部に粘土敷で把手をつけている。	伏見産

## 遺構外出土遺物①

遺物番号 図録番号	遺物種類	出土層位 遺構・厚度	度量 目(cm) 目(g)	焼成・色調・粘土 (石炭材は度目値)	形状・技法等の特徴	概要
10-01310	須恵器杯	15-P-20 皿蓋破片	口(14.0)	黄・黄・灰・黄・黒色粒子	口縁部は垂直気味に外反しながら立ち上がる。轆轤成整形右回転。	伏見産
10-01311	須恵器杯	25-S-3 皿蓋破片	口(14.2)	黄・黄・灰・黄・黒色粒子	口縁部は垂直気味に外反しながら立ち上がる。轆轤成整形右回転。	伏見産
10-01312	須恵器杯	須恵 皿蓋破片	口(15.8)	黄・黄・灰・黄・黒色粒子	口縁部は垂直気味に外反しながら立ち上がる。轆轤成整形右回転。	伏見産
10-01313	須恵器杯	15-L-16 皿蓋破片	口(17.0)	黄・黄・灰・黄・灰雑物微	口縁部は垂直気味に外反しながら立ち上がる。轆轤成整形右回転。	伏見産
10-01314	須恵器盤	25-S-4 皿蓋破片	口(18.2)	黄・黄・灰・黄・黒色粒子	口縁部は垂直気味に外反しながら立ち上がる。轆轤成整形右回転。	伏見産
10-01315	須恵器盤	26-D-3 皿蓋破片	基部(13.0)	黄・黄・白灰・黄・灰雑物微	器厚は薄い。見込みは平皿。轆轤成整形右回転。	伏見産
10-01316	須恵器盤	第1号遺跡 土器片	底(22.4)	黄・緑・灰・黄・黒色粒子	即ち「ハ」の字状に開く。轆轤成整形右回転。	伏見産
10-01317	須恵器盤	15-K-16 皿蓋破片	口(16.4)	黄・緑・灰・黄・黒色粒子	見込みは緩やかに立ち上がり、口縁部は垂直気味に外反しながら立ち上がる。轆轤成整形右回転。	伏見産
10-01318	須恵器盤	25-G-5 皿蓋破片	底(10.4)	黄・黄・灰・黄・黒色粒子	即ち「ハ」の字状に開き、見込みは緩やかに立ち上がる。轆轤成整形右回転。	伏見産
10-01319	須恵器盤	25-S-4 皿蓋破片	底(9.2)	黄・緑・灰・黄・黒色粒子	即ち「ハ」の字状に開き、見込みは平皿。轆轤成整形右回転。	伏見産
10-01320	須恵器盤	25-S-4 皿蓋破片	底(9.8)	黄・黄・灰・黄・白色微粒子	「ハ」の字状に開く。轆轤成整形右回転。	伏見産
10-01321	須恵器内蓋	15-T-20 皿蓋破片	口(13.4)	黄・黄・灰・黄・微粒面付	器内面に研着を施す。轆轤成整形右回転。	伏見産
10-01322	須恵器皿	遺跡 皿蓋破片	口(13.0)・高2.7・底(8.2)	黄・黄・灰・黄・白色微粒子	緩やかに外反して立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	伏見産
10-01323 153	須恵器皿	14区内 皿蓋部欠	口13.8・高2.7・底7.4	黄・緑・灰・黄・黒色粒子	緩やかな丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	伏見産
10-01324	須恵器皿	須西 土壁破片	口(13.0)・高2.7・底(4.2)	黄・黄・灰・黄・黒色粒子・白色微粒子	器厚は薄い。体部は直線的に立ち上がり、口唇部は外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	伏見産
10-01325 153	須恵器皿	遺跡 皿蓋破片	口(13.0)・高2.7・底(7.0)	黄・黄・灰・黄・黒色粒子	器厚は薄い。体部は直線的に立ち上がり、口唇部がやや外反する。轆轤右回転成整形、付高台。	伏見産
10-01326	須恵器皿	26-J-16 皿蓋(内)	口(13.0)・高2.7・底(7.0)	黄・黄・灰・黄・黒色粒子	器厚は薄い。体部・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	伏見産
10-01327 153	須恵器皿	14-S-20 皿蓋(内)	口13.2・高2.6・底6.4	黄・黄・灰・黄・黒色粒子・白色微粒子	器厚は薄い。緩やかな丸味を帯びて立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	伏見産

## 遺構外出土遺物②

10-01328	須恵器皿	25-R-2 皿蓋破片	口(13.0)・高2.4・底(7.0)	黄・黄・灰・白・黄・黒色粒子	器厚は薄い。緩やかに外反して立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	伏見産
10-01329	須恵器皿	26-A-1 皿蓋破片	口(14.6)	黄・緑・灰・黄・黒色粒子	器厚は薄い。緩やかに外反して立ち上がる。轆轤右回転成整形、付高台。	伏見産
10-01330	須恵器皿	須東 皿蓋破片	器底(6.0)	黄・黄・灰・黄・黒色粒子	器厚は薄い。轆轤右回転成整形、付高台。	伏見産
10-01331	須恵器皿	15-K-15 皿蓋破片	口(14.2)	黄・緑・灰・黄・黒色粒子	器厚は薄い。上半部を欠損する。端部は折り返し、轆轤成整形(右回転)。	伏見産
10-01332	須恵器皿	15-H-19 皿蓋破片	口(19.8)	黄・緑・灰・黄・白色微粒子	器厚は薄い。上半部を欠損する。端部は折り返し、轆轤成整形(右回転)。	伏見産
10-01333	須恵器皿	24-R-1 皿蓋破片	口(9.8)	黄・黄・灰・黄・白色微粒子	端部周辺を欠損する。口は丸味が強い。轆轤成整形右回転。	伏見産
10-01334 153	須恵器蓋	25-P-5 皿蓋破片	脚2.0	黄・緑・灰・黄・黒色粒子・白色微粒子	宝珠縁。天井部は轆轤右回転を施す。轆轤成整形(右回転)。	伏見産
10-01335	須恵器蓋	須東 皿蓋破片	口(10.0)	黄・黄・灰・黄・灰雑物微	端部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤右回転を施す。轆轤成整形(右回転)。	伏見産
10-01336	須恵器蓋	24区西側 皿蓋破片	口(18.0)	黄・緑・灰・黄・黒色粒子	端部欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤右回転を施す。轆轤成整形(右回転)。	伏見産

第6章 中里見原遺跡

10-01337	須恵器 蓋	25-F-1 田原破片	竈(9.0)	黒・緑・灰・黄・白色微粒子	陶器欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転置削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01338	須恵器 蓋	25-T-4 田原破片	竈(9.2)	黒・緑・暗灰・黄・黒色微粒子	陶器欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転置削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01339 153	須恵器 蓋	通草 田原破片	竈(2.6・高2.6・端 9.6)	黒・緑・灰・黄・黒色微粒子	現状産。天井部は轆轤回転置削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01340 153	須恵器 蓋	15-T-20 田原破片	竈(2.6)高2.6・端 (10.0)	黒・緑・灰・黄・黒色微粒子	現状産。天井部は轆轤回転置削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01341	須恵器 蓋	25-P-3 田原破片	竈(10.2)	黒・緑・灰・黄・夾雑物微	陶器欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転置削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01342	須恵器 蓋	15-R-20 田原破片	竈(11.3)	黒・緑・灰・黄・黒色微粒子	陶器欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転置削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01343	須恵器 蓋	16-A-7 田原破片	竈(11.6)	黒・緑・灰・黄・夾雑物微	陶器欠損。端部は折り返し、天井部は轆轤回転置削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01344 153	須恵器 蓋	通草 田原破片	竈(3.2)	黒・黄・灰白・黄・白色微粒子	現状産。端部欠損。天井部は轆轤回転置削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	状況産

遺構外出土遺物(14)

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 と存在 層	位置 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石素材は灰目値)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01345 153	須恵器 蓋	通草表面 表土2/3	竈3.2・高3.2・端 (12.4)	黒・緑・灰白・黄・黒色微粒子	現状産。天井部は轆轤回転置削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01346 153	須恵器 蓋	通草 表土1/2層	竈2.4・高2.7・端 (12.4)	黒・緑・灰・黄・黒色微粒子	現状産。天井部は轆轤回転置削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01347 153	須恵器 蓋	15-L-16 田原3/4層	竈3.1・高3.1・端12.8	黒・黄・灰・黄・黒色微粒子	現状産。天井部は轆轤回転置削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01348 153	須恵器 蓋	通草 田原1/2層	竈3.2・高3.2・端 (16.4)	黒・緑・灰・黄・白色微粒子	現状産。天井部は轆轤回転置削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01349 153	須恵器 蓋	15-L-16 田原一次	竈4.0・高3.8・端16.9	黒・黄・灰・黄・黒色微粒子・白色微粒子	現状産。天井部は轆轤回転置削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01350 153・159	須恵器 蓋	25-L-4 田原破片	竈(14.4) 端(17.0)	黒・黄・灰黄・黄・夾雑物微	現状産。天井部は轆轤回転置削りを施す。轆轤成整形(右回転)。	状況産 巻書-40
10-01351	須恵器 蓋	15-Q-17 田原破片	竈(9.0)	黒・黄・灰・黄・白色微粒子	天井部は広く平ら。筒は縁状と考えられる。端部削れを欠損す。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01352	須恵器 蓋	24-R-5 田原破片	竈(13.8)	黒・黄・灰・黄・白色微粒子	縁部は溝い。「ハ」の字状に開く。皿の底位か。轆轤成整形(右回転)。	状況産

遺構外出土遺物(10)

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 と存在 層	位置 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石素材は灰目値)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01353	須恵器 蓋	15-L-17 田原破片	竈(13.0)	黒・黄・灰白・黄・白色微粒子	胴の部分に脚を施す。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01354	須恵器 蓋	25-Q-5 田原破片	竈(16.0)	黒・黄・灰白・黄・白色微粒子	天井部に昇縁。胴部に脚を施す。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01355 153	須恵器 蓋	15-S-20 田原1/3層	竈(16.2) 脚(16.2)	黒・黄・灰・黄・白色微粒子・黒色微粒子	端部は実がるが口唇部は平ら。天井部には丸縁を帯び、胴部に脚を施す。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01356	須恵器 蓋	15-N-10 田原破片	竈(17.8) 脚(15.3)	黒・緑・灰白・黄・黒色微粒子	口縁部中央に凸部を帯び、天井部には、昇縁状の痕跡が認められ、皿の可能性もある。	状況産
10-01357 153	須恵器 蓋	通草 田原1/3層	竈(8.2) 底(6.2)	黒・緑・灰白・黄・黒色微粒子・白色微粒子	小ぶりの皿にさらに胴部を取り付けた断面。蓋の可能性も考慮される。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01358 153	須恵器 蓋	15-R-19 田原破片	竈(8.0)	黒・緑・灰白・黄・黒色微粒子・白色微粒子	小ぶりの皿にさらに胴部を取り付けた断面。蓋の可能性も考慮される。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01359 153	須恵器 蓋	通草 田原破片	基部(5.0)	黒・黄・灰・黄・白色微粒子	坪部は比較的平直。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01360	須恵器 蓋	15-R-19 田原破片	竈(14.0)	黒・黄・灰・黄・白色微粒子	縁部は溝い。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01361	土師器 杯	15-L-17 田原破片	竈(0.4)	黄・黄・鈍橙・黄・微粒質母か長石	10-00481と同一器体か。	購入品
10-01362	土師器 杯	24-N-2 田原破片	竈(7.0)	黄・黄・鈍橙・黄・微粒質母か長石	縁以外の器体は特定は不確定。高台部分の破片と考えられる。	購入品
10-01363	須恵器 蓋	15-N-17 田原破片	土層(8.5)	黒・緑・灰・黄・黒色微粒子	昇縁以外の器体の付加物が認められない。胴の部分には昇縁が判断できる様子は無い。	状況産
10-01364	須恵器 蓋	15-P-20 田原破片	竈(14.0)	黒・緑・灰・黄・夾雑物微	胴の直下の胴部に帯を有する。昇縁端部は欠損。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01365	須恵器 蓋	15-M-18 田原1/4層	口(13.0)・高5.2・底 (7.0)	黄・黄・鈍橙・黄・微粒質母か長石	体部・口縁部は丸縁を帯び、胴部は腹削り、器内面は研ぎを施す。蓋部は腹削りを施す。	購入品
10-01366	須恵器 蓋	通草 表土破片	土層(10.0) 竈(14.0)	黒・緑・灰・黄・黒色微粒子・白色微粒子	縁部は溝い。昇縁は広く、坪は二重表現になっている。底位は腹削り。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01367	須恵器 蓋	15-P-20 田原破片	竈(0.35)	黒・緑・灰・黄・夾雑物微	脚部片。縁位の比喩引きを施す。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01368	須恵器 蓋	15-Q-19 田原破片	竈(0.4)	黒・緑・灰・黄・白色微粒子	脚部片。縁位の比喩引きを施す。轆轤成整形(右回転)。	状況産
10-01369	須恵器 蓋	15-K-15 田原破片	竈(0.6)	黄・黄・鈍橙・黄・微粒質母か長石	体部・口縁部は直線的に立ち上がる。轆轤目は比較的浅い。轆轤成整形(右回転)。	状況産

## 第2節 発見された遺構・遺物

10-01370	須恵器 瓶	15-R-19 皿破砕片	底(11.2)	蓮・罌・灰・炭・黒色粒子・器内外 面自然釉付着。	小形の裾の脚部と考えられる。轆轤成型形右回転。	秋田産
10-01371	須恵器 皿破砕片	15-S-19 皿破砕片	底(14.0)	蓮・罌・灰・炭・夾雑物微・器内外 面自然釉付着。	内反り状に立ち上がる。透かしを施すが、残存部 分には土層は残っていない。轆轤成型形右回転。	秋田産
10-01372	須恵器 瓶	15-T-20 皿破砕片	底(18.0)	蓮・罌・灰・炭・微粒雲母か長石	器厚は薄い。高部の折り返しは無い。轆轤成型形 右回転。	輸入品

## 遺構外出土遺物(6)

遺物番号 図取番号	遺物種 別	出土層位 遺構 層 存 存 度	度 目 (cm) 量 目 (g)	構成・色調・粘土 (石素材は皮目目)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01373	須恵器 壺	道東 表土破片	口(18.0)・頸(16.4) ・胴(18.2)	中・軟・鈍黄橙・炭・細粒砂	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋田産 秋田産
10-01374	須恵器 壺	道東 皿破砕片	口(18.4) 頸(16.2)	蓮・硬・鈍橙・炭・夾雑物微	器厚は非常に薄い。口縁部は外反りする。紐作り後 轆轤整形(右回転)。	秋田産 秋田産
10-01375 153	須恵器 壺	北東斜面 皿破砕片	口(20.2) 頸(18.0)	中・炭・鈍橙・炭・夾雑物微	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は、蹴位の残りを施す。	秋田産 秋田産
10-01376	須恵器 壺	道東 皿破砕片	口(22.2)・頸(20.0) ・胴(22.6)	炭・炭・鈍橙・炭・細粒砂・白色粒子	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。 頸部より下位は、蹴位の残りを施す。	秋田産 秋田産
10-01377	須恵器 小形壺	24区西側 皿破砕片	口(19.8) 頸(19.0)	炭・炭・鈍黄橙・炭・白色微粒子	口縁部は短く外傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。	秋田産 秋田産
10-01378	須恵器 小形壺	25区西側 皿破砕片	口(11.2) 頸(10.0)	蓮・硬・灰・炭・夾雑物微	口縁部は短く外傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。	秋田産 秋田産
10-01379	須恵器 小形壺	道東 皿破砕片	口(11.2)・頸(10.4) ・胴(13.0)	炭・炭・明赤褐・炭・長石	口縁部は短く外傾する。器外面は刷毛の轆轤面を 施す。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋田産 秋田産
10-01380	須恵器 小形壺	24-P-2 皿破砕片	口(10.4)・頸(10.4) ・胴(12.2)	蓮・硬・灰・炭・夾雑物微	口縁部は短く外傾する。胴部に最大径を有する。 紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋田産 秋田産
10-01381	須恵器 短頸壺	道東 皿破砕片	胴径(13.2)	蓮・炭・鈍黄橙・炭・白色粒子	器外面は刷毛の轆轤面を施す。紐作り後轆轤整 形(右回転)。	秋田産 秋田産
10-01382	須恵器 瓶	15-P-18 皿破砕片	口(8.0) ・頸(7.8)・肩(10.2)	蓮・硬・灰・炭・黒色粒子・器外面 自然釉付着。	肩部は鋭く変る。口縁部は同一気味。轆轤成型形 右回転。	秋田産
10-01383	須恵器 平瓶	15-K-15 皿破砕片	口(5.4)	蓮・器灰・炭・夾雑物微	器外面全体に自然釉付着。轆轤成型形右回転。	秋田産
10-01384	須恵器 瓶	道東 皿破砕片	口(15.2)	蓮・硬・灰・炭・夾雑物微	器形の大ききの割合に比較して器厚は薄い。器壁 は短厚みか。轆轤成型形右回転。	秋田産
10-01385	須恵器 瓶	26-D-1 皿破砕片	厚0.5	蓮・罌・灰・炭・白色微粒子	器外面に環の口唇部が彫着している。紐作り後轆 轤整形(右回転)。	秋田産
10-01386 153	須恵器 瓶	24-R-1 皿破砕片	厚0.6	蓮・罌・造灰・炭・白色微粒子	肩部に彫りの乳点刺突を施す。紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋田産 秋田産
10-01387	須恵器 瓶	16-C-20 皿破砕片	頸(13.6) 胴(21.0)	蓮・罌・灰・炭・夾雑物微	器厚は薄い。紐作り後轆轤整形(右回転)。肩部に 自然釉付着。	秋田産

## 遺構外出土遺物(10)

遺物番号 図取番号	遺物種 別	出土層位 遺構 層 存 存 度	度 目 (cm) 量 目 (g)	構成・色調・粘土 (石素材は皮目目)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01388	須恵器 瓶	道東 皿破砕片	口(9.0)	蓮・硬・灰・炭・夾雑物微	直立気味の口縁部。轆轤成型形右回転。	秋田産
10-01389	須恵器 瓶	第1号遺跡 専土層	口(12.0)	蓮・硬・灰・炭・夾雑物微	やや開きながら立ち上がる。口唇部は実る。器外 面は蹴位の擦痕で。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋田産
10-01390	須恵器 瓶	25-F-5 皿破砕片	口(13.0)	蓮・炭・灰・炭・夾雑物微	口縁部部は折り返し。紐作り後轆轤整形(右回 転)。	秋田産
10-01391	須恵器 瓶	25-L-4 皿破砕片	胴6.0	蓮・炭・灰・やや粗・黒色粒子	頸部の基部部分はざりざりまで粗で上げている。 紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋田産
10-01392	須恵器 小瓶	道東 表土破片	肩(7.6)	蓮・硬・灰・炭・夾雑物微	器厚は薄い。器外面は短頸部で整形。轆轤成型 形右回転。	秋田産
10-01393	須恵器 瓶	道東 皿破砕片	胴(15.0)	蓮・炭・灰・炭・夾雑物微	頸部の基部部分はざりざりまで粗で上げていると 思われる。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋田産
10-01394	須恵器 瓶	道東 皿破砕片	肩(22.0)	蓮・罌・灰・炭・白色粒子・黒色粒 子。	紐作り後轆轤回転の寛頸部整形。轆轤成型形右回 転。	秋田産
10-01395 153	須恵器 瓶	15-Q-17 皿破砕片	底(5.8)	蓮・硬・灰・炭・黒色粒子	見込み周辺の整形は丁寧。口唇の広めの形と思 われる。コップ形か。轆轤成型形右回転。	秋田産
10-01396 153	須恵器 瓶	14-Q-20 皿破砕片	底(16.2)	蓮・炭・鈍黄橙・炭・夾雑物微	底面より切り余の磨りは粗い(硬い)。轆轤成型形 右回転。	秋田産
10-01397 153	須恵器 瓶	14-S-18 皿破砕片	底(9.4)	蓮・罌・灰・炭・夾雑物微	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋田産
10-01398	須恵器 瓶	23-K-3 皿破砕片	底(10.0)	蓮・罌・灰・炭・夾雑物微	紐作り後轆轤整形(右回転)。器内外面自然釉付着。	秋田産
10-01399	須恵器 瓶	道西 表土破片	底(14.0)	蓮・炭・灰・炭・黒色粒子	紐作り後轆轤整形(右回転)。見込み部分は磨で 整形。	秋田産

## 遺構外出土遺物(18)

遺物番号 図取番号	遺物種 別	出土層位 遺構 層 存 存 度	度 目 (cm) 量 目 (g)	構成・色調・粘土 (石素材は皮目目)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01400	須恵器 瓶	26-D-2 皿破砕片	底(9.0)	蓮・罌・灰・炭・夾雑物微	紐作り後轆轤回転の厚底で整形。付高台。	秋田産